
子ども条例部会の開催について

(第16回奈良市子ども・子育て会議資料)

平成29年2月13日

奈良市子ども未来部子ども政策課

1 奈良市子ども条例部会について

(1) 設置根拠

「奈良市子ども・子育て会議子ども条例部会設置要領」

(2) 設置目的

奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第19条第3項の規定に基づき、奈良市子ども・子育て会議においてこの条例の取組状況について検証を行う必要があり、この検証を集中的かつ効率的に行うために子ども条例部会を設置します。

【部会の所掌事項】(設置要領第2条)

- (1) 奈良市子どもにやさしいまちづくり条例(平成26年奈良市条例第51号。以下「子ども条例」という。)の規定に基づく事業等の実施状況の検証に関する事項
- (2) 子ども条例第12条に規定する子ども会議の運営に関する事項
- (3) 前2号のほか、子ども条例に基づく施策の推進に関し必要な事項

(3) 子ども条例部会委員

部会の委員は、奈良市子ども・子育て会議に属する委員、奈良市職員及び奈良市教育委員会事務局職員のうちから会長が指名することとなっており、次のとおり合計17名の委員から構成されています。

なお、奈良市子ども・子育て会議の委員改選がありましたので、委員名簿は次のとおり変更となっております。(任期満了日：平成28年5月29日 ※公募委員については平成28年8月29日)

[旧名簿](平成28年3月24日開催 第4回子ども条例部会まで)

奈良市子ども・子育て会議委員	奈良市職員	奈良市教育委員会事務局
岡田委員	子ども政策課長	教育政策課長
北岡委員	こども園推進課長	学校教育課長
栗本委員	保育所・幼稚園課長	学校教育課 いじめ対策生徒指導室長
竹村委員	子ども育成課長	地域教育課長
浜田委員(部会長)	子育て相談課長	
横尾委員	健康増進課長	
和田委員(職務代理)		
計 7名	計 6名	計 4名



[新名簿](平成28年11月16日開催 第5回子ども条例部会から)

奈良市子ども・子育て会議委員	奈良市職員	奈良市教育委員会事務局
岡田委員	子ども政策課長	教育政策課長
金野委員	こども園推進課長	学校教育課長
栗本委員	保育所・幼稚園課長	いじめ防止生徒指導課長
浜田委員(部会長)	子ども育成課長	地域教育課長
福原委員	子育て相談課長	
森委員	健康増進課長	
和田委員(職務代理)		
計 7名	計 6名	計 4名

2 第5回 子ども条例部会の開催について

(1) 開催状況

開催日時 : 平成28年11月16日(水) 午前10時から正午まで
開催場所 : 奈良市役所 北棟2階 第16会議室
出欠状況 : 委員17名中17名出席

(2) 議題又は案件

委員紹介
部会長及びその代理者の選出

[議題]

- ① 部会の検討事項及び開催スケジュールについて
- ② 平成28年度奈良市子ども会議について
- ③ 奈良市子どもにやさしいまちづくり条例の検証について

(3) 決定又は取りまとめ事項

- ◆ 部会長については浜田委員、その代理者については和田委員が選出された。
- ◆ 子ども条例部会の今年度の検討事項及び開催スケジュールについて事務局案の内容で承認された。
- ◆ 今年度の奈良市子どもにやさしいまちづくり条例の検証については、その議論の範囲を第14条(困難を有する子どもとその家庭に対する支援)に絞ることとなった。

(4) 議題又は案件に対する主なご意見等

[議題]

- ① 部会の検討事項及び開催スケジュールについて

→ 事務局案のとおりご承認いただく。

- ② 平成28年度奈良市子ども会議について

- ・ 来年度以降の取組として、子ども参加者向けに奈良市子ども会議の事前学習会のようなものがあると思います。
- ・ 第3回目で市の担当者が参加し、子ども参加者と話し合った取組はよかったと思います。子ども参加者にとって学習型の子ども会議にもなったのではないかと。
- ・ 参加した子どもたちだけでなく、他の子どもたちにもこの取組を広げるための仕組みがあるのではないかと。(会議参加前に学校や児童会等で多くの意見を聴いておいてから参加したり、会議参加後にその内容を学校や児童会等で報告する等)
- ・ 奈良市子ども会議も回数を重ねるにつれて、リピーターが出てくると思うが、そのリピーターを会議の補助や運営側に育てていくのはどうか。また、初参加の子どもたちには優先的に発言できるよう配慮してあげるのはどうか。
- ・ 学校の代表が参加するというようなことにするとそれぞれの地域からまんべんなく意見が吸い上げることができると思います。
- ・ 障がいをもった子どもや参加することのハードルが高い子ども等の意見も吸い上げられる会議になればいいと思います。
- ・ 地域教育協議会との連携も検討してはどうか。

③ 奈良市子どもにやさしいまちづくり条例の検証について

→ 今年度の奈良市子どもにやさしいまちづくり条例の検証については、その議論の範囲を第14条（困難を有する子どもとその家庭に対する支援）に絞ることとなった。次回の子ども条例部会においてその議論を深め、年度中にはその議論の内容を意見書のかたちにとりまとめ、奈良市子ども・子育て会議に報告していくこととなった。

【参考】（「奈良市子どもにやさしいまちづくり条例」第14条）

（困難を有する子どもとその家庭に対する支援）

第14条 市、地域住民、子どもが育ち・学ぶ施設の関係者及び事業者は、障害のある子ども、ひとり親家庭の子ども等、困難を有する子どもとその家庭に対し必要な支援を行うよう努めるものとする。

3 第6回 子ども条例部会の開催について

(1) 開催状況

- 開催日時 : 平成29年1月25日(水) 午後2時から午後4時まで
開催場所 : 奈良市役所 北棟6階 第22会議室
出欠状況 : 委員17名中14名出席 さらに、議題の関係課として障がい福祉課も出席

(2) 議題又は案件

[報告事項]

- ① 「(仮称) 奈良市子どもの貧困対策計画」策定に関する進捗状況について

[議題]

- ① 奈良市子どもにやさしいまちづくり条例の検証について

(3) 決定又は取りまとめ事項

- ◆ 委員から出された意見をまとめ、事務局で2月中旬を目途に意見書案を作成し、メール等で修正の有無についてご確認いただきながら、3月28日開催の奈良市子ども・子育て会議で意見書を報告できるよう進めていくこととなった。

(4) 議題又は案件に対する主なご意見等

[議題]

- ① 奈良市子どもにやさしいまちづくり条例の検証について

- ・親と接する時間が極端に少なかったり、十分なコミュニケーションがとれていないケースがあり、心の問題での子どもたちへのサポートも必要。保護者同士、子ども同士のつながりはあるが、「ナナメ」のつながりをつくるような仕組みがあれば保護者の中で支援に関わる者も出てくるように思われる。
- ・実際に支援が必要と思われる家庭の情報を個々の保護者も持っているが、学校やその他関係団体との連携の場などがなく、効果的な支援ができていないのではないかな。
- ・奈良市が配布している「養育費と面会交流」のためのパンフレットの効果を検証し、養育費支払いの問題にとって、より良い方法はないか考える。
- ・事業者としては、保護者の積極的な就労の支援を行うとともに、可能な限り各家庭での子どもと接する時間を確保することができる勤務形態を提案するなど、働きやすい環境づくりを推進することであると考えます。
- ・障がいをもつ子どもに対して、ITを利用した支援や、障がいに対する知識を先生が身に付けるための研修を実施してはどうか。また、子どもがパソコン等のスキルを身に付けるための支援をしてはどうか。
- ・困難を有する家庭等であっても、スマートフォンを持っている方は多いので、スマートフォンをつかったアプローチを考えてはどうか。
- ・小学校や中学校の学校図書館へ図書館司書を配置し、子どもの支援を行ったり、子どもの居場所として活用してはどうか。また、図書館司書による先生へのサポートもできるのではないかな。
- ・教育と福祉の連携を深めていくことが重要ではないかな。
- ・地域の子どもたちを支援する取組をしているが、支援を必要としている子にどうすれば来てもらえるかが課題である。保護者のみなさんがもっている情報もあるので、支

援の「場所」をつくって保護者も巻き込んでいくようなことが必要ではないか。

- ・ひとり親家庭等の保護者同士がつながれるような仕組みができればいいのではないか。
- ・子どもの貧困の問題があるが、まだまだ認知度が低いように思う。貧困に対する認知度をあげていく必要があるのではないか。
- ・15歳から20歳までの支援の充実をしていく必要があるのではないか。

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	1	事業名	奈良市子ども会議の設置	部名	子ども未来部	課名	子ども政策課
事業内容	子どもの意見表明や参加を支援するための取り組みとして、子どもの自主的・自発的な運営による「子ども会議」を設置します。			指標	奈良市の子ども会議参加者の意見表明に対する満足度(%)	平成26年度実績値	平成27年度より実施
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	1,191 千円	(予算)	917 千円	(予算)	千円	(予算)	千円	(予算)	千円
	(決算)	756 千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円
目標値と実績値	(目標)	75	(目標)	80	(目標)	85	(目標)	90	(目標)	95
	(実績)	77.5	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	「奈良市子どもにやさしいまちづくり条例」が平成27年4月1日から施行されたことから、「奈良市子ども会議」を開催し、会議に参加した子どもたちの意見をまとめ、市長に提出した。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	子どもにやさしいまちづくりを推進するため、子どもが意見表明をし、参加する場として「奈良市子ども会議」を開催する。この会議に自主的及び自発的に参加し取り組んでもらえるよう子どもたちの関心を高めていく。 また、「奈良市子ども会議」での提案を市政に反映できるよう事業展開を行っていく。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に意見交換する子どもたちが目立ち、内容も工夫されている。参加する子どもたちにとって意味のある取り組みとなっているが、「奈良市全体の子どもたちに向けて」と考えると、もっと取り組み方に広がりがあっても良いのではないかと。例えば、事前に子どもたちの意見を集めるような取り組みになっていけば、子ども会議の意義も更に深まるのではないかとと思う。 学校を通して先生から学年便りに記載してもらう等、工夫すれば、より周知できるのではないかと。 中学、高校生の市政を含めた政治への興味、関心を意識的に増加させなければならぬ。そういう意味でも特に10代の意見は将来の市政にとって大変重要だと考えるので、積極的な事業展開に期待したい。10代の就労者の意見を取り入れても良いかと思う。 全国レベルでも先進的な取り組みを実践していると高く評価する。今後は、困難を有する子どもたちなど多様な参加を促進すること、テーマをしばった上でより具体的な実施計画を実施することを求める。 今後、どのような手立てが考えられるのか、子ども会議参加者に議論してもらうのもよいのではないかと。 				

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもからの意見をいかに市政に反映したか、反映できない場合はその理由を、子どもや市民にフィードバックしていただきたい。 ・ 来年度以降の子ども会議の周知の際に、子ども会議における具体的な子どもたちの議論の流れ等を伝えることができればより興味を持ってもらえるのではないかと思う。 				
意見等に対する対応状況	<p>奈良市子ども会議における参加者募集やその取り組み方については、決まったやり方を続けるのではなく、いただいた多くのご意見を参考にしながら、子ども会議がよりよい取り組みとなるよう常に改善を図っていく。</p> <p>特に参加者募集については、より多様な意見が出されるように周知先を増やす等の工夫をしていきたいと考えている。</p> <p>また、会議の取り組み方についても、「テーマを絞ること」や「奈良市子ども会議のやり方について子ども会議参加者に議論してもらう」等の方法を取り入れていきたいと考えている。</p>				

■ 奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	A				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	2	事業名	教育・保育施設及び地域型保育事業の整備	部名	子ども未来部	課名	子ども政策課 保育所・幼稚園課
事業内容	待機児童解消や多様な教育・保育ニーズに対応するため、既存の教育・保育資源を活用するとともに、民間活力による教育・保育施設及び地域型保育事業等の整備を行います。			指標	3号認定の利用定員数(人)	平成26年度 実績値	平成27年度より実施
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	49,500 千円	(予算)	221,730 千円	(予算)	千円	(予算)	千円	(予算)	千円
	(決算)	49,500 千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円
目標値と実績値	(目標)	2,686	(目標)	2,686	(目標)	2,763	(目標)	2,928	(目標)	2,928
	(実績)	2,681	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	保育所待機児童対策として、平成27年8月、西部北区域にYMCAあきしの保育園を設置するとともに、中央区域及び西部南区域に小規模保育事業(合計3か所)の設置運営事業者の公募を実施し事業者を選定した。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	「奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン」に基づき、重点的な取組が必要な中央区域及び西部南区域の保育所待機児童の解消を目指す。特に0～2歳児は待機児童の80%以上を占めており、今後も民間活力による整備のほか、あらゆる手法を組み合わせることで、多様な選択肢の中から保育施設を選択できる環境を整えていく必要がある。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<p>・待機児童の解消、量的達成は喫緊の課題である。同時に、未来に向かう子どもの育ちの保障は達成可能なかが課題である。子育て支援の受け皿として必要なことは、子どもの最善の利益であり、子どもが10年20年後に人として育ったのかである。長期的視点での検証及び総合的・包括的に見る視点が求められる。</p> <p>・地域性(都心部、都心部以外)によって、利用者の割合が大きく異なるように感じる。地域に応じた効率的な事業運営を行っていただきたい。</p> <p>・幼稚園での延長保育の充実も推進するべきである。</p> <p>・地域型保育事業の増加等で入所児童数は増加しているが、待機児童の解消という点ではむしろ増加傾向にある。いわゆる隠れ待機児も含め3号認定対象者は今後も更に増加が予測される。</p> <p>・保育所待機児童の解消に向けての環境整備は早急にとり行わなければ全く意味がないと思われるが、財政状況や様々な問題から考えると大変難しい状況であることは否めない。但し、解消できると「暮らしやすい自治体」として認識され、住居を構える世帯が増えるとも考えられるので、今後も出生数の減少は予測されるが、就労家庭は増加すると思うので、積極的な取り組みに期待したい。</p>				

	<ul style="list-style-type: none"> ・自家用車を持たない世帯が利用しやすいように、駅から近い場所に整備を検討する事も必要なのではないかと。 ・多様な選択肢の中から、どの保育施設を選べばよいのか、保育施設を選択するための情報提供も求められるのではないだろうか。 				
意見等に対する対応状況	<p>多様化する就学前の教育・保育ニーズに対応するため、従来の幼稚園と保育所といった二者択一ではなく、認定こども園や地域型保育事業も含めた多様な選択肢の中から教育・保育施設を選択できる環境を整えていく必要がある。特に保育所待機児童の解消にあたっては、地域ごとのニーズの変化や少子化を見据えて取り組む必要があり、認可保育所の新設のみに頼るのではなく、既存民間保育所や地域型保育事業といった民間活力を積極的に活用することにより、スピード感をもって対応していきたいと考えている。</p>				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	3	事業名	市立こども園の設置	部名	子ども未来部	課名	子ども政策課 こども園推進課
事業内容	「奈良市幼保再編基本計画」「奈良市幼保再編実施計画」に基づき、市立幼保施設の再編を進めながら、「市立こども園（幼保連携型認定こども園）」の設置を進めます。			指標	市立こども園の設置数 (各年度4月1日)(園)	平成26年度 実績値	平成27年度より実施
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	59,123 千円	(予算)	410,153 千円	(予算)	千円	(予算)	千円	(予算)	千円
	(決算)	28,475 千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円
目標値と実績値	(目標)	7	(目標)	9	(目標)	12	(目標)	25	(目標)	32
	(実績)	7	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	市立幼保施設の再編に関する計画及び方針に基づき取組を進め、平成27年4月には合計7園の市立こども園(幼保連携型認定こども園)の設置が完了するとともに、さらに市立こども園2園の移行に向けた準備行為を進めた。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	「奈良市幼保再編実施計画の再編優先エリア実施方針」に基づき、合計7園の市立こども園開園と、鶴舞幼稚園の私立幼保連携型認定こども園への移行に向けた取組を進める。今後も保護者や地域の理解を得ながら、市立こども園だけではなく私立幼保連携型認定こども園にも順次移行させることで、保護者の増加・多様化する保育ニーズに迅速に対応し、市全体の更なる教育・保育の充実を目指す。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	A				
子ども・子育て会議における意見等	<p>・待機児童の解消、量的達成は喫緊の課題である。同時に、未来に向かう子どもの育ちの保障は達成可能なかが課題である。子育て支援の受け皿として必要なことは、子どもの最善の利益であり、子どもが10年20年後に人として育ったのかである。長期的視点での検証及び総合的・包括的に見る視点が求められる。</p> <p>・地域性(都心部、都心部以外)によって、利用者の割合が大きく異なるように感じる。地域に応じた効率的な事業運営を行っていただきたい。</p> <p>・幼保再編実施計画の具体的な情報公開を、もっと早い段階で行うべきではないかと思う。たとえ変更になる予定であっても、奈良市全体の計画を公開する方が理解を得られやすい。現状の順次公表では、特に子育てが始まったばかりの若い保護者には、先が見えない不安感がかりが煽られる状況も生まれているように思う。</p> <p>・予算的に余裕があるのであれば、計画を先行し、実施していただきたい。</p> <p>・市立こども園の再編については、保護者や地域住民より不安の声があがっており、保護者や地域住民の声に謙虚に耳を傾け、柔軟に対応していただきたい。</p>				

意見等に対する対応状況	<p>市立こども園の設置については、現時点では過小規模となった市立幼稚園を含む校区から優先して取り組みを進めているところであり、幼保再編の全体像の公表には至っていない。しかし「私の地域にある園が今後どうなるのか、もっと早く教えてほしい」という声を多くいただいているのも事実である。</p> <p>市立こども園の設置は、他園の再編により生み出された人材・財源を基礎としていることから、計画の前倒しは困難な状況にあるが、幼保再編の実施にあたっては、可能な限り早い段階で情報公開を行ったうえで、強引に進めることなく、保護者や地域の理解を得ながら進めていきたいと考えている。</p>				
-------------	---	--	--	--	--

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	4	事業名	幼稚園等の預かり保育	部名	子ども未来部	課名	こども園推進課 保育所・幼稚園課
事業内容	幼稚園や認定こども園の通常の教育時間外に、希望する園児を対象に預かり保育を実施し、保護者の子育てを支援します。			指標	年間延べ利用者数（人）	平成26年度 実績値	14,087
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			(8)一時預かり事業

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	75,673 千円	(予算)	74,308 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	67,761 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	60,311	(目標)	59,578	(目標)	58,616	(目標)	57,934	(目標)	56,907
	(実績)	37,349	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	幼稚園と認定こども園における在園児を対象とした預かり保育事業について、市立幼稚園9園及び市立認定こども園7園で実施し、保護者の子育てを支援した。									
取り組みの方向性 (課題・改善点等)	保護者の子育てを支援するため預かり保育事業の利用について、さらなる利用者拡大を目指す。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	C				
子ども・子育て会議 における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 待機児童の解消、量的達成は喫緊の課題である。同時に、未来に向かう子どもの育ちの保障は達成可能なかが課題である。子育て支援の受け皿として必要なことは、子どもの最善の利益であり、子どもが10年20年後に人として育ったのかである。長期的視点での検証及び総合的・包括的に見る視点が求められる。 ・ 地域性(都心部、都心部以外)によって、利用者の割合が大きく異なるように感じる。地域に応じた効率的な事業運営を行っていただきたい。 ・ 幼稚園の預かり保育の改善点等の部分は、保護者の子育てを支援するためだけではなく、子どもの家庭以外の居場所のため、子どもが集団経験をするためなど子どもの育ちの視点を追加したほうがよいのではないかと。 ・ 預かり保育事業の利用希望者は増加しており、事業実施園数の増加が必要である。 ・ 幼稚園の預かり保育事業の利用者拡大は体制が十分でないところも多いため難しいと思う。積極的な預かり保育事業に取り組む幼稚園にはある程度の補助が必要になるが、現在それが十分でないと思われる。 ・ 1回あたりの料金設定ではなく、1時間ごとの料金にしたらもっと利用しやすくなるのではないかと。 				

意見等に対する対応状況	市立幼稚園等の一時預かりは、待機児童を多く抱える地域のニーズが高い園で、在園児の希望者を対象に実施している。今後は、幼保再編計画の推進にあわせて、効果的な拡大を図る。				
-------------	---	--	--	--	--

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	B				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	C				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	5	事業名	保育所等の延長保育	部名	子ども未来部	課名	こども園推進課 保育所・幼稚園課
事業内容	保護者の就労形態の多様化に伴う延長保育の需要に対応するため、保育所や認定こども園等において認定された利用時間を超えた保育を実施し、就労世帯等の支援を図ります。			指標	延長保育利用児童数(人)	平成26年度 実績値	2,081
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			(2)時間外保育事業

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	158,064 千円	(予算)	104,816 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	72,299 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	2,102	(目標)	2,193	(目標)	2,284	(目標)	2,375	(目標)	2,467
	(実績)	2,361	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	就労する保護者にとって保育所が利用しやすい環境を整えるため、利用時間を超えた延長保育事業を実施する市内私立保育所、認定こども園及び小規模保育事業所28園に補助を実施したほか、市立保育所6園においても本事業を実施した。									
取り組みの方向性 (課題・改善点等)	多様化する保育ニーズに対応するため延長時間の拡大等、事業の拡充を目指す。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	A				
子ども・子育て会議 における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 待機児童の解消、量的達成は喫緊の課題である。同時に、未来に向かう子どもの育ちの保障は達成可能なかが課題である。子育て支援の受け皿として必要なことは、子どもの最善の利益であり、子どもが10年20年後に人として育ったのかである。長期的視点での検証及び総合的・包括的に見る視点が求められる。 ・ 地域性(都心部、都心部以外)によって、利用者の割合が大きく異なるように感じる。地域に応じた効率的な事業運営を行っていただきたい。 ・ 利用希望者のニーズ把握が必要である。 				
意見等に対する対応状況	地域に応じた効率的な実施について、子どもの最善の利益を重視し、多様化する保育ニーズや地域の実情を把握し、事業拡大を図りたい。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	B				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	C				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	6	事業名	休日保育事業	部名	子ども未来部	課名	保育所・幼稚園課
事業内容	保育所において、日曜・祝日などに就労するため、保育を必要とする保護者の子どもを預かり保育します。			指標	休日保育延べ利用者数（人）	平成26年度実績値	740
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	8,400 千円	(予算)	8,344 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	8,079 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	750	(目標)	750	(目標)	750	(目標)	750	(目標)	750
	(実績)	695	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	就労する保護者にとって保育所が利用しやすい環境を整えるため、休日保育事業を実施する市内私立保育所2園に、保育所運営委託費を支払った。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	日曜・祝日などに保育を必要とする保護者に対して、休日保育の情報を積極的に提供し、休日保育利用人数を増やしていく。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	C				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 待機児童の解消、量的達成は喫緊の課題である。同時に、未来に向かう子どもの育ちの保障は達成可能なかが課題である。子育て支援の受け皿として必要なことは、子どもの最善の利益であり、子どもが10年20年後に人として育ったのかである。長期的視点での検証及び総合的・包括的に見る視点が求められる。 ・ 地域性(都心部、都心部以外)によって、利用者の割合が大きく異なるように感じる。地域に応じた効率的な事業運営を行っていただきたい。 ・ 受け入れ保育園の体制支援が必要である。 ・ 休日保育については実施箇所が少ない。各園でアンケート調査を行うなどニーズの高い園では優先的に実施できるよう予算化の検討していただきたい。 ・ 今後は情報拡大に努めていただきたい。 				
意見等に対する対応状況	保育所の入所受付時等において、休日保育に係る情報を積極的に提供するとともに、保護者の保育についてのニーズ把握に努めていく。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	B				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	C				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	7	事業名	夜間保育事業	部名	子ども未来部	課名	保育所・幼稚園課
事業内容	保育所において、夜間に就労するため、保育を必要とする保護者の子どもを預かり保育します。			指標	夜間保育所延べ入所者数(人)	平成26年度実績値	489
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) 9,983 千円	(予算) 8,100 千円	(予算) 千円	(予算) 千円	(予算) 千円
	(決算) 8,192 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円
目標値と実績値	(目標) 480	(目標) 480	(目標) 480	(目標) 480	(目標) 480
	(実績) 473	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
取り組み内容・成果等	就労する保護者にとって保育所が利用しやすい環境を整えるため、夜間保育事業を実施する市内私立保育所1園に、保育所運営委託費を支払った。				
取り組みの方向性(課題・改善点等)	夜間に就労するため保育を必要とする保護者に対して、夜間保育の情報を積極的に提供していく。				

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 待機児童の解消、量的達成は喫緊の課題である。同時に、未来に向かう子どもの育ちの保障は達成可能なかが課題である。子育て支援の受け皿として必要なことは、子どもの最善の利益であり、子どもが10年20年後に人として育ったのかである。長期的視点での検証及び総合的・包括的に見る視点が求められる。 ・ 地域性(都心部、都心部以外)によって、利用者の割合が大きく異なるように感じる。地域に応じた効率的な事業運営を行っていただきたい。 				
意見等に対する対応状況	保育所の入所受付時等において、夜間保育に係る情報を積極的に提供するとともに、保護者の保育についてのニーズ把握に努めていく。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O				
子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	B				
子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	C				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	8	事業名	保育所及び幼稚園等職員研修の推進	部名	子ども未来部	課名	こども園推進課
事業内容	子どもの人権を十分配慮し、多様な教育・保育ニーズ及び子育て支援等のサービスに対応するため、保育所及び幼稚園、認定こども園に勤務する職員を対象に園内外の研修を実施し、資質向上を図ります。			指標	—	平成26年度実績値	—
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	1,438 千円	(予算)	1,063 千円	(予算)	千円	(予算)	千円	(予算)	千円
	(決算)	1,043 千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円
目標値と実績値	(目標)	—	(目標)	—	(目標)	—	(目標)	—	(目標)	—
	(実績)	—	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取組み内容・成果等	連携大学等の指導を受け、本市の幼稚園教諭と保育士が参加して、これからの教育・保育の担い手として必要とされる資質向上に向け、公開保育、実践事例研究会等の様々な研修を実施してきた。熟練した職員が不足している中、文部科学省委託調査研究事業では、人材育成を行う養成プログラムの開発にも取り組んできた。									
取組みの方向性(課題・改善点等)	多様化する保護者の教育・保育ニーズに応じるため市立の保育所・幼稚園・こども園の保育士等への研修により資質の向上を図る。また、現在在職の職員の退職、休職等を防ぐための研修も実施する。職員一人ひとりが自己研鑽をし、日常の実践と結びついた園内研修や幼保の枠を超えた教育・保育の力量を高めるための研修を充実させていく。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・公立だけでなく私立の職員についても園の経営者任せにせず、同様の研修が保障できるよう一定の予算措置が必要である。 ・保育者の資質向上は、公立園だけではなく、私立園においても重要である。公私合同研修の開催が望まれる。 ・資質向上のための教職員研修は大事だが、実際はニーズが多様で、時間を確保することが困難になっていることも事実で、良い研修の機会があってもそれに参加できない物理的状況もあるという事実も把握されたい。 ・子どもにやさしいまちづくり条例を研修の項目に入れていただきたい。 ・保育士の研修を推進するためには、保育士の人数を増やさなければ推進できないように思う。 				
意見等に対する対応状況	以前より公私立保育所・幼稚園・こども園の職員を対象とした合同研修会を実施している。今後も多様化するニーズに対応し、保育の資質向上を図る研修を実施するとともに、保育士確保に努め、研修の推進を図っていく。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	B				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	C				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	9	事業名	保育所及び幼稚園等と小学校との連携の推進	部名	子ども未来部	課名	こども園推進課
事業内容	中学校まで連携・接続した教育をめざし、保育所及び幼稚園、認定こども園から小学校への滑らかな接続を図るとともに、小学校との連携を推進します。			指標	—	平成26年度実績値	—
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度			平成28年度			平成29年度			平成30年度			平成31年度		
予算・決算額	(予算)	—	千円	(予算)	—	千円	(予算)	—	千円	(予算)	—	千円	(予算)	—	千円
	(決算)	—	千円	(決算)	—	千円	(決算)	—	千円	(決算)	—	千円	(決算)	—	千円
目標値と実績値	(目標)	—		(目標)	—		(目標)	—		(目標)	—		(目標)	—	
	(実績)	—		(実績)	—		(実績)	—		(実績)	—		(実績)	—	
取り組み内容・成果等	連携大学等の指導を受け、本市の保育教育士が参加して、これからの教育・保育の担い手として必要とされる資質について、公開保育等を通して指導案等を学んだ。														
取り組みの方向性(課題・改善点等)	子どもの育ちは、幼稚園・保育所等で完結するものではなく、小学校等との連携が重要となることから、本市においては、幼稚園・保育所等から小学校へのスムーズな接続を図るため、カリキュラム、指導の内容や方法に関わるもの、幼稚園・保育所の職員と小学校の教員間や、児童と生徒間の交流という点についてさらに様々な取り組みを行う。														

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	C				
子ども・子育て会議における意見等	<p>・保育所及び幼稚園等と小学校との連携の推進・特別支援教育支援員の配置(幼稚園)・民間保育所等運営費補助金・保育所等のサービス評価の実施が評価である。これらは今求められる具体的な保育実践に直結する内容である。どの項目も重要課題として位置づけ、今後の具体的実施に結びつくように努めていきたい。</p> <p>・小中一貫教育の中での幼稚園・保育園の位置付けの明確化が必要である。</p> <p>・実態を把握した上で「連携」として具体的に何を実施していくのか、検討していくことが必要である。</p>				
意見等に対する対応状況	<p>今年度国から学習指導要領・幼稚園教育指導要領等の改訂に向けた方向性の取りまとめが打ち出され、幼小接続(幼児教育と小学校教育の接続)の重要性がその背景に盛り込まれている。奈良市では、それに先がけ、奈良市立こども園カリキュラムで掲げている理念を「生きぬく子どもの育成」とし、奈良市教育大綱の「目標」と同じ方向性で子どもの育成に取り組んでいる。市立こども園・保育園・幼稚園の子どもたちに一貫した教育・保育を提供し、就学につながる「学びに向かう力」を育むことで幼小接続の強化に努めたい。また、連携を充実させるために具体的手立てを検討していきたい。</p>				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	B				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	C				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	10	事業名	特別支援教育支援員の配置（幼稚園）	部名	子ども未来部	課名	こども園推進課
事業内容	幼稚園に在園する特別な支援を要する幼児に対して、必要な支援を提供することにより、他の幼児を含めて行き届いた教育を提供するとともに、特別支援教育の充実を図ります。			指標	特別支援教育知識保有者の人数の割合（％）	平成26年度実績値	平成27年度より実施
				量の見込みと確保方策（事業計画第5章）対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	37,000 千円	(予算)	37,500 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	35,079 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	17	(目標)	32	(目標)	48	(目標)	63	(目標)	76
	(実績)	10.3	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	平成23年度から26年度に引き続き平成27年度においても発達センターでの専門的な評価を基に配置を行うとともに、認定こども園等一部幼稚園に複数配置を行った。									
取り組みの方向性（課題・改善点等）	過小規模化している幼稚園を統廃合し、こども園に再編しても特別な支援を継続し、必要とする幼児に対してさらにきめ細やかな教育を保障する。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	C				
子ども・子育て会議における意見等	<p>・保育所及び幼稚園等と小学校との連携の推進・特別支援教育支援員の配置（幼稚園）・民間保育所等運営費補助金・保育所等のサービス評価の実施がC評価である。これらは今求められる具体的な保育実践に直結する内容である。どの項目も重要課題として位置づけ、今後の具体的実施に結びつくように努めていただきたい。</p> <p>・特別な支援を要する幼児は増加傾向にあるが、十分な手立てがとれていない。これについても正しい判断のもと加配をつけることができるなど、環境を整えられたい。また、就園前後に実施されている乳幼児健診での診断やその後のきめ細かな指導、援助があると良いように思う。</p> <p>・教育支援員の育成は急にできるものではないので、必要人数の確保については着実に取り組んでいただきたい。</p>				
意見等に対する対応状況	本市で定めた配置基準により特別支援教育支援員を配置している。園児一人一人に必要な支援の方法は異なるため、増加する特別な支援を要する幼児に対して、よりきめ細かな対応及び行き届いた教育の提供ができるよう、人材確保に努めたい。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	B				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	C				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	11	事業名	公立保育所等の充実	部名	子ども未来部	課名	こども園推進課
事業内容	公立保育所等においても、保育環境及び保育サービスの充実を図ることにより、子育てと仕事の両立支援をめざします。			指標	保育所・こども園の入所児童数(人)	平成26年度実績値	3,006
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	1,007,137 千円	(予算)	1,097,175 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	890,208 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	3,420	(目標)	3,420	(目標)	3,790	(目標)	4,615	(目標)	4,840
	(実績)	3,032	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	多様化する保護者のニーズに応え、保育環境及び保育サービスの充実を図るため公立保育所全園において完全給食の実施を行った。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	保育所等の園児は1日のほとんどを園内で過ごすことになるため安全で快適な保育環境を保つことは重要なことであることから老朽化した施設及び設備の修繕、保守管理を随時行うことにより安心して生活が送れるよう保育環境を整え、少しでも多くの子どもを預かれるように努める。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	・目標には届いていない。全事業の中で最も予算が割り振られている事業であり、求められることも多いと思うが、目標に届くよう魅力ある保育所にしていただきたい。				
意見等に対する対応状況	老朽化の進む施設及び設備の計画的な修繕、保守管理を行うとともに、保育士等の人材確保に努め、保育環境及び保育サービスの充実を図っていく。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O			
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	B			
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	C			

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	12	事業名	保育所等における食育の推進	部名	子ども未来部	課名	こども園推進課
事業内容	乳幼児期からの適切な食事のとり方や望ましい食習慣の定着、食を通じた豊かな人間性の育成など、心身の健全育成を図るため、保育所等で「食育カリキュラム」を作り、実施します。また、「奈良市立保育園・こども園食物アレルギー対応マニュアル」に基づき、食物アレルギーのある園児に安全な給食を提供します。			指標	—	平成26年度実績値	—
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) — 千円	(予算) — 千円	(予算) — 千円	(予算) — 千円	(予算) — 千円
	(決算) — 千円	(決算) — 千円	(決算) — 千円	(決算) — 千円	(決算) — 千円
目標値と実績値	(目標) —	(目標) —	(目標) —	(目標) —	(目標) —
	(実績) —	(実績) —	(実績) —	(実績) —	(実績) —
取り組み内容・成果等	奈良市立園「食育カリキュラム」を作成した。これにより各園で各年齢に応じ食育目標を設定し食育計画を作成できるようになった。また「食物アレルギー対応マニュアル」を幼稚園にも適用し行事等の全ての食事提供に関する安全管理体制を強化した。				
取り組みの方向性(課題・改善点等)	食育計画の「クッキング保育」は、衛生管理や食物アレルギーへの配慮等、安全確保が必要で、徹底した安全管理のために「クッキング保育」計画作成段階における、各園への助言・指導を強化する。また近年、重度化や多様性化している食物アレルギーへの対応は、マニュアルの個々人に応じた弾力的な運用と保護者・園の相互理解が課題である。園の対応例を全園で共有およびマニュアル化し、また誤食事故の未然防止に向けて各園のヒヤリハット例等を会議で共有し、改善策の考案へ繋げていく。				

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	・食物アレルギーは命にも直結する大事な課題。対策については保護者との連携強化は必要だがマニュアル整備だけでは十分に対応できない。調理職員の加配などの一定の予算措置が必要である。 ・食物アレルギーをもつ子どもへの対応もマニュアル作成だけでなく、幼稚園、保育所等の教員の研修で積極的実施されたい。				
意見等に対する対応状況	食物アレルギーを含め、食育に関する研修や給食会議を実施している。また、食物アレルギーをもつ子どもへの対応として、調理員をはじめとした職員に対して、作成したマニュアルの啓発等を行い、誤食のない環境・体制整備を図りたい。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O			
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A			
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	B			

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	13	事業名	民間保育所等運営費補助金	部名	子ども未来部	課名	保育所・幼稚園課
事業内容	運営費補助金の交付により、保育サービスの内容の充実を図り、多様化する保育ニーズに応えることで、子育てと仕事の両立支援をめざします。			指標	入所児童数（人）	平成26年度実績値	5,882
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	510,736 千円	(予算)	531,680 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	404,487 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	6,364	(目標)	6,332	(目標)	6,295	(目標)	6,217	(目標)	6,112
	(実績)	6,003	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	保護者からの多様な保育ニーズに対応し、民間保育所等における保育内容の充実を表現した。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	子どもの最善の利益と保育士等の処遇改善を目的として、保育の質を高めることに資するよう、引き続き補助を行っていく。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	C				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所及び幼稚園等と小学校との連携の推進・特別支援教育支援員の配置(幼稚園)・民間保育所等運営費補助金・保育所等のサービス評価の実施がC評価である。これらは今求められる具体的な保育実践に直結する内容である。どの項目も重要課題として位置づけ、今後の具体的実施に結びつくよう努めていただきたい。 ・国基準の改定が原則ではあるが奈良市においても引き上げを行い保育士確保を優位に行えるよう支援が必要と考える。 ・保育士の確保が各計画の基になるので、処遇の改善については早急に実施していただきたい。 				
意見等に対する対応状況	保育士の処遇改善については、職員給与改善に関する補助単価の増額をし、引き続き保育内容の充実を目的として補助を行っていく。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O			
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	B			
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	C			

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	14	事業名	保育所等のサービス評価の実施	部名	子ども未来部	課名	こども園推進課 保育所・幼稚園課
事業内容	保育所等に第三者評価を導入し、保育サービスの質の向上を目的として、これまでに提供してきた保育内容や保育の質を、保護者や子どもの視点から見直し改善します。			指標	第三者評価を受審する施設数(園)	平成26年度実績値	0
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	0 千円	(予算)	5,250 千円	(予算)	千円	(予算)	千円	(予算)	千円
	(決算)	0 千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円
目標値と実績値	(目標)	0	(目標)	7	(目標)	7	(目標)	7	(目標)	7
	(実績)	0	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	(公立)全園において自己評価の推進が定着している。市立こども園・幼稚園では学校関係者評価の充実により、園運営の充実・改善が図られている。 (私立)平成27年度は私立保育所等の第三者評価受審に対する予算はない。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	(公立)市立保育園においては、幼保再編に伴いこども園に移行後、随時学校評議員制度を導入する予定であり、現行においても、その方向性を視野に入れ、園運営の充実・改善に努めている。さらに、今後の方針として、第三者評価の導入についても具体的展望を掲げ、推進していく。 (私立)平成28年度以降、私立保育所等の第三者評価受審に対する予算を計上し、5年に1度程度受審するよう働きかけていく。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	C				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所及び幼稚園等と小学校との連携の推進・特別支援教育支援員の配置(幼稚園)・民間保育所等運営費補助金・保育所等のサービス評価の実施が評価である。これらは求められる具体的な保育実践に直結する内容である。どの項目も重要課題として位置づけ、今後の具体的実施に結びつくように努めていただきたい。 ・私立保育所等の第三者評価受審については、民間保育所等運営費補助金を行うのであれば、5年ではなく3年に一度ぐらいが良いのではないかと。 ・第三者評価の結果については公表を通じて、レベルアップを図っていただきたい。 ・保育内容や保育の質の向上を、保護者や子どもの視点から見直す際に、長時間保育や早期教育的な保育内容など、保護者ニーズと子どものニーズが必ずしも合致しない場合がある。子どもの最善の利益の視点からの評価が求められる。 				

意見等に対する対応状況	<p>(公立) 保育内容、保育サービス等の向上につながるよう子ども園化にあわせて順次、学校評議員制度の導入を図り、より開かれた園づくりを推進していく。</p> <p>・ご指摘のように保護者と子どものニーズが異なる場合もある。だからこそ園の役割として、保護者に子ども理解を図り、親と子の関係を築くための架け橋となることが必要である。このことを十分に配慮した園運営を啓発していく。</p> <p>(私立) 子ども・子育て支援制度における公定価格の定めにおいて第三者評価の受審は5年に1度程度の想定であり、その期間内で1回限りの加算とされている。平成28年度以降、全ての私立保育所等について、第三者評価受審に係る予算を確保していく。</p>				
-------------	---	--	--	--	--

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	C				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	C				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	15	事業名	私立幼稚園運営費補助金	部名	子ども未来部	課名	保育所・幼稚園課
事業内容	運営費補助金の交付により、私立幼稚園の教育条件の維持向上と園児にかかる経済的負担の軽減を図り、幼稚園の経営の健全性を高めることで私立幼稚園の健全な発展を図ります。			指標	在園児童数（人）	平成26年度実績値	1,618
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	24,800 千円	(予算)	24,800 千円	(予算)	千円	(予算)	千円	(予算)	千円
	(決算)	24,441 千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円
目標値と実績値	(目標)	1,630	(目標)	1,630	(目標)	1,630	(目標)	1,630	(目標)	1,630
	(実績)	1,623	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	市内私立幼稚園15園全園に運営費補助金を交付した。人件費及び管理運営に関する費用を補助することにより、私立幼稚園の教育条件の維持及び向上を図った。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	継続して実施することにより、保護者の就園上の経済的負担の軽減や奈良市の幼稚園教育の充実発展を図る。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・私立幼稚園が担う公的役割も増えていると思われるので、できる限りの保障が必要だと思う。 ・私立幼稚園は、保育園、こども園が充実することで、存在意義が問われている。長年、地域の中で、子供達を見守って地域を作ってきた役割を考えると、補助金以外に情報発信などで、支援していく必要を感じる。 				
意見等に対する対応状況	幼児教育への需要に対応していくため、私立幼稚園の教育条件の維持及び向上を支援していく。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O			
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	B			
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	C			

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	16	事業名	人権教育推進のための副教材の配付	部名	学校教育部	課名	学校教育課
事業内容	学校における人権教育の推進を図るため、副教材として人権教育テキスト「なかまとともに」を小・中・高等学校に配付し、活用を図っています。			指標	—	平成26年度実績値	—
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	0 千円	(予算)	0 千円	(予算)	千円	(予算)	千円	(予算)	千円
	(決算)	0 千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円
目標値と実績値	(目標)	—	(目標)	—	(目標)	—	(目標)	—	(目標)	—
	(実績)	—	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	副教材「なかまとともに」を配付し、積極的な活用を呼びかけた。平成26年3月完成した教材ではあるが、平成28年度の人権教育推進計画の年間計画にすでに位置づけている校もあり、活用が進んでいる。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	配布初年度であったため、さらなる活用を目指す必要がある。効果的な活用時期や方法を研修会等で呼びかけることで、活用校をさらに増やし、事業のさらなる推進を図る。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	—				
意見等に対する対応状況	—				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O			
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	B			
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	B			

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	17	事業名	地域で決める学校予算事業	部名	学校教育部	課名	地域教育課
事業内容	中学校区を単位として、地域と学校が連携・協働し、地域全体で子どもを育てる体制をつくります。			指標	会計担当者設置校区数(校区)	平成26年度実績値	12
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	98,000 千円	(予算)	89,161 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	95,299 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	12	(目標)	13	(目標)	15	(目標)	17	(目標)	19
	(実績)	11	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	教職員の負担を減らし持続発展に向けた取組を行うため、今後全地域教育協議会(21校区)に会計処理を行う会計担当者を置く。各年度の目標値は単年度の数値とする。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	地域と学校が連携・協働して事業を推進するため、地域の人材を積極的に活用していき、教職員の負担を減らし、地域と教職員の相互理解を図る。コーディネーターの育成を目的とした研修等の開催を行い、小中一貫教育の観点から中学校区でめざす子ども像を共有し、その子ども像に向けて学校支援活動の充実を図ることや学校評価を行うことにより、事業の持続的な発展を目指す。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	・地域と学校の連携全般にいいことだが、地域に開かれた学校として、地域と学校を結ぶ連携コーディネーターに期待したい。				
意見等に対する対応状況	地域と学校を繋ぐ地域コーディネーターは本事業の要であり、引き続き、本事業に参加する地域人材の発掘、育成を進めたい。また、地域と学校の情報共有、相互理解が進む仕組み作りを推進したい。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O				
子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	B				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	18	事業名	世界遺産学習推進事業	部名	学校教育部	課名	学校教育課
事業内容	世界遺産等の文化遺産や自然環境などを通じて、地域に対する誇りを育て、奈良で学んだことを誇らしげに語れる子どもを育成します。			指標	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えたことがある児童の割合 (%)	平成26年度実績値	14.2
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) 6,482 千円	(予算) 6,912 千円	(予算) 千円	(予算) 千円	(予算) 千円
	(決算) 5,802 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円
目標値と実績値	(目標) 15	(目標) 16	(目標) 17	(目標) 18	(目標) 19
	(実績) 15	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
取り組み内容・成果等	平成27年度は2689人の小学5年生が現地学習に取り組み、世界遺産に触れ、理解や関心を深めることができた。また「第6回世界遺産学習全国サミット」では、飛鳥小の代表児童が学習の取組を発表する機会を得た。連絡協議会には、30団体が加盟している。				
取り組みの方向性(課題・改善点等)	I C Tや英語等を活用した現地学習が行えるよう、指導資料を提供する。また、世界遺産学習の副読本をデジタル化し、活用を図る。今後も、世界遺産学習連絡協議会会員を増やすとともに、情報交換を図り、世界遺産学習のさらなる充実を目指す。				

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産学習について予算まで組んでいるのなら、もっと子ども目線で楽しいお話と学習方法をお願いしたい。学年や歳に応じて目線も変えて内容を変えてもらえるとよいと思う。 ・自分達の暮らす地域への愛着やプライドを持つようになる取り組みへの工夫が必要になると思うが、幼稚園児や保育園児に年齢を引き下げた取り組みも合わせて検討することも必要に思う。 				
意見等に対する対応状況	<ul style="list-style-type: none"> ・総合「なら」においても世界遺産学習を位置付け、各学校で小1～中3の年間計画を立て、学年に応じた取組を行っている。 ・こども園や幼稚園においては、それぞれの園に合わせて地域を知る活動を行っている。菜の花を育て、油を奉納するなど特色ある活動を行っている。 				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O				
子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	A				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	19	事業名	フューチャースクール構想実証事業	部名	教育総務部 学校教育課	課名	教育総務課 学校教育課
事業内容	タブレット端末等のICT機器を小学校・中学校に配備し、その活用を通して基礎学力の定着や学習意欲、コミュニケーション能力や課題解決力の向上を図ります。			指標	授業におけるICT活用による児童生徒の満足度の割合(%)	平成26年度 実績値	83
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	40,195 千円	(予算)	51,974 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	35,964 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	85	(目標)	87	(目標)	89	(目標)	91	(目標)	93
	(実績)	89	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	一人1台のタブレット端末の実証研究として中学1校、小学3校のモデル校を設置。中学4校、小学6校のパソコン教室をタブレット型端末により機器更新した。ICTの効果として、子どもたちの学習に対する関心意欲が高まる傾向がみられる。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	課題としては、学校におけるICTの積極的な活用推進と、普通教室における効果的な授業の推進を図る必要がある。取り組みの方向性としては、引き続き、ICTの効果検証のため、モデル校各校の協力のもと調査指標を収集する。また、小中学校において更に積極的かつ効果的な活用が図られるように、研究を進めていく。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	・ICT推進については、教員のスキルアップを図ることが重要である。モデル校設置の必要は理解するが、できるだけ全校で取り組める体制づくりが必要である。				
意見等に対する対応状況	教員のスキルアップを目的にマネジメントリーダー研修をはじめICTに関する研修を実施し、学校において中心的な役割を担う教員の育成を進めている。全校への展開については、計画的にICT環境を整備推進できるよう準備を進めている。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O			
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A			
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	A			

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	20	事業名	地域に開かれた魅力ある学校・教育の推進（学校の自己評価）	部名	学校教育部	課名	学校教育課
事業内容	各学校がその教育活動や学校運営の状況について自己評価を行い、成果や課題を明らかにして改善を進めるとともに、それを保護者や地域社会に公開することで、開かれた学校づくりを進めます。			指標	普段の教育活動や学校行事を参観する機会を設けている学校・園の割合（％）	平成26年度実績値	83
				量の見込みと確保方策（事業計画第5章）対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) 0 千円	(予算) 0 千円	(予算) 千円	(予算) 千円	(予算) 千円
	(決算) 0 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円
目標値と実績値	(目標) 85	(目標) 87	(目標) 90	(目標) 93	(目標) 95
	(実績) 84	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
取り組み内容・成果等	88%の学校が全教職員参加のもとに学校評価を進め、課題を明確にし、共有している。また評価者に学校の自己評価の結果と課題に対する改善策を示している。				
取り組みの方向性（課題・改善点等）	アンケート形式の学校評価が定着しているが、評価項目や評価指数の設定が課題となっている。また今後、評価の客観性を高め、結果を学校、保護者、地域と共有する中で、一体となって開かれた学校づくりを進めていくことが課題である。				

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価がアンケート形式で行われているが、学校の情報が保護者や地域に十分提供されていないところがあるので、学校からの多様な情報の提供方法の検討が必要である。 ・魅力ある学校・教育の推進は今後も期待したい。校長はじめ管理職のリーダーシップのもとチームとしての学校経営と地域に根ざした学校になるべく事業が展開されることを期待する。 ・評価項目や評価指数の設定を早急に行い、情報の公開を積極的に行っていただきたい。 				
意見等に対する対応状況	全ての市立学校において学校の自己評価とともに学校関係者評価を行い、HPや学校便りを通じて結果を公表している。市教委に提出された結果をとりまとめた奈良市内の学校評価の状況も公開している。地域に開かれた魅力ある学校づくりをさらに促進できるよう、PDCAサイクルを活用していく。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O			
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A			
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	A			

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	21	事業名	学校評議員制度の推進	部名	学校教育部	課名	学校教育課
事業内容	学校運営を地域に開かれた特色あるものにするため、学校評議員を設置します。校長は評議員に意見を求めながら、自主的・自立的な学校運営を推進します。			指標	学校評価において、学校評議員からの意見を教職員全体で共有する仕組みがある学校・園の割合(%)	平成26年度実績値	52
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	153 千円	(予算)	111 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	92 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	60	(目標)	62	(目標)	64	(目標)	66	(目標)	68
	(実績)	57	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	学校運営協議会が設置されている学校を除くすべての市立学校において、学校評議員制度を導入した。地域住民の信頼に応え、家庭や地域と連携協力し、一体となって子どもの成長を図っていく学校園づくりを推進できた。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	学校評議員制度は定着し、一定の機能を果たしているものの、評議員の任期が2年であるため、その人材選定と確保が難しくなってきた。また今後、評議員から出された意見の活用や、評議員を通じた地域との連携などを充実させる必要がある。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	・評議員が日頃から学校運営に関心をもち、学校行事等に関わる機会の増加が必要である。評議員の負担が増加するが、適切な評価を得るためには必要であり、評議員も評価のためには学校との関わりを持つことが必要だと思う。				
意見等に対する対応状況	評議員が学校との関わりをもつ機会を増やし、評議員の意見を学校運営に活かす環境を作っていく。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O			
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A			
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	C			

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	22	事業名	小学校での少人数学級の実施	部名	教育総務部	課名	教職員課
事業内容	少人数学級を実施し、よりきめ細かな指導を行うことにより、子どもの教育の充実を図ります。			指標	—	平成26年度実績値	—
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	350,805 千円	(予算)	259,200 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	348,839 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	—	(目標)	—	(目標)	—	(目標)	—	(目標)	—
	(実績)	—	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	奈良市立小学校において、国の学級編制基準（1年生35人、2年生から6年生は40人）を上回る学級編制を市単独事業で実施している。平成27年度は小学校全学年で継続実施し、1・2年生は30人、3・4・5・6年生は35人の2段階で少人数学級編制を実施した。									
取り組みの方向性（課題・改善点等）	市単独事業であるため、予算の確保が課題である。また配置する市費講師の教員としての資質の向上も課題である。今後は、経験豊富な講師の任用等を行いながら、毎年、市単独事業である少人数学級編制基準の見直しも含め、他の施策とあわせ、より教育的な効果がえられるよう検討していく。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	・1クラス40人の教室運営に無理があるように思う。せめて、補助の先生を付けるなどの対策が必要だと思う。 ・OJTが重要であると考えているので、積極的に適切な支援をしていただきたい。				
意見等に対する対応状況	本市では、1学級あたりの上限児童数を1・2年生30人、3・4・5・6年生は、35人とする少人数学級編制を実施して、児童一人ひとりにきめ細かな指導を行うとともに、若手教員には、OJTはもとより、さらに校長OBを派遣し、授業観察等を通して、教員としての資質の向上のための指導体制を構築している。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O			
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A			
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—			

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	23	事業名	教職員研修の推進	部名	学校教育部	課名	教育支援課
事業内容	奈良市教育センターを拠点とした研修と教員一人一人の指導力に応じた研修及び児童生徒の発達と学びの連続性をふまえた中学校区別の研修を実施し、教員の意識改革と指導力向上を目指します。			指標	研修満足度 (%)	平成26年度実績値	91.2
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	16,904 千円	(予算)	24,205 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	14,750 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	91.4	(目標)	91.6	(目標)	91.8	(目標)	92.0	(目標)	92.2
	(実績)	92.6	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	「集合型研修」は、講座内容を精選して実施するとともに、若手教員を対象にした「教員個別訪問研修」や「中学校区別訪問研修」を新たに実施した。「授業づくりの改善や意欲の向上につながった。」等の意見を多数聞いている。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	「教員個別訪問研修」では、年齢等に応じて、one-to-oneで実施したが、今後、経験年数に応じて研修を実施するとともに、校内での人材育成(OJT)の体制作りについての適切な支援を行う必要がある。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員研修の推進は質的保障の根幹である。幼児教育センターの配置や新採用者に対するアドバイザー配置などは、幼稚園・保育所・こども園・小学校、公立と民間が一致して実施していくことが今後の課題である。子どもにやさしいまちづくり条例があるので、それを生かした研修などがあるとよいと思う。 ・ 若手教員が増加したため、経験豊富な講師の任用や校内での人材育成(OJT)の体制作りは急務である。 				
意見等に対する対応状況	学校園を取り巻く社会状況及び本市の特性等を考慮し、関係機関との連携・調整を図りながら研修を実施し、教職員の資質能力の向上を図っていく。 また、若手教員の増加に伴い、これまで学校を支えてきた経験豊かな教員の実践的知識や指導技術を次世代に引き継ぐとともに、若手教員を育てるための組織体制づくりの支援も行っていく。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	24	事業名	中学校給食実施事業	部名	学校教育部	課名	保健給食課
事業内容	健康で安心、安全な食を提供するため、小学校に加え、中学校でも給食を実施します。			指標	中学校給食実施校数(校)	平成26年度実績値	中学校12校(学校給食提供校)
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	148,378 千円	(予算)	266,377 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	164,949 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	16	(目標)	21	(目標)	21	(目標)	21	(目標)	21
	(実績)	16	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	学校給食未実施校の中学校について、平成23年10月の「奈良市中学校給食導入検討委員会」、平成24年2月の「奈良市立中学校給食実施計画策定会議」の報告に基づき、平成25年度にモデル校2校、平成26年度に第Ⅱ期4校、平成27年度にはⅢ期の5校(平城・飛鳥・京西・登美ヶ丘北・二名)の給食を開始いたしました。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	平成28年度には、最終のⅣ期の5校(若草・平城東・三笠・登美ヶ丘・都南)の給食室を建設し、竣工した順に給食を随時提供していく予定です。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> 給食の内容、費用についての問題が無いのか、(給食費の回収率も含めて)明確にしていくことが必要である。 保護者の現状を鑑みるにとっても必要な事業である。肅々と進めていただければ有り難い。 				
意見等に対する対応状況	<ul style="list-style-type: none"> 給食の内容については、栄養のバランスを考えながら子どもの嗜好を把握し、地産地消に取り組んでいく。また、給食費の回収率は98%(小・中)だが、学校の協力を求め100%を目指し取り組む。 未実施校の給食については予定を前倒しにして、できるだけ早く給食実施に向けて取り組む。 				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O				
子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	C				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	25	事業名	放課後児童健全育成事業	部名	学校教育部	課名	地域教育課
事業内容	保護者が就労などで昼間家庭にいない世帯の小学生を預かり、放課後児童健全育成事業施設内において、集団生活を体験させながら、健全育成を図ります。			指標	入所児童数（人）	平成26年度実績値	2,859
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			(3)放課後児童健全育成事業

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	608,400 千円	(予算)	629,320 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	581,265 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	2,939	(目標)	3,019	(目標)	3,100	(目標)	3,181	(目標)	3,259
	(実績)	2,860	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	市内46ホームにおいて、19時までの延長保育を完全実施し、保護者のニーズを取り入れながら児童の受け入れを図った。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	研修会のさらなる充実を図り保育の質を向上させるとともに、主任指導員制度や巡回指導により、管理体制を強化していく。また、放課後児童支援員に係る都道府県認定資格研修を計画的に受講させる。さらに、学校・関係機関・放課後子ども教室などとの連携の強化や、特別な支援が必要な児童に対する支援の推進を図り、多様な保護者ニーズを把握しながら事業内容を充実していく。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	A				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童健全育成事業、児童館の事業の更なる充実を願う。子ども食堂など帰宅後一人で過ごす子どもが多い校区では、子ども食堂の実施を助成するなどの対応があればと思う。放課後の過ごし方が子どもの人との関係性の育ちにつながる。評価は単なる事業実施だけではなく、子どもの笑顔や人との関係性、登校率などに相関していけたらと思う。また、児童館と連携した取り組みや地域の子育て支援拠点として、子育て親子を対象とした交流、子育てについての相談、情報提供、その他の援助を行う子育て広場の実施、地域における子育て支援の充実につながる利活用の促進が課題である。 ・子どもにやさしいまちづくり条例を研修の項目に入れていただきたい。貧困家庭に対する学習支援、文化的豊かさを享受するための機会の保障、遊びの権利の保障を考慮したプログラムを検討していただきたい。 ・現状のバンビーホームでは、何より「保育の質」が最も大きな課題となっているように感じる。 ・バンビーホームは、施設の広さの課題があると思う。ハード面に関してもっと目を向けて検討する必要がある。 				

	<ul style="list-style-type: none"> ・支援を要する子どもに個別に対応していく必要性も生まれてくるかと思うので、柔軟な対応に期待したい。 ・保護者が就労していても利用する事はできないものか。 				
意見等に対する対応状況	<ul style="list-style-type: none"> ・バンビーホームの施設に関しては、狭隘度・老朽度を考慮しながら年次的に整備を進めていく。また、保育の質の向上のため、支援を要する児童に対する研修等を行っているが、今後さらに研修内容の充実を目指したい。 ・バンビーホームの入所要件については、保護者の就労の他に、保護者の病気・通学・介護等により放課後保育に欠ける場合も含まれている。 				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	B				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	26	事業名	放課後子ども教室推進事業	部名	学校教育課	課名	地域教育課
事業内容	放課後等に小学校等を活用して、子どもたちの安全・安心な活動拠点(居場所)を設け、地域の方々の参画を得てスポーツ等交流活動を実施することにより、子どもたちが地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる環境づくりを行います。			指標	放課後子ども教室の年間実施日数(日)	平成26年度実績値	31
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	24,773 千円	(予算)	21,057 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	24,134 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	32	(目標)	33	(目標)	34	(目標)	34	(目標)	35
	(実績)	32	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	週1回程度事業を実施する仕組みづくりを目指し、今後5か年で1校あたり年間35日実施できるよう目指す。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	放課後子ども教室の開催日数の増加やプログラム内容の充実、パンピーホームとの連携強化に取り組んでいく。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 放課後子ども教室の保険は、現状で奈良市PTA連合会安全会の保険を適用することになっているが、本来PTA活動中の事故等に使われる保険を放課後子ども教室に使うことは不適切であり、また各校園のPTA会長が放課後子ども教室の運営に責任を持つという体制にもなっていない。不測の事故は起こるものであるし、今後事業を大きくしていく上でこの部分の改善は図っていただきたい。 ・ No. 25：放課後児童健全育成事業の中に抱え込む形にはならないかと思う。 ・ 近年、子ども達が安全に遊ぶ場所が少ないことから、放課後の小学校の活用は保護者としては安心できる。子どもの関心をひけるプログラムの充実を期待する。 ・ 地域との連携を高めるために事業内容の明確な提示と、協働事業を明確にして支援メニューの提示をしていただきたい。 				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委託先である各小学校運営委員会に保険の加入状況を確認した。その結果を受け、奈良市PTA連合会安全会の保険の利用はPTAとの共催事業のみとするよう働きかけることを検討しており、保険の加入についてご留意いただくよう周知していきたい。 ・ 地域の全ての子どもたちを対象とし自由に参加できる放課後子ども教室と、児童福祉 				

意見等に対する対応状況	<p>法に基づき実施している放課後児童健全育成事業は対象や運営方法が大きく異なり、抱え込む形は難しいと考える。ただし、両事業について、国が示す放課後子ども総合プランの一体型として運営しており、今後、地域の方々と指導員との更なる連携を目指したい。</p> <p>・子どもたちの安心・安全な居場所を設け、地域の中での様々な学びや体験ができる環境づくりを一層推進していくため、いただいたご意見を参考に、取組内容について市民への周知を図りたい。</p>				
-------------	--	--	--	--	--

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	B				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	27	事業名	教育センター学習事業	部名	学校教育部	課名	教育支援課
事業内容	教育センターのキッズ学びのフロアの設備を活用した体験教室等を開催することで、子どもたちの豊かな学びを保障し、創造性や探究心を育てます。			指標	年間来館者数（人）	平成26年度実績値	14,188
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	22,627 千円	(予算)	20,087 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	22,411 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	14,000	(目標)	14,310	(目標)	14,630	(目標)	14,960	(目標)	15,290
	(実績)	16,070	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	「わくわくセンター学習」は、平成27年度は、75校園から3,985名の参加であった。「キッズホリデークラブ」の事業は、平成27年度には、12,127名の参加があり、満足度はほぼ100%であった。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	「わくわくセンター学習」は、学習指導要領に応じた発展的なプログラムの教材開発を進める必要がある。「キッズホリデークラブ」は、市民に向けて、様々なメディアを通して広報活動を行い、質の高いプログラムの提供を図る。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	・「わくわくセンター学習」や「キッズホリデークラブ」について、小学校高学年や中高生用のプログラムも必要ではないか。				
意見等に対する対応状況	「わくわくセンター学習」「キッズホリデークラブ」とも、小学校高学年や中高生用のプログラムを用意している。また、全体の参加人数から比較すれば少数ではあるが中高生の参加も得ている。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O			
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A			
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	A			

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	28	事業名	黒髪山キャンプフィールド管理運営 (新名称：青少年野外体験施設の運営管理)	部名	教育総務部	課名	生涯学習課
事業内容	自然環境の中での野外活動やレクリエーション活動を通じて、青少年の心身の健全な育成を図ります。			指標	市営青少年野外体験施設の 利用者数(人)	平成26年度 実績値	11,998
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) 28,118 千円	(予算) 27,413 千円	(予算) 千円	(予算) 千円	(予算) 千円
	(決算) 28,323 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円
目標値と実績値	(目標) 12,000	(目標) 12,040	(目標) 12,080	(目標) 12,120	(目標) 12,160
	(実績) 12,577	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
取り組み内容・成果等	青少年野外体験施設である黒髪山キャンプフィールドと青少年野外活動センターの平成27年度の利用者数は12,577人であった。また、継続的な施設整備により、安全で快適な施設提供に努めることで、野外活動等を通じた青少年の健全育成が図れた。				
取り組みの方向性 (課題・改善点等)	利用者数は横ばい状態にあり、利用者が固定化している傾向にある。 今後は広報のあり方について創意工夫し、青少年育成・環境教育の場としての利用促進を目指すとともに、安全で快適に利用していただくための施設整備を行っていく。				

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議 における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・利用の申し込みが、利用日14日前までの月・火・木・金・土曜日の午後1時～5時で、電話等での受付をしていないために、申し込みにくいとの声がある。名称が変わって広報も必要であるが、電話やFAX、ネットでの申し込みも可能にするなど、受付の形も工夫した方が良いのではないかと思う。 ・自然環境に触れる機会が少ない中で、奈良市の貴重な施設なので、多様な体験プログラムの提供が必要である。 ・施設整備を行い、より利用しやすい施設に充実させていけるよう期待したい。小学校、中学校等の学校単位の利用ができ、環境教育の一端を担えることに期待したい。 				
意見等に対する対応状況	<ul style="list-style-type: none"> ・利用申込の方法については、不便を感じている市民の方もいることから、今後改善策を検討していきたい。 ・黒髪山キャンプフィールドについては、利用者が減少していることから、今後利用者の増加を目指して、魅力ある体験プログラムの開発、広報の拡充等利用促進を図る取組を検討していきたい。 ・平成27年度から、青少年野外活動センターが当課の所管となり、青少年育成・環境教育の場として、黒髪山キャンプフィールドとの一体的な利用促進を目指していきたい。 				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	B				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	A				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	29	事業名	児童館事業の充実	部名	子ども未来部	課名	子ども育成課
事業内容	児童の健全育成とともに市民との協働による子育て支援の拠点としての事業を行い、より開かれた児童館をめざします。			指標	児童館(4館)の利用者数(人)	平成26年度実績値	37,628
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			(7)地域子育て支援拠点事業

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	55,663 千円	(予算)	50,738 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	52,650 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	39,700	(目標)	39,700	(目標)	39,100	(目標)	38,500	(目標)	38,000
	(実績)	36,425	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	児童館(4館)において、午前中の時間帯を活用して、就学前の児童と保護者の交流、子育てについての相談、情報提供や講座等を行う地域子育て支援拠点を開設している。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	今後も引き続き、地域の子育て支援拠点として、子育て親子を対象とした交流、子育てについての相談、情報提供、その他の援助を行う子育て広場を実施し、地域における子育て支援の充実を目指す。さらに、児童館の事業等を広く広報することにより、館の利活用の促進を図る。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	C				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 放課後児童健全育成事業、児童館の事業の更なる充実を願う。子ども食堂など帰宅後一人で過ごす子どもが多い校区では、子ども食堂の実施を助成するなどの対応があればと思う。放課後の過ごし方が子どもの人との関係性の育ちにつながる。評価は単なる事業実施だけではなく、子どもの笑顔や人との関係性、登校率などに相関していけたらと思う。また、児童館と連携した取り組みや地域の子育て支援拠点として、子育て親子を対象とした交流、子育てについての相談、情報提供、その他の援助を行う子育て広場の実施、地域における子育て支援の充実につながる利活用の促進が課題である。 ・ 利用を促進するため、誘客が図れるイベント等を実施してはどうか。 ・ 子育て支援、相談の場が広がり、充実してきている。利用者が、支援、相談の場の全体像を把握し、ニーズに応じて選択できるような情報提示が求められるのではないかと。 ・ 児童館一律ではなく、各々の児童館の特色(職員や利用者、立地条件)を生かした運営が、魅力ある児童館につながっていくのではないかとと思う。 				

意見等に対する対応状況	<p>・地域の中での子どもの居場所、遊びの拠点として、安定した日常生活を支援するとともに、児童個々にきめ細やかな相談・援助を行った。</p> <p>・各々の児童館の近隣にある地域子育て支援センター等と連携・協働して、支援センターのノウハウを活かした講座や、地域交流会などを開催した。</p> <p>・各々の児童館では地域の実情に応じた取組を行っているが、今後、児童館の取組を市ホームページ等で公開し、利用促進につなげていきたい。</p>				
-------------	--	--	--	--	--

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	A				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	30	事業名	スポーツ体験フェスティバルの開催	部名	市民活動部	課名	スポーツ振興課
事業内容	「体育の日」にちなんで、スポーツの裾野を拡大し、「見て、触れて、体験」することにより、子どもたちがスポーツに親しみ、取り組む足がかりとなる場を提供します。			指標	参加人数（人）	平成26年度実績値	1,800
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	1,500 千円	(予算)	1,700 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	1,500 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	2,000	(目標)	2,200	(目標)	2,400	(目標)	2,600	(目標)	2,800
	(実績)	3,300	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	スタンプラリーによる、様々な種類のスポーツ体験（23カ所）を設け、参加者にスタンプを集めながら、各種目を体験していただいた。前年、鴻ノ池運動公園内の施設が工事中により参加者が少なかったが、全施設を使用し実施したところ多数の市民の方に参加いただけた。									
取り組みの方向性（課題・改善点等）	初めて見るスポーツ、初めて触る道具、初めて知るルールを「見て・触れて・体験して」スポーツに興味を持ってもらい、各競技のすそ野を広げ、スポーツ人口の増進に寄与する。また、鴻ノ池運動公園が気軽に訪れられる市民の憩いの場となるようフェスティバル開催時に賑わいの創設を図る。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	A				
子ども・子育て会議における意見等	—				
意見等に対する対応状況	—				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O			
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A			
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	A			

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	31	事業名	スポーツ少年団の育成	部名	市民活動部	課名	スポーツ振興課
事業内容	スポーツ少年団事業として魅力ある本部事業を展開し、団への加入を促進することにより、子どもたちのスポーツの継続的な活動を促進します。			指標	スポーツ少年団加入率(%)	平成26年度実績値	8.9
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	1,150 千円	(予算)	1,000 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	1,150 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	9.1	(目標)	9.3	(目標)	9.5	(目標)	9.7	(目標)	9.9
	(実績)	9.1	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	スポーツやレクリエーション活動を通し青少年の心身の健全な発達と、子どもたちの体力向上を図ることを目的に各種スポーツ大会、体力づくり大会、スキー教室の実施、近畿・全国大会等への派遣を行った。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	少子化等により、登録団数・団員数が減少しているため、子どもたちが積極的に参加できる魅力ある事業の展開を行い登録数の増加に努め、青少年の心身の健全な発達と体力の向上を図る。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	—				
意見等に対する対応状況	—				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O			
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A			
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	A			

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	32	事業名	子どもを対象とした文化事業の実施	部名	市民活動部	課名	文化振興課
事業内容	子どもたちが優れた芸術や伝統的な芸能等、文化に親しむ機会を設けます。			指標	事業の実施件数（件）及び参加人数（人）	平成26年度実績値	33件 47,235人
				量の見込みと確保方策（事業計画第5章）対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	15,502千円	(予算)	13,165千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	16,402千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	55件 50,000人	(目標)	55件 50,000人	(目標)	55件 50,000人	(目標)	55件 50,000人	(目標)	55件 50,000人
	(実績)	45件 48,805人	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	集計方法を変更したため、事業数は減少しているが、前年までと同様の取り組みを実施しており、目標を超えた参加者を確保できた。今後も引き続き、より多くの子供たちが参加できるよう事業展開に取り組む。									
取り組みの方向性（課題・改善点等）	実施事業や実施団体の定例化が進んでしまい、新しい観点からの事業開催に取り組むべき段階と考える。地域団体や他課との積極的な協働や、入場料の低廉化などを図り、参加者数の増加に努める。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<p>・芸術、文化に親しむ機会を持つことが青少年にとってどのような教育的価値があるのかをアピールできるとよいのではないかと。私立幼稚園や小中高等学校にも広報的な活動を行うこともできるかと思う。</p> <p>・パレエ、オペラ、クラシックコンサートなど、子どもは観劇ができない規定に問題を感じる。子どものための格安の料金設定や、子どものための観劇日を作らなければ芸術を肌で感じる事はできず、興味も湧かずに先には進まないのではないかと。</p>				
意見等に対する対応状況	<p>・公立私立を問わず、地域の園や学校に広報活動を行っている事業や施設もあるものの、まだまだ質、量ともに十分とは言えず、より積極的な広報活動が必要かと思われる。</p> <p>・子どものための料金設定や観劇日について、今後もそういった事業の展開を検討していくことに加え、現在実施している事業の広報活動にも力を入れていきたい。</p>				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O				
子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	A				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	33	事業名	アウトリーチ活動の実施	部名	市民活動部	課名	文化振興課
事業内容	学校教育との連携を図り、子どもたちが芸術文化に親しむ機会を充実させます。			指標	事業の実施件数（件）及び参加人数（人）	平成26年度実績値	12件 3,802人
				量の見込みと確保方策（事業計画第5章）対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	9,167 千円	(予算)	4,270 千円	(予算)	千円	(予算)	千円	(予算)	千円
	(決算)	8,054 千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円
目標値と実績値	(目標)	20件 4,000人	(目標)	20件 4,800人	(目標)	20件 4,800人	(目標)	20件 4,800人	(目標)	20件 4,800人
	(実績)	7件 4,040人	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	<p>なら100年会館で子どもお能の出張披露、万葉オペラ・ラボアウトリーチ事業、奈良市音声館で紙芝居公演、わらべうた遊びの指導派遣、市美術館にて親と子のやさしいアート体験を実施しました。実施数は目標に届きませんでしたが、目標以上の方に参加していただきました。今後も、より幅広い方々に対し、活動を展開していけるよう取り組みます。</p>									
取り組みの方向性（課題・改善点等）	<p>事業実施により、すぐに効果が表れるものではなく、予算の問題や指定管理者制度の期間の問題等もある中で、来館が難しい未就園児などに対して、地道な取り組みを行ってまいります。参加者を増やすため、広報活動を徹底します。</p>									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<p>・芸術、文化に親しむ機会を持つことが青少年にとってどのような教育的価値があるのかをアピールできるとよいのではないかと。私立幼稚園や小中高等学校にも広報的な活動を行うこともできるかと思う。</p> <p>・バレエ、オペラ、クラシックコンサートなど、子どもは観劇ができない規定に問題を感じる。子どものための格安の料金設定や、子どものための観劇日を作らなければ芸術を肌で感じる事はできず、興味も湧かずに先には進まないのではないかと。</p>				
意見等に対する対応状況	<p>・公立私立を問わず、地域の園や学校に広報活動を行っている事業や施設もあるものの、まだまだ質、量ともに十分とは言えず、より積極的な広報活動が必要かと思われる。</p> <p>・子どものための料金設定や観劇日について、今後もそういった事業の展開を検討していくことに加え、現在実施している事業の広報活動にも力を入れていきたい。</p>				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	A				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	34	事業名	教育相談業務の充実	部名	学校教育部	課名	教育相談課
事業内容	教育センターに教育相談総合窓口を設け、カウンセラーを配置するとともに不登校や特別支援教育の相談、スクールカウンセラーの配置等を行い、教育に関する様々な相談の充実を図ります。			指標	教育センターにおける 来所教育相談延べ回数(回)	平成26年度 実績値	2,768
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) 24,232 千円	(予算) 21,988 千円	(予算) 千円	(予算) 千円	(予算) 千円
	(決算) 19,823 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円
目標値と実績値	(目標) 2,823	(目標) 2,879	(目標) 2,937	(目標) 2,996	(目標) 3,056
	(実績) 2,819	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
取り組み内容・成果等	不登校やいじめなど学校生活にかかわる相談や、障害のある幼児児童生徒の就学やことばの問題など、特別支援教育にかかわる対応について教育相談を実施。今後もニーズは増えると予想(年約2%)、各校の相談体制の充実を目指す。				
取り組みの方向性(課題・改善点等)	教育相談体制の充実を図るため関係課や子ども発達センター等の専門機関と連携を深めながら、不登校児童生徒や特別な支援を必要とする幼児児童生徒への適切な支援を行う。スクールカウンセラーの配置については、全市立学校(中学校は県より)へ配置し、スクールカウンセリングを有効に活用するとともに、不登校の予防・未然防止に努める。				

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・相談業務においては、子どもにやさしいまちづくり条例に記載されているように、子どもが直接相談できるよう工夫をしていただきたい。 ・相談業務の充実が必要であるが、予防・未然防止に向けた取り組みも進めていただき、不登校の生徒の減少を図っていただきたい。 				
意見等に対する対応状況	<ul style="list-style-type: none"> ・校内においては、子どもの身近にいるスクールカウンセラーに気軽に相談できる教育相談体制の整備に努めている。また、教育センターにおける個別の心理相談では、言語化しにくい子どもの発達や心の状態に応じた適切な支援につないでいる。 ・平成27年度作成した「不登校対策の手引き」を活用し教員の研修を行うとともに、新たな不登校をうまないための不登校の予防・未然防止の取組を推進している。 				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O				
子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	B				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	35	事業名	特別支援教育推進事業	部名	学校教育部	課名	教育相談課
事業内容	特別支援教育の推進のため、専門の相談員を配置し、特別な支援を必要とする幼児児童生徒一人一人に応じた相談の充実を図ります。			指標	特別支援教育 来所相談件数（件）	平成26年度 実績値	1,069
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	10,439 千円	(予算)	10,397 千円	(予算)	千円	(予算)	千円	(予算)	千円
	(決算)	10,338 千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円
目標値と実績値	(目標)	1,089	(目標)	1,109	(目標)	1,129	(目標)	1,149	(目標)	1,169
	(実績)	876	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	就学相談では、本人・保護者と十分な相談を行い保護者の意見を尊重して、学校と共に合意形成を図るよう努めた。就学前相談や園への訪問観察等が年々増加傾向にあり、子ども未来部と連携し就学前相談の実施方法について改善を図る。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	教育センターと通級指導教室が定期的に情報交換を行い、相談の情報を共有するなど連携を密にし、本市の特別支援教育の充実を図る。また、通級指導教室担当者が学校を巡回するなど、地域支援のネットワーク化を推進するとともに、国が推進するインクルーシブ教育システムの構築を目指す。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	C				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育推進事業は、今後の課題としてインクルーシブ教育システムの構築を目指してほしい。教育センターに教育相談総合窓口を設け、カウンセラーを配置するとともに不登校や特別支援教育の相談、スクールカウンセラーの配置等を行い、教育に関する様々な相談の充実を目指してほしいが、評価基準は数とはいえない。相談した後の状況把握などが大切である。 相談業務においては、子どもにやさしいまちづくり条例に記載されているように、子どもが直接相談できるよう工夫をしていただきたい。 今後も未就学児からの継続した支援教育を行うためにも、スムーズな連携がとれるような事業展開に期待したい。 特別支援教育の自己評価はとても難しいが、その中でも0という評価はとても勇気のある評価である。この評価をもとにぜひ推進していただきたい。 				
意見等に対する対応状況	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの就学前から、学校卒業後にわたる切れ目ない支援体制の整備と、学校や関係機関等と連携しながらインクルーシブ教育システムの構築を目指していく。 校内においては、子どもが身近にいるスクールカウンセラーに気軽に相談できる教育相談体制の整備に努めるとともに、教育センターにおける心理相談や、適応指導教室での不登校支援等子どもの心の状態に応じた適切な支援につないでいる。 				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	B				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	36	事業名	すこやかテレフォン事業	部名	教育総務部	課名	生涯学習課
事業内容	青少年の健全育成を図るため、青少年の育成に関する相談業務を奈良「いのちの電話」協会に委託し、すこやかテレフォン相談室を設置し、専門の相談員が年中無休で電話による各種の相談業務を行います。			指標	すこやかテレフォン事業予算(千円)	平成26年度実績値	900
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) 900 千円	(予算) 765 千円	(予算) 千円	(予算) 千円	(予算) 千円
	(決算) 900 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円
目標値と実績値	(目標) 900	(目標) 765	(目標) 765	(目標) 765	(目標) 765
	(実績) 900	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
取り組み内容・成果等	年中無休で相談業務にあたり、平成27年度は549件の相談があり、1件あたりの相談時間は17分であった。相談にあたっては必要に応じて他機関への案内も行う等、多種多様な悩みの相談に対応することにより、青少年の健全育成に大きな成果が得られた。				
取り組みの方向性(課題・改善点等)	青少年の問題が複雑化し、相談内容も多種多様化してきているにも関わらず、相談員の高齢化及び減少が問題化しつつある。 広報の方法を工夫し、事業及び相談員養成講座の一層の周知に努め、今後も相談体制を維持できるように引き続き支援していく。				

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	・相談業務においては、子どもにやさしいまちづくり条例に記載されているように、子どもが直接相談できるよう工夫をしていただきたい。				
意見等に対する対応状況	保護者以外に青少年からの電話相談も受けており、全体の7割近くを占める。直接面会して相談する場も必要であるが、本事業は電話でしか相談できない子どもたちの受け皿としての効果があると考えている。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O			
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A			
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	A			

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	37	事業名	エイズ・性感染症に関する正しい知識の普及啓発事業	部名	保健所	課名	保健予防課
事業内容	特に性行動が活発化する若年層を中心に、エイズや性感染症に関する正しい知識を持ち予防行動がとれるよう、学校、NPO団体等関係機関と協力しながら啓発事業を推進します。 また、感染不安のある方への相談や検査を行い、知識普及と感染予防への意識づけを行います。			指標	高校生に対する教育・啓発実施校(校)	平成26年度実績値	8
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			

■事業の取組状況

	2	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) 463 千円	(予算) 394 千円	(予算) 千円	(予算) 千円	(予算) 千円
	(決算) 311 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円
目標値と実績値	(目標) 8	(目標) 8	(目標) 8	(目標) 8	(目標) 8
	(実績) 8	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
取り組み内容・成果等	市内の高校生に対し、健康教育・啓発事業を実施し、エイズや性感染症に対する正しい知識の普及と予防方法についての啓発ができた。また、保健所においては感染不安のある市民に対し抗体検査・相談を実施するとともに、感染予防の意識づけを行うことができた。				
取り組みの方向性(課題・改善点等)	エイズに関する健康教育・啓発事業について、学校の関心を高めるため、保健所から継続した働きかけを行っていく。 保健所における抗体検査・相談についても、引き続き啓発を行っていく。				

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・相談業務においては、子どもにやさしいまちづくり条例に記載されているように、子どもが直接相談できるよう工夫をしていただきたい。 ・高校生では遅いのではないかと。中学生で正しい知識を持つ事が大事である。 				
意見等に対する対応状況	<ul style="list-style-type: none"> ・来所相談や電話相談の際には、プライバシーに配慮した対応として来所では個室での面接とし、来所又は電話のいずれの場合であっても相談者の個人情報の取扱いには十分に配慮し、匿名での相談にも応じている。 ・HIV抗体検査は匿名・無料で実施しており、誰でも受けることができる。検査後のカウンセリングでエイズに関する正しい知識の説明や相談にも応じている。 ・中学生においては学習指導要領に基づき性教育を実施されており、その土台をもとに高校生に性教育を実施することで、一層知識が深まるものと考え、高校生を対象にエイズに関する正しい知識の普及の為の出前教育や文化祭でのエイズ教育を実施している。 				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	A				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	38	事業名	未成年の喫煙対策	部名	保健所	課名	医療政策課 健康増進課
事業内容	たばこから子どもたちの健康を守るため、関係機関と協力しながら子どもおよび保護者への啓発を行います。			指標	(医療政策課) 未成年へ啓発物配布人数(人) (健康増進課) 大学生等への健康教育の うち未成年の受講者数(人)	平成26年度 実績値	(医療政策課) 0人 (健康増進課) 未成年353人
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	187 千円	(予算)	187 千円	(予算)	千円	(予算)	千円	(予算)	千円
	(決算)	34 千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円
目標値と実績値	(目標)	(医療政策課) 4,000人 (健康増進課) 500人	(目標)	(医療政策課) 4,000人 (健康増進課) 600人	(目標)	(医療政策課) 4,000人 (健康増進課) 600人	(目標)	(医療政策課) 4,000人 (健康増進課) 600人	(目標)	(医療政策課) 4,000人 (健康増進課) 600人
	(実績)	(医療政策課) 4,000人 (健康増進課) 未成年571人	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	(医療政策課) ・未成年者禁煙相談窓口継続して実施。校園長会等へ事業の周知(2回) ・小学6年対象に喫煙防止チラシ配布(46校4,000枚)。 (健康増進課) ・大学生等への健康教育を実施。8回、受講者767人うち未成年571人。実施回数はH26年度の5機関から8機関に増え、受講者数が1.6倍になった。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	(医療政策課) 平成27年度は小学6年生を対象に禁煙啓発物を年度末に配布した。平成28年度は早い段階で配布し、授業の中で活用してもらえるようにする。また、喫煙防止教育担当者向けの研修会を行う。 (健康増進課) 市内の大学生や専門学校生を対象とした喫煙に関する健康教育を実施し、喫煙防止のための啓発を継続していく。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	A				
子ども・子育て会議における意見等	・市や県の施設を子どもが利用している時は禁煙にするとかにはできないものか。 ・未成年の喫煙対策は、どのように認知を広げていくかが課題で難しいことだと思う。				
意見等に対する対応状況	・厚生労働省は、受動喫煙防止対策強化の法整備のたたき台を作成しており、その中で未成年等が主に利用する施設は、「敷地内禁煙」とすることになっている。国の動向を注視しながら市の施設については、施設所管課に協力を求め、禁煙施設を増やして行く活動をすすめていく。 ・未成年の喫煙対策のためには、市立各小・中・高等学校における教職員の方々の協力が不可欠と考える。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	A				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	39	事業名	思春期保健対策（性）	部名	保健所	課名	健康増進課
事業内容	10代の望まない妊娠、性感染症の防止のために、思春期相談窓口を設けています。関係機関と協力しながら啓発活動等を行います。			指標	16歳未満の妊娠届出数（件）	平成26年度実績値	1
				量の見込みと確保方策（事業計画第5章）対象事業			

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	0 千円	(予算)	50 千円	(予算)	千円	(予算)	千円	(予算)	千円
	(決算)	0 千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円
目標値と実績値	(目標)	0	(目標)	0	(目標)	0	(目標)	0	(目標)	0
	(実績)	1	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	<ul style="list-style-type: none"> ・市立中学校全学年に思春期相談カードを配布(約8400人)。 ・電話相談のための職員向け事前研修実施。 ・健康増進課での電話相談の実施。 ・大学生等への健康教育実施回数8回、受講者767人うち未成年571人 ・妊娠届出数2607件(うち16歳未満の届出1件) 									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	<ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口の啓発や大学等への健康教育などを継続して実施します。 									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・相談業務においては、子どもにやさしいまちづくり条例に記載されているように、子どもが直接相談できるよう工夫をしていただきたい。 ・啓発活動と同時に学校教育での取り組みにも期待したい。小学校での性教育と、小学生を持つ家庭での性教育についての対策も必要かと思う。 ・大学等への健康教育では遅すぎると思う。知識が必要なのは、興味本位で性行動をしてしまう中学生や高校生ではないか。正しい知識を持つ事で、行動への責任を考えるきっかけができるのではないか。 				
意見等に対する対応状況	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期の相談カードは市立中学に在籍している生徒全員に配布し生徒や保護者から直接相談の電話やメールを受けている(実績：電話3件メール15件)。 ・小中学校での性教育については、教育委員会で取り組んでいる。 ・高校生に対しては、保健予防課が実施している性感染症の啓発とともに、当課の事業の周知を行っている。 				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	A				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	40	事業名	特定不妊治療費助成事業	部名	保健所	課名	健康増進課
事業内容	特定不妊治療費助成金を交付することにより、医療保険が適用されず高額な医療費がかかる不妊治療費の一部を負担し、不妊に悩む夫婦の支援を行います。			指標	特定不妊治療費助成件数(件)及び助成額(千円)	平成26年度実績値	助成件数 437件(延) 助成額 53,994千円
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	64,085千円	(予算)	70,085千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	58,825千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	助成件数 505件(延) 助成額 64,000千円	(目標)	助成件数 505件(延) 助成額 70,000千円						
	(実績)	助成件数 466件(延) 助成額 58,763千円	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	1回の治療に対して、上限額15万円(一部治療は、7.5万円)を助成。平成28年1月20日より初回治療に限り30万円(15万円上乗せ。一部治療は除く。)、男性不妊治療に15万円助成し、不妊治療制度の拡充を図った。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	不妊治療への助成拡大(初回助成額の拡充、男性不妊治療助成拡大)、また平成28年度からの制度改正(妻の年齢制限等)の周知をすとも、引続き助成事業を行う。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児期での手厚い支援はますます重要であるが、努力の結果が出ており評価できる。今後は、妊娠時からの継続的な子育て支援につながるものがさらなる課題ではないか。就学まで一貫した継続的支援の構築、及び支援を要する家庭への関係機関とのつなぎや支援計画が求められる。 ・妊娠のスタート時点における協力体制の重要性、特に夫婦で子育てできる環境にある方の協力の重要性は、様々ななかたちで伝えていただきたい。 ・それぞれの事業で個人の状況に応じて対応が難しいパターンが含まれるため目標達成には難しいところもあるが、継続的な取り組みに期待したい。 ・不妊となると医師に診断結果をもらうまでに時間もお金もかかる。迅速に子どもを授かるように、晩婚化の時代にあつた不妊認定を望む。不妊治療の助成金への所得制限も理解が難しい。 ・制度内容の周知を積極的に行っていただきたい。 				
意見等に対する対応状況	<ul style="list-style-type: none"> ・不妊治療にかかる経済的負担の軽減を図ることにより、不妊治療を受けやすくし、妊娠・出産の機会を増やしていく。所得制限については国の基準に定められ、奈良市だけ独自に設定することはできない。引続き助成事業を行うとともに、制度内容の周知を積極的に行なっていく。 				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	41	事業名	母子健康手帳の交付	部名	保健所	課名	健康増進課
事業内容	医療機関で妊娠判定を受け、妊娠届けを出されたら母子健康手帳を交付します。母子健康手帳は、妊娠出産の経過、お子さんの乳幼児健診、予防接種の記録等大切な成長記録となります。また、妊娠期からの健康づくりに関する情報を提供します。			指標	28週以降の妊娠届出数（件）	平成26年度実績値	20
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	809 千円	(予算)	885 千円	(予算)	千円	(予算)	千円	(予算)	千円
	(決算)	809 千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円
目標値と実績値	(目標)	0	(目標)	0	(目標)	0	(目標)	0	(目標)	0
	(実績)	7	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	平成25年度より奈良市オリジナルの母子健康手帳を交付している。手帳の中に妊娠、出産、子育てに関する奈良市の情報を掲載している。市内産婦人科医療機関・ドラッグストア等協力店舗へポスター掲示や市ホームページ等にて妊娠届出の啓発を行った。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	産後届出が1件あり。妊娠届出をしやすい環境づくりとして、医療機関への届出場所の啓発や市ホームページからの届出様式をダウンロードできるようにした。引き続き奈良市オリジナルの母子健康手帳により正しい知識の普及に努め、継続実施する。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児期での手厚い支援はますます重要であるが、努力の結果が出ており評価できる。今後は、妊娠時からの継続的な子育て支援につながるものがさらなる課題ではないか。就学まで一貫した継続的支援の構築、及び支援を要する家庭への関係機関とのつなぎや支援計画が求められる。 ・妊娠のスタート時点における協力体制の重要性、特に夫婦で子育てできる環境にある方の協力の重要性は、様々ななかたちで伝えていただきたい。 ・それぞれの事業で個人の状況に応じて対応が難しいパターンが含まれるため目標達成には難しいところもあるが、継続的な取り組みに期待したい。 				
意見等に対する対応状況	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期からの切れ目ない支援を目指し、妊娠届出の際、必要時には妊産婦支援計画書を作成し、個人の状況に応じて支援を行っている。 ・ママパパ教室や乳幼児教室への夫婦での参加が増加しており、教室の中で協力の重要性についても伝えている。 ・市内産婦人科医療機関・ドラッグストア等協力店舗へポスター掲示や市ホームページ等にて妊娠届出の啓発を継続実施する。 				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	42	事業名	妊婦健康診査事業	部名	保健所	課名	健康増進課
事業内容	妊婦健康診査にかかる費用の一部を助成することにより、妊婦の経済的負担を軽減し、未受診妊婦の解消を図るとともに、母体及び胎児の健康の保持・増進を図ります。			指標	受診回数(回)	平成26年度実績値	32,951
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			(11)妊婦健康診査事業

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	222,361 千円	(予算)	222,663 千円	(予算)	千円	(予算)	千円	(予算)	千円
	(決算)	215,243 千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円
目標値と実績値	(目標)	30,648	(目標)	30,180	(目標)	29,712	(目標)	29,376	(目標)	28,764
	(実績)	31,550	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	妊婦健診が妊娠期間中14回程度行われることが望ましいとされることから受診券14回分の基本券と補助券24枚を交付した。全14回分のうち11回受診した妊婦の割合を目標値とし、受診票交付件数2,606枚に対し11回受診した妊婦の人数は2,231人であった。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	妊婦健診の重要性と受診券の利用方法の周知の徹底を図るとともに、医療機関等と連携し未受診妊婦の把握と支援に努める。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児期での手厚い支援はますます重要であるが、努力の結果が出ており評価できる。今後は、妊娠時からの継続的な子育て支援につながるものがさらなる課題ではないか。就学まで一貫した継続的支援の構築、及び支援を要する家庭への関係機関とのつなぎや支援計画が求められる。 ・妊娠のスタート時点における協力体制の重要性、特に夫婦で子育てできる環境にある方の夫の協力の重要性は、様々なかたちで伝えていきたい。 ・それぞれの事業で個人の状況に応じて対応が難しいパターンが含まれるため目標達成には難しいところもあるが、継続的な取り組みに期待したい。 ・未受診妊婦の把握と支援に努めるための派遣指導員や予算の確保が重要である。 				
意見等に対する対応状況	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦に対する保健指導及び健康診査の重要性・必要性が一層高まっているところであり、財源確保に努め引き続き事業を行っていく。また医療機関と連携し、未受診妊婦の把握と支援に努めていく。 				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	43	事業名	はじめてのママパパ教室/マタニティー歯っぴいチェック	部名	保健所	課名	健康増進課
事業内容	妊婦とその家族に対して、妊娠・出産・育児、歯の健康・栄養についての必要な知識や技術を提供します。			指標	参加者数(人)	平成26年度実績値	455人
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	503 千円	(予算)	550 千円	(予算)	千円	(予算)	千円	(予算)	千円
	(決算)	499 千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円
目標値と実績値	(目標)	ママパパ教室：576人、マタニティー歯っぴいチェック：360人	(目標)	ママパパ教室：576人、マタニティー歯っぴいチェック：360人	(目標)	ママパパ教室：576人、マタニティー歯っぴいチェック：360人	(目標)	ママパパ教室：576人、マタニティー歯っぴいチェック：360人	(目標)	ママパパ教室：576人、マタニティー歯っぴいチェック：360人
	(実績)	ママパパ教室：434人、マタニティー歯っぴいチェック：158人	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	<p>「はじめてのママパパ教室」・年間12回開催(平成27年度から2日コース)。保健師・助産師が講義を行い、妊娠・出産・育児についての知識・技術の提供。グループワークでは妊婦同士の仲間づくりや先輩ママとの交流を行う。</p> <p>「マタニティー歯っぴいチェック」・年間12回開催。歯科衛生士が講義を行い、歯の健康についての知識・技術の提供。</p>									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	<p>「はじめてのママパパ教室」対象者の妊娠週数の幅が広く、参加者の状態が異なるため、悩みの共有等が充分に行えない。また妊娠後期の妊婦が教室参加中に体調不良に至っている。申込数が多く希望月に参加できないこともあり、平成28年度からは対象妊娠週数を22週以降32週未満に変更する。</p> <p>「マタニティー歯っぴいチェック」新規事業であり周知度が低く参加者の増加が必要である。自身の歯周病予防と生まれてくる児のむし歯予防に向けて継続実施。</p>									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<p>①乳児期での手厚い支援はますます重要であるが、努力の結果が出ており評価できる。今後は、妊娠時からの継続的な子育て支援につながるものがさらなる課題ではないか。就学まで一貫した継続的支援の構築、及び支援を要する家庭への関係機関とのつなぎや支援計画が求められる。</p> <p>②妊娠のスタート時点における協力体制の重要性、特に夫婦で子育てできる環境にある方の協力の重要性は、様々なかたちで伝えていただきたい。</p> <p>③それぞれの事業で個人の状況に応じて対応が難しいパターンが含まれるため目標達成には難しいところもあるが、継続的な取り組みに期待したい。</p> <p>④「はじめてのママパパ教室」とともに「はじめてのパパ教室」のように育児に父親の関わりが増えるようなプログラムを開発してはどうか。</p> <p>⑤ママパパ教室と同時に企業内でのマタニティ教室を実施する必要がある。男性の育休取得や女性のステップ的な仕事復帰プログラムなども組織の枠を超えて連携して行っていただきたい。</p>				

	<p>⑥申込み数が多いことは喜ばしいことである。教室数を増やすなどにより申し込みの多い月に対応できないか。</p> <p>⑦「マタニティー歯っぴいチェック」に関して、妊娠中、出産後を通して、医療機関等と連携して周知いただきたい。</p>				
意見等に対する対応状況	<p>①妊娠期からの切れ目ない支援を目指し、妊娠届出の際、必要時には妊産婦支援計画書を作成し、個人の状況に応じて支援を行っている。また、妊娠届出時に妊娠期に参加可能な教室をピックアップして、全ての妊婦に周知している。市内産婦人科医療機関・ドラッグストア等協力店舗へポスター掲示や市ホームページ等にて妊娠届出の啓発を継続実施する。</p> <p>②③④ママパパ教室や乳幼児教室への夫婦での参加が増加しており、ママパパ教室の2回目は父親参加のプログラムになっている。教室の中で夫の協力の重要性についても伝えている。</p> <p>⑤当課だけでは民間企業との連携や男性の育児休暇等については実施困難なため他課と検討していく必要がある。</p> <p>⑥対象者の妊娠週数を変更してからは、申込者が多くて断ることはなくなっている。</p> <p>⑦「マタニティー歯っぴいチェック」は今後も継続して関係機関と連携して周知する他、妊娠届時に事業動員やチラシ等で申し込み者を増やしていきたい。</p>				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	44	事業名	妊産婦、新生児、未熟児訪問 (保健指導事業)	部名	保健所	課名	健康増進課
事業内容	妊産婦・新生児の家庭を訪問し、妊娠・出産・育児などの相談を行うとともに、適切な指導を行います。 また未熟児については、保護者の育児不安が強く、早期に援助を必要とする対象者を医療機関等と連携しながら把握し支援します。			指標	支援必要者への訪問実施率100% 新生児訪問実施率98.0%	平成26年度実績値	支援必要者への訪問実施率100% 新生児訪問実施率97.9%
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) 3,891 千円	(予算) 3,885 千円	(予算) 千円	(予算) 千円	(予算) 千円
	(決算) 2,817 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円
目標値と実績値	(目標) 支援必要者への訪問実施率100% 新生児訪問実施率98.0%	(目標) 支援必要者への訪問実施率100% 新生児訪問実施率98.0%	(目標) 支援必要者への訪問実施率100% 新生児訪問実施率98.0%	(目標) 支援必要者への訪問実施率100% 新生児訪問実施率98.0%	(目標) 支援必要者への訪問実施率100% 新生児訪問実施率98.0%
	(実績) 支援必要者への訪問実施率100% 新生児訪問実施率97.7%(見込み)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
取り組み内容・成果等	<p>妊娠届出時のアンケートや産科医療機関との連携により妊娠期及び産後の育児のハイリスク者を把握し、必要に応じ妊産婦や新生児の訪問を実施している。こんにちは赤ちゃん訪問(子育て相談課)と新生児訪問(健康増進課)で全乳児の訪問を実施しているが、全体の3~4割は新生児訪問で対応している。</p> <p>養育医療助成申請のために、保健予防課に保護者が来所された際は、必ず当該の保健師が初回面接を行い、退院後には家庭訪問を行っている。また、随時医療機関との連絡を密に行い支援を行っている。</p> <p>妊婦訪問数 31人(延べ42人) 産婦訪問数 900人(延べ1072人) 新生児訪問数 98人(延べ112人) 未熟児訪問数168人(延べ197人)</p>				
取り組みの方向性(課題・改善点等)	<p>妊娠届出時に訪問や相談窓口の周知を行っているが、支援・訪問拒否の家庭があり、養育面のハイリスク事例であっても介入できないことがある。</p>				

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<p>・乳児期での手厚い支援はますます重要であるが、努力の結果が出ており評価できる。今後は、妊娠時からの継続的な子育て支援につながるものがさらなる課題ではないか。就学まで一貫した継続的支援の構築、及び支援を要する家庭への関係機関とのつなぎや支援計画が求められる。</p> <p>・妊娠のスタート時点における協力体制の重要性、特に夫婦で子育てできる環境にある方の協力の重要性は、様々なかたちで伝えていただきたい。</p> <p>・それぞれの事業で個人の状況に応じて対応が難しいパターンが含まれるため目標達成には難しいところもあるが、継続的な取り組みに期待したい。</p> <p>・支援・訪問拒否の家庭こそ支援が必要であるように思う。妊娠中、出産後など、医療機関等との連携を強め、支援を強化していただきたい。</p>				

意見等に対する対応状況	<p>・妊娠届出時のスクリーニングや医療機関等からの連絡により妊産婦・新生児・未熟児の要支援者を把握し、支援を行っている。また、医療機関等関係機関と定期的に連携会議を開催し、支援の強化を目指している。</p> <p>・妊娠届出や各事業への参加、訪問時等機会がある度に家族の協力について状況確認し助言を行っている。</p> <p>・要支援者で支援拒否などの場合は必要に応じ特定妊婦・要支援児童の通告を上げて関係機関と連携を図り見守り体制を取っている。</p>				
-------------	--	--	--	--	--

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	A				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	45	事業名	乳児家庭全戸訪問事業 (こんには赤ちゃん訪問)	部名	子ども未来部	課名	子育て相談課
事業内容	生後4か月未満の乳児のいる全ての家庭を訪問し、子育てに関する必要な情報提供等を行います。また、支援が必要な家庭に対しては助言を行い、乳児家庭の孤立化を防ぎ、保護者の育児不安等を軽減し、虐待の予防や子どもの健全育成を図ります。			指標	面接件数(件)	平成26年度 実績値	2,542
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			(5)乳児家庭全戸訪問事業

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) 5,302 千円	(予算) 5,320 千円	(予算) 千円	(予算) 千円	(予算) 千円
	(決算) 5,275 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円
目標値と実績値	(目標) 2,554	(目標) 2,515	(目標) 2,476	(目標) 2,448	(目標) 2,397
	(実績) 2,534	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
取り組み内容・成果等	平成26年度は対象者2570件に対し、2542件(面接率は98.9%)訪問(来所による面接も含む。)を行った。平成27年4月～平成28年1月生まれの対象者1,486人に対し、1,483件(面接率は99.8%)訪問を行った。				
取り組みの方向性(課題・改善点等)	全戸訪問の実現に向け事業周知を継続し、訪問できない家庭については、来所等による面接を積極的に勧奨し、全ての乳児と保護者に会うことを目指す。				

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<p>・乳児期での手厚い支援はますます重要であるが、努力の結果が出ており評価できる。今後は、妊娠時からの継続的な子育て支援につながるものがさらなる課題ではないか。就学まで一貫した継続的支援の構築、及び支援を要する家庭への関係機関とのつなぎや支援計画が求められる。</p> <p>・妊娠のスタート時点における協力体制の重要性、特に夫婦で子育てできる環境にある方の協力の重要性は、様々なかたちで伝えていただきたい。</p> <p>・虐待の予防や子どもの健全育成を考えていくうえで非常に重要なことである。訪問・来所ができない家庭の方がよりリスクが高いと感じるので、是非とも全戸訪問を達成していただきたい。</p>				
意見等に対する対応状況	引き続き、事業の啓発を行い、乳児家庭へ全戸訪問できるように努める。また、継続支援が必要な家庭には関係機関と連携しながら支援を行う。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○			
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A			
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—			

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	46	事業名	4か月児健康診査 (乳児一般健康診査)	部名	保健所	課名	健康増進課
事業内容	生後4か月の時点で医療機関において、子どもの身体発達・運動発達・栄養状態を診査し、疾病の早期発見・早期治療・早期療養および育児指導を行い、乳児の健康の保持・増進を図るとともに育児不安の軽減を図ります。また、4か月健康診査を登録医療機関で受診することで、小児科医にかかる機会を提供し、かかりつけ小児科医を持つ保護者の割合を増やします。			指標	健診受診率 (%)	平成26年度 実績値	96.3
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) 13,169 千円	(予算) 13,207 千円	(予算) 千円	(予算) 千円	(予算) 千円
	(決算) 12,969 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円
目標値と実績値	(目標) 96.5	(目標) 97.7	(目標) 97.7	(目標) 97.8	(目標) 97.9
	(実績) 97.6	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
取り組み内容・成果等	問診票を個別通知し、受診率の向上に努めている。また、産婦・新生児・未熟児訪問やこんには赤ちゃん訪問時にも健診の案内を行っている。健診動員のポスターを市内の予防接種・乳児健診医療機関や保育園・幼稚園等に掲示依頼し、周知を図っている。				
取り組みの方向性 (課題・改善点等)	失念や児・保護者の体調不良により受診できていない場合があるため、訪問時の健診案内や健診動員ポスターの掲示を関係機関の協力を得て、今後も実施していく。 未熟児や疾病等により入院中であつたり、海外在住などの理由で受診できない児が例年2%いるため、98%の受診率を目指す。				

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	A				
子ども・子育て会議 における意見等	・乳児期での手厚い支援はますます重要であるが、努力の結果が出ており評価できる。今後は、妊娠時から継続的な子育て支援につながるものがさらなる課題ではないか。就学まで一貫した継続的支援の構築、及び支援を要する家庭への関係機関とのつながりや支援計画が求められる。 ・妊娠のスタート時点における協力体制の重要性、特に夫婦で子育てできる環境にある方の協力の重要性は、様々なかたちで伝えていきたい。				
意見等に対する対応状況	・要支援者の把握・支援は妊娠届出時、医療機関等との連携、保護者からの相談などから随時行っている。 ・また、当該事業への参加や訪問時等機会がある度に家族の協力について状況確認し助言を行っている。 ・要支援者については、必要に応じ就学時まで各関係機関と連携して対応している。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
子どもに直接的・間接的に 関連する施策ですか	O				
子ども及びその関係者に 対して適切な情報を提供 しましたか	A				
子どもが意見表明や参加 する機会を設けるよう努め ましたか	A				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	47	事業名	10か月児健康診査 (乳児一般健康診査)	部名	保健所	課名	健康増進課
事業内容	生後10か月の時点で医療機関において、子どもの身体発達・運動発達・栄養状態を診査し、疾病の早期発見・早期治療・早期療養および育児指導を行い、乳児の健康の保持・増進を図るとともに育児不安の軽減を図ります。			指標	健診受診率 (%)	平成26年度実績値	94.7
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	12,944 千円	(予算)	12,953 千円	(予算)	千円	(予算)	千円	(予算)	千円
	(決算)	12,786 千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円
目標値と実績値	(目標)	95.0	(目標)	95.6	(目標)	95.7	(目標)	95.8	(目標)	95.9
	(実績)	95.5	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	問診票を個別通知し、受診率の向上に努めている。 健診勧奨のポスターを市内の予防接種・乳児健診医療機関や保育園・幼稚園等に掲示依頼し、周知を図っている。									
取り組みの方向性 (課題・改善点等)	失念や児・保護者の体調不良により受診できていない場合があるため、訪問時の健診案内や健診勧奨ポスターの掲示を関係機関の協力を得て、今後も実施していく。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	A				
子ども・子育て会議における意見等	・乳児期での手厚い支援はますます重要であるが、努力の結果が出ており評価できる。 今後は、妊娠時からの継続的な子育て支援につながるものがさらなる課題ではないか。 就学まで一貫した継続的支援の構築、及び支援を要する家庭への関係機関とのつなぎや支援計画が求められる。 ・妊娠のスタート時点における協力体制の重要性、特に夫婦で子育てできる環境にある方の夫の協力の重要性は、様々ななかたちで伝えていただきたい。				
意見等に対する対応状況	・要支援者の把握・支援は妊娠届出時、医療機関等との連携、保護者からの相談などから随時行っている。 ・また、当課事業参加や訪問時等機会がある度に家族の協力について状況確認し助言を行っている。 ・要支援者については、必要に応じ就学時まで各関係機関と連携して対応している。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O				
子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	A				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	48	事業名	1歳7か月児健診、1歳7か月児歯科健診	部名	保健所	課名	健康増進課
事業内容	1歳7か月児に対して健康診査を行い、疾病・障がい・発達の遅れ等を早期に発見し、適切な指導を行うとともに、むし歯の予防・発育・栄養・生活習慣、その他育児に関する指導を行い、子どもの心身の安らかな成長の促進と育児不安の軽減を図ります。			指標	健診受診率(%) 歯科健診受診率(%)	平成26年度 実績値	健診受診率93.6% 歯科健診受診率93.4%
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) 5,846 千円	(予算) 5,902 千円	(予算) 千円	(予算) 千円	(予算) 千円
	(決算) 5,751 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円
目標値と実績値	(目標) 健診受診率93.0% 歯科健診受診率93.0%	(目標) 健診受診率94.2% 歯科健診受診率94.2%	(目標) 健診受診率94.4% 歯科健診受診率94.4%	(目標) 健診受診率94.6% 歯科健診受診率94.6%	(目標) 健診受診率94.8% 歯科健診受診率94.8%
	(実績) 健診受診率94.0% 歯科健診受診率93.9%	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
取り組み内容・成果等	問診票を個別通知し、受診率の向上に努めている。 健診勧奨のポスターを市内の予防接種・乳児健診医療機関や保育園・幼稚園等に掲示依頼し、周知を図っている。				
取り組みの方向性(課題・改善点等)	保護者の育児休業終了後の職場復帰により保育園入所児童が増え、内科健診や歯科健診が保育園でもあることから乳児期より受診率が減少する。例年90%前半の受診率であるため95%の受診率をめざし、今後も関係機関の協力を得て、受診勧奨を行っていく。				

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	A				
子ども・子育て会議における意見等	・乳児期での手厚い支援はますます重要であるが、努力の結果が出ており評価できる。今後は、妊娠時からの継続的な子育て支援につながるものがさらなる課題ではないか。就学まで一貫した継続的支援の構築、及び支援を要する家庭への関係機関とのつなぎや支援計画が求められる。 ・妊娠のスタート時点における協力体制の重要性、特に夫婦で子育てできる環境にある方の協力の重要性は、様々なかたちで伝えていきたい。				
意見等に対する対応状況	・要支援者の把握・支援は妊娠届出時、医療機関等との連携、保護者からの相談などから随時行っている。 ・また、当該事業参加や訪問時等機会がある度に家族の協力について状況確認し助言を行っている。 ・要支援者については、必要に応じ就学時まで各関係機関と連携して対応している。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O			
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A			
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	A			

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	49	事業名	3歳6か月児健診、3歳6か月児歯科健診	部名	保健所	課名	健康増進課
事業内容	身体の発育および精神発達の面から最も重要な時期である3歳児に対して健康診査を行い、運動機能・視聴覚発達などの障がいや疾病等を早期に発見し、適切な指導を行うことにより、障がい等の進行を未然に防止するとともに、むし歯の予防・発育・栄養・生活習慣、その他育児に関する指導を行い、子どもの心身の安らかな成長の促進と育児不安の軽減を図ります。			指標	健診受診率(%) 歯科健診受診率(%)	平成26年度 実績値	健診受診率88.1% 歯科健診受診率87.9%
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	6,496 千円	(予算)	6,642 千円	(予算)	千円	(予算)	千円	(予算)	千円
	(決算)	6,458 千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円
目標値と実績値	(目標)	健診受診率87.0% 歯科健診受診率87.0%	(目標)	健診受診率89.2% 歯科健診受診率89.2%	(目標)	健診受診率89.4% 歯科健診受診率89.4%	(目標)	健診受診率89.6% 歯科健診受診率89.6%	(目標)	健診受診率89.8% 歯科健診受診率89.8%
	(実績)	健診受診率89.0% 歯科健診受診率88.7%	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	問診票を個別通知し、受診率の向上に努めている。 健診勧奨のポスターを市内の予防接種・乳児健診医療機関や保育園・幼稚園等に掲示依頼し、周知を図っている。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	年齢的に3年制の幼稚園・認定こども園に入園したり就労する養育者が増加し、内科健診や歯科健診が保育園・幼稚園等でもあることからこれまでの健診よりも受診率が減少する。今後も関係機関の協力を得て、受診勧奨を行っていく。 例年80%後半の受診率であるため90%の受診率をめざし、今後も関係機関の協力を得て、受診勧奨を行っていく。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	A				
子ども・子育て会議における意見等	・乳児期での手厚い支援はますます重要であるが、努力の結果が出ており評価できる。今後は、妊娠時からの継続的な子育て支援につながるものがさらなる課題ではないか。就学まで一貫した継続的支援の構築、及び支援を要する家庭への関係機関とのつなぎや支援計画が求められる。 ・妊娠のスタート時点における協力体制の重要性、特に夫婦で子育てできる環境にある方の夫の協力の重要性は、様々ななかたちで伝えていきたい。 ・各乳幼児健診の中で受診率が低いのが課題である。多くの子どもが集団生活に入っていく年齢であることから、受診率を上げること、また受診内容、結果について幼稚園、保育園である程度共有できることが理想。小学校への連携も含めて大事ではないかと思う。また、他自治体では3歳児検診としているところもあるが、3歳6ヶ月ということでは就園後になってしまう子どもが多いので、受診率を上げるためにこのあたりの検討もお願いしたい。				

意見等に対する対応状況	<p>・要支援者の把握・支援は妊娠届出時、医療機関等との連携、保護者からの相談などから随時行っている。また、当該事業参加や訪問時等機会がある度に家族の協力について状況確認し助言を行っている。要支援者については、必要に応じ就学時まで各関係機関と連携して対応している。</p> <p>・対象年齢については、3歳0か月から3歳11か月の範囲で自治体が健診時期を設定できることになっており、本市においては、健診項目を通過しやすい時期を考慮した上で、3歳6か月児に設定している。</p>				
-------------	--	--	--	--	--

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	A				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	50	事業名	フッ化物塗布事業	部名	保健所	課名	健康増進課
事業内容	幼児のむし歯予防とかかりつけ歯科医をもつきっかけづくりのために、2歳0か月児の希望者に実施します。歯科健診と歯みがき指導も併せて実施します。			指標	塗布者数（人）	平成26年度実績値	682
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) 838 千円	(予算) 832 千円	(予算) 千円	(予算) 千円	(予算) 千円
	(決算) 820 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円
目標値と実績値	(目標) 690	(目標) 690	(目標) 700	(目標) 710	(目標) 720
	(実績) 1,186	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
取り組み内容・成果等	平成17年度から2歳8か月児～3歳0か月児を対象に実施してきたが、う歯罹患率の減少に向け、平成27年度より対象年齢を2歳0か月～2歳4か月児とし実施している。対象移行年度の対応として、2歳8か月～3歳0か月児も受け入れていたため、平成27年度塗布者数が例年より多くなった。 2歳0か月～2歳4か月児 630人 2歳8か月児～3歳0か月児 556人				
取り組みの方向性(課題・改善点等)	う歯罹患率が1歳7か月児歯科健診では1%台であるが、3歳6か月児歯科健診時には20%前後になっている。1歳7か月児歯科健診後、継続的な歯科健診・指導、フッ化物塗布を行うことにより、乳歯の虫歯予防、かかりつけ歯科医を持つきっかけづくりを図る。				

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児期での手厚い支援はますます重要であるが、努力の結果が出ており評価できる。今後は、妊娠時からの継続的な子育て支援につながるものがさらなる課題ではないか。就学まで一貫した継続的支援の構築、及び支援を要する家庭への関係機関とのつなぎや支援計画が求められる。 ・妊娠のスタート時点における協力体制の重要性、特に夫婦で子育てできる環境にある方の夫の協力の重要性は、様々なかたちで伝えていただきたい。 ・フッ化物塗布については、賛否両論あることに対して、そのまま続けていくほうがいいのか、一度、検討する必要がある。 ・2歳児に、静かに座って口を開けフッ化物塗布させるのは難しいのではないかと。医療行為としての適切な時期があるのかもしれないが、幼児がフッ化物塗布をきちんと受けられる時期に変更できないか。 ・予防接種の受け方や日程の組み方がわからない時はよくみセンターで接種計画を立ててもらえる等、もう少し出産前に時間を作って説明してはどうかと思う。 				

意見等に対する対応状況	・フッ化物塗布の安全性については厚生労働省・日本歯科医師会等が保障しており、虫歯予防にフッ素を用いることは他の予防法に比べ最も有効かつ確実な方法であるといわれている。また、2歳児でも塗布できる簡便な方法で実施している。				
-------------	---	--	--	--	--

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	A				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	51	事業名	乳幼児予防接種事業	部名	保健所	課名	保健予防課	
事業内容	子どもを感染症から守るため、予防接種を実施します。 (個別接種) ・ヒブ感染症(生後2か月～5歳未満) ・小児肺炎球菌感染症(生後2か月～5歳未満) ・B型肝炎(生後3～12か月未満) ・4種混合(生後3か月～7歳6か月未満) ・三種混合(生後3か月～7歳6か月未満) ・二種混合(小学校6年生)		・不活化ポリオ(生後3か月～7歳6か月未満) ・MR(麻しん・風しん) 第1期(1歳～2歳未満) 第2期(年長児) ・水痘(1歳～3歳未満) ・日本脳炎 第1期(生後6か月～7歳6か月未満) 第2期(9歳～13歳未満) ・ヒトパピローマウイルス感染症(小学6年生～高校1年生 相当の女子)		指標	予防接種率(%)	平成26年度 実績値	84.7
	量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業						該当なし	

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) 695,037 千円	(予算) 697,096 千円	(予算) 千円	(予算) 千円	(予算) 千円
	(決算) 726,842 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円
目標値と実績値	(目標) 85.0	(目標) 87.0	(目標) 89.0	(目標) 91.0	(目標) 93.0
	(実績) 85.0	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
取り組み内容・成果等	平成25年1月1日生まれ以降の対象者には予防接種券を送付し、7歳6ヶ月までの定期予防接種の啓発を行った。特に、二種混合、日本脳炎及びMR2期等は対象者に個別に勧奨ハガキを送付し、接種率の向上に努めた。また、平成26年10月1日から水痘・成人用肺炎球菌が定期予防接種として追加された。平成27年度の予防接種者数は、A類が56,139人、B類が52,100人であった。				
取り組みの方向性(課題・改善点等)	各予防接種対象者への個別通知等の積極的な勧奨及び関係機関との連携による啓発を行い、予防接種の知識と接種率の向上を図る。また、国で検討中のB型肝炎、ロタ、おたふくかぜの予防接種の定期化の動向を注視していく。ただし、子宮頸がん予防ワクチンは、平成25年6月14日以降、国によりワクチン接種と副反応の因果関係が明らかにされるまで積極的な接種勧奨の差し控えを継続しており、再開時期等、国の動向を注視していく。				

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	・乳児期での手厚い支援はますます重要であるが、努力の結果が出ており評価できる。今後は、妊娠時からの継続的な子育て支援につながるものがさらなる課題ではないか。就学まで一貫した継続的支援の構築、及び支援を要する家庭への関係機関とのつなぎや支援計画が求められる。 ・妊娠のスタート時点における協力体制の重要性、特に夫婦で子育てできる環境にある方の協力の重要性は、様々なかたちで伝えていきたい。				
意見等に対する対応状況	・妊娠のスタート時点若しくは妊娠初期の方からの予防接種に関する問い合わせは、件数的には少ないものの、電話での問い合わせ等があれば、出産後、生後2か月目から受けることができる予防接種について、それらの内容及びスケジュールの立て方について詳しく案内している。 ・予防接種啓発にも積極的に取り組みを行っており、今後も引き続き普及・啓発に努めていく。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	A				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	52	事業名	妊産婦・乳幼児健康相談事業	部名	保健所	課名	健康増進課
事業内容	安心して妊娠・出産・育児が行えるよう公民館等の地域の身近な場所に出向き、保健師、助産師等が健康相談を実施します。また、親子の健康づくりに関する情報提供の場として、おやこプチ講座を実施します。			指標	相談件数（件）	平成26年度実績値	4,573
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) 9,184 千円	(予算) 9,201 千円	(予算) 千円	(予算) 千円	(予算) 千円
	(決算) 8,581 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円
目標値と実績値	(目標) 4,600	(目標) 4,600	(目標) 4,600	(目標) 4,600	(目標) 4,600
	(実績) 5,030	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
取り組み内容・成果等	身近な場所で相談できるよう、健康増進課、西部会館、公民館等巡回で助産師・保健師が相談対応している。また、参加しやすい公民館、子育てスポット等で未就園児・保護者を対象に子どもの発達、育児についての講話を行った。				
取り組みの方向性(課題・改善点等)	公民館等巡回については、利用人数が少ないことに加え、公民館だけでなく西部会館・健康増進課と重複して相談利用している事例の有無を検討し、実施場所・回数を見直しを実施。H28年度より、22か所から19か所へ実施場所を変更する。また、地域におけるおやこプチ講座については、各公民館等の講座の申し込み数や参加人数が少ないことから実施回数を見直し、H28年度以降からの実施状況に応じ講座方法がよいか、関係機関との連携方法について検討していく。				

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	A				
子ども・子育て会議における意見等	<p>①妊産婦、乳児に関する取り組みとしては一定の評価はできる。今後は母子健康手帳の効果的活用、一人ひとりにメールなどで送受信できるような情報システムの開発など、情報発信が今の時代に適しているのかを検証していくことが大切である。</p> <p>②子どもの育ちに関する相談は、きめ細かく対応していく必要がある。人数や時間を制限しない方向での対応を望む。</p> <p>③高評価の事業が多く、しっかりと運営されていることがうかがわれる。事業の中で、主に母親に対して子育ては母親の責任だけではないこと、周りの協力者を巻き込むことを伝えていただければと思う。また、相談事業や教室などで、父親が参加しにくい雰囲気のものが多いのが現状であり、男性職員の配置など、父親が参加しやすい雰囲気づくりも意識していただければありがたい。それが母親の育児負担の軽減につながり、子どもの育成環境が良くなると考える。</p> <p>④実施場所の減少や実施回数を見直しについては、より身近な場所での開催により利便性が高く利用している方もおられるので、慎重に取り進めていただきたい。</p>				

意見等に対する対応状況	<p>①情報発信の方法については、市民のニーズを把握して検討していく。</p> <p>②公民館巡回相談の相談件数は前年度と比較し減少しているが、常設で実施している西部相談室・当課での相談件数は増加しており対応できている。</p> <p>③母親の育児負担軽減のための支援は、サポート状況を確認し、必要なサービスを紹介する等相談に応じている。またママパパ教室や乳幼児教室等父親の相談数や教室参加数は現状でも増加している。</p> <p>④子育て支援拠点等の増加により、保護者が育児相談をする機会が増えており、そこで離乳食等の講座も実施されているため、今後は子育て支援実施機関と連携を図っていきたい。</p>				
-------------	---	--	--	--	--

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	A				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	53	事業名	地域における幼児期からの歯の健康教育	部名	保健所	課名	健康増進課
事業内容	保育所・幼稚園や地域の子育てサークルなどで、幼児と保護者を対象に幼児期に必要な歯の知識と正しい歯磨きの方法等について健康教育を実施します。			指標	参加者数（保護者と子ども数）（人）	平成26年度実績値	982
				量の見込みと確保方策（事業計画第5章）対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	0 千円	(予算)	0 千円	(予算)	千円	(予算)	千円	(予算)	千円
	(決算)	0 千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円
目標値と実績値	(目標)	1,000	(目標)	1,600	(目標)	1,600	(目標)	1,600	(目標)	1,600
	(実績)	1,532	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	幼稚園・保育園 23園 園児533人/保護者370人 施設等 21箇所 乳幼児327人/保護者302人 幼稚園、保育園、地域のサークル等で正しい歯の知識と手入れの方法を知り、児・保護者ともにむし歯・歯周病予防を図る。また、かかりつけ歯科医をもつきっかけとする。									
取り組みの方向性（課題・改善点等）	2歳児とその保護者を対象に実施していたが、2歳児での歯磨きを園では実施していない（事故防止のため）ことから、次年度以降は園が希望する年齢で実施とする。1歳7か月児歯科健診むし歯罹患率は平成25年度1.5%、平成26年度1.2%、平成27年度1.1%と減少、3歳児では平成25年度19.9%、平成26年度20%、平成27年度19.9%と横ばい経過している。引き続きむし歯予防の行動変容を行う情報提供の場としてむし歯の罹患率減少を目指します。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	A				
子ども・子育て会議における意見等	<p>①妊産婦、乳児に関する取り組みとしては一定の評価はできる。今後は母子健康手帳の効果的活用、一人ひとりにメールなどで送受信できるような情報システムの開発など、情報発信が今の時代に適応しているのかを検証していくことが大切である。</p> <p>②子どもの育ちに関する相談は、きめ細かく対応していく必要がある。人数や時間を制限しない方向での対応を望む。</p> <p>③高評価の事業が多く、しっかりと運営されていることがうかがわれる。事業の中で、主に母親に対して子育ては母親の責任だけではないこと、周りの協力者を巻き込むことを伝えていただければと思う。また、相談事業や教室などで、父親が参加しにくい雰囲気のものが多いのが現状であり、男性職員の配置など、父親が参加しやすい雰囲気づくりも意識していただければありがたい。それが母親の育児負担の軽減につながり、子どもの育成環境が良くなると考える。</p>				

意見等に対する対応状況	<p>①情報発信の方法については、市民のニーズを把握して検討していく。</p> <p>②現在依頼があった園やサークルには全て対応している。</p> <p>③母親の育児負担軽減のための支援は、サポート状況を確認し、必要なサービスを紹介する等相談に応じている。またママパパ教室や乳幼児教室等父親の相談数や教室参加数は現状でも増加している。今後は父親が参加しやすい曜日や時間の設定を行い、父親と子どもの歯磨き教室を検討する。</p>				
-------------	---	--	--	--	--

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	B				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	54	事業名	5か月児ばくばく教室（離乳食教室）	部名	保健所	課名	健康増進課
事業内容	生後5か月児を持つ保護者に離乳食の進め方、子どもの発達・子育てについての知識提供を行うとともに、集まる場の設定をすることにより乳児期前期の養育者の孤立感に伴う育児不安の軽減を図ります。			指標	参加者数（組）	平成26年度実績値	874
				量の見込みと確保方策（事業計画第5章）対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) 0 千円	(予算) 0 千円	(予算) 千円	(予算) 千円	(予算) 千円
	(決算) 0 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円
目標値と実績値	(目標) 900	(目標) 900	(目標) 900	(目標) 900	(目標) 900
	(実績) 861	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
取り組み内容・成果等	管理栄養士・保健師より講義を行い、グループワークにて保護者同士の交流を図る。 参加者数(年間) 母 860人、乳児 861人、幼児18人、その他(家族)50人、合計1,789人				
取り組みの方向性(課題・改善点等)	申込み数が多く、希望月に参加できない人には個別対応していた。また、初産婦と経産婦が子育てしていく中で、双方の悩みが共有しにくいことから、H28年度より初めての子育てに不安や悩みが多い初産婦（第1子）を対象として実施する。				

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	①妊産婦、乳児に関する取り組みとしては一定の評価はできる。今後は母子健康手帳の効果的活用、一人ひとりにメールなどで送受信できるような情報システムの開発など、情報発信が今の時代に適応しているのかを検証していくことが大切である。 ②子どもの育ちに関する相談は、きめ細かく対応していく必要がある。人数や時間を制限しない方向での対応を望む。 ③高評価の事業が多く、しっかりと運営されていることがうかがわれる。事業の中で、主に母親に対して子育ては母親の責任だけではないこと、周りの協力者を巻き込むことを伝えていただければと思う。また、相談事業や教室などで、父親が参加しにくい雰囲気のものが多いのが現状であり、男性職員の配置など、父親が参加しやすい雰囲気づくりも意識していただければありがたい。それが母親の育児負担の軽減につながり、子どもの育成環境が良くなると考える。 ④乳幼児を持つ保護者の不安や悩みに対して、それぞれの事業間である程度枠組みを越えて応えていく体制ができればと思う。窓口が分かれてしまわないように支援していただければと思う。 ⑤初産婦の離乳食開始は本当に不安なものなので、開催してくれている事は大変有り難いです。 ⑥離乳食開始から普通食移行期間のメニューアレンジ講座などがあると、食の偏りの心配や、食べムラで悩む母親の不安軽減に繋がるのではないかと。				

意見等に対する対応状況	<p>①情報発信の方法については、市民のニーズを把握して検討していく。</p> <p>②子どもの相談にきめ細かく対応するため、第2子以降は人数を制限することなく個別対応を行っている。</p> <p>③母親の育児負担軽減のための支援は、サポート状況を確認し、必要なサービスを紹介する等相談に応じている。またママパパ教室や乳幼児教室等父親の相談数や教室参加数は現状でも増加している。</p> <p>④子育て支援拠点等の増加により、保護者が育児相談をする機会が増えており、そこで離乳食等の講座も実施されているため、今後は子育て支援実施機関と連携を図っていきたい。</p> <p>⑤アレンジメニューは教室内で資料配布し工夫できるよう働きかけている。離乳食開始後の心配については個別性が高いため個別相談で対応している。</p> <p>⑥ホームページ上で離乳食に関する進め方等の動画配信を準備中。</p>				
-------------	--	--	--	--	--

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	A				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	55	事業名	1歳0か月児歯びか教室（むし歯予防教室）	部名	保健所	課名	健康増進課
事業内容	1歳0か月児～1歳2か月児の保護者に、乳歯のむし歯予防の知識と歯の手入れの実習についての知識提供を行います。また、保護者自身にも歯の健康に関心を持ってもらい、成人期の歯周病予防を図ります。			指標	1歳7か月児健診 う歯罹患率（%）	平成26年度 実績値	1.2
				量の見込みと確保方策（事業計画第5章）対象事業			

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) 68 千円	(予算) 50 千円	(予算) 千円	(予算) 千円	(予算) 千円
	(決算) 56 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円
目標値と実績値	(目標) う歯罹患率1%以下	(目標) う歯罹患率1%以下	(目標) う歯罹患率1%以下	(目標) う歯罹患率1%以下	(目標) う歯罹患率1%以下
	(実績) 1.1	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
取り組み内容・成果等	前年度までは10か月児を対象にしていたが、27年度から歯の生え揃った1歳0～2か月児を対象に変更した。20回、401組参加。歯科衛生士による正しい歯の講話や手入れの方法を知り、児・保護者ともにむし歯・歯周病予防を図る。				
取り組みの方向性（課題・改善点等）	対象を変更したため、年度当初は周知度が低く参加人数が少なかった。今後も周知を図るため、啓発活動を継続する。また、初産婦と経産婦が子育てしていく中で、双方の悩みが共有しにくいことから、H28年度より始めての子育てに不安や悩みが多い初産婦（第1子）を対象として実施する。				

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<p>①妊産婦、乳児に関する取り組みとしては一定の評価はできる。今後は母子健康手帳の効果的活用、一人ひとりにメールなどで送受信できるような情報システムの開発など、情報発信が今の時代に適応しているのかを検証していくことが大切である。</p> <p>②子どもの育ちに関する相談は、きめ細かく対応していく必要がある。人数や時間を制限しない方向での対応を望む。</p> <p>③高評価の事業が多く、しっかりと運営されていることがうかがわれる。事業の中で、主に母親に対して子育ては母親の責任だけではないこと、周りの協力者を巻き込むことを伝えていただければと思う。また、相談事業や教室などで、父親が参加しにくい雰囲気のものが多いのが現状であり、男性職員の配置など、父親が参加しやすい雰囲気づくりも意識していただければありがたい。それが母親の育児負担の軽減につながり、子どもの育成環境が良くなると考える。</p> <p>④乳幼児を持つ保護者の不安や悩みに対して、それぞれの事業間である程度枠組みを越えて応えていく体制ができればと思う。窓口が分かれていますように支援していただければと思う。</p>				

意見等に対する対応状況	<p>①情報発信の方法については、市民のニーズを把握して検討していく。</p> <p>②子どもの相談にきめ細かく対応するため、第2子以降は人数を制限することなく個別対応を行っている。</p> <p>③母親の育児負担軽減のための支援は、サポート状況を確認し、必要なサービスを紹介する等相談に応じている。またママパパ教室や乳幼児教室等父親の相談数や教室参加数は現状でも増加している。</p> <p>④市民が身近にある子育て支援拠点で、歯の健康についても相談できるよう、支援者の養成を行っている。</p>				
-------------	---	--	--	--	--

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	A				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	56	事業名	きしゃぼっぽ教室（発達支援教室）	部名	保健所	課名	健康増進課
事業内容	1歳7か月児及び3歳6か月児健康診査後の事後指導の場として、遊びやグループワークを通して、子どもの発達や適切な関わり方を学び、親同士が悩みを共有することで育児不安の軽減及び子どもの発達の理解・受容につなげるために実施します。また、保護者の育児不安が軽減し、安心して育児できるように心理相談員に個別相談や発達検査を実施します。			指標	きしゃぼっぽ教室 参加延べ組数（組）	平成26年度 実績値	260
				量の見込みと確保方策（事業計画第5章）対象事業			

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) 448 千円	(予算) 447 千円	(予算) 千円	(予算) 千円	(予算) 千円
	(決算) 421 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円
目標値と実績値	(目標) 420	(目標) 420	(目標) 420	(目標) 420	(目標) 420
	(実績) 310	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
取り組み内容・成果等	「きしゃぼっぽ教室」発達に遅れがみられる児とその保護者が親子遊びやグループワークを通して関わり方を考えるきっかけを作る。同じ悩みを持つ保護者同士の交流で育児の不安が軽減したり、専門職に発達についての相談ができるようになっていく。				
取り組みの方向性（課題・改善点等）	子どもの発達の遅れだけではなく、養育面の困難さを持つ保護者の参加が多くなっているため、教室の内容や取り組みについての検討は必要。登録した親子が、途中中断しないよう適切な時期に声かけを行ったり、保護者への意識づけを十分に行う。				

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<p>①妊産婦、乳児に関する取り組みとしては一定の評価はできる。今後は母子健康手帳の効果的活用、一人ひとりにメールなどで送受信できるような情報システムの開発など、情報発信が今の時代に適応しているのかを検証していくことが大切である。</p> <p>②子どもの育ちに関する相談は、きめ細かく対応していく必要がある。人数や時間を制限しない方向での対応を望む。</p> <p>③高評価の事業が多く、しっかりと運営されていることがうかがわれる。事業の中で、主に母親に対して子育ては母親の責任だけではないこと、周りの協力者を巻き込むことを伝えていただければと思う。また、相談事業や教室などで、父親が参加しにくい雰囲気のものが多いのが現状であり、男性職員の配置など、父親が参加しやすい雰囲気づくりも意識していただければありがたい。それが母親の育児負担の軽減につながり、子どもの育成環境が良くなると考える。</p> <p>④乳幼児を持つ保護者の不安や悩みに対して、それぞれの事業間である程度枠組みを越えて応えていく体制ができればと思う。窓口が分かれてしまわないように支援していただければと思う。</p> <p>⑤養育面に特化した教室の設置または、誘導を行ってはどうか。</p>				

意見等に対する対応状況	<p>①情報発信の方法については、市民のニーズを把握して検討していく。</p> <p>②現状では、教室に参加できない人はいない。待機者が多い場合は回数等の見直しをする。</p> <p>③母親の育児負担軽減のための支援は、サポート状況を確認し、必要なサービスを紹介する等相談に応じている。またママパパ教室や乳幼児教室等父親の相談数や教室参加数は現状でも増加している。</p> <p>④子育て支援拠点等の増加により、保護者が育児相談をする機会が増えており、今後は子育て支援実施機関と連携を図っていきたい。</p> <p>⑤養育困難家庭については、集団での指導が難しいため、家庭訪問などで個別に支援を行う。</p>				
-------------	--	--	--	--	--

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	A				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	57	事業名	すくすく相談	部名	保健所	課名	健康増進課
事業内容	育児や発達に関する相談に応じ育児不安を軽減します。また、適切な子育て情報を発信します。			指標	—	平成26年度実績値	—
量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業							該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
	(予算)	0 千円	(予算)	0 千円	(予算)	千円	(予算)	千円	(予算)	千円
予算・決算額	(決算)	0 千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円
目標値と実績値	(目標)	—	(目標)	—	(目標)	—	(目標)	—	(目標)	—
	(実績)	—	(実績)	—	(実績)	—	(実績)	—	(実績)	—
取り組み内容・成果等	・1回30分、心理相談員が発達に関する個別相談を実施。2か月に1回、6人定員。電話による申込制。年間利用数26件。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	・相談先の増加により気軽な相談窓口としての利用は減少傾向にある。 ・発達面に関して不安を抱えている親子の相談窓口として継続して実施する。今後のあり方について検討する。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<p>①妊産婦、乳児に関する取り組みとしては一定の評価はできる。今後は母子健康手帳の効果的活用、一人ひとりにメールなどで送受信できるような情報システムの開発など、情報発信が今の時代に適応しているのかを検証していくことが大切である。</p> <p>②子どもの育ちに関する相談は、きめ細かく対応していく必要がある。人数や時間を制限しない方向での対応を望む。</p> <p>③高評価の事業が多く、しっかりと運営されていることがうかがわれる。事業の中で、主に母親に対して子育ては母親の責任だけではないこと、周りの協力者を巻き込むことを伝えていただければと思う。また、相談事業や教室などで、父親が参加しにくい雰囲気のものが多いのが現状であり、男性職員の配置など、父親が参加しやすい雰囲気づくりも意識していただければありがたい。それが母親の育児負担の軽減につながり、子どもの育成環境が良くなると考える。</p> <p>④乳幼児を持つ保護者の不安や悩みに対して、それぞれの事業間である程度枠組みを越えて応えていく体制ができればと思う。窓口が分かれてしまわないように支援していただければと思う。</p> <p>⑤2か月に1回の開催では、タイムリーな相談窓口としての機能がないのではないかと考える。</p>				

意見等に対する対応状況	<p>①情報発信の方法については、市民のニーズを把握して検討していく。</p> <p>②現状では、随時相談に応じているため、待機者はいない。</p> <p>③母親の育児負担軽減のための支援は、サポート状況を確認し、必要なサービスを紹介する等相談に応じている。またママパパ教室や乳幼児教室等父親の相談数や教室参加数は現状でも増加している。</p> <p>④子育て支援拠点等の増加により、保護者が育児相談をする機会が増えており、今後は子育て支援実施機関と連携を図っていきたい。</p> <p>⑤これまでも電話相談や来所相談は随時行なっていたので、今後も同様に随時相談に対応していく。</p>				
-------------	---	--	--	--	--

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	B				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	B				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	58	事業名	発達相談	部名	保健所	課名	健康増進課
事業内容	幼児健康診査後の精神発達面の状態を個別の検査を用いて確認します。			指標	—	平成26年度実績値	—
量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業							該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) 0 千円	(予算) 0 千円	(予算) 千円	(予算) 千円	(予算) 千円
	(決算) 0 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円
目標値と実績値	(目標) —	(目標) —	(目標) —	(目標) —	(目標) —
	(実績) —	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
取り組み内容・成果等	・発達検査を用いた個別の発達相談。年間利用数225件。 ・子どもの発達の状態を保護者と確認し、関わり方などを共に考える事ができた。 ・毎日相談の枠を設け、多くの相談に応じている。				
取り組みの方向性(課題・改善点等)	実績が前年度より減少しているのは、発達センターが子どもの状態に応じた役割分担が進んできたことが影響している。今後は1歳7か月児健診後の早期の支援に重点を置く。 また、関係機関との情報共有や調整などを継続する。				

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	①妊産婦、乳児に関する取り組みとしては一定の評価はできる。今後は母子健康手帳の効果的活用、一人ひとりにメールなどで送受信できるような情報システムの開発など、情報発信が今の時代に適応しているのかを検証していくことが大切である。 ②子どもの育ちに関する相談は、きめ細かく対応していく必要がある。人数や時間を制限しない方向での対応を望む。 ③高評価の事業が多く、しっかりと運営されていることがうかがわれる。事業の中で、主に母親に対して子育ては母親の責任だけではないこと、周りの協力者を巻き込むことを伝えていただければと思う。また、相談事業や教室などで、父親が参加しにくい雰囲気のものが多いのが現状であり、男性職員の配置など、父親が参加しやすい雰囲気づくりも意識していただければありがたい。それが母親の育児負担の軽減につながり、子どもの育成環境が良くなると考える。 ④乳幼児を持つ保護者の不安や悩みに対して、それぞれの事業間である程度枠組みを越えて応えていく体制ができればと思う。窓口が分かれてしまわないように支援していただければと思う。				

意見等に対する対応状況	<p>①情報発信の方法については、市民のニーズを把握して検討していく。</p> <p>②現状では、随時相談に応じているため、待機者はいない。待機者が多い場合は回数等の見直しをする。</p> <p>③母親の育児負担軽減のための支援は、サポート状況を確認し、必要なサービスを紹介する等相談に応じている。またママパパ教室や乳幼児教室等父親の相談数や教室参加数は現状でも増加している。</p> <p>④乳幼児を持つ保護者の特に発達に関する不安や悩みについて個別の相談の時間を確保し安心して子育てできるようにアドバイスしている。支援機関が代わっても継続して支援できるように関係機関と連携していく。</p>				
-------------	---	--	--	--	--

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	B				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	A				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	59	事業名	妊産婦の喫煙・飲酒対策事業	部名	保健所	課名	健康増進課
事業内容	妊産婦・胎児・乳児へのタバコ・アルコールによる健康被害を防ぐための啓発、相談を行います。			指標	妊婦喫煙率(%) 妊婦飲酒率(%)	平成26年度 実績値	妊婦喫煙率3.3% 妊婦飲酒率1.9%
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) 0 千円	(予算) 0 千円	(予算) 千円	(予算) 千円	(予算) 千円
	(決算) 0 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円
目標値と実績値	(目標) 妊婦喫煙率3%以下 妊婦飲酒率0.5%以下	(目標) 妊婦喫煙率3%以下 妊婦飲酒率0.5%以下	(目標) 妊婦喫煙率3%以下 妊婦飲酒率0.5%以下	(目標) 妊婦喫煙率3%以下 妊婦飲酒率0.5%以下	(目標) 妊婦喫煙率3%以下 妊婦飲酒率0.5%以下
	(実績) 妊婦喫煙率3.6% 妊婦飲酒率0.9%	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
取り組み内容・成果等	妊娠届出時の啓発数2,607人 保健指導95件(妊婦喫煙者71人、妊婦飲酒者24人) リーフレットを用いて保健指導を実施。 母親教室：スモーカーライザー実施者10件				
取り組みの方向性(課題・改善点等)	妊娠届出時から早期の保健指導ができるように今後も継続実施する。				

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・妊産婦、乳児に関する取り組みとしては一定の評価はできる。今後は母子健康手帳の効果的活用、一人ひとりにメールなどで送受信できるような情報システムの開発など、情報発信が今の時代に適応しているのかを検証していくことが大切である。 ・目標値をクリアしていくのを前提に0%を目指し取り組んでいただきたい。 				
意見等に対する対応状況	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信の方法については、市民のニーズを把握して検討していく。 ・妊娠届出の際、必要時には妊産婦支援計画書を作成し、個人の状況に応じて支援を行っている。 				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O			
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A			
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	C			

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	60	事業名	休日・夜間応急診療所、休日歯科応急診療所の充実	部名	市民生活部	課名	病院管理課
事業内容	子どもの急病に対応するため、休日・夜間における救急医療体制の充実を図ります。			指標	全診療時間に対する小児科医配置時間(%)	平成26年度実績値	48
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) 325,474 千円	(予算) 311,224 千円	(予算) 千円	(予算) 千円	(予算) 千円
	(決算) 315,590 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円
目標値と実績値	(目標) 50	(目標) 50	(目標) 55	(目標) 55	(目標) 60
	(実績) 51	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
取り組み内容・成果等	休日夜間応急診療所の機能充実を図るため、小児科医の配置を行い平成25年4月からは水曜日に配置、平成27年4月からは金曜日の22:00~24:00に配置、平成27年10月からは月曜日の22:00~24:00に配置している。				
取り組みの方向性(課題・改善点等)	休日夜間応急診療所のソフト面での充実を図るため、医師会等関係機関とも協議を行い、小児科医の配置を進めることや診療の空白時間帯の解消を図るための診療時間の見直し等を行っていく。				

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	A				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・日常から就学前の子どもがカルテを作成しておけるような体制が大切である。子どもの急病に対応するためには、日常かかりつけ医などカルテがあることが重要。保健所や健診との連携が課題である。 ・必要なことだと思うので、継続していただきたい。 ・小児の夜間の病気発症に対応する医療機関の拡充は必須であり、是非とも本件については、更なる予算配分の充実をお願いしたい。 ・子どもの急病は夜間等に発生することが多いと感じるので、目標値を更に高く設定し、充実を図っていただきたい。 ・保護者への適正利用の案内をお願いしたい。 				
意見等に対する対応状況	医師会や奈良県等と連携し、休日夜間応急診療所の充実を図るとともに適正利用の周知に努めていきたい。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	×				
子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	—				
子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	61	事業名	地域子育て支援拠点事業	部名	子ども未来部	課名	子ども育成課
事業内容	乳幼児と保護者が気軽に集い、交流できる場を地域に提供し、育児相談や子育て関連情報の提供、講習会などを行います。			指標	子育て中の親子の集える場の利用者数（年度末時点）（人）	平成26年度実績値	139,552
				量の見込みと確保方策（事業計画第5章）対象事業			(7)地域子育て支援拠点事業

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	104,361 千円	(予算)	102,896 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	101,168 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	138,255	(目標)	150,910	(目標)	163,715	(目標)	176,422	(目標)	189,171
	(実績)	148,337	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	既存事業の充実を図るため評価を行い、課題及び問題点を洗い出し、指導・改善を行っている。また、事業実施後5年を経過する団体の評価を行う評価委員会を開催し、再募集分の審査を公募型プロポーザル方式で行い実施団体を決定している。									
取り組みの方向性（課題・改善点等）	今後、子育て親子が教育・保育施設や地域の子育て支援事業等を円滑に利用することができるように、子育て親子にとって身近な場所である地域子育て支援拠点での確かな情報提供及び助言を行い、各拠点、地域住民及び行政等関係機関が一体となって子どもの健やかな育ちを支援していく。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域としての取り組みは一定の評価ができると思う。課題は、今後就労する子育て者が増加したときのシステム構築である。未就園の孤立化をどのように地域で支援していくのか。講習会の中身は従来型でよいのか。子育ての何が課題であるのかは時代によって変容してきている。 ・時代のニーズとマッチした地域コミュニティと一体となった推進をお願いしたい。 ・父親が参加しにくい雰囲気のものが多いのが現状です。男性職員の配置など、父親が参加しやすい雰囲気づくりも意識していただければありがたいです。それが母親の育児負担の軽減につながり、子どもの育成環境が良くなると思う。 ・父親の参加を増やす工夫が必要である。 ・小学校等の空き教室活用については、地域支援を得やすくなる「子育て支援交流会」や「高齢者との異世代間交流」も実施しやすくなり、親や子ども達と学校が近くなる。 ・保護者にとって親子の集える場所は、本当に有り難い場所である。 ・利用者の声を聞き入れられた上で、更に利用しやすい場が作られる事を願いたい。 ・平成26年度の実績値が平成27年度の目標値を上回っているため、目標値を更に高いレベルへ設定し、取り組んでもらいたい。 				

意見等に対する対応状況	<ul style="list-style-type: none"> ・地域子育て支援拠点の委託事業者に対して、利用者や時代のニーズに合った事業展開を行うよう指導している。また、利用者へのアンケート調査や、利用者へ直接聞きとり、子育ての課題やニーズを把握するよう指導している。 ・父親を対象とした講座を土曜日等参加しやすい日程で実施している拠点もあるが、頻度を増やすとともに、父親が参加しやすい雰囲気づくりも意識して取り組んでいきたい。 ・幼稚園や小学校等の公共施設を有効活用して地域支援活動を行い、地域の活性化につなげていきたい。 ・目標値は上回っているが、利用者数のみならず、利用者の満足度も調査していきたい。 				
-------------	---	--	--	--	--

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	62	事業名	子育てスポット事業	部名	子ども未来部	課名	子ども育成課
事業内容	公共施設の空きスペースで、月1～2回、乳幼児と保護者が気軽集って、交流できる場を地域に提供し、育児相談や子育て関連情報の提供、講習会などを行います。			指標	子育て中の親子の集える場の利用者数（年度末時点）（人）	平成26年度実績値	139,552
				量の見込みと確保方策（事業計画第5章）対象事業			(7)地域子育て支援拠点事業

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	5,425 千円	(予算)	5,250 千円	(予算)	千円	(予算)	千円	(予算)	千円
	(決算)	5,042 千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円
目標値と実績値	(目標)	138,255	(目標)	150,910	(目標)	163,715	(目標)	176,422	(目標)	189,171
	(実績)	148,337	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	地域の団体に委託して、市内の30カ所で「子育てスポット」を開催するとともに、実施団体の連携や情報交換等を密にするために「子育てスポット交流会」を実施し、事業の充実を図った。									
取り組みの方向性（課題・改善点等）	今後は、子育てスポット等の地域の子育て支援団体や地域子育て支援拠点を対象とした「子育て支援交流会」を実施し、関係機関及び子育て支援者等の交流・連携の強化を図る。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<p>・地域としての取り組みは一定の評価ができると考える。課題は、今後就労する子育て者が増加したときのシステム構築である。未就園の孤立化をどのように地域で支援していくのか。講習会の中身は従来型でよいのか。子育ての何が課題であるのかは時代によって変容してきている。</p> <p>・時代のニーズとマッチした地域コミュニティと一体となった推進をお願いしたい。</p> <p>・父親が参加しにくい雰囲気のものが多いのが現状です。男性職員の配置など、父親が参加しやすい雰囲気づくりも意識していただければありがたいです。それが母親の育児負担の軽減につながり、子どもの育成環境が良くなると考える。</p> <p>・父親の参加を増やす工夫が必要である。</p> <p>・小学校等の空き教室活用については、地域支援を得やすくなる「子育て支援交流会」や「高齢者との異世代間交流」も実施しやすくなり、親や子ども達と学校が近くなる。</p> <p>・子育てスポット事業、子育てスポットすくすく広場事業は、ニーズがあるのか、均等にエリアにあるのか、見直しが必要である。</p>				

意見等に対する対応状況	<ul style="list-style-type: none"> ・こども園の子育て支援事業とうまく連携している子育てスポットがあるように、時代や地域のニーズに沿った運営をしていきたい。 ・土曜日に開催している子育てスポットはあるものの、父親の参加は課題であるため、開催日時の工夫をしていきたい。 ・子育てスポットは、主に地域の公民館、幼稚園及び小学校等の公共施設を有効活用して実施している。また、民生児童委員等地域の子育て支援者がスポット事業を運営しているため地域活性化に繋がっている。 				
-------------	---	--	--	--	--

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	63	事業名	子育てスポットすくすく広場事業	部名	子ども未来部	課名	子ども育成課
事業内容	福祉センターで、主として乳幼児（0～3歳）と保護者が気軽に集える場を提供し、高齢者から昔ながらの遊びや昔話を教えてもらうなど、異世代間における交流を行います。			指標	子育て中の親子の集える場の利用者数（年度末時点）（人）	平成26年度実績値	139,552
				量の見込みと確保方策（事業計画第5章）対象事業			(7)地域子育て支援拠点事業

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	40,056 千円	(予算)	40,764 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	40,056 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	138,255	(目標)	150,910	(目標)	163,715	(目標)	176,422	(目標)	189,171
	(実績)	148,337	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	子育て親子が気軽に集える場の提供、情報交換・相談等や親子交流を行うとともに、高齢者との異世代間交流を図ることができた。また、地域の子育て支援のネットワークを強化するため、地域子育て支援拠点や地域の子育て支援団体等との交流会を実施した。									
取り組みの方向性（課題・改善点等）	地域子育て支援拠点、地域の子育て支援団体及び子育て親子等の交流会を実施する。また、高齢者との異世代間交流の充実を図っていく。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<p>・地域としての取り組みは一定の評価ができると考える。課題は、今後就労する子育て者が増加したときのシステム構築である。未就園の孤立化をどのように地域で支援していくのか。講習会の中身は従来型でよいのか。子育ての何が課題であるのかは時代によって変容してきている。</p> <p>・時代のニーズとマッチした地域コミュニティと一体となった推進をお願いしたい。</p> <p>・父親が参加しにくい雰囲気のものが多いのが現状です。男性職員の配置など、父親が参加しやすい雰囲気づくりも意識していただければありがたいです。それが母親の育児負担の軽減につながり、子どもの育成環境が良くなると考える。</p> <p>・父親の参加を増やす工夫が必要である。</p> <p>・小学校等の空き教室活用については、地域支援を得やすくなる「子育て支援交流会」や「高齢者との異世代間交流」も実施しやすくなり、親や子ども達と学校が近くなる。</p> <p>・子育てスポット事業、子育てスポットすくすく広場事業は、ニーズがあるのか、均等にエリアにあるのか、見直しが必要である。</p>				

意見等に対する対応状況	<ul style="list-style-type: none"> ・委託事業者に対して、利用者や時代のニーズに合った事業展開を行うよう指導している。また、利用者へのアンケート調査や、利用者へ直接聞きとり、子育ての課題やニーズを把握するよう指導している。 ・子育てスポットすくすく広場は土曜日にも開催しているが、父親の参加は課題であるため、講座内容の工夫をしていきたい。 ・当該事業のニーズ及び必要性を精査するとともに、類似施設とのエリアバランスについて検討していく。 				
-------------	--	--	--	--	--

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	64	事業名	市立こども園の地域活動の推進	部名	子ども未来部	課名	こども園推進課
事業内容	地域に開かれたこども園として、地域の様々な人との交流を推進するとともに、未就園児の親子登園や子育て相談を実施する等、地域の子育て支援の拠点として子育て支援の充実に図ります。			指標	市立こども園全国に評議員4名を配置する割合（配置した評議員数÷施設数×4名）（%）	平成26年度実績値	20
				量の見込みと確保方策（事業計画第5章）対象事業			(7)地域子育て支援拠点事業

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	— 千円	(予算)	— 千円	(予算)	— 千円	(予算)	— 千円	(予算)	— 千円
	(決算)	— 千円	(決算)	— 千円	(決算)	— 千円	(決算)	— 千円	(決算)	— 千円
目標値と実績値	(目標)	28	(目標)	36	(目標)	52	(目標)	88	(目標)	100
	(実績)	24	(実績)	—	(実績)	—	(実績)	—	(実績)	—
取り組み内容・成果等	市立こども園全てにおいて地域の様々な人との交流を推進するとともに、未就園児の親子登園や子育て相談を実施し、地域に根ざした子育て支援の充実に努めてきた。									
取り組みの方向性（課題・改善点等）	全ての市立こども園において、学校評議員制度を導入し、地域の様々な人が園の教育・保育内容の理解し、共に子育て支援のと充実に図っていきけるよう、地域・保護者・園が連携し、未就園児の親子登園や子育て相談を実施しています。これらの情報を積極的にインターネットを活用してさらに地域の子育て支援の拠点となるよう努める。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<p>・地域としての取り組みは一定の評価ができると考える。課題は、今後就労する子育て者が増加したときのシステム構築である。未就園の孤立化をどのように地域で支援していくのか。講習会の中身は従来型でよいのか。子育ての何が課題であるのかは時代によって変容してきている。</p> <p>・時代のニーズとマッチした地域コミュニティと一体となった推進をお願いしたい。</p> <p>・父親が参加しにくい雰囲気のものが多いのが現状です。男性職員の配置など、父親が参加しやすい雰囲気づくりも意識していただければありがたいです。それが母親の育児負担の軽減につながり、子どもの育成環境が良くなると考える。</p> <p>・父親の参加を増やす工夫が必要である。</p> <p>・小学校等の空き教室活用については、地域支援を得やすくなる「子育て支援交流会」や「高齢者との異世代間交流」も実施しやすくなり、親や子ども達と学校が近くなる。</p> <p>・学校評議員の導入を目標に向け取り進めていただき、支援の拠点にしていきたい。また目標値もさらに高いレベルでの設定をお願いしたい。</p>				

意見等に対する対応状況	<p>・「子育て支援事業」の実施は、認定こども園になる認定要件であるため地域の活動拠点として、未就園児保育の充実を図っていけるように啓発する。</p> <p>・特に母親と特定した案内はしていないが、参加者のほとんどが母親であることは確かであることから、どの保護者も参加しやすいような啓発方法を工夫していきたい。なお、各園では、子どもたちの家庭の諸事情に配慮し、「保護者」と称して対応しているため、父親母親と特定した案内はできかねる。また、職員においても、女性職員に限らず、男性職員も募集している。地域や園あるいは保護者の皆様がこれまでの概念にとられず、祖父母も含めた保護者や地域の関係者の皆様とともに手と手を携えて子育てを行っていくという考えが定着するよう、啓発していきたい。</p> <p>・小学校の空き教室利用については、学校と園の所管が別であることから、可能である限り前向きに検討をおこなっていきたい。</p> <p>・学校評議員の導入は幼保再編が進むにつれ、対象園の増加が見込まれるが、今年度の課題から、評議員数が3名程度の園もあるので、4から5名の推薦が定着するよう更に推進を図っていきたい。</p>				
-------------	---	--	--	--	--

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	B				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	C				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	65	事業名	地域に開かれた幼稚園・保育所づくりの推進	部名	子ども未来部	課名	こども園推進課
事業内容	地域の仲間とふれあう機会が少なくなっている幼児や、子育てに孤立感・不安感を抱えている保護者のために、園庭・園舎を開放し、在園児との交流や未就園児の親子登園を実施します。			指標	—	平成26年度実績値	—
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	— 千円	(予算)	— 千円	(予算)	— 千円	(予算)	— 千円	(予算)	— 千円
	(決算)	— 千円	(決算)	— 千円	(決算)	— 千円	(決算)	— 千円	(決算)	— 千円
目標値と実績値	(目標)	—	(目標)	—	(目標)	—	(目標)	—	(目標)	—
	(実績)	—	(実績)	—	(実績)	—	(実績)	—	(実績)	—
取り組み内容・成果等	市立幼稚園・保育所全てにおいて、園庭開放、未就園児の親子登園等を実施し、在園児との交流を図るとともに保護者に対する子育て相談を実施し、地域の子育て支援の拠点となるように努めた。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	地域の公園等、子どもが安心して遊べる環境が近所がない等、各園のニーズに応じて親子登園や園庭開放を実施することにより、保護者同士の情報共有の場にもなり、子育て支援の拠点として、子育て相談事業の課題改善に努めている。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域としての取り組みは一定の評価ができると考える。課題は、今後就労する子育て者が増加したときのシステム構築である。未就園の孤立化をどのように地域で支援していくのか。講習会の中身は従来型でよいのか。子育ての何が課題であるのかは時代によって変容してきている。 ・時代のニーズとマッチした地域コミュニティと一体となった推進をお願いしたい。 ・父親が参加しにくい雰囲気のものが多いのが現状です。男性職員の配置など、父親が参加しやすい雰囲気づくりも意識していただければありがたいです。それが母親の育児負担の軽減につながり、子どもの育成環境が良くなると考える。 ・その地域その地域で現況を見極めて、事業所に負担のない程度の開放をすすめていただきたい。 				
意見等に対する対応状況	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭開放を充実し、さらに地域に開かれた施設となるように努める。 				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	B				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	C				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	66	事業名	公民館での各種教室・講座	部名	教育総務部	課名	生涯学習課（奈良市生涯学習財団）
事業内容	公民館の特性を生かし、各年度において、各種子育て支援事業を実施します。 ①親子が集える「場」の提供・情報提供事業 ②子育て支援教室・講座（保護者対象） ③体験教室・講座（親子対象） ④体験教室・講座（児童対象） ⑤地域の子育て力向上をめざした教室・講座（市民対象）			指標	子育て支援に関する事業数（事業）	平成26年度実績値	162
				量の見込みと確保方策（事業計画第5章）対象事業			

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) 1,668 千円	(予算) 1,644 千円	(予算) 千円	(予算) 千円	(予算) 千円
	(決算) 1,700 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円
目標値と実績値	(目標) 165	(目標) 165	(目標) 165	(目標) 165	(目標) 165
	(実績) 160	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
取り組み内容・成果等	時代や市民のニーズに即した①～⑤の事業を、継続して実施した。 ①53事業 ②8事業 ③43事業 ④51事業 ⑤5事業				
取り組みの方向性（課題・改善点等）	子育て中の親の課題やニーズに応えられるよう、多彩な事業を継続して実施してきたことにより、公民館が子育て支援の拠点として定着し、「子どもを安心して楽しく育てられるまち」に向けて効果を上げている。 予算削減等により連続講座の開催などが困難になりつつあるが、地域や各種団体の協力を得ながら、今後も継続して取り組んでいく。				

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	・地域としての取り組みは一定の評価ができると考える。課題は、今後就労する子育て者が増加したときのシステム構築である。未就園の孤立化をどのように地域で支援していくのか。講習会の中身は従来型でよいのか。子育ての何が課題であるのかは時代によって変容してきている。 ・時代のニーズとマッチした地域コミュニティと一体となった推進をお願いしたい。 ・父親が参加しにくい雰囲気のものが多いのが現状です。男性職員の配置など、父親が参加しやすい雰囲気づくりも意識していただければありがたいです。それが母親の育児負担の軽減につながり、子どもの育成環境が良くなると考える。 ・ふれあい会館での実施も検討してはどうか。 ・予算削減など厳しい状況があるようだが、利用者のニーズに応えられる施策を講じていただきたい。				

意見等に対する対応状況	<p>・時代の変容に対応するよう、講座の中身や子育ての何が課題であるのかなどについては、館内及びブロック別研修等のなかで随時検討を重ねている。</p> <p>・父親や父子を対象とした講座を開催しているが、まずは家族揃って季節のイベント等に参加することで父親の公民館講座に対する敷居を低くするようにも努めている。</p> <p><ふれあい会館での実施について></p> <p>・地域住民が主体となり、乳幼児・児童育成支援のための子育てサロンや書道教室、お話し教室、ダンス教室、空手教室、映画会等を開催しており地域特性を生かして子育て支援に努めているふれあい会館もある。</p> <p>・公民館の主催事業の中には、高齢者を対象とした出前講座をふれあい会館等で実施しており、今後子育て支援に関する講座もニーズに応じて検討していく。</p> <p>・今後も、創意工夫をもって施策を講じていきたい。</p>				
-------------	--	--	--	--	--

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	A				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	67	事業名	保育所等における一時預かり事業	部名	子ども未来部	課名	保育所・幼稚園課
事業内容	保護者のパート就労や病気等により、家庭において保育を受けることが一時的に困難となる場合や、保護者の育児の負担軽減やリフレッシュのため、乳幼児を保育所等において一時的に保育し、子育て世帯の支援を図ります。			指標	一時預かり利用者数（人）	平成26年度実績値	9,665
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			(8)一時預かり事業

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	48,660 千円	(予算)	51,240 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	41,670 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	11,430	(目標)	13,032	(目標)	14,634	(目標)	16,236	(目標)	17,836
	(実績)	11,062	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	子育て世帯の支援のため、乳幼児を一時的に保育する一時預かり事業を実施している市内私立保育所等12園に補助を実施した。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	多様化する保護者のニーズに対応するため、一時預かり事業を実施する市内私立保育所等の拡充を目指す。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・事業概要はよく理解できるが、各事業所での様々な保障や補助がなければ継続の実施が難しいので、予算の確保が実施に向けた一番の課題かと思われる。 ・きめ細かなニーズへの対応ができていない。利用者に向けて各事業の意味と内容を現場でしっかりと伝えたいだけだと思う。 ・保育所（園）等の受け入れ態勢支援の充実が必要である。 ・子育て支援、児童虐待防止の観点からもニーズの高い事業である。利便性も含め実施箇所数の拡大が求められる。 ・保護者に充分認知されているか。専業主婦でも保育所の一時預かりを利用できる事を知っている人は少ないのではないかと。 				
意見等に対する対応状況	国の補助基準に1,000,000円を上乗せして補助することで事業拡大を促進している。さらに、新設園開所の際に事業実施を促す等、一時預かり事業を実施する市内私立保育所等の拡充を目指す。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	B				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	C				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	68	事業名	地域子育て支援拠点における一時預かり事業	部名	子ども未来部	課名	子ども育成課
事業内容	地域子育て支援拠点の利用経験のある乳幼児を対象に、一時預かりを行い、地域の子育て家庭に対してよりきめ細やかな支援をします。			指標	一時預かりを実施する地域子育て支援拠点数(拠点)	平成26年度実績値	6
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			(8)一時預かり事業

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	19,110 千円	(予算)	17,640 千円	(予算)	千円	(予算)	千円	(予算)	千円
	(決算)	16,170 千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円
目標値と実績値	(目標)	6	(目標)	6	(目標)	6	(目標)	6	(目標)	6
	(実績)	6	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	平成24年度から実施し、平成27年度には新たに1か所を追加したことにより、合わせて6か所の地域子育て支援拠点において一時預かりを実施している。子育て親子にとって身近な場所である拠点の一時預かりを利用することにより、親の心理的・身体的負担が軽減されたと考える。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	引き続き、6か所の地域子育て支援拠点において一時預かりを実施していく。また、実施拠点においては、一時預かり従事スタッフのより一層の資質の向上を図るとともに、安全確保に十分配慮し、保護者が気軽に安心して一時預かりを利用できるよう努める。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	A				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・事業概要はよく理解できるが、各事業所での様々な保障や補助がなければ継続の実施が難しいので、予算の確保が実施に向けた一番の課題かと思われる。 ・きめ細かなニーズへの対応ができていない。利用者に向けて各事業の意味と内容を現場ですっきりとお伝えいただければと思う。 ・一時預かりの最長利用時間が短いように思う。もっと保護者が利用しやすい設定にする事が望ましいと思う。 ・一時預かりを目的に地域子育て支援拠点の平時の利用者数の増加も見込めるため、スタッフの充足や資質向上に努めてもらいたい。 				
意見等に対する対応状況	<ul style="list-style-type: none"> ・予算の確保に向け、一時預かりの必要性及びニーズを訴え、継続的に事業を実施していきたい。 ・スタッフが常駐して急な依頼にも対応するなど、安全性に配慮しながら臨機応変に対応している。 ・利用者のニーズと安全性を考慮し、時間・料金を設定していくよう、指導していきたい。 ・スタッフの資質向上のため、スタッフへの指導や研修を実施している。 				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	69	事業名	病児・病後児保育事業	部名	子ども未来部	課名	保育所・幼稚園課
事業内容	児童が病気や病気の回復期で、保護者の仕事の都合等で家庭での保育が困難な場合に、児童を一時的に専用施設で預かります。			指標	病児・病後児保育利用児童数	平成26年度実績値	1,184
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業		(9)病児・病後児保育事業	

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	31,693 千円	(予算)	30,257 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	32,211 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	896	(目標)	1,038	(目標)	1,180	(目標)	1,322	(目標)	1,463
	(実績)	1,373	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	開設当初は、施設利用は事前予約を原則としていたが、利用者の声を受け、施設に働きかけを行った結果、施設に空きがあれば、当日申込みでの利用が可能となった。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	事前に予約がない当日申込みでの利用に対応するため、定員一杯まで預かることができる適切な数の看護師・保育士を配置し、保護者が利用しやすい運営になるよう、実施施設に対し働きかけを行っていく。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・事業概要はよく理解できるが、各事業所での様々な保障や補助がなければ継続の実施が難しいので、予算の確保が実施に向けた一番の課題かと思われる。 ・きめ細かなニーズへの対応ができていない。利用者に向けて各事業の意味と内容を現場でしっかりと伝えたい。 ・目標を大きく上回る需要があるので、病児・病後児保育利用施設の増加を図る必要があるのではないか。 ・子育て中に起きる突発的なケースによく対応できている。スタッフの充実により、更なる利用促進を図りたい。 ・病後児保育のような社会的必要性がある事業でも、運営が難しい場合がある。このような事業こそ、公費で対応する必要があるのではないか。 				
意見等に対する対応状況	目標を上回る実績があるが、利用定員には余裕があるため市民への啓発に努める。また、利用しやすい運営になるよう引き続き実施施設に働きかけを行っていく事で、稼働率を向上させ、利用者数の増加に対応していく。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	B				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	C				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	70	事業名	子育て短期支援事業	部名	子ども未来部	課名	子ども育成課
事業内容	緊急一時的に児童の養育が困難になった場合に、児童を7日間を限度に預かり、養育・保護を行います。(ショートステイ事業) 仕事等の理由で帰宅が遅くなり、長期に児童の養育が困難な場合に、午後2時から10時までの時間帯のうち、1日4時間、6か月の範囲で児童を預かり、養育・保護を行います。(トワイライト事業)			指標	年間延べ利用者数(人日)	平成26年度実績値	323
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			(4)子育て短期支援事業

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	2,002 千円	(予算)	1,900 千円	(予算)	千円	(予算)	千円	(予算)	千円
	(決算)	2,002 千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円
目標値と実績値	(目標)	300	(目標)	300	(目標)	300	(目標)	300	(目標)	300
	(実績)	342	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	平成25年度から利用可能な施設(児童養護施設)を1か所追加することで、利用の選択肢を広げた。また、子育て相談課、健康増進課及び子ども家庭相談センター等の関係機関と連携し、情報共有を図った結果、利用者数は増加した。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	市内において利用可能な預かり施設が存在しないため、遠方への児童の送迎が必要となる。より利便性の高い制度設計を今後検討する必要がある。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・事業概要はよく理解できるが、各事業所での様々な保障や補助がなければ継続的実施が難しいので、予算の確保が実施に向けた一番の課題かと思われる。 ・きめ細かなニーズへの対応ができていない。利用者に向けて各事業の意味と内容を現場でしっかりと伝えたい。 ・核家族化、ひとり親家庭が増加するなか一定のニーズはあると考えるのが妥当である。現状では他市町村まで連れていかなければならず利便性が低い。中核市でもある奈良市の人口規模を考えれば民間活用も含め最低1箇所は自前で設置する必要があると考える。 ・利用者は目標を達成しているものの、遠方への送迎を改善してもらいたい。他の一時預かり施設を活用できないか。 ・奈良市内にそのような受け入れ事業を作るか、どこかの施設に併設するか検討できないか。 				
意見等に対する対応状況	<ul style="list-style-type: none"> ・予算の確保に向け、子育て短期支援事業の必要性及びニーズを訴え、継続的に事業を実施していく。 ・奈良市内に児童の受け入れ施設を作ることは、財政的に困難であると考え。今後、里親制度等の活用を検討し、利便性の向上を図りたい。 				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	71	事業名	利用者支援事業	部名	子ども未来部	課名	保育所・幼稚園課 子ども育成課
事業内容	就学前の子どもとその保護者や妊娠している方が、教育・保育施設や地域の子育て支援事業等を円滑に利用できるよう、身近な場所で情報収集や提供のほか、必要に応じて相談・助言等を行います。			指標	利用者支援事業の実施箇所数	平成26年度 実績値	1
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			(1)利用者支援事業

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	0 千円	(予算)	0 千円	(予算)	千円	(予算)	千円	(予算)	千円
	(決算)	0 千円	(決算)	0 千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円
目標値と実績値	(目標)	1	(目標)	1	(目標)	2	(目標)	2	(目標)	2
	(実績)	1	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	<p>どのような形態で事業を実施していくかについて検討するために、奈良市子ども・子育て支援推進本部幹事会において、関係各課による「検討グループ会議」を立ち上げた。また、地域子育て支援拠点の職員を対象に専門研修を実施し、子育て支援員の認定を行った。</p> <p>併せて、コンシェルジュを保育所・幼稚園課に継続配置して、就学前の子どもを持つ保護者及び妊娠している方の子育て支援のサポートを行い、子育て中の不安等を取り除くように相談・助言を行った。</p>									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	<p>今後「利用者支援事業の相談支援体制検討グループ会議」において関係各課の情報共有、既存施策の現状把握と課題整理をおこなひ、連携のあり方について協議を重ね、事業形態の具体化を目指す。</p> <p>配置したコンシェルジュの能力向上及び窓口資料の内容を精査して、分かりやすい内容へ更新が必要である。</p>									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<p>・「子育て相談」ができる場が広がっているが、利用者の立場から見ると、相談としてどのような種類があり、どういった内容の相談が可能なのか、その全体像と、ニーズに合わせて選択していただける情報が欲しいように思う。</p> <p>・他機関と連携し、コーディネート機能を発揮する利用者支援事業基本型の実施をイメージして改善点に盛り込んでどうか。</p> <p>・利用者支援事業の実施箇所数が1つだけに身近な場所といえるのか。</p>				
意見等に対する対応状況	<p>・子育て親子が必要な時に適切な支援や相談窓口にとどりつけるよう、子育て支援の総合的な情報提供並びに利用の調整、関係機関の連携等の役割を担うワンストップ型総合窓口の設置(基本型)を目指す。</p> <p>・利用者支援事業基本型の設置目標は1箇所のみだが、市内の地域子育て支援拠点と連携を密にして相談支援体制を構築するとともに、各拠点のスタッフに対して専門研修を実施し、資質向上を図ることで、全拠点でのワンストップサービス化等を目指し、利用者に最適な支援を行うことを目指す。</p>				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	B				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	72	事業名	子育て世代支援PR事業	部名	子ども未来部	課名	子ども政策課
事業内容	本市の子育て情報をわかりやすく掲載した子育ておうえんサイト「子育て@なら」を運営するとともに、本市の子育て情報を一冊にまとめた「なら子育て情報ブック」を作成・配布します。			指標	奈良市の子育ておうえんサイト「子育て@なら」のページビュー数	平成26年度実績値	113,500
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) 2,550 千円	(予算) 2,390 千円	(予算) 千円	(予算) 千円	(予算) 千円
	(決算) 2,545 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円
目標値と実績値	(目標) 120,000	(目標) 126,000	(目標) 132,000	(目標) 138,000	(目標) 144,000
	(実績) 125,494	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
取り組み内容・成果等	奈良市の子育て情報をわかりやすく掲載した子育ておうえんサイト「子育て@なら」を運営するとともに、奈良市の子育て情報を一冊にまとめた子育て情報ブックを作成した。また、子育て支援PR活動として市立保育所等へ奈良市の子育て応援キャラクターの着ぐるみ訪問やPR用品の作成し周知を行うことで、保護者である子育て世代等に向け、奈良市が子育て支援に積極的に取り組んでいることをPRした。				
取り組みの方向性(課題・改善点等)	ホームページをより多くの人に利用してもらえるよう、アンケート調査とアクセス解析を行い、より魅力あるコンテンツへの更新を定期的に行うとともに、いろいろな情報を収集できるようFacebook、LINEの情報も充実していく。また、奈良市の子育て応援キャラクターの着ぐるみを様々なイベント等に派遣するなど、奈良市が子育て支援事業に積極的に取り組んでいることを全国に向かってPRしていく。				

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<p>・子育て情報をわかりやすく掲載した子育ておうえんサイト「子育て@なら」の運営、市の子育て情報を一冊にまとめた「なら子育て情報ブック」の作成・配布など一定の評価はできる。配布してからの活用状況や、中学生・高校生などの授業での活用など新しい視点も必要かと考える。</p> <p>・なら子育て情報ブックは非常に見やすくできているが、冊子には情報量等に限界があるため、ホームページなどの活用を積極的に行っていただきたい。</p>				
意見等に対する対応状況	子育て情報の発信については、サイトや冊子だけでなく、SNSによる情報発信なども積極的に行っていく。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	73	事業名	家庭児童相談室運営事業	部名	子ども未来部	課名	子育て相談課
事業内容	子どもの生活習慣、学校生活、家庭環境等、児童と家庭の福祉の向上を図るため、家庭児童相談室を設置しています。			指標	家庭児童相談員数（人）	平成26年度実績値	2
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) 4,493 千円	(予算) 4,472 千円	(予算) 千円	(予算) 千円	(予算) 千円
	(決算) 4,432 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円
目標値と実績値	(目標) 2	(目標) 2	(目標) 2	(目標) 2	(目標) 2
	(実績) 2	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
取り組み内容・成果等	平成26年度は3,757件、平成27年度は2,077件の相談を受けた。児童虐待、離婚、DV、子育て等の様々な相談に応じ、個々の子どもや家庭に適切な指導助言を行った。				
取り組みの方向性(課題・改善点等)	市民の身近な相談室として活用されるよう広報活動を積極的に行うとともに、県中央子ども家庭相談センター、保健所、学校、民生児童委員等との連絡協調を緊密に図り、家庭の福祉の向上に努める。				

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> 「子育て相談」ができる場が広がっているが、利用者の立場からみると、相談としてどのような種類があり、どういった内容の相談が可能なのか、その全体像と、ニーズに合わせて選択していきける情報が欲しいように思う。 庁外へ出かけて相談業務を行う体制を充実させてはどうか。 				
意見等に対する対応状況	<ul style="list-style-type: none"> 広報活動の中で、子育てのニーズに合わせた情報提供を検討したい。 子育て支援センターや民生児童委員等に研修を行い、相談体制の充実を検討したい。 				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O			
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A			
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	B			

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	74	事業名	幼稚園や保育所の子育て相談	部名	子ども未来部	課名	こども園推進課
事業内容	幼稚園や保育所への電話や来園により、子育ての悩みや育児相談を行います。			指標	—	平成26年度実績値	—
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	— 千円	(予算)	— 千円	(予算)	— 千円	(予算)	— 千円	(予算)	— 千円
	(決算)	— 千円	(決算)	— 千円	(決算)	— 千円	(決算)	— 千円	(決算)	— 千円
目標値と実績値	(目標)	—	(目標)	—	(目標)	—	(目標)	—	(目標)	—
	(実績)	—	(実績)	—	(実績)	—	(実績)	—	(実績)	—
取り組み内容・成果等	全ての市立幼稚園・保育所において、園長をはじめとし、全職員が対応し、ニーズが多様化する中、悩みを抱える保護者の相談に、きめ細やかな対応を行ってきた。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	全ての市立幼稚園・保育所において、相談事業の実施している。自園の取組や子どもの成長をホームページに掲載するなど、情報発信に努め、保護者の理解を得ながら安心して子育てができるよう相談対応の充実を図っているが、さらに情報発信の工夫に努めていく。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<p>・「子育て相談」ができる場が広がっているが、利用者の立場からみると、相談としてどのような種類があり、どういった内容の相談が可能なのか、その全体像と、ニーズに合わせて選択していただける情報が欲しいように思う。</p> <p>・情報発信をしていくことは大切なので、今後も個人情報の問題に留意しながら引き続きお願いしたい。子育てや育児相談は園の教員が当たることは難しいので、助言者を配置する必要があるのではと思う。または、そこから別事業所へ繋いでいくことが必要かと思われる。</p>				
意見等に対する対応状況	<p>・施設で実施している「子育て相談」の情報発信を充実し、さらに利用してもらえるように努める。</p> <p>・子育てや育児相談は、日々共に生活をし、子どもの成長に直接携わっている園職員の役割が大事であり大きいと考えている。目の前の子どもの成長を保護者と共に喜び、相談し、共に歩んでいくことが求められる。そのためには保護者との信頼関係を深め、保護者にも子どもにも寄り添って支援していく必要がある。この関係性が十分に成されるように、各専門機関や関係所管も共に支援をおこなっている。それぞれの役割を生かした組織体制で子育て支援を充実させていけるようにしていく。</p>				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	B				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	C				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	75	事業名	家庭教育推進事業	部名	教育総務部	課名	生涯学習課
事業内容	子どもや家庭教育を取り巻く諸問題の解決と家庭の教育力の向上を図るため、公民館を拠点に地域で取り組む家庭教育支援の仕組みを構築します。			指標	「家庭教育支援事業」を実施している公民館数（館）	平成26年度実績値	1
				量の見込みと確保方策（事業計画第5章）対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	800 千円	(予算)	234 千円	(予算)	千円	(予算)	千円	(予算)	千円
	(決算)	798 千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円
目標値と実績値	(目標)	5	(目標)	6	(目標)	7	(目標)	8	(目標)	9
	(実績)	5	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	平成25、26年度に文部科学省委託事業として、公民館を軸に、地域住民で家庭教育の課題を抽出し、解決していくモデル事業を実施し、新たな家庭教育支援の仕組みを構築した。この取組をもとに、平成27年度から「家庭教育支援事業」として、公民館5館において取組を実施した。									
取り組みの方向性（課題・改善点等）	「家庭教育支援事業」の仕組みを定着させ、市域全体に広がるよう、この取組を実施する公民館数を増やしていく。また、この取組の成果を公開し、情報共有することにより、同じ課題に直面している地域の課題解決につなげるなど地域間の交流・連携も図っていく。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	—				
意見等に対する対応状況	—				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O				
子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	B				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	76	事業名	子ども医療費助成	部名	子ども未来部	課名	子ども育成課
事業内容	健康保険に加入している中学校修了前（15歳到達後最初の3月31日まで）の子どもを対象に、保険診療の自己負担額（入院時の食事療養費は除く）から一部負担金を除いた額を助成します。ただし、中学生は入院のみの助成です。			指標	—	平成26年度実績値	—
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	648,316 千円	(予算)	685,000 千円	(予算)	千円	(予算)	千円	(予算)	千円
	(決算)	637,175 千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円
目標値と実績値	(目標)	—	(目標)	—	(目標)	—	(目標)	—	(目標)	—
	(実績)	—	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	平成23年8月から、助成対象を「就学前の子ども」から「中学校修了前までの子ども」に拡大し、平成26年4月からは、小中学生の入院の一部負担金を減額した。子どもの健やかな成長の一助になったと考える。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	平成28年8月からは助成対象を更に拡大し、中学生の通院も助成対象とする。これにより中学校修了までの子どものすべての保険診療が助成対象となり、子どもの健やかな成長により一層寄与するものと考えられる。 また、国による子ども医療費助成の早期創設の要望も、国に対して、引き続き行っていく。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	A				
子ども・子育て会議における意見等	・中学生の通院まで助成対象を拡大するなど評価が高いのはわかるが、今なお償還払い（一旦立替が必要）制度であり、利便性としては保護者サイドからの評価は低い。国の制度上の問題（現物給付ではペナルティ発生）が大きいのは分かるが、子どもの貧困が社会問題化するなか県に倣えではなく、本計画、本条例の理念からも先行実施すべき課題であると考えられる。				
意見等に対する対応状況	現在、国において現物給付に対する国庫負担金の減額調整措置の廃止（ペナルティ廃止）について検討されていることから、国が廃止の具体的な方向性を示してから、助成方法の見直し（現物給付方式）を検討していく。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O			
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A			
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—			

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	77	事業名	就園奨励費補助	部名	子ども未来部	課名	保育所・幼稚園課
事業内容	私立幼稚園に通う保護者の経済的負担の軽減を図ります。			指標	補助限度額について、本市の基準額が国の基準を下回っている階層の数	平成26年度実績値	11
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	107,000 千円	(予算)	107,000 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	107,254 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	11	(目標)	11	(目標)	0	(目標)	0	(目標)	0
	(実績)	11	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	幼児教育の普及および充実のため、保護者の所得状況に応じて経済的負担を軽減するとともに、公私立幼稚園間における保護者負担の格差の是正を図ることを目的に、私立幼稚園設置者を通して幼稚園就園奨励費を保護者に交付した。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	子ども・子育て支援新制度に移行していない私立幼稚園に通う園児の保護者に対しては、幼稚園就園支援事業を継続して実施するとともに、補助限度額と補助対象者の拡充について検討を行う。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	C				
子ども・子育て会議における意見等	・財政的にも厳しい状況であることも理解できるが、私立幼稚園にも子育て支援の一端を担う社会的役割があることを、また私立の特色ある教育を是非受けさせたいと願う保護者への援助が少しでも大きくなることに期待したい。				
意見等に対する対応状況	幼児期の教育は、生涯にわたり人格形成の基礎を培うものであり、すべての子どもに質の高い幼児教育を保障するため、引き続き、事業継続及び拡充を検討していく。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O			
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	B			
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	C			

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	78	事業名	就学援助	部名	教育総務部	課名	教育総務課
事業内容	小・中学校の就学が経済的に困難な世帯に必要な援助を行い、安心して義務教育を受けられる環境を整えます。			指標	—	平成26年度実績値	—
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	200,394 千円	(予算)	211,616 千円	(予算)	千円	(予算)	千円	(予算)	千円
	(決算)	188,548 千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円
目標値と実績値	(目標)	—	(目標)	—	(目標)	—	(目標)	—	(目標)	—
	(実績)	—	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	事業の対象である、経済的な理由により就学が困難な世帯に対し周知できるよう、年度当初及び申請期間前にお知らせ文書を配布している。また、しみんだより・ホームページによる広報を行っている。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	対象世帯に対する周知を推進するため、学校担当者への周知、関連事業担当課との連携を進め、より広く事業の実施・内容・申請方法を広報する。また、より簡単に申請することができるように、申請方法の改善を行っていく。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	・子どもの貧困が社会問題化するなか、担当課評価にもあるよう周知が不十分であり対象に該当するかどうか分りにくいのではないかと。保育料のように市民税額など所得階層から対象者を選定し市からの個別通知方式の採用を検討してはどうか。 ・就学援助などの申請方法の改善に期待する。				
意見等に対する対応状況	周知について、奈良市立小中学校全児童生徒に対して、4月当初・申請時期直前にお知らせを配布しているほか、認定の目安の収入も示している。申請方法は、今年度よりホームページからのダウンロード可能とするなど改善を進めている。今後も周知を含め、制度改善に努めたい。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O			
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A			
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—			

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	79	事業名	特別支援教育就学奨励事業	部名	教育総務部	課名	教育総務課
事業内容	特別支援学級への就学のために必要な援助を行い、特別支援学級に在籍する児童・生徒が安心して義務教育を受けられる環境を整えます。			指標	—	平成26年度実績値	—
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	16,526 千円	(予算)	18,770 千円	(予算)	千円	(予算)	千円	(予算)	千円
	(決算)	12,121 千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円
目標値と実績値	(目標)	—	(目標)	—	(目標)	—	(目標)	—	(目標)	—
	(実績)	—	(実績)	—	(実績)	—	(実績)	—	(実績)	—
取り組み内容・成果等	奈良市立小中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者の経済的負担を軽減するため、学校より全ての対象者に対し周知し、申請または辞退の確認を行っている。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	国の補助事業であり、今後も特別支援学級に在籍する小中学生が、安心して義務教育を受けることができるよう、国の基準に沿って継続実施をしていく。また、学校を通じた保護者へのお知らせ文書の配布を継続し、制度内容や申請手続きについて、早期に告知するよう努めていく。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	・早期告知に努めていただきたい。				
意見等に対する対応状況	現在、新入学児童生徒に対しては入学前の学校説明会時に、在学児童生徒に対しても新学期開始前に、学校を通じて案内文を保護者に配布している。さらに、奨励費申請時にも学校を通じて案内文を保護者に配布している。今後も保護者への早期時期からの周知に努めたい。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O			
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A			
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—			

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	80	事業名	ひとり親家庭等医療費助成	部名	子ども未来部	課名	子ども育成課
事業内容	健康保険に加入しているひとり親家庭の父または母と18歳未満(18歳到達後最初の3月31日まで)の子や父母のいない18歳未満の子を対象に、保険診療の自己負担額(入院時の食事療養費・生活療養費は除く)から一部負担金を除いた額を助成します。			指標	—	平成26年度実績値	—
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	188,075 千円	(予算)	180,220 千円	(予算)	千円	(予算)	千円	(予算)	千円
	(決算)	187,256 千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円
目標値と実績値	(目標)	—	(目標)	—	(目標)	—	(目標)	—	(目標)	—
	(実績)	—	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	平成23年8月から助成対象を父子家庭にも拡大し、健康保険に加入しているひとり親家庭の父又は母と18歳未満の児童を対象に医療費の一部を助成した。ひとり親家庭等の経済的な負担の軽減の一助になったと考える。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	今後も引き続き、制度の周知・啓発に努める。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	A				
子ども・子育て会議における意見等	・ひとり親家庭の問題は多岐にわたっているため、支援の仕方、方法は個々違うので大変難しい問題ではあるが、専門家のアドバイスも交えながらより一層の事業展開に向けて継続的な取り組みに期待したい。あわせて心のケアについても必要であれば支援されたい。				
意見等に対する対応状況	ひとり親家庭への経済的支援を行うとともに、支援が必要な家庭においては、子育て相談課等の関係課との連携を図る。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O			
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A			
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—			

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	81	事業名	ひとり親家庭等相談	部名	子ども未来部	課名	子育て相談課
事業内容	母子家庭、父子家庭、寡婦または離婚前の方に対し、生活や家庭、子どもの養育、就職や自立の支援、母子及び父子並びに寡婦福祉資金の利用等の相談に応じます。			指標	相談件数（件）	平成26年度実績値	1,787
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	4,413 千円	(予算)	4,413 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	4,356 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	1,600	(目標)	1,600	(目標)	1,600	(目標)	1,600	(目標)	1,600
	(実績)	1,858	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	平成26年度延べ1,787件、平成27年度延べ1,858件の相談があった。また、相談も多岐にわたり、各種制度の利用の促しや、関係機関につなぐことで自立に向けての相談に応じることができた。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	様々な社会的要因などにより、ひとり親家庭が増加傾向にあり、今後の相談も多岐にわたると考えられる。より多くのひとり親家庭等に、支援制度の情報などを提供するとともに、自立支援プログラム策定など、関係機関との連携を行い、自立への支援を行っていく。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<p>・ひとり親家庭の問題は多岐にわたっているため、支援の仕方、方法は個々違うので大変難しい問題ではあるが、専門家のアドバイスも交えながらより一層の事業展開に向けて継続的な取り組みに期待したい。あわせて心のケアについても必要であれば支援されたい。</p> <p>・目標を大きく上回っており、引き続き支援登録者の増加を図っていただきたい。関係機関との連携より、ワンストップの相談窓口を目指していただきたい。</p>				
意見等に対する対応状況	引き続き、相談者の話を傾聴し、ひとりひとりの状況に応じたきめ細やかな相談体制により、必要な制度がスムーズに利用できるよう母子家庭等就業自立センターや庁内関連部署、関係機関との連携を図る。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O				
子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	B				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	82	事業名	ひとり親家庭等日常生活支援事業	部名	子ども未来部	課名	子育て相談課
事業内容	修学や求職等の自立に必要な理由や疾病等の社会的理由で一時的に生活援助や保育サービスが必要な母子家庭、父子家庭、寡婦の世帯に、家庭生活支援員を派遣します。			指標	ひとり親家庭等日常生活支援事業の延べ利用回数(回)	平成26年度実績値	7
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	450 千円	(予算)	450 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	233 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	10	(目標)	10	(目標)	15	(目標)	20	(目標)	25
	(実績)	28	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	平成26年度は7件、平成27年度は28件の利用があった。ひとり親家庭等が子育てと就業等を両立するため必要な、緊急時の生活援助や子どもの保育サービスを行った。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	ひとり親家庭の子育てと仕事等の社会両立のために必要な制度であり、関係機関と協力し今後もより効果的に周知を行うことで、登録者の増加と利用促進を図る。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり親家庭の問題は多岐にわたっているため、支援の仕方、方法は個々違うので大変難しい問題ではあるが、専門家のアドバイスも交えながらより一層の事業展開に向けて継続的な取り組みに期待したい。あわせて心のケアについても必要であれば支援されたい。 ・目標を大きく上回っており、引き続き支援登録者の増加を図っていただきたい。関係機関との連携より、ワンストップの相談窓口を目指していただきたい。 				
意見等に対する対応状況	引き続き、ホームページや市民だよりにより広報を行い情報の周知を行うとともに、登録者の話を傾聴し、母子家庭等就業自立センターや庁内関連部署、関係機関との連携を図る。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O			
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A			
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—			

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	83	事業名	母子家庭等就業・自立支援センター事業	部名	子ども未来部	課名	子育て相談課
事業内容	母子家庭の母、父子家庭の父、寡婦の自立を支援するため、就業相談、就業支援講習会、就業情報提供等の施策を総合的・計画的に実施します。			指標	利用人数（人）	平成26年度実績値	3,843
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	5,262 千円	(予算)	5,452 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	4,501 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	3,800	(目標)	4,000	(目標)	4,000	(目標)	4,000	(目標)	4,000
	(実績)	4,285	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	平成26年度は3843人、平成27年度は4285人の利用があった。母子家庭の母や父子家庭の父などの就業自立支援は、生活の基盤を作る重要な支援であり、求人情報の提供や就業に関する相談を受ける。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	平成28年度から養育費等相談事業をセンター事業として実施することにより、支援の充実を目指す。今後も関連機関との連携強化や広報の徹底により新規利用者の拡大を図る。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<p>・ひとり親家庭の問題は多岐にわたっているため、支援の仕方、方法は個々違うので大変難しい問題ではあるが、専門家のアドバイスも交えながらより一層の事業展開に向けて継続的な取り組みに期待したい。あわせて心のケアについても必要であれば支援されたい。</p> <p>・目標を大きく上回っており、引き続き支援登録者の増加を図っていただきたい。関係機関との連携より、ワンストップの相談窓口を目指していただきたい。</p>				
意見等に対する対応状況	引き続き、相談者ひとりひとりの状況に応じたきめ細やかな相談体制により、就労に結び付け自立を支援するとともに、必要な制度が利用できるよう母子・父子自立支援員や関係機関との連携を図る。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	84	事業名	母子家庭等自立支援教育訓練給付金事業	部名	子ども未来部	課名	子育て相談課
事業内容	母子家庭の母、または父子家庭の父の主体的な能力開発の取り組みを支援するもので、母子家庭、父子家庭の自立促進を図るため、教育訓練を受講することが適職につくため必要と認められる場合に、教育訓練給付金を交付します。			指標	母子家庭等自立支援教育訓練給付金事業利用者数（人）	平成26年度実績値	3
				量の見込みと確保方策（事業計画第5章）対象事業			

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	420 千円	(予算)	261 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	104 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	7	(目標)	10	(目標)	15	(目標)	20	(目標)	25
	(実績)	7	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	平成26年度講座受講者5人から申請、年度中の修了者3人に支給、平成27年度講座受講者6人から申請、年度中の修了者7人に支給した。									
取り組みの方向性（課題・改善点等）	主体的な能力開発の取組を支援し、修了者の就労を支援することで、自立を促進していく。 また、あらゆる機会を通じ、制度の周知を行い利用の促進を図っていく。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり親家庭の問題は多岐にわたっているため、支援の仕方、方法は個々違うので大変難しい問題ではあるが、専門家のアドバイスも交えながらより一層の事業展開に向けて継続的な取り組みに期待したい。あわせて心のケアについても必要であれば支援されたい。 ・制度の周知を積極的に行っていたいただきたい。 				
意見等に対する対応状況	ホームページやひとり親家庭等支援情報冊子で制度の周知を行うとともに、修了者の就労を支援するため、母子家庭等就業・自立支援センターの支援員と連携を図る。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O				
子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	85	事業名	母子家庭等高等職業訓練促進給付金等事業	部名	子ども未来部	課名	子育て相談課
事業内容	母子家庭の母、または父子家庭の父が就業に結びつきやすい資格を取得するために養成機関で受講するに際して、高等職業訓練促進給付金を交付することで、受講期間中における生活の不安の解消および生活の負担の軽減を図り、安定した修業環境を提供し、資格取得を容易にします。			指標	母子家庭等高等職業訓練促進給付金等事業の利用人数（人）	平成26年度実績値	35
	量の見込みと確保方策（事業計画第5章）対象事業						該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) 21,169 千円	(予算) 34,289 千円	(予算) 千円	(予算) 千円	(予算) 千円
	(決算) 20,524 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円
目標値と実績値	(目標) 35	(目標) 38	(目標) 41	(目標) 44	(目標) 47
	(実績) 22	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
取り組み内容・成果等	平成26年度35人に支給し修了者は13人、平成27年度22人に支給し修了者は13人であった。修了者は、取得した資格を生かした正規の就労に結びついており、就労支援として必要な事業となっている。				
取り組みの方向性（課題・改善点等）	就業に有利な資格取得を支援することで、正規の就労に結び付け自立を促進していく。また、養成機関と連携を図る他、あらゆる機会を通じ周知を行い、利用の促進を図っていく。				

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり親家庭の問題は多岐にわたっているため、支援の仕方、方法は個々違うので大変難しい問題ではあるが、専門家のアドバイスも交えながらより一層の事業展開に向けて継続的な取り組みに期待したい。あわせて心のケアについても必要であれば支援されたい。 ・制度の周知を積極的に行っていたいただきたい。 				
意見等に対する対応状況	ホームページやひとり親家庭等支援情報冊子での広報のほか、養成機関への制度の周知を行うとともに、修了者の就労を支援するため、母子家庭等就業・自立支援センターの支援員と連携を図る。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O				
子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	86	事業名	公共賃貸住宅における母子・父子世帯向けの優先入居制度の活用	部名	市民生活部	課名	住宅課
事業内容	市営住宅の空家募集において、母子世帯または父子世帯で20歳未満の子がいる世帯に対する優先入居制度を実施します。			指標	母子父子世帯向け住宅の新規募集件数(件)	平成26年度実績値	2
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) 0 千円	(予算) 0 千円	(予算) 0 千円	(予算) 0 千円	(予算) 0 千円
	(決算) 0 千円	(決算) 0 千円	(決算) 0 千円	(決算) 0 千円	(決算) 0 千円
目標値と実績値	(目標) 0	(目標) 0	(目標) 0	(目標) 0	(目標) 0
	(実績) 2	(実績) 0	(実績) 0	(実績) 0	(実績) 0
取り組み内容・成果等	母子父子世帯向けとして2件空家募集し、2件入居した。予算・決算額については、一般向け住宅及び特定目的住宅の空家修繕費に含まれるため、母子父子世帯向け住宅として個別で計上していない。空家募集については、過去の応募状況等を参考に、母子父子世帯向けを含めた特定目的住宅の募集戸数をその都度検討するため、目標値は定めていない。				
取り組みの方向性(課題・改善点等)	今後も現行の取り組み方針を継続する。				

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり親家庭の問題は多岐にわたっているため、支援の仕方、方法は個々違うので大変難しい問題ではあるが、専門家のアドバイスも交えながらより一層の事業展開に向けて継続的な取り組みに期待したい。あわせて心のケアについても必要であれば支援されたい。 ・更なる利用促進に努めていただきたい。 				
意見等に対する対応状況	今後も現行の取り組みを継続し、更なる利用促進の為に、告知方法等の検討を行いたい。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O				
子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	-				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	87	事業名	放課後児童健全育成事業施設における障がい児の受け入れ推進	部名	学校教育部	課名	地域教育課
事業内容	放課後に就労等で保育のできない世帯の小学生を対象に、バンビーホームを開設しており、障がいの程度・内容に応じて指導員の加配をしながら、障がい児の受け入れを推進します。			指標	障がい児受け入れ施設数 (箇所)	平成26年度 実績値	38
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) 608,000 (放課後児童健全育成事業を含む) 千円	(予算) 629,320 (放課後児童健全育成事業を含む) 千円	(予算) 千円	(予算) 千円	(予算) 千円
	(決算) 581,265 (放課後児童健全育成事業を含む) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円
目標値と実績値	(目標) 46	(目標) 46	(目標) 46	(目標) 46	(目標) 46
	(実績) 39	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
取り組み内容・成果等	障がいの程度・内容に応じて指導員の加配も考慮しながら、障がい児の受け入れを行った。				
取り組みの方向性 (課題・改善点等)	静養室が未設置のホームもあるため、施設の改善が進めながら、今後も障がい児の受け入れを行っていく。				

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	A				
子ども・子育て会議 における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい児など課題を抱えている子どもたちの声を受け止め、居場所を地域で確保することは、その子のためだけではなく、私たちの社会を豊かにする。課題を抱えている子が人生の主人公として、生き生きと過ごせることは、私たちのまちが、様々な困難や変化に対して、「耐久力・復元力(レジリエンス)」のある社会になっていくのではないかと。 ・該当する親へ、情報が行き届いていない。施設の内容や様子など、もっと突っ込んだ情報発信をして欲しいと思う。 ・進捗状況の評価がAになっているので、引き続き事業の発展に期待する。 				
意見等に対する対応状況	しみんだよりやホームページ等を利用し、入所の案内を含めた更なる情報発信ができるよう努めていきたい。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
子どもに直接的・間接的に 関連する施策ですか	O				
子ども及びその関係者に 対して適切な情報を提供 しましたか	A				
子どもが意見表明や参加 する機会を設けるよう努め ましたか	B				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	88	事業名	短期入所	部名	保健福祉部	課名	障がい福祉課
事業内容	居宅においてその介護を行う方の疾病その他の理由により、障害者支援施設、障害福祉施設等への短期間の入所を必要とする障がい児につき、当該施設に短期間の入所をさせて、入浴、排泄及び食事の介護その他の必要な支援を行います。			指標	実利用者数（人）	平成26年度実績値	178
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	145,000 千円	(予算)	161,000 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	149,007 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	200	(目標)	210	(目標)	220	(目標)	230	(目標)	240
	(実績)	174	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	障がい児が望む生活が地域で送れるよう、相談支援専門員等との相談により子どもの状況に応じた障害福祉サービスが利用できるよう支給決定を行った。 ※予算、目標値ともに障害者・児の合計									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	今後も継続して子どもの状況に応じたサービス決定を行っていく。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	A				
子ども・子育て会議における意見等	<p>・障がい児など課題を抱えている子どもたちの声を受け止め、居場所を地域で確保することは、その子のためだけではなく、私たちの社会を豊かにする。課題を抱えている子が人生の主人公として、生き生きと過ごせることは、私たちのまちが、様々な困難や変化に対して、「耐久力・復元力（レジリエンス）」のある社会になっていくのではないかと。</p> <p>・該当する親へ、情報が行き届いていない。施設の内容や様子など、もっと突っ込んだ情報発信をして欲しいと思う。</p> <p>・進捗状況の評価がAになっているので、引き続き事業の発展に期待する。</p>				
意見等に対する対応状況	障がい児が望む生活が地域で送れるよう、子どもに応じたサービスの提供を相談支援事業所等と検討し提供しているが、今後も子どもや保護者の意向を把握しながらサービスの提供を行いたい。また、情報についても支援者等を通じて啓発にも努めていきたい。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O				
子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	89	事業名	障害児通所支援	部名	保健福祉部	課名	障がい福祉課
事業内容	障がい児を児童発達支援センター等の施設に通わせ、年齢に応じて日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の伝達及び集団生活への適応訓練を行います。			指標	障害児相談支援事業所による利用計画作成割合 (%)	平成26年度実績値	39.7
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	752,000 千円	(予算)	810,071 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	758,529 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	80	(目標)	82	(目標)	84	(目標)	86	(目標)	88
	(実績)	90	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	適正な通所支援の利用となるよう障害児相談支援事業所による相談や利用計画作成を奨励し目標に達した。セルフプランも可能だが利用者親子に対する客観的な助言や親子に寄り添った支援ができるよう事業所による相談支援の普及を図る。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	障がい児相談支援事業所の親への支援方法や子どもに必要な支援内容について、どの事業所も共通の視点をもちサービスの調整や相談に応じることができるよう、質の向上をさらに図っていく必要がある。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	A				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい児など課題を抱えている子どもたちの声を受け止め、居場所を地域で確保することは、その子のためだけではなく、私たちの社会を豊かにする。課題を抱えている子が人生の主人公として、生き生きと過ごせることは、私たちのまちが、様々な困難や変化に対して、「耐久力・復元力(レジリエンス)」のある社会になっていくのではない。 ・該当する親へ、情報が行き届いていない。施設の内容や様子など、もっと突っ込んだ情報発信をして欲しいと思う。 ・進捗状況の評価がAになっているので、引き続き事業の発展に期待する。 				
意見等に対する対応状況	障害児親子が目指す目標が達成できるよう相談支援事業所等とともに事業の充実を図りたい。また、該当する親へも支援者等を通じて啓発にも努めていく。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O			
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A			
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—			

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	90	事業名	居宅介護	部名	保健福祉部	課名	障がい福祉課
事業内容	居宅において、入浴、排泄及び食事等の介護ならびに生活等に関する相談及び助言その他生活全般にわたる支援を行います。			指標	実利用者数（人）	平成26年度実績値	757
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	921,000 千円	(予算)	916,000 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	900,364 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	800	(目標)	830	(目標)	865	(目標)	900	(目標)	930
	(実績)	792	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	障がい児が望む生活が地域で送れるよう、相談支援専門員等との相談により子どもの状況に応じた障害福祉サービスが利用できるよう支給決定を行った。 ※予算、目標値ともに障害者・児の合計									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	今後も継続して子どもの状況に応じたサービス決定を行っていく。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	A				
子ども・子育て会議における意見等	<p>・障がい児など課題を抱えている子どもたちの声を受け止め、居場所を地域で確保することは、その子のためだけではなく、私たちの社会を豊かにする。課題を抱えている子が人生の主人公として、生き生きと過ごせることは、私たちのまちが、様々な困難や変化に対して、「耐久力・復元力(レジリエンス)」のある社会になっていくのではないかと。</p> <p>・該当する親へ、情報が行き届いていない。施設の内容や様子など、もっと突っ込んだ情報発信をして欲しいと思う。</p> <p>・進捗状況の評価がAになっているので、引き続き事業の発展に期待する。</p>				
意見等に対する対応状況	<p>障害児が望む生活が地域で送れるよう、子どもに応じたサービスの提供を相談支援事業所等と検討し提供しているが、今後も子どもや保護者の意向を把握しながらサービスの提供を行いたい。また、情報についても支援者等を通じて啓発にも努めていきたい。</p>				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O			
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A			
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—			

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	91	事業名	行動援護	部名	保健福祉部	課名	障がい福祉課
事業内容	知的や精神に重い障がいがあり、一人で行動することが難しい障がい者児が対象です。 対象児のことをよくわかっているヘルパーが、そばにいて、安心して外出し、活動できるよう支援を行います。			指標	利用者数（人）	平成26年度実績値	194
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	228,000 千円	(予算)	253,000 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	232,136 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	200	(目標)	210	(目標)	220	(目標)	230	(目標)	240
	(実績)	191	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	障がい児が望む生活が地域で送れるよう、相談支援専門員等との相談により子どもの状況に応じた障害福祉サービスが利用できるよう支給決定を行った。 ※予算、目標値ともに障害者・児の合計									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	今後も継続して子どもの状況に応じたサービス決定を行っていく。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	A				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい児など課題を抱えている子どもたちの声を受け止め、居場所を地域で確保することは、その子のためだけではなく、私たちの社会を豊かにする。課題を抱えている子が人生の主人公として、生き生きと過ごせることは、私たちのまちが、様々な困難や変化に対して、「耐久力・復元力(レジリエンス)」のある社会になっていくのではないかと。 ・該当する親へ、情報が行き届いていない。施設の内容や様子など、もっと突っ込んだ情報発信をして欲しいと思う。 ・進捗状況の評価がAになっているので、引き続き事業の発展に期待する。 				
意見等に対する対応状況	障害児が望む生活が地域で送れるよう、子どもに応じたサービスの提供を相談支援事業所等と検討し提供しているが、今後も子どもや保護者の意向を把握しながらサービスの提供を行いたい。また、情報についても支援者等を通じて啓発にも努めていきたい。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	92	事業名	奈良市歯科診療	部名	保健福祉部	課名	障がい福祉課
事業内容	みどりの家歯科診療所（総合福祉センター内）において、障がい児の歯科検診及び治療を行います。			指標	延べ治療人数（人）	平成26年度実績値	160
				量の見込みと確保方策（事業計画第5章）対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	10,281 千円	(予算)	9,032 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	9,993 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	162	(目標)	164	(目標)	166	(目標)	168	(目標)	170
	(実績)	157	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	一般の歯科医院での治療が困難な障がい児・者の口腔内諸疾患を予防するため、奈良市歯科医師会に業務委託し、みどりの家歯科診療所で歯科検診および歯科治療を実施している。									
取り組みの方向性（課題・改善点等）	年2回の歯科検診とともに、治療が必要な障がい児を順に治療している。また、必要に応じて定期的に診察を行うなどして重症化を未然に防ぎ、軽症のうちに治療する方針で取り組んでいる。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい児など課題を抱えている子どもたちの声を受け止め、居場所を地域で確保することは、その子のためだけではなく、私たちの社会を豊かにする。課題を抱えている子が人生の主人公として、生き生きと過ごせることは、私たちのまちが、様々な困難や変化に対して、「耐久力・復元力（レジリエンス）」のある社会になっていくのではないかと。 ・該当する親へ、情報が行き届いていない。施設の内容や様子など、もっと突っ込んだ情報発信をして欲しいと思う。 ・虫歯罹患率の減少にも取り組んでほしい。 				
意見等に対する対応状況	<ul style="list-style-type: none"> ・健康増進課や奈良市歯科医師会を通じて奈良市内の歯科に案内チラシを配布して必要な親子への周知を図っている。 ・歯科検診および診察時に指導を行い予防に取り組んでいる。 				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○			
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A			
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—			

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	93	事業名	日中一時支援	部名	保健福祉部	課名	障がい福祉課
事業内容	家族の就労支援や一時的な休息を目的に、障がい児の一時的な介助や見守りが必要な場合に、日帰り施設を利用することができます。 ※施設入所者及び病院に入院されている方は、利用できません。			指標	延べ利用回数(回)	平成26年度実績値	6,670
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	18,200 千円	(予算)	13,040 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	13,720 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	8,000	(目標)	8,400	(目標)	8,900	(目標)	8,900	(目標)	8,900
	(実績)	5,729	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	利用者に寄り添い、個々の状況に応じてサービスの提供を行った。 ※予算、目標値ともに障害者・児の合計									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	ニーズが多様化している中で、対象者が家庭での時間も大切にできるよう利用方法の見直しをしており、適時説明を行い事業を推進していく。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	・障がい児など課題を抱えている子どもたちの声を受け止め、居場所を地域で確保することは、その子のためだけではなく、私たちの社会を豊かにする。課題を抱えている子が人生の主人公として、生き生きと過ごせることは、私たちのまちが、様々な困難や変化に対して、「耐久力・復元力(レジリエンス)」のある社会になっていくのではない。 ・該当する親へ、情報が行き届いていない。施設の内容や様子など、もっと突っ込んだ情報発信をして欲しいと思う。 ・利用方法の見直しを行うことによって利用回数の増加に繋がっていただきたい。				
意見等に対する対応状況	限られた財源の中で実施しており、より多くの方に利用していただけるようするためには、事業内容の周知と適正な使い方の周知が必要と考えるため、丁寧に事業を進めたい。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O			
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A			
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—			

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	94	事業名	移動支援	部名	保健福祉部	課名	障がい福祉課
事業内容	障がい児の外出及び余暇活動等の移動を支援します。ただし、通学及び社会通念上適当でない外出を除き、原則として1日の範囲内で終わるものに限ります。 ※病院に入院されている方は、利用できません。			指標	実利用者数（人）	平成26年度実績値	1,007
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	243,000 千円	(予算)	237,000 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	229,195 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	1,100	(目標)	1,100	(目標)	1,200	(目標)	1,200	(目標)	1,200
	(実績)	1,079	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	利用者に寄り添い、個々の状況に応じてサービスの提供を行った。 ※予算、目標値ともに障害者・児の合計									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	対象者が増加していく中で、より多くの方にサービスを利用できるように時間数の上限を対象者別に設けており、適時説明を行い事業を推進していく。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい児など課題を抱えている子どもたちの声を受け止め、居場所を地域で確保することは、その子のためだけでなく、私たちの社会を豊かにする。課題を抱えている子が人生の主人公として、生き生きと過ごせることは、私たちのまちが、様々な困難や変化に対して、「耐久力・復元力(レジリエンス)」のある社会になっていくのではない。 ・該当する親へ、情報が行き届いていない。施設の内容や様子など、もっと突っ込んだ情報発信をして欲しいと思う。 ・他課との連携により実施されていると思われるが、医療関係者の協力や、大学、専門学校等で障がい児について学ぶ学生のボランティアなどを取り入れ、双方の学びと取り組みに対する支援を取り入れながら評価があげられるような事業になれば良いと考える。 ・時間数の上限を守りながら、スタッフの充実を図りたい。 				
意見等に対する対応状況	限られた財源の中で実施しており、より多くの方に利用していただけるようするためには、事業内容の周知と適正な使い方の周知が必要と考えるため、丁寧に事業を進めたい。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	95	事業名	みどり園	部名	保健福祉部	課名	障がい福祉課
事業内容	総合福祉センター内の障がい児親子通園室「みどり園」において、就学前の障がい児を対象に、保護者とともに通園し日常生活において必要な指導を行い、集団生活への適応を促すよう療育を実施しています。また、家族支援も行っています。			指標	在籍者数（人）	平成26年度実績値	120
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	29,595 千円	(予算)	27,929 千円	(予算)	千円	(予算)	千円	(予算)	千円
	(決算)	29,426 千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円
目標値と実績値	(目標)	123	(目標)	126	(目標)	129	(目標)	132	(目標)	135
	(実績)	123	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	障がい児が親子で集団活動を経験し、児の持つ力を発揮するための自信を得る機会になった。保護者勉強会を頻繁に行い、家族が児の特性を理解することで親子の関係がよりよいものとなり、親子ともども成長、向上することができた。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	随時入園可能で、その利点は重要だが、通園児数増加とともに各々への支援が薄くなる懸念される。また、家族支援を十分に行うためには職員の資質向上が必要である。 親子通園が重要視されている今、周囲との関わり方に不安がある親子の受け皿となるには、発達や特性に応じ継続的な支援ができるよう関係機関との連携など内容を充実させていかなければならない。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい児など課題を抱えている子どもたちの声を受け止め、居場所を地域で確保することは、その子のためだけではなく、私たちの社会を豊かにする。課題を抱えている子が人生の主人公として、生き生きと過ごせることは、私たちのまちが、様々な困難や変化に対して、「耐久力・復元力(レジリエンス)」のある社会になっていくのではない。 ・該当する親へ、情報が行き届いていない。施設の内容や様子など、もっと突っ込んだ情報発信をして欲しいと思う。 ・他課との連携により実施されていると思われるが、医療関係者の協力や、大学、専門学校等で障がい児について学ぶ学生のボランティアなどを取り入れ、双方の学びと取り組みに対する支援を取り入れながら評価があげられるような事業になれば良いと考える。 				
意見等に対する対応状況	<ul style="list-style-type: none"> ・市内4箇所の福祉センターでの育児相談で、保護者の気持ちに寄り添った支援を行っており、みどり園などを紹介している。 ・現在、大学の実習を受け入れ、実習終了後の当園でのボランティアも案内している。 				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	A				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	96	事業名	相談支援事業	部名	保健福祉部	課名	障がい福祉課
事業内容	障がい児が、地域で安心して自立した生活を送るために、本人や関係者からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言などを総合的に行います。			指標	障害児相談支援事業所による利用計画作成割合(%)	平成26年度実績値	39.7
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	46,000 千円	(予算)	46,000 千円	(予算)	千円	(予算)	千円	(予算)	千円
	(決算)	28,798 千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円
目標値と実績値	(目標)	80	(目標)	82	(目標)	84	(目標)	86	(目標)	88
	(実績)	90	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	個別事例の検討を障害児相談支援事業所と行うとともに会議等で事業の方向性を説明し、サービスを利用する親子への相談の必要性や相談支援が充実するよう努めた。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	相談支援事業所の質の向上やサービスを提供する事業所との連携を図り適正なサービスを提供していく事が必要。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	A				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい児など課題を抱えている子どもたちの声を受け止め、居場所を地域で確保することは、その子のためだけではなく、私たちの社会を豊かにする。課題を抱えている子が人生の主人公として、生き生きと過ごせることは、私たちのまちが、様々な困難や変化に対して、「耐久力・復元力(レジリエンス)」のある社会になっていくのではない。 ・該当する親へ、情報が行き届いていない。施設の内容や様子など、もっと突っ込んだ情報発信をして欲しいと思う。 ・他課との連携により実施されていると思われるが、医療関係者の協力や、大学、専門学校等で障がい児について学ぶ学生のボランティアなどを取り入れ、双方の学びと取り組みに対する支援を取り入れながら評価があげられるような事業になれば良いと考える。 ・利用計画作成が前年に比べ大きく増加しており、非常に良い。トータルプランとなるよう利用計画書の有効活用をお願いしたい。 				
意見等に対する対応状況	<p>障害児親子が目指す目標が達成できるよう相談支援事業所等の相談体制の充実や他機関との連携も推進したい。また、該当する親へも支援者等を通じて啓発にも努めていく。</p>				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	97	事業名	親子体操教室	部名	保健福祉部	課名	障がい福祉課
事業内容	総合福祉センター体育館において障がい児と保護者が、一緒にスポーツ・レクリエーションを楽しみながら、健康の維持・増進を図ることを目的に実施しています。			指標	延べ利用者数（人）	平成26年度実績値	1,931
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	175 千円	(予算)	175 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	161 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	1,930	(目標)	1,930	(目標)	1,930	(目標)	1,930	(目標)	1,930
	(実績)	1,914	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	保護者だけではなく兄弟姉妹等の家族を含め多くの参加があり、日々のスポーツ活動・レクリエーションを楽しく継続して行うことで、健康の維持・増進を図ることが出来た。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	継続した参加者が多くみられるため、新規参加者の拡大を図りたい。 また、参加者数が増えることにより、職員だけで目の届かないところが多くなるおそれがあり、参加者の増加数によっては、ボランティアを確保するなどの方策を検討していかなければならない。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	C				
子ども・子育て会議における意見等	<p>・障がい児など課題を抱えている子どもたちの声を受け止め、居場所を地域で確保することは、その子のためだけではなく、私たちの社会を豊かにする。課題を抱えている子が人生の主人公として、生き生きと過ごせることは、私たちのまちが、様々な困難や変化に対して、「耐久力・復元力(レジリエンス)」のある社会になっていくのではないかと。</p> <p>・該当する親へ、情報が行き届いていない。施設の内容や様子など、もっと突っ込んだ情報発信をして欲しいと思う。</p> <p>・他課との連携により実施されていると思われるが、医療関係者の協力や、大学、専門学校等で障がい児について学ぶ学生のボランティアなどを取り入れ、双方の学びと取り組みに対する支援を取り入れながら評価があげられるような事業になれば良いと考える。</p> <p>・継続した参加者が多くみられることは、市民の方々によく理解していただいていると考えられるので、積極的に参加人数の増加を図る一方、安全面にも十分配慮していただきたい。</p>				
意見等に対する対応状況	他事業等に参加のボランティアへの声掛け等を主に行っており、継続した取り組みが中々できていないため、常に目につくように掲示する等、アプローチの方法を検討する。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	B				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	A				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	98	事業名	子ども発達支援事業	部名	子ども未来部	課名	子育て相談課
事業内容	心理的な発達の障がい並びに行動及び情緒の障がいのある就学前の幼児又は発達支援の必要があると認められる就学前の幼児とその保護者に対して、相談・療育の場を設け、心理的な発達を関係機関と協働しながら一貫して支援します。			指標	子ども発達センターが療育相談を行った実人数(人)	平成26年度実績値	319
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) 23,485 千円	(予算) 28,212 千円	(予算) 千円	(予算) 千円	(予算) 千円
	(決算) 19,815 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円
目標値と実績値	(目標) 407	(目標) 377	(目標) 377	(目標) 377	(目標) 377
	(実績) 356	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
取り組み内容・成果等	各種相談事業を行いました。 電話相談 281件 来所相談 278件 出張相談 18件 園巡回相談 198件 園巡回指導 1回 専門相談 250件				
取り組みの方向性(課題・改善点等)	6歳未満の子どもの数は年々減少しているが、発達に支援が必要な子どもは年々増加傾向にある。保護者や支援者が発達障がいについての正しい知識の習得と子どもへの理解、子どもの発達段階に応じた発達支援ができるよう、相談の充実を図る。また、療育の場としては関係部署と連携しながら、支援の充実を図る。				

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい児など課題を抱えている子どもたちの声を受け止め、居場所を地域で確保することは、その子のためだけではなく、私たちの社会を豊かにする。課題を抱えている子が人生の主人公として、生き生きと過ごせることは、私たちのまちが、様々な困難や変化に対して、「耐久力・復元力(レジリエンス)」のある社会になっていくのではない。 ・該当する親へ、情報が行き届いていない。施設の内容や様子など、もっと突っ込んだ情報発信をして欲しいと思う。 ・他課との連携により実施されていると思われるが、医療関係者の協力や、大学、専門学校等で障がい児について学ぶ学生のボランティアなどを取り入れ、双方の学びと取り組みに対する支援を取り入れながら評価があげられるような事業になれば良いと考える。 ・保護者が支援事業について、より良く理解できるように広報活動を精力的に行っていただきたい。 				
意見等に対する対応状況	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て情報との関連性を高めるべくホームページの充実を図り、幼児や保護者が集う身近な場で子ども発達センターの周知を図る。 ・地域や関係機関との連携と協働に努める。 				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	99	事業名	長期療養児支援	部名	保健所	課名	健康増進課
事業内容	障がい児が適切な医療ケアや医療・福祉制度を利用しながら在宅で生活が送れることや、保護者は地域の人や専門職の支えを受けながら安心して子育てができるように、訪問や相談等を実施します。			指標	家庭訪問、関係機関等へ訪問等、延べ支援回数（回）	平成26年度実績値	231
				量の見込みと確保方策（事業計画第5章）対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	49 千円	(予算)	38 千円	(予算)	千円	(予算)	千円	(予算)	千円
	(決算)	19 千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円
目標値と実績値	(目標)	250	(目標)	250	(目標)	250	(目標)	250	(目標)	250
	(実績)	215	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	家庭訪問や医療・教育・障害福祉関係機関との連絡調整を行い、成長に合わせ支援する。対象者数44名、家庭訪問、関係機関等への訪問等、延べ支援回数は215回。長期療養児交流会、支援者研修会を年1回、支援者会議を年3回実施した。									
取り組みの方向性（課題・改善点等）	支援対象者の医療ケア、支援内容が多様多様になってきており、今後も関係機関と連携し継続支援を実施。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい児など課題を抱えている子どもたちの声を受け止め、居場所を地域で確保することは、その子のためだけではなく、私たちの社会を豊かにする。課題を抱えている子が人生の主人公として、生き生きと過ごせることは、私たちのまちが、様々な困難や変化に対して、「耐久力・復元力（レジリエンス）」のある社会になっていくのではない。 ・該当する親へ、情報が行き届いていない。施設の内容や様子など、もっと突っ込んだ情報発信をして欲しいと思う。 ・他課との連携により実施されていると思われるが、医療関係者の協力や、大学、専門学校等で障がい児について学ぶ学生のボランティアなどを取り入れ、双方の学びと取り組みに対する支援を取り入れながら評価があげられるような事業になれば良いと考える。 				
意見等に対する対応状況	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者へは家庭訪問や長期療養児交流会などで個人のニーズに合わせて情報提供を行っている。 ・今後も他課や医療機関と連携し支援をしていきたい。また学生との連携については双方のニーズの把握に努めていく。 				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	B				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	100	事業名	被虐待児童対策地域協議会の活用	部名	子ども未来部	課名	子育て相談課
事業内容	児童虐待の未然防止・早期発見・再発防止のため、児童相談所、医療機関、民生児童委員協議会連合会、弁護士、警察などの関係機関が連携して、虐待から子どもを守るために「奈良市被虐待児童対策地域協議会」を設置しています。			指標	個別ケース検討会議 開催回数（回）	平成26年度 実績値	208
				量の見込みと確保方策（事業計画第5章）対象事業			

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) 8,579 千円	(予算) 12,260 千円	(予算) 千円	(予算) 千円	(予算) 千円
	(決算) 6,410 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円
目標値と実績値	(目標) 240	(目標) 245	(目標) 250	(目標) 255	(目標) 260
	(実績) 251	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
取り組み内容・成果等	虐待通告件数が平成26年度549件、平成27年度627件であった。平成27年度は児童虐待防止施策検討会議を立ち上げ、マニュアルと行動計画を策定し、協議会の支援者等への研修も充実させた。街頭キャンペーンを実施する等、積極的に啓発活動にも取り組んでいる。				
取り組みの方向性 (課題・改善点等)	児童虐待の予防・早期発見・再発防止のため、啓発活動や家庭児童相談の充実を図る。関係機関と連携を図り、子どもに接する機会が多い教諭などへの研修を引き続き行っていく。児童虐待防止施策検討会議を継続し行動計画を見直し、ケースの進行管理方法の改善や関係機関のスキルアップを図っていく。				

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議 における意見等	<ul style="list-style-type: none"> 虐待をなくすことは子どもの生命であり、保護者にとっても地域にとっても大切である。保護者の養育を支援することが特に必要と認められる家庭等に対し、何が大切かを再検討する時期である。 自治体組織における対応の限界もあると思うが、警察組織との連携と共に地域コミュニティの意識の醸成を働きかける啓発活動的な広告宣伝も有効な活動になると考える。 問題内容が多岐にわたっていて、大変困難な事業ではあるが、更なる成果に期待したい。 早期発見、再発防止はもちろんであるが、特に未然防止に対して力を入れていただきたい。 				
意見等に対する対応状況	親支援プログラムや子どもの心理検査等も取り入れ、保護者・子どもの支援の充実に努めている。警察だけでなく、地域を見守る民生児童委員や学校等、関係機関と更なる連携を深めながら、よりよいねいな対応に努めていきたい。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	B				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	101	事業名	養育支援訪問事業	部名	子ども未来部	課名	子育て相談課
事業内容	保護者の養育を支援することが特に必要と認められる家庭等に対し、訪問などにより、養育に関する相談、助言などの支援を行います。			指標	支援家庭数	平成26年度実績値	35
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			(6)養育支援訪問事業

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	385 千円	(予算)	600 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	363 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	40	(目標)	40	(目標)	40	(目標)	40	(目標)	40
	(実績)	30	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	保護者の養育を支援することが特に必要と認められる家庭等に対し、訪問などにより、養育に関する相談、助言などの支援を行う。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	乳児家庭全戸訪問事業(こんにちは赤ちゃん訪問)の後に、養育に関する相談・助言が必要な家庭に対して、家庭訪問を継続して実施する。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<p>・虐待をなくすことは子どもの生命であり、保護者にとっても地域にとっても大切である。保護者の養育を支援することが特に必要と認められる家庭等に対し、何が大切かを再検討する時期である。</p> <p>・自治体組織における対応の限界もあると思うが、警察組織との連携と共に地域コミュニティの意識の醸成を働きかける啓蒙活動的な広告宣伝も有効な活動になると考える。</p> <p>・要支援者の基準をどのように定めるかがなかなか明確にしづらいが、できるだけ広範囲での支援が必要かと思われる。但し、支援者の教育プログラムや管理も要するので、大変困難であると推測する。比較的軽い要支援者に対してはボランティア等の支援を行うなど、ボランティア要員の確保も考えられるかと思う。</p> <p>・核家族化やパート就労が進行している問題が見えにくくなっているため、相談員の増加や業務を行う体制の充実を図る必要があるのではないか。</p>				
意見等に対する対応状況	<p>継続支援が必要な家庭への支援は児童虐待の発生予防のため、支援者のため研修等を実施しスキルアップを目指す。また支援が必要な家庭には関係機関との連携を行い情報の共有を行う。</p>				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	102	事業名	家庭訪問	部名	保健所	課名	健康増進課
事業内容	育児が困難で支援が必要と思われる家庭を訪問し、生活環境と養育状況・家庭環境・子の成長発達などを総合的に把握し、必要な支援を行うことにより、保護者の育児不安や育児ストレスの軽減を図り虐待予防に努めます。			指標	訪問人数	平成26年度実績値	乳児(新生児・未熟児除く)859人(延べ1033人) 幼児603人(延べ817人)
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) 0 千円	(予算) 0 千円	(予算) 千円	(予算) 千円	(予算) 千円
	(決算) 0 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円
目標値と実績値	(目標) 必要な家庭への訪問を実施する	(目標) 必要な家庭への訪問を実施する	(目標) 必要な家庭への訪問を実施する	(目標) 必要な家庭への訪問を実施する	(目標) 必要な家庭への訪問を実施する
	(実績) 乳児(新生児・未熟児除く)682人(延べ791人) 幼児383人(延べ562人)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
取り組み内容・成果等	育児や児の発育・発達に関する保護者の不安等に対し、必要に応じ地域担当の保健師や助産師等が、家庭訪問を行っている。適切な時期に関わられるように支援が必要な家庭をデータ管理している。				
取り組みの方向性(課題・改善点等)	職員数の減少や業務量の増加により、適切な時期に支援ができていない場合がある。要支援者の進行管理と共に、要支援者の基準などについて再検討し、業務整理をしていくことで、適切な時期に関わられるようにしていく。				

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<p>・虐待をなくすことは子どもの生命であり、保護者にとっても地域にとっても大切である。保護者の養育を支援することが特に必要と認められる家庭等に対し、何が大切かを再検討する時期である。</p> <p>・自治体組織における対応の限界もあると思うが、警察組織との連携と共に地域コミュニティの意識の醸成を働きかける啓蒙活動的な広告宣伝も有効な活動になると考える。</p> <p>・要支援者の基準をどのように定めるかがなかなか明確にしづらいが、できるだけ広範囲での支援が必要かと思われる。但し、支援者の教育プログラムや管理も要するので、大変困難であると推測する。比較的軽い要支援者に対してはボランティア等の支援を行うなど、ボランティア要員の確保も考えられるかと思う。</p> <p>・訪問指導員の確保が必要である。</p>				
意見等に対する対応状況	<p>・要支援者の状況に応じ当課だけで対応せず、他課と連携して支援を行うようにしている。連携は庁内だけでなく、地域の子育て支援機関等も行っている。</p> <p>・要支援者に対しては、専門的な保健指導が必要であるため、保健師の人材確保に努めている。</p>				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	A				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	103	事業名	ファミリー・サポート・センター事業	部名	子ども未来部	課名	子ども育成課
事業内容	「育児の援助を受けたい人」と「育児の援助を行いたい人」が依頼・援助・両方のいずれかの会員として登録し、児童の放課後の預かりや保育所等の送迎等で育児の援助が必要となったときに、会員相互の援助活動を行います。			指標	ファミリー・サポート・センターの相互援助活動件数(件)	平成26年度実績値	5,707
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			(10)子育て援助活動支援事業

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	7,434 千円	(予算)	7,434 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	7,429 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	7,050	(目標)	6,988	(目標)	6,902	(目標)	6,842	(目標)	6,762
	(実績)	6,183	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	援助会員を増やすための広報を行うとともに、登録希望者への説明会・講習会及び登録会員のスキルアップ講座・交流会等を開催し、会員の情報交換と資質の向上を図ることにより、相互援助活動がスムーズかつ活発に行われるようサポートした。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	積極的な広報活動の結果、会員数は年々増加しているが、依然として依頼会員に比べて、援助会員が少ない状況にある。このため、積極的な広報活動や援助を行いやすい環境づくりに引き続き取り組み、援助会員の増加を図る。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・No.66：公民館での各種教室・講座の開催などとリンクしながら事業を展開できる可能性はないかと思われる。 ・ファミリー・サポート・センター事業の援助会員不足は全国的な課題です。依頼会員は切実なニーズがあるので増えますが、援助会員はなかなか難しい。ファミサポの具体的な活動をより広報し、依頼者が助けられたことはもちろん、援助者のやりがい・笑顔なども広めることで援助者が増えるかもしれない。 ・子育て中の親を含めた援助会員、もしくは利用会員と援助会員の両方に登録する相互会員を増加させる等の改善に取り組んでいかれてはどうか。 				
意見等に対する対応状況	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館や地域子育て支援拠点等との連携・協働を図ること、地域における子育て支援を更に充実させていきたい。 ・援助会員を増やすため、ホームページや奈良しみんだよりへの掲載、保育所・幼稚園や福祉センター等へのリーフレット配布などを行ったが、今後、具体的な事例を使った広報など、効果的な広報活動を検討する。 ・援助会員のみならず、両方会員の増加を図る取組も検討していきたい。 				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	104	事業名	子育て支援アドバイザー事業	部名	子ども未来部	課名	子ども育成課
事業内容	子育て支援アドバイザーとして登録した地域の子育て経験豊かな市民を、乳幼児と保護者が集まる場所に派遣し、保護者の子育てに関する疑問や悩みに対する相談等を行います。			指標	子育て支援アドバイザーの派遣回数(回)	平成26年度実績値	533
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) 1,224 千円	(予算) 1,224 千円	(予算) 千円	(予算) 千円	(予算) 千円
	(決算) 1,224 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円
目標値と実績値	(目標) 500	(目標) 500	(目標) 500	(目標) 500	(目標) 500
	(実績) 630	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
取り組み内容・成果等	活動内容を3区分に分類し、依頼元のニーズに沿った派遣を行うことにより、派遣回数が増加している。また、事務の効率化及び事業内容の充実を図るため、子育て支援の経験豊富なスタッフが在籍する地域子育て支援拠点事業の実施団体に事業を委託している。				
取り組みの方向性(課題・改善点等)	今後も引き続き、事業を地域子育て支援拠点事業の実施団体に委託し、事務の効率化及び事業内容の充実を図る。				

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	A				
子ども・子育て会議における意見等	・No.66：公民館での各種教室・講座の開催などとリンクしながら事業を展開できる可能性はないかと思われる。				
意見等に対する対応状況	既に、公民館から依頼を受けて、講座にアドバイザーが派遣され、活動を行っているケースが多数あるが、公民館のみならず、各地域子育て支援拠点等との連携・協働を図ることで、地域における子育て支援を更に充実させていきたい。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O			
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A			
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—			

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	105	事業名	子育てサークルの支援	部名	子ども未来部	課名	子ども育成課
事業内容	地域で活動する子育てサークルに補助金を交付することにより、経済的に支援するとともに、サークルを含めた地域の子育て支援団体を対象にした交流会を行うことにより、情報交換等のネットワーク化を図り、子育て中の保護者が自主的に運営する子育てサークルを支援します。			指標	子育て支援交流会の開催回数(回)	平成26年度実績値	7
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	1,000 千円	(予算)	1,000 千円	(予算)	千円	(予算)	千円	(予算)	千円
	(決算)	812 千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円
目標値と実績値	(目標)	7	(目標)	7	(目標)	7	(目標)	7	(目標)	7
	(実績)	7	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	子育てサークルを含めた地域の子育て支援団体を対象に交流会を年間7回開催し、地域に根ざしたサークル支援を行うとともに、地域の子育て支援団体との交流を図った。併せて、活動の継続性を担保するため、子育てサークルに補助金を交付している。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	サークル運営補助金の交付による経済的な支援と併せ、地域子育て支援拠点や地域の子育て支援者を対象とした「子育て支援交流会」等の各種交流会を実施し、関係機関及び子育て支援者等の交流・連携の強化を図ることにより、地域で自主的に活動する「子育てサークル」を支援していく。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・No.66：公民館での各種教室・講座の開催などとリンクしながら事業を展開できる可能性はないかと思われる。 ・子育てサークルは、親子で参加しやすいため、予算が増え開催回数が増える事は子育て中の世帯にとって望ましいと考える。 				
意見等に対する対応状況	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館で開催しているサークルは多数あり、公民館祭りなどの公民館主催の行事を合で行っているサークルもある。 ・今後、公民館のみならず、地域子育て支援拠点を中心として、地域の子育て支援のネットワーク化を図り、子育てサークルを支援していく。 				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O			
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A			
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—			

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	106	事業名	交通安全教室の開催	部名	市民生活部	課名	交通政策課
事業内容	学校園に向き、警察と協力して横断歩道の渡り方、正しい自転車の乗り方などの交通ルールをビデオ・人形劇等でわかりやすく説明するとともに、信号機を使った実技指導なども併せて行い、子どもたちに交通事故から身を守るすべを身につけてもらうために開催します。			指標	交通安全教室実施率 (%)	平成26年度実績値	53.2
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	5,174 千円	(予算)	4,189 千円						
	(決算)	5,112 千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円
目標値と実績値	(目標)	63	(目標)	63	(目標)	63	(目標)	63	(目標)	63
	(実績)	62.1	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	当該年度実施分について前年度末以降に各学校園からの要望をいただき、日程調整の上で、所轄警察署と連携し、交通安全教室を実施している。27年度については要望のあった学校園全てで実施することができた。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	今後も引き続き、決め細やかな交通安全教室の実施に向け取り組んで行く。 ・平成27年6月の法改正により、一層正しい運転が定められた自転車の乗り方やルール指導 ・横断歩道や交差点での歩行指導 ・教員や保護者に対する立哨指導									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	・事件があった時には関心が高くなるが、しばらくすると忘れられる。定期的な広報活動が必要である。 ・何が安心・安全かという議論において、子どもの気持ちや意見を聴く(子ども参加)、子どもの居場所を奪わない、自分で防ぐ力を育む、そのための適切な情報提供をするという視点も大切にしていきたい。 ・自転車の事故が増加し、ますます自転車のルールやマナーなどが求められているので、子どもたちに知識を身に付けさせる機会を重要で、積極的な実施をお願いしたい。 ・法改正に対応するきめ細やかな安全教室の引き続きの実施(内容)とともに、未実施の学校園への実施についても検討していきたい。				
意見等に対する対応状況	・各種行事やしみんだより、ホームページ等を活用し、広報活動を展開する。 ・子どもが自ら安全を確保する力を育んでもらうため、年々変動する交通状況に即した交通安全教室を実施していく。実施校を増やすべく、開催案内の内容等を検討したい。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	A				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	107	事業名	学校・家庭・地域が連携した防犯力の充実	部名	学校教育部	課名	いじめ防止生徒指導課
事業内容	「子ども安全の日の集い」を開催する等、子どもの安全に取り組む大人の防犯意識を高めます。			指標	「子ども安全の日の集い」 参加人数（人）	平成26年度 実績値	291
				量の見込みと確保方策（事業計画第5章）対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	122 千円	(予算)	122 千円	(予算)	千円	(予算)	千円	(予算)	千円
	(決算)	43 千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円	(決算)	千円
目標値と実績値	(目標)	300	(目標)	300	(目標)	300	(目標)	300	(目標)	300
	(実績)	320	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	平成27年度は、「子ども安全の日の集い」に子どもの安全に関わる大人と、市内の小中高校生の代表ら、併せて320名が参加した。「私達の安全の取組」というテーマでパネルディスカッションを実施し、実効性のある取組を提案した。 また、職員による青色防犯パトロールを、毎月17日、始業式及び終業式に実施した。（延べ88回、176人）									
取り組みの方向性（課題・改善点等）	奈良市で発生した小1女児殺害事件の風化させないよう、子どもを守る大人の意識を高め、維持するために、時宜にあった「子ども安全の日の集い」を開催する必要がある。また、「なら子ども安全宣言」の発表を受け、実効性のある取組を進めていく。見守り活動の継続については、次世代の担い手確保という課題があり、より多くの大人の協力が得られるよう取組を進めていく必要がある。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・事件があった時には関心が高くなるが、しばらくすると忘れられる。定期的な広報活動が必要である。 ・何が安心・安全かという議論において、子どもの気持ちや意見を聴く（子ども参加）、子どもの居場所を奪わない、自分で防ぐ力を育む、そのための適切な情報提供をするという視点も大切にしていきたい。 ・大会参加人数も重要であるが、子どもの安全と確保するには地域の方々の協力は不可欠であり、次世代の担い手の確保に努めてもらいたい。また、子どもたちを地域で見守るという体勢は重要であり、広く周知してもらうための計画が必要である。 				
意見等に対する対応状況	学校、保護者、地域、行政が一体となり、子どもの安全を守る意識を高めると同時に、子ども自身が自らの安全を守る力を高めるための取組を一層充実させる。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	A				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	108	事業名	不審者情報の配信	部名	学校教育部	課名	いじめ防止生徒指導課
事業内容	子どもたちの登下校時の安全確保のために、警察と連携して、学校園や地域から入ってくる不審者の情報を「なら子どもサポートネット」登録者に配信します。			指標	「なら子どもサポートネット」登録者数(人)	平成26年度実績値	25,635
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) 260 千円	(予算) 368 千円	(予算) 千円	(予算) 千円	(予算) 千円
	(決算) 98 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円
目標値と実績値	(目標) 25,000	(目標) 25,000	(目標) 25,000	(目標) 25,000	(目標) 25,000
	(実績) 25,150	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
取り組み内容・成果等	平成27年度の登録者数(保護者、地域、関係機関等)は25,150人であり、正確な情報確認と配信に努め、市内における子どもの安全安心情報の提供ができた。 不審者情報の配信は、平成23年度24件、平成24年度17件、平成25年度10件、平成26年度8件、平成27年度9件であった。また、学校ごとの安全安心情報配信は、平成23年度1,313件、平成24年度1,028件、平成25年度1,309件、平成26年度976件、平成27年度1,059件であった。				
取り組みの方向性(課題・改善点等)	不審者情報や子どもの安全安心情報については、保護者や市民のニーズが高く、「なら子どもサポートネット」の今後の安定した運営と、登録者を増やすために、「ならしみんだより」への掲載や登録案内配布等の啓発活動が必要である。また、「ナポくんメール」等の安全情報を発信している他の関係機関(奈良県警)と情報共有を図ることも重要である。				

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・事件があった時には関心が高くなるが、しばらくすると忘れられる。定期的な広報活動が必要である。 ・何が安心・安全かという議論において、子どもの気持ちや意見を聴く(子ども参加)、子どもの居場所を奪わない、自分で防ぐ力を育む、そのための適切な情報提供をするという視点も大切にしていきたい。 ・広報活動を通じて登録者数の増加を引き続き図っていただきたい。また、「ナポくんメール」との情報共有はもちろんであるが、統合についても検討いただきたい。 ・子どもたちを地域で見守るという体勢は重要であり、広く周知してもらうための計画が必要である。 				
意見等に対する対応状況	サポートネットの登録については、各学校から保護者、地域へ周知し、奈良市HPへの掲載、その他様々な場面で呼びかけを行っている。今後も継続して周知していきたい。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	C				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	109	事業名	「子ども安全の家」標旗配布	部名	学校教育部	課名	いじめ防止生徒指導課
事業内容	子どもを犯罪や事故から守るため、地域の家庭などに「子ども安全の家」になってもらい、家の入口などに「安全の家」標旗を掲げ、子どもが危険を感じた時に、助けを求めて駆け込める場所を提供してもらい、地域で子どもを守る機運を広めます。			指標	「安全の家」標旗 延設置件数（件）	平成26年度 実績値	4,866
				量の見込みと確保方策（事業計画第5章）対象事業			

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	184 千円	(予算)	206 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	184 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	5,000	(目標)	5,000	(目標)	5,000	(目標)	5,000	(目標)	5,000
	(実績)	4,812	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	子どもを犯罪や事故から守るため、地域の家庭などに「子ども安全の家」になってもらい、家の入口などに「安全の家」標旗を掲げ、子どもが危険を感じた時に、助けを求めて駆け込める場所を提供してもらい、地域で子どもを守る機運を広めている。 平成27年度、4,812件の家庭に標旗を設置していただいている。									
取り組みの方向性 (課題・改善点等)	「子ども安全の家」標旗は、家の入口など目立つ場所に設置していただいているが、子どもたちが、校区の中のどこに設置されているのかを把握できていないこともあり、標旗設置場所を把握できるように取組を実施している小学校もある。今後、そのような取組を奈良市の各学校へ広めていきたい。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議 における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・事件があった時には関心が高くなるが、しばらくすると忘れられる。定期的な広報活動が必要である。 ・何が安心・安全かという議論において、子どもの気持ちや意見を聴く（子ども参加）、子どもの居場所を奪わない、自分で防ぐ力を育む、そのための適切な情報提供をするという視点も大切にしていきたい。 ・子どもたちが瞬時に気付ける標旗を検討してはどうか。 ・全小学校において、「子ども安全の家」の設置場所を把握するための取組を推進されたい。 				
意見等に対する対応状況	全小学校において、子ども達が「子ども安全の家」の設置場所を把握できる取組の推進を図る。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	○				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	B				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	B				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	110	事業名	イクメン手帳の配付	部名	市民活動部	課名	男女共同参画課
事業内容	奈良市オリジナルのイクメン手帳「IKUMEN HANDBOOK for nara papa」を母子健康手帳交付者及び子育て中の希望者に配布します。			指標	イクメン手帳配布部数(部)	平成26年度実績値	3,111
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	408 千円	(予算)	340 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	394 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	2,900	(目標)	2,950	(目標)	3,000	(目標)	3,050	(目標)	3,100
	(実績)	2,782	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	<p>出産や育児に関し、父親として知っておきたい情報をまとめた「パパのための育児ハンドブック」として母子手帳と共に配布している。また、希望者にも配布できるように各出張所や行政センターへの配置も行っている。</p>									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	<p>子育て支援に関わる研修会において、各窓口及び相談者に手に取ってもらえるよう、新たに配布を行った。今後も必要としている方に情報を届けることができるようイベント等での配布を行っていく。</p>									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	C				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・イクメン手帳も必要だが、イクボスの育成がないとイクメンの道は難しい。まずは、年配者の意識改革が必要である。 ・イクメン手帳は毎年見直しながら病院など各機関に置いて配布してもらえればと思う。今後の事業展開に期待する。 ・もっと父親に直接手に渡るように配布できると良いのではないかな。 ・意識の高い人だけではなく、子育てへの参加意識の薄い人、本当に届けたい人へ配布するため、保育所等を通じた全戸配布等も検討されてはどうか。 				
意見等に対する対応状況	<p>イクメン手帳は母子手帳発行時に配布しているため、奈良市在住の子育て世代には行き渡っている。しかし、新しい情報の掲載を含め、また子育てに関わりを持つ中でイクメン手帳の必要性を感じる多くの方に知ってもらえるよう配布場所を検討する。父親の視点から働き方改革を支援することも大切なことから企業への啓発を行い仕事と育児の両立がやりやすいイクボスをはじめとした職場環境整備の提案を検討していく。</p>				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O				
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	B				
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	C				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	111	事業名	仕事と生活の調和推進事業	部名	観光経済部	課名	商工労政課
事業内容	事業主や企業を対象に、育児休業の取得促進や労働時間等の改善など、仕事と生活の調和のとれた働き方に向けた意識啓発に努めます。			指標	HPでの「労政の手引」の更新回数（回）	平成26年度実績値	1
				量の見込みと確保方策（事業計画第5章）対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) 0 千円	(予算) 0 千円	(予算) 千円	(予算) 千円	(予算) 千円
	(決算) 0 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円
目標値と実績値	(目標) 1	(目標) 1	(目標) 1	(目標) 1	(目標) 1
	(実績) 1	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
取り組み内容・成果等	事業主や企業を対象に、育児休業の取得促進や労働時間等の改善など、仕事と生活の調和のとれた働き方に向けた意識啓発を行うため、「労政の手引」等を通じて、情報提供を行う。				
取り組みの方向性（課題・改善点等）	仕事と生活の調和を推進するため、様々な施策が存在しているが、一般に広く知られているとはいえない状態にある。また、国等の機構改革や制度改正が行われるため、継続して、WEBでの発信が望まれる。				

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	—				
意見等に対する対応状況	—				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	×			
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	—			
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—			

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	112	事業名	通学路整備事業	部名	建設部	課名	道路建設課
事業内容	児童・生徒が安全で安心して通園・通学できるよう歩道の整備及び防護柵、路面標示等の安全施設を整備します。			指標	対策箇所数	平成26年度実績値	53
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	37,700 千円	(予算)	87,900 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	69,115 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	73	(目標)	—	(目標)	—	(目標)	—	(目標)	—
	(実績)	60	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	通学路の緊急合同点検に基づき、要対策箇所73か所の内、60か所の対策を実施した。平成28～31年度までの目標値については現在、教育総務課において通学路交通安全プログラムに基づく要対策箇所の現場確認をおこなっており、その取りまとめが完了後、箇所数を目標として設定することができないため、今は記入できない。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	通学路の緊急合同点検に基づき、要対策箇所の残り13か所について早期に対策を実施する。また、平成27年度策定予定の通学路交通安全プログラムに基づく要対策箇所についても対策を実施する。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	A				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路や公園については、子ども会議でも多くのニーズがあった。子ども会議からの提案も活かしながら、進めていただきたい。 ・早急の整備実施が必要なので、今後も継続してほしい。 				
意見等に対する対応状況	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の意見が反映できるよう通学路交通安全プログラムに基づき、学校長・自治会長・PTA代表及び教育総務課と合同点検し現場を確認している。 ・来年度も事業を継続し、安全確保のために引き続き通学路の整備を推進する。 				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O				
子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	C				
子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	C				

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	113	事業名	公園管理運営	部名	都市整備部	課名	公園緑地課
事業内容	身近な自然とのふれあいの場所、防災空間、良好な風致・景観を備えた地域の形成等、多くの機能を有している公園・緑地の維持管理を行います。			指標	管理する公園数	平成26年度実績値	688
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	193,995 千円	(予算)	180,710 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	192,118 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	688	(目標)	688	(目標)	688	(目標)	688	(目標)	688
	(実績)	688	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	公園の安全・安心の確保を図るため、除草・剪定による都市公園や緑地の維持管理及び遊具の改修や安全点検に努める。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	公園施設の状況を的確に把握し、安全性の向上に努める。日ごろからの安全点検で遊具の事故が発生しない安全な公園施設を目指す。また、更なる公園の遊具の安全確保を強化するためにも、地域住民とともに安全意識の向上に努める。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路や公園については、子ども会議でも多くのニーズがあった。子ども会議からの提案も活かしながら、進めていただきたい。 ・老朽化した遊具での事故は、信頼を失い、利用者を減らす原因となるので、安全の確保に努めてほしい。 				
意見等に対する対応状況	共用後、相当の年数を経過した公園も多くあり、特に遊具における安全面の低下を招くことがないように財政的な対応も含めて安全の確保に努める。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O			
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	B			
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	B			

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	114	事業名	公園整備事業	部名	都市整備部	課名	公園緑地課
事業内容	都市公園の経年劣化による遊具等の公園施設の施設の改修を行います。			指標	公園施設長寿命化計画に基づき危険度判定Dの施設について更新した遊具数	平成26年度実績値	40
				量の見込みと確保方策(事業計画第5章)対象事業			

■事業の取組状況

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
予算・決算額	(予算)	35,052 千円	(予算)	80,000 千円	(予算)		(予算)		(予算)	
	(決算)	35,052 千円	(決算)		(決算)		(決算)		(決算)	
目標値と実績値	(目標)	3	(目標)	8	(目標)	20	(目標)	20	(目標)	20
	(実績)	3	(実績)		(実績)		(実績)		(実績)	
取り組み内容・成果等	公園長寿命化計画策定業務を完了した。									
取り組みの方向性(課題・改善点等)	長寿命化計画に基づき危険度判定Dの公園施設について順次改修を行っていく。									

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路や公園については、子ども会議でも多くのニーズがあった。子ども会議からの提案も活かしながら、進めていきたい。 ・安全点検は、実際に使用している子どもの保護者にも協力を要請し、どの公園でどんな改修が必要かを早期に把握できるような取り組みが大切かと思われる。 				
意見等に対する対応状況	子どもの保護者や自治会からの情報提供と長寿命化計画に基づき調査した結果を照らし合わせ危険度判定Dの公園施設について順次改修を行っていく。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O			
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	B			
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	B			

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	115	事業名	公共賃貸住宅における多子世帯向けの優先入居制度の活用	部名	市民生活部	課名	住宅課
事業内容	市営住宅の3DK若しくは3LDKの空家募集において、18歳未満の児童が3人以上いる世帯（多子世帯）に対する優先入居制度を実施します。			指標	多子世帯向け住宅の新規募集件数（件）	平成26年度実績値	1
				量の見込みと確保方策（事業計画第5章）対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) ー 千円	(予算) ー 千円	(予算) ー 千円	(予算) ー 千円	(予算) ー 千円
	(決算) ー 千円	(決算) ー 千円	(決算) ー 千円	(決算) ー 千円	(決算) ー 千円
目標値と実績値	(目標) ー	(目標) ー	(目標) ー	(目標) ー	(目標) ー
	(実績) 1件	(実績) ー	(実績) ー	(実績) ー	(実績) ー
取り組み内容・成果等	多子世帯向けとして1件空家募集し、1件入居した。予算・決算額については、一般向け住宅及び特定目的住宅の空家修繕費に含まれるため、多子世帯向け住宅として個別で計上していない。空家募集については、過去の応募状況等を参考に、多子世帯向けを含めた特定目的住宅の募集戸数をその都度検討するため、目標値は定めていない。				
取り組みの方向性（課題・改善点等）	今後も現行の取り組み方針を継続する。				

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	・空家募集の広報活動を強化し、より多くの方々に知ってもらえるよう、引き続き取り進めてほしい。				
意見等に対する対応状況	・既存のしみんだよりやホームページ・子育て世帯向け冊子等による広報に加えて、さらなる広報活動を検討し、今後も現行の取り組みを継続する。				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O			
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A			
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	ー			

奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 事業評価シート

■基本情報

事業No	116	事業名	公共賃貸住宅における子育て世帯向けの優先入居制度の活用	部名	市民生活部	課名	住宅課
事業内容	市営住宅の空家募集において、同居親族に小学校就学前の児童がいる世帯（子育て世帯）に対する優先入居制度を実施します。			指標	子育て世帯向け住宅の新規募集件数（件）	平成26年度実績値	20
				量の見込みと確保方策（事業計画第5章）対象事業			該当なし

■事業の取組状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
予算・決算額	(予算) 26,000 千円	(予算) 15,600 千円	(予算) 千円	(予算) 千円	(予算) 千円
	(決算) 25,429 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円	(決算) 千円
目標値と実績値	(目標) 20	(目標) 12	(目標) 10	(目標) 10	(目標) 10
	(実績) 22	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)
取り組み内容・成果等	子育て世帯向けとして22件空家募集し、20件入居した。				
取り組みの方向性（課題・改善点等）	22件中2件については、募集したにも関わらず応募がなかった。今後は、子育て世帯の需要をより見極め、募集住宅を選定する。				

■事業の進捗状況に対する担当課評価及び奈良市子ども・子育て会議における意見等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	B				
子ども・子育て会議における意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・空家募集の広報活動を強化し、より多くの方々に知ってもらえるよう、引き続き取り進めてほしい。 ・民間賃貸住宅の活用による家賃補助制度への転換を検討すべきではないか。住居費の負担は大きいので市の財政負担も大きい。出生率のアップや人口増にもつながるのではないか。 				
意見等に対する対応状況	<ul style="list-style-type: none"> ・既存のしみんだよりやホームページ・子育て世帯向け冊子等による広報に加えて、さらなる広報活動を検討し、今後も現行の取り組みを継続する。 ・民間賃貸住宅の活用による家賃補助制度への転換を検討する。 				

■奈良市子どもにやさしいまちづくり条例第11条第2項の規定に対する担当課評価

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
担当課評価	子どもに直接的・間接的に関連する施策ですか	O			
	子ども及びその関係者に対して適切な情報を提供しましたか	A			
	子どもが意見表明や参加する機会を設けるよう努めましたか	—			

平成29年度における幼児教育の段階的無償化の推進について（案）

＜所要額（公費ベース）＞
 1号：約31億円 ※就園奨励費含む
 2・3号：約37億円

1. 市町村民税非課税世帯の第2子無償化

別添資料4

1号認定子ども：1,500円 2号認定子ども：3,000円 3号認定子ども：4,500円

0円

2. 年収約360万円未満相当世帯の保護者負担軽減

◆ひとり親世帯等の保護者負担の軽減措置を更に拡充する。

※ひとり親世帯等について、第3階層は第2子以降、第2階層は第1子以降は、既に無償。

○1号認定子どもについて

階層区分	平成27年度 保護者負担額(月額)	平成28年度 保護者負担額(月額)
第3階層 市町村民税所得割課税世帯 77,100円以下(年収約360万円未満相当)	第1子 15,100円	7,550円(負担軽減後の半額)

平成29年度(負担軽減の拡充)
保護者負担額(月額)
3,000円

○2・3号認定子どもについて

※下記の保護者負担額は全て3歳以上児の保育標準時間認定の場合

第3階層 市町村民税所得割課税額 48,600円未満(年収約330万円未満相当)	第1子 15,500円	7,750円(負担軽減後の半額)
第4階層の一部 市町村民税所得割課税額 97,000円未満 (年収約360万円未満相当世帯まで)	第1子 27,000円	13,500円(基準額表の半額)

6,000円
6,000円

◆その他の世帯の保護者負担を以下のとおり軽減する。

○1号認定子どもについて

第3階層 市町村民税所得割課税世帯 77,100円以下 (年収約360万円未満相当)	第1子 16,100円 第2子 8,050円	(同左)
---	---------------------------	------

14,100円
7,050円

平成29年度における特定教育・保育施設等の利用者負担(月額)(案)

○平成29年度予算案に基づき国が定める利用者負担の上限額基準(国庫(都道府県)負担金の精算基準)は、以下のとおり。

注：青字、緑字、赤字は平成29年度における「幼児教育の無償化に向けた取組の段階的推進」によるもの。

教育標準時間認定の子ども
(1号認定)

保育認定の子ども

(2号認定：満3歳以上)

(3号認定：満3歳未満)

階層区分	利用者負担	利用者負担		利用者負担	
		保育標準時間	保育短時間	保育標準時間	保育短時間
①生活保護世帯	0円	0円	0円	0円	0円
②市町村民税非課税世帯(所得割非課税世帯含む)(~約270万円)	3,000円 [0円] ※第2子以降は0円	6,000円 [0円] ※第2子以降は0円	6,000円 [0円] ※第2子以降は0円	9,000円 [0円] ※第2子以降は0円	9,000円 [0円] ※第2子以降は0円
③市町村民税所得割課税額77,100円以下(~約360万円)	16,100円→14,100円 [7,550円→3,000円]	16,500円 [7,750円→6,000円]	16,300円 [7,650円→6,000円]	19,500円 [9,250円→9,000円]	19,300円 [9,150円→9,000円]
④市町村民税所得割課税額211,200円以下(~約680万円)	20,500円	27,000円 [13,500円→6,000円]	26,600円 [13,300円→6,000円]	30,000円 [15,000円→9,000円]	29,600円 [14,800円→9,000円]
⑤市町村民税所得割課税額211,201円以上(約680万円~)	25,700円	27,000円	26,600円	30,000円	29,600円
⑥所得割課税額169,000円未満(~約640万円)		41,500円	40,900円	44,500円	43,900円
⑦所得割課税額301,000円未満(~約930万円)		58,000円	57,100円	61,000円	60,100円
⑧所得割課税額397,000円未満(~1,130万円)		77,000円	75,800円	80,000円	78,800円
⑨所得割課税額397,000円以上(1,130万円~)		101,000円	99,400円	104,000円	102,400円

※1 [] 書きは、ひとり親世帯、在宅障害児(者)のいる世帯、その他の世帯(生活保護法に定める要保護者等特等に困窮していると市町村の長が認めた世帯)の額。
 ※2 満3歳に到達した日の属する年度中の2号認定の利用者負担額は、3号認定の額を適用する。
 ※3 1号認定は小学3年以下の範囲、2・3号認定は小学校就学前の範囲において、特定教育・保育施設等を同時に利用する最年長の子どもの順に2人目は上記の半額、3人目以降については0円とする。ただし、年収約360万円未満相当の世帯においては多子のカウントにおける年齢制限を撤廃し、年収約360万円未満相当のひとり親世帯等については2人目以降については0円とする。
 ※4 給付単価を限度とする。
 ※5 1号認定においては、平成26年度の保育料等の額が市町村が定める利用者負担額よりも低い私立幼稚園・認定こども園については、現在の水準を基に各施設で定める額とすることも認める(経過措置)。

子どもの貧困対策

子どもの貧困対策

▶ 子どもの貧困とは

等価可処分所得の中央値の50%以下の所得、つまり一般的な水準の半分にも満たない水準で暮らしている17歳以下の子どもの存在及び生活状況。

子どもの貧困指標である子どもの貧困率が、
H25年度厚生労働省調査で過去最悪の値を記録。

子どもの貧困対策

▶ 子どもの貧困

子どもの貧困率

16.3%

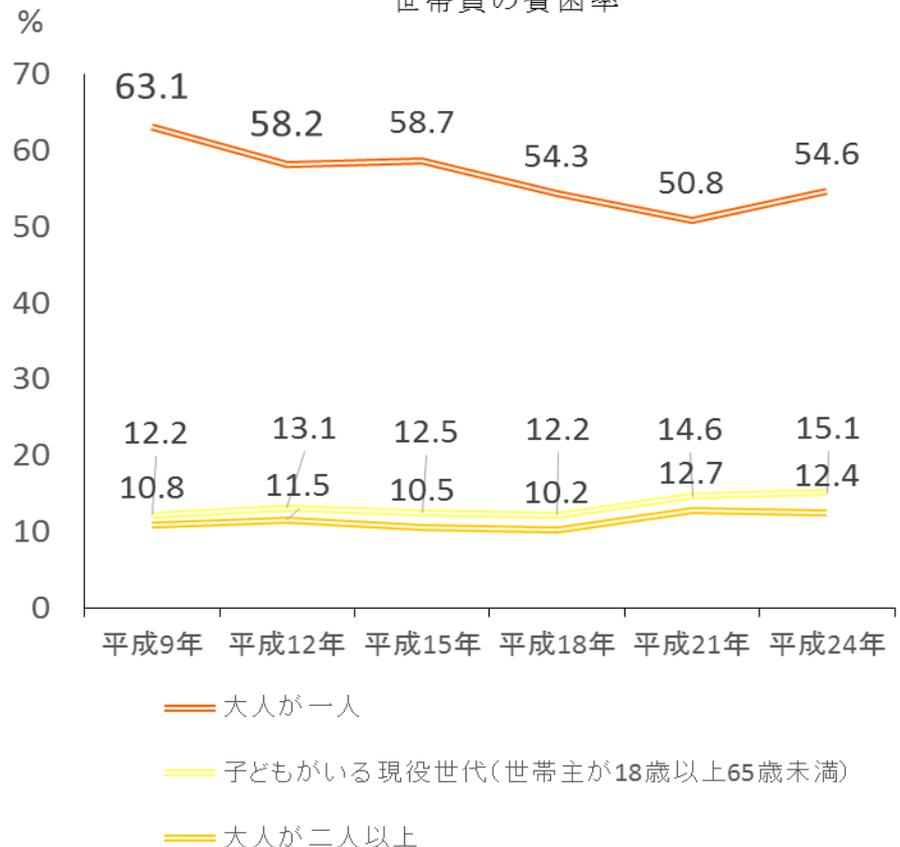
(6人に一人が貧困状態)

子どものいる現役世帯のうち大人が1人の貧困率

54.6%

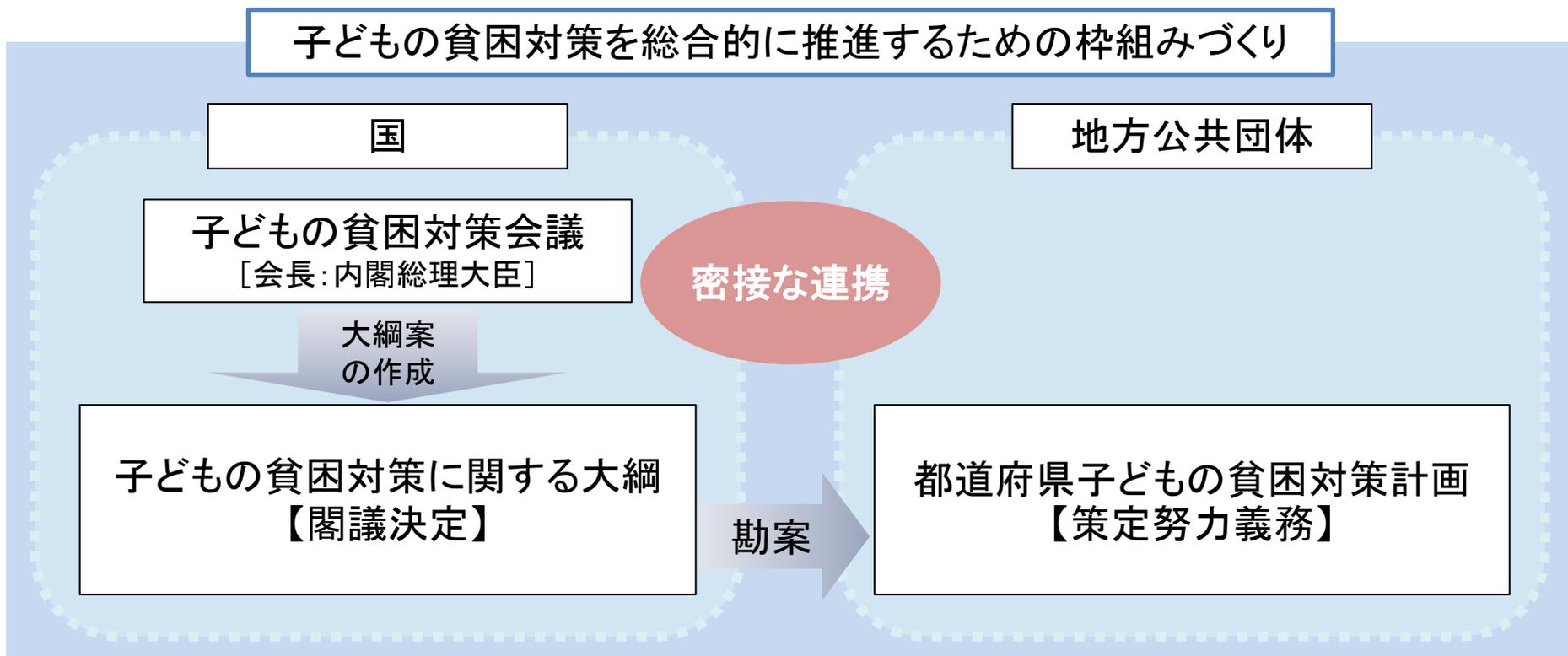
(2人に一人が貧困状態)

図1: 子どもがいる現役世代(世帯主が18歳以上65歳未満)の世帯員の貧困率



子どもの貧困対策 ①国の状況

- ▶ 子どもの貧困対策の推進に関する法律
(公布 平成25年6月26日 施行 平成26年1月17日)



子どもの貧困対策 ①国の状況

目的・理念

- 子供の将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう、また、貧困が世代を超えて連鎖することのないよう、必要な環境整備と教育の機会均等を図る。
- 全ての子供たちが夢と希望を持って成長していける社会の実現を目指し、子供の貧困対策を総合的に推進する。

子どもの貧困対策 ①国の状況

基本的な方針

1. 貧困の世代間連鎖の解消と積極的な人材育成を目指す
2. 第一に子供に視点を置いて、切れ目のない施策の実施等に配慮する。
3. 子供の貧困の実態を踏まえて対策を推進する。
4. 子供の貧困に関する指標を設定し、その改善に向けて取り組む。
5. 教育の支援では、「学校」を子供の貧困対策のプラットフォームと位置付けて総合的に対策を推進するとともに、教育費負担の軽減を図る。

子どもの貧困対策 ①国の状況

基本的な方針

6. 生活の支援では、貧困の状況が社会的孤立を深刻化させることのないよう配慮して対策を推進する。
7. 保護者の就労支援では、家庭で家族が接する時間を確保することや、保護者が働く姿を子供に示すことなどの教育的な意義にも配慮する。
8. 経済的支援に関する施策は、世帯の生活を下支えするものとして位置付けて確保する。
9. 官公民の連携等によって子供の貧困対策を国民運動として展開する。
10. 当面今後5年間の重点施策を掲げ、中長期的な課題も視野に入れて継続的に取り組む。

子どもの貧困対策 ①国の状況

子どもの貧困に関する指標

- 生活保護世帯に属する子供の
高等学校等進学率・高等学校等中退率・
大学等進学率・就職率
- 児童養護施設の子供の進学率及び就職率
- ひとり親家庭の子供の
就園率(保育所・幼稚園)・
進学率及び就職率

子どもの貧困対策 ①国の状況

子どもの貧困に関する指標

- スクールソーシャルワーカーの配置人数、
スクールカウンセラーの配置率
- 就学援助制度に関する周知状況
- 日本学生支援機構の奨学金の貸与基準を満たす希望者のうち、奨学金の貸与を認められた者の割合
- ひとり親家庭の親就業率
- 子供の貧困率
- 子供がいる現役世帯のうち大人が1人の貧困率

子どもの貧困対策 ①国の状況

指標の改善に向けた重点施策

- 教育の支援
- 生活の支援
- 保護者に対する就労の支援
- 経済的支援
- 子供の貧困に関する調査研究等
- 施策の推進体制等

子どもの貧困対策 ①国の状況

- ▶ すべての子どもの安心と希望の実現プロジェクト
(平成26年8月29日閣議決定)

I ひとり親家庭・
多市世帯等自立
応援プロジェクト

II 児童虐待防止
対策強化
プロジェクト

子どもの貧困対策 ①国の状況

I ひとり親家庭・他市世帯等自立応援プロジェクト

- 就業による自立に向けた支援を基本にしつつ、子育て・生活支援、学習支援などの総合的な取組を充実
- 具体的には、ひとり親家庭が孤立せず支援につながる仕組みを整えつつ、生活、学び、仕事、住まいを支援するとともに、ひとり親家庭を社会全体で応援する仕組みを構築

子どもの貧困対策 ①国の状況

I ひとり親家庭・他市世帯等自立応援プロジェクト

【主な内容】

- 自治体の窓口ワンストップ化の推進
- 子どもの居場所づくりや学習支援の充実
- 親の資格取得の支援の充実
- 児童扶養手当の機能の充実 など

子どもの貧困対策 ①国の状況

Ⅱ 児童虐待防止対策強化プロジェクト

- 児童虐待について、発生予防から発生時の迅速・的確な対応、自立支援まで、一連の対策を更に強化。

子どもの貧困対策 ①国の状況

Ⅱ 児童虐待防止対策強化プロジェクト

【主な内容】

- 子育て世代包括支援センターの全国展開
- 児童相談所体制強化プラン(仮称)の策定
- 里親委託等の家庭的養護の推進
- 退所児童等のアフターケア など

子どもの貧困対策 ②県の状況

- ▶ 社会生活上の困難を抱える子どもを支援する奈良県計画（平成28年3月策定）

基本目標

すべての子どもがその将来に夢や希望を持って
成長していける 奈良県の実現

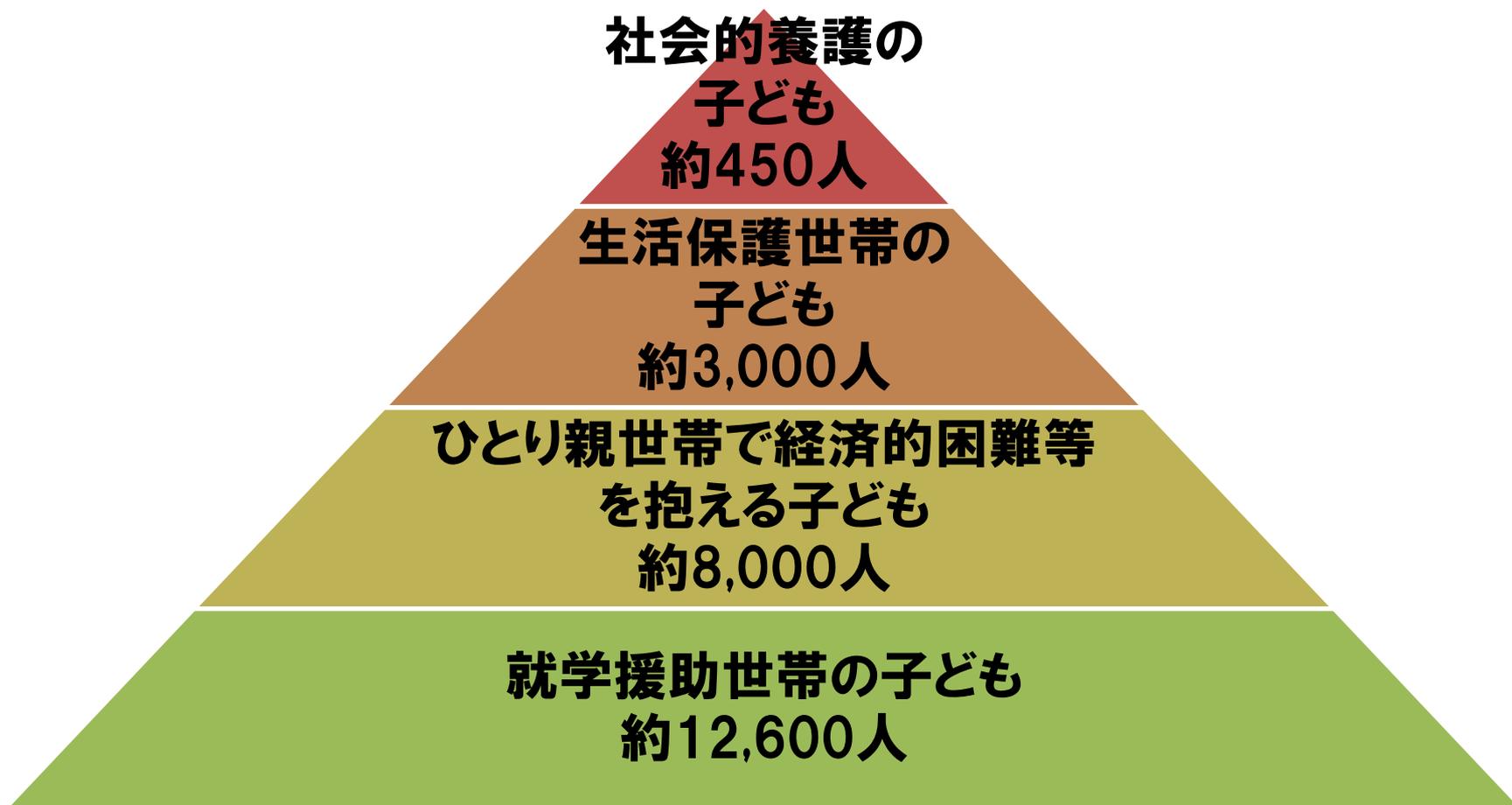
1. 経済的困難等にかかわらず、才能や希望を実現できるよう子どもへの支援を行います。
2. 子どもと家庭に寄り添い、より実効性のある支援となるよう行政と地域が連携して施策を推進します。

子どもの貧困対策 ②県の状況

支援の対象となる子ども

- 生活保護、就学援助等生活困窮世帯の子ども
生活保護 約3,000人 就学援助 約12,600人
- ひとり親世帯で経済的困難等を抱える子ども
約8,000人
- 社会的養護の子ども 約450人

子どもの貧困対策 ②県の状況



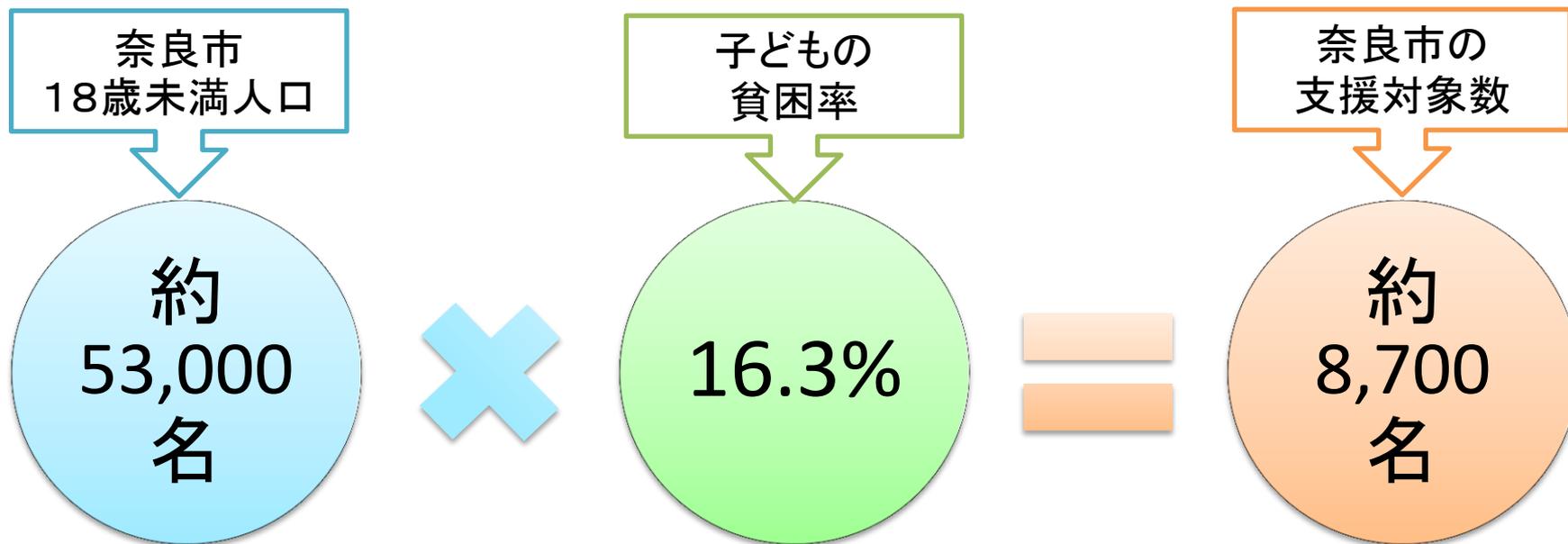
子どもの貧困対策 ②県の状況

施策の骨子

- 学力の向上、困難を「生きる力」の育成
- 安心、安全な居場所づくり
- 家庭の生活を下支えする
- 福祉、教育等行政と地域が連携した支援の推進

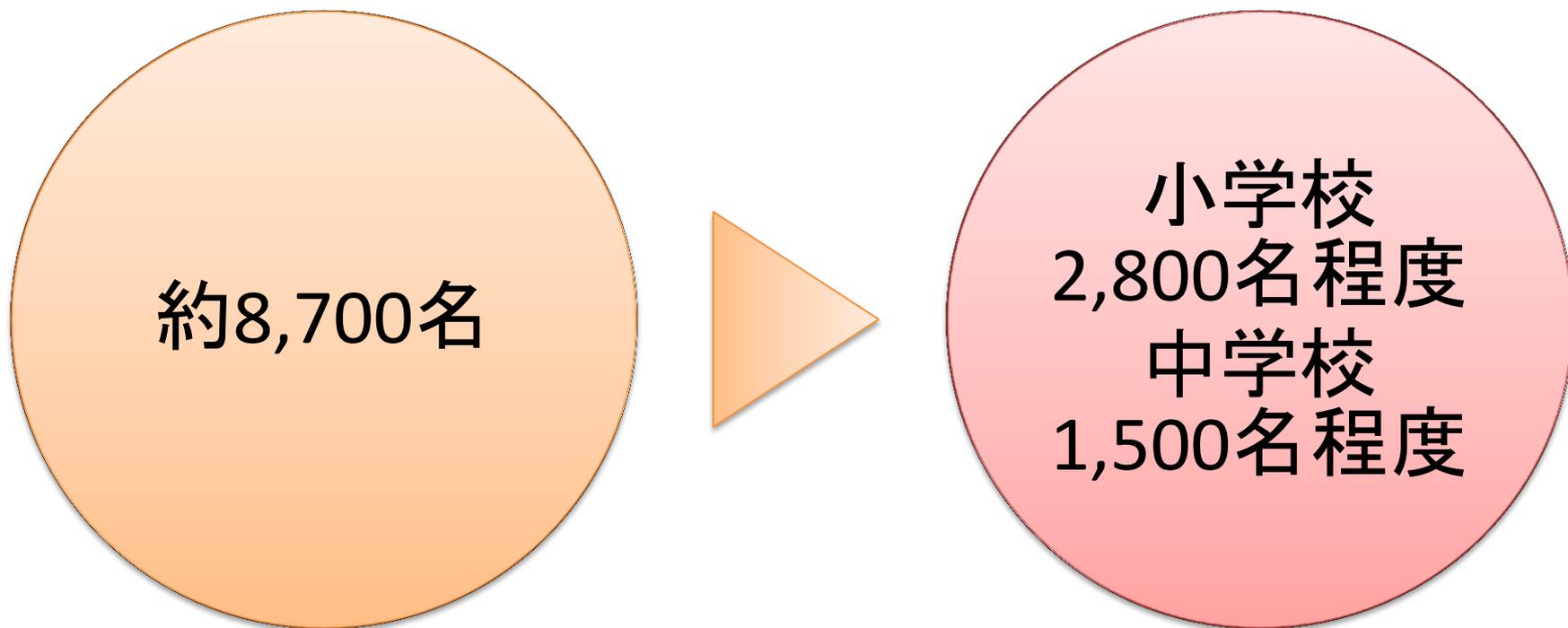
子どもの貧困対策 ③市の状況

▶ 子どもの貧困率をあてはめると



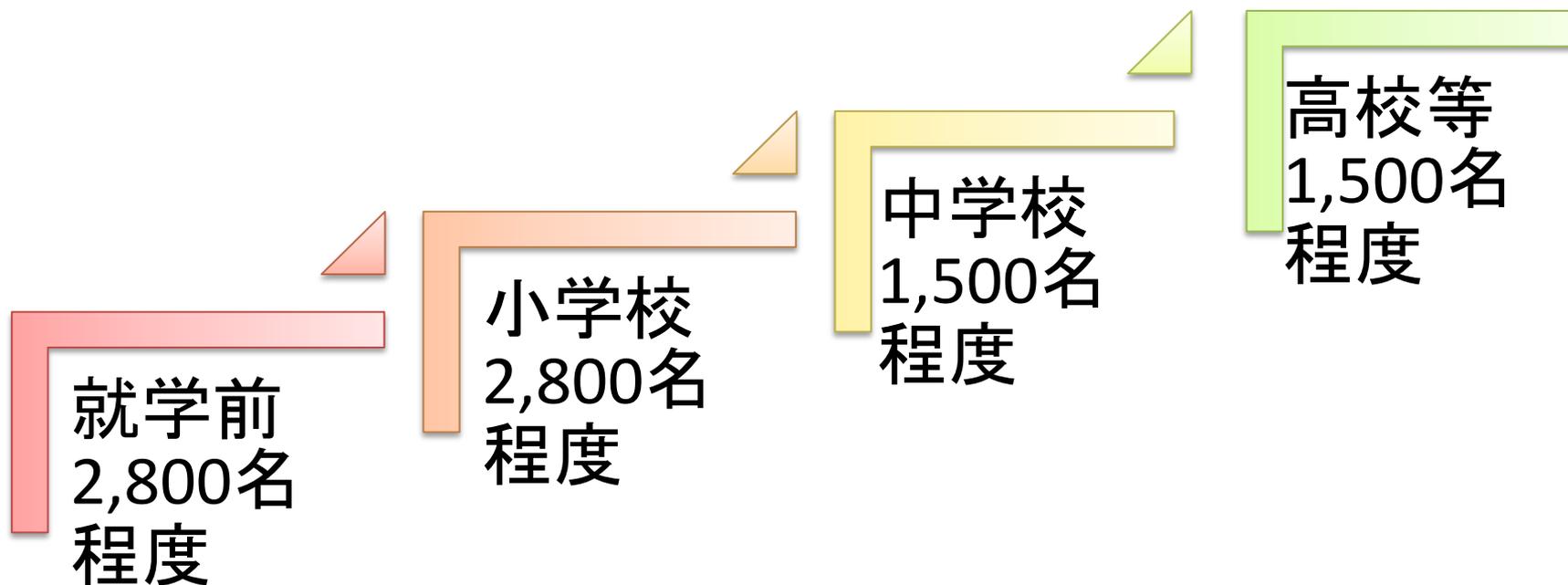
子どもの貧困対策 ③市の状況

▶ 子どもの貧困率をあてはめると



子どもの貧困対策 ③市の状況

▶ 子どもの貧困率をあてはめると



子どもの貧困対策 ③市の状況

手順

実態調査

- アンケート調査
- ヒアリング調査

計画骨子の作成

パブリックコメントの実施

計画及び概要版の作成

(仮称) 奈良市

子どもの豊かな未来応援プラン

(奈良市子どもの貧困対策計画)

(案)

平成 29 年 2 月

奈良市

目次

第1章 計画の策定に当たって	1
1-1 策定の趣旨	1
1-2 計画の位置付け	2
1-3 計画のめざす姿	3
1-4 計画期間	3
第2章 市の子どもを取り巻く現状と課題	4
2-1 統計データからの現状	4
2-2 アンケート調査結果	9
2-3 本市の子どもを取り巻く課題	28
第3章 施策の展開	34
3-1 施策の柱	34
3-2 個別施策一覧	35
3-3 ライフステージからみた取り組み	42
第4章 計画の推進	44
4-1 計画の推進体制	44
4-2 計画の進捗管理	44
4-3 経済的困難等を抱える子どもに関する指標	45

第1章 計画の策定にあたって

1-1 策定の趣旨

平成25年の国民生活基礎調査（厚生労働省）によると、平成24年時点の「子どもの貧困率」¹は16.3%、6人に1人が相対的貧困の状態であり過去最高となるとともに、特に、子どもがいる現役世帯（世帯主が18歳以上65歳未満）のうち大人が一人である世帯の貧困率は54.6%と大人が二人以上いる世帯に比べ高くなっています。

そこで、子どもたちの将来とわが国の未来をより一層輝かしいものとするために、国では、平成25年6月に「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が成立し、平成26年1月に施行されました。

その後「子どもの貧困対策に関する検討会」での検討・調整を経て、国は平成26年8月、すべての子どもたちが夢と希望を持って成長していける社会の実現を目指し、子どもの貧困対策を総合的に推進するため「子供の貧困対策に関する大綱」を策定しました。

このような国の動きを踏まえて奈良県は、経済的困難及び社会生活上の困難を抱える子どもと家庭の「生きづらさ」に寄り添い、子どもの健やかな育ちを支援する総合的な施策を推進するため、子どもの貧困対策の推進に関する法律第9条に基づき「経済的困難及び社会生活上の困難を抱える子どもを支援する奈良県計画」を平成28年3月に策定しました。

本市においては、平成27年3月に、子ども・子育て支援に関する施策を幅広く網羅した「奈良市子ども・子育て支援事業計画～奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン～」を策定するとともに、子どもへの支援及び子育て支援を社会全体で取り組み、子ども参加によって大人とともにまちづくりを進めることを目的とした「奈良市子どもにやさしいまちづくり条例」を平成27年4月に施行するなどしてきました。

こうした状況の中、平成28年11月に「子どもの生活に関するアンケート」を実施し、子どもの生活実態や状況等の把握をおこないました。その上で、奈良市の未来を創る子どもたちの健やかな成長を支え、将来の可能性をより高めるために、「奈良市子どもの豊かな未来応援プラン（奈良市子どもの貧困対策計画）」を策定することとします。

¹ 子どもの貧困率とは、17歳以下の子ども全体に占める、貧困線に満たない17歳以下の子どもの割合をいいます。貧困線とは、等価可処分所得（世帯の可処分所得を世帯人員の平方根で割って調整した所得）の中央値の半分をいいます。

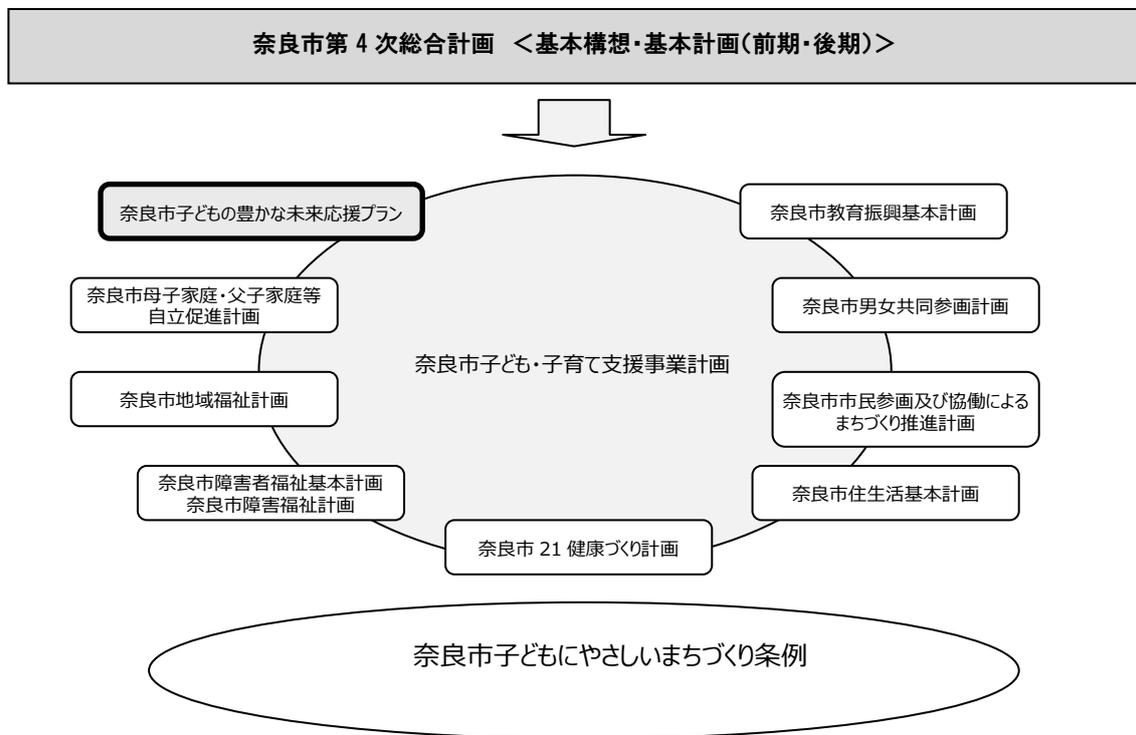
子どもの貧困率を諸外国と比較すると、平成22年ではOECD加盟34か国中25位と先進国の中でも厳しい状況にあることが指摘されています。

1-2 計画の位置付け

本計画は、子どもの貧困対策の推進に関する法律第4条に基づくものであるとともに、「奈良市第4次総合計画」及び「奈良市子ども・子育て支援事業計画」を上位計画とします。

計画の推進にあたっては、関連する本市の各分野の計画との連携・整合性を十分に考慮しつつ、柔軟に施策を展開していくものとします。

参考：本計画の位置付け



1-3 計画のめざす姿

本計画では、「奈良市子ども・子育て支援事業計画」の基本理念「すべての子どもが今を幸せに生き、夢と希望を持って成長できるまち なら」を受け、子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右され、経済的困難な状況が世代を超えて連鎖することがないように、教育の機会均等や必要な環境整備等を図り、すべての子どもがその将来に夢や希望を持って成長していける社会を実現していきます。

また、「子どもの貧困」については、経済的貧困のみではなく、社会的・文化的な環境が十分ではない状況におかれていることが多く、複雑な課題を子どもも保護者も抱えています。

そのため子どもの貧困対策推進施策として「教育支援の充実」「生活支援の充実」「経済的支援の充実」「関係機関と連携した支援の整備」の4つを施策の柱に位置づけ、施策の充実を図ります。

1-4 計画期間

「奈良市子ども・子育て支援事業計画」の計画期間が平成27年度から平成31年度までであることから、本計画の計画期間は平成29年度から平成31年度の3か年とします。

ただし、制度改正などにより本計画の見直しが必要となった場合は、必要に応じて、見直しを行うものとします。

参考：計画期間

27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
奈良市子ども・子育て支援事業計画					
奈良市子どもの豊かな未来応援プラン					

第2章 市の子どもを取り巻く現状と課題

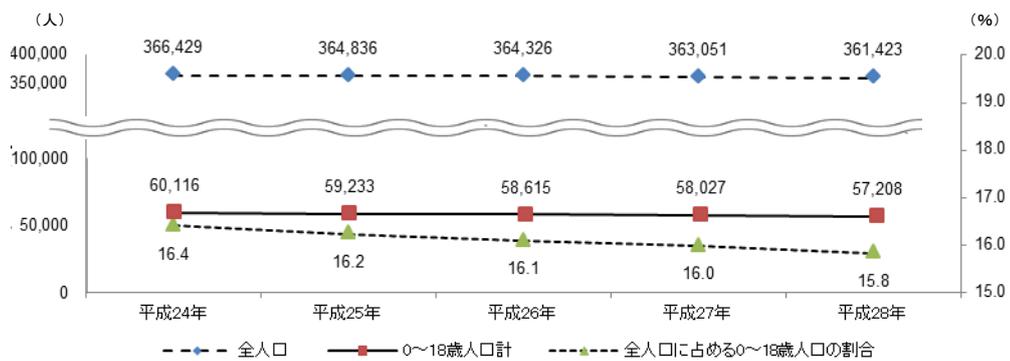
2-1 統計データからの現状

① 0～18歳人口と割合の推移

本市の0～18歳人口は、平成24年の60,116人から平成28年の57,208人へと減少傾向にあります。

また、全人口に占める0～18歳人口の割合も減少しています。

図：0～18歳人口と割合の推移

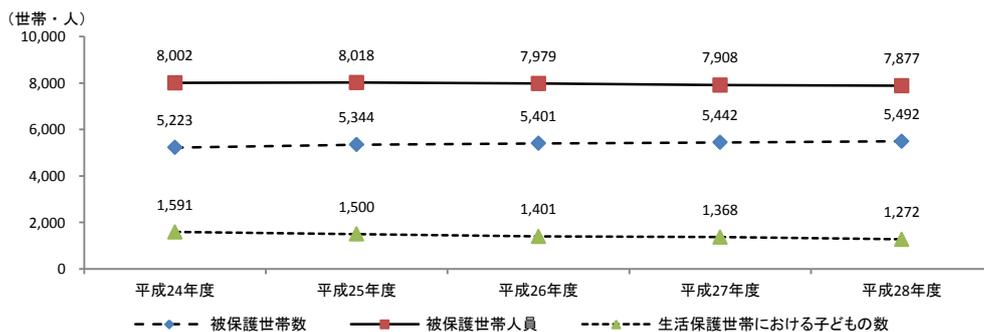


※資料：統計なら（各年4月1日現在）

② 被保護世帯数等の推移

被保護世帯数は、平成24年度の5,223世帯から平成28年度の5,492世帯へと増加傾向にあります。また、生活保護世帯における子どもの数は、平成24年度の1,591人をピークに減少傾向にあります。

図：被保護世帯数等の推移

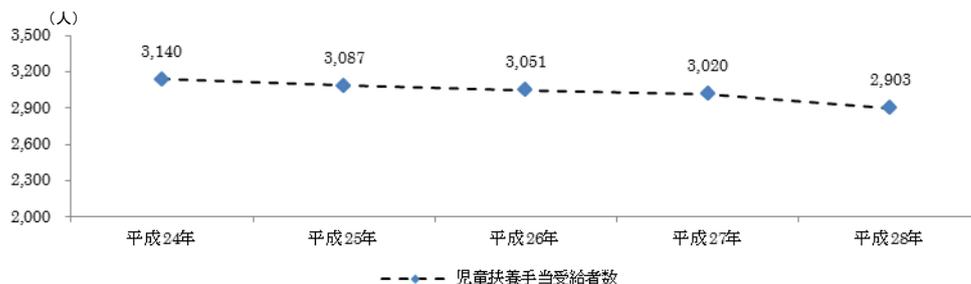


※資料：奈良市調べ（各年度4月1日現在）

③児童扶養手当受給者数の推移

児童扶養手当受給者数は、平成24年の3,140人をピークに減少傾向にあります。

図：児童扶養手当受給者数の推移

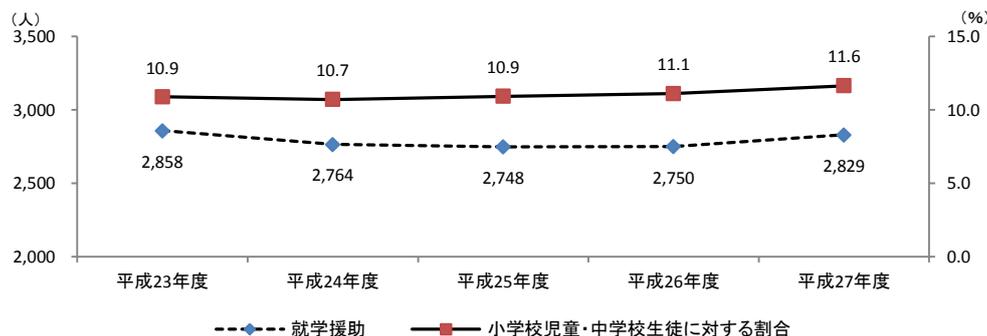


※資料：奈良市調べ（各年4月1日現在）

④就学援助認定者数の推移

就学援助認定者数は、平成23年度の2,858人から減少傾向にあり、平成25年度では2,748人となっています。平成26年度・平成27年度はそれぞれ2,750人、2,829人と増加しています。

図：就学援助認定者数の推移



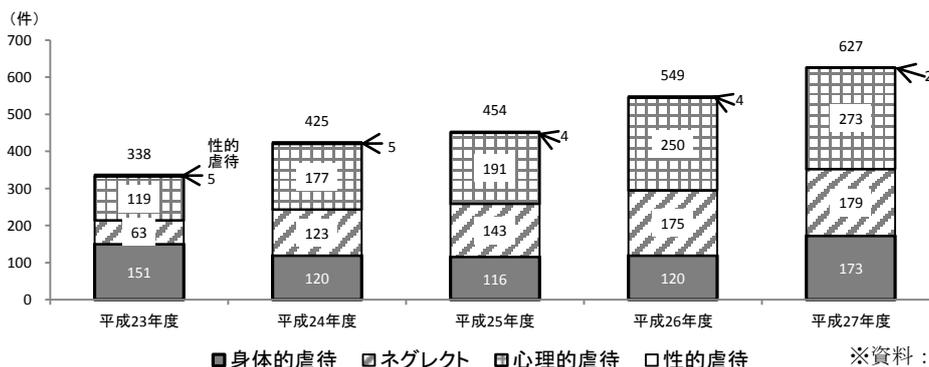
※資料：奈良市調べ（児童生徒数：各年度5月1日現在）

⑤児童虐待種別相談件数の推移

児童虐待種別相談件数は、平成23年度の338件から平成27年度の627件へと増加傾向です。

また、児童虐待種別相談件数の構成割合は、年度により異なりますが、平成27年度では身体的虐待27.6%、ネグレクト28.5%、心理的虐待43.5%、性的虐待0.3%となっています。

図：児童虐待種別相談件数の推移

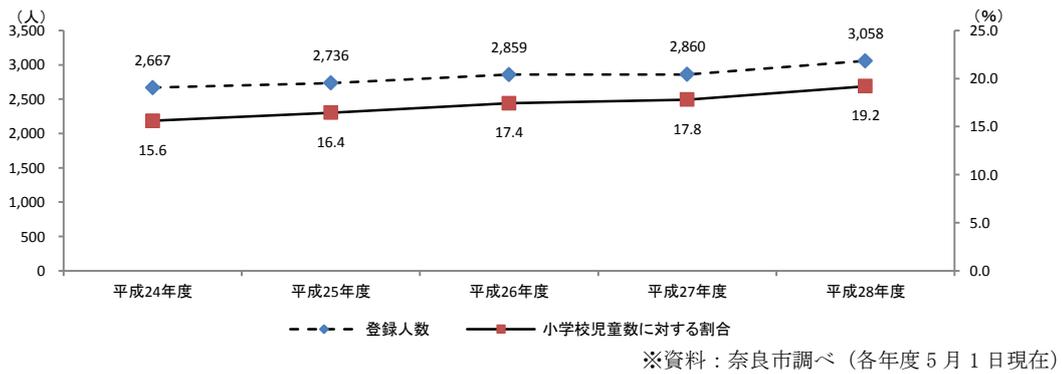


※資料：奈良市調べ

⑥バンビーホーム（放課後児童クラブ）登録児童数の推移

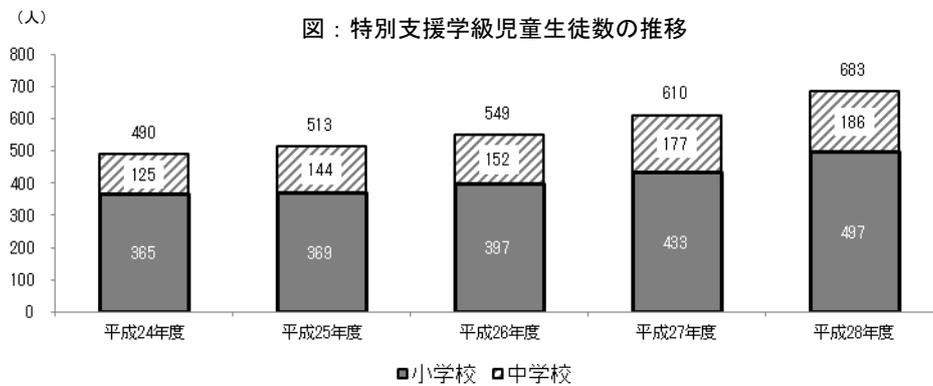
バンビーホームの登録人数は、平成24年度の2,667人から増加傾向にあります。

図：バンビーホーム（放課後児童クラブ）登録児童数の推移



⑦特別支援学級児童生徒数の推移

児童生徒数は、平成24年度の490人から平成28年度の683人へと増加傾向にあります。



⑧中学校卒業者の卒業後の状況

高等学校等進学者が98%程度で推移しています。

表：中学校卒業者の卒業後の状況

区分	平成23年		平成24年		平成25年		平成26年		平成27年		
	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	
卒業生	3,835	-	3,866	-	3,945	-	3,894	-	3,764	-	
総進学者(A)+(B)	3,810	99.3	3,825	98.9	3,906	99.0	3,865	99.3	3,752	99.7	
高等学校等進学者(A)	3,777	98.5	3,796	98.2	3,861	97.9	3,832	98.4	3,719	98.8	
(B)	専修学校(高等課程)進学者	28	0.7	23	0.6	41	1.0	30	0.8	22	0.6
	専修学校(一般課程)等入学者	5	0.1	6	0.2	3	0.1	3	0.1	8	0.2
	公共職業能力開発施設等入学者	-	-	-	-	1	0.0	-	-	3	0.1
就職者(C)	6	0.2	6	0.2	2	0.1	4	0.1	1	0.0	
上記以外のもの	18	0.5	35	0.9	27	0.7	24	0.6	11	0.3	
死亡・不詳	1	0.0	-	-	10	0.3	1	0.0	-	-	
(A),(B)のうち就職している者(D)	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.0	
総就職者(C)+(D)	6	0.2	6	0.2	2	0.1	4	0.1	2	0.1	

※資料：統計なら（各年5月1日現在）

⑨高等学校卒業者の卒業後の状況

平成23年以降、大学等進学者が増加傾向であり、専修学校（専門課程）進学者が減少傾向となっています。

表：高等学校卒業者の卒業後の状況

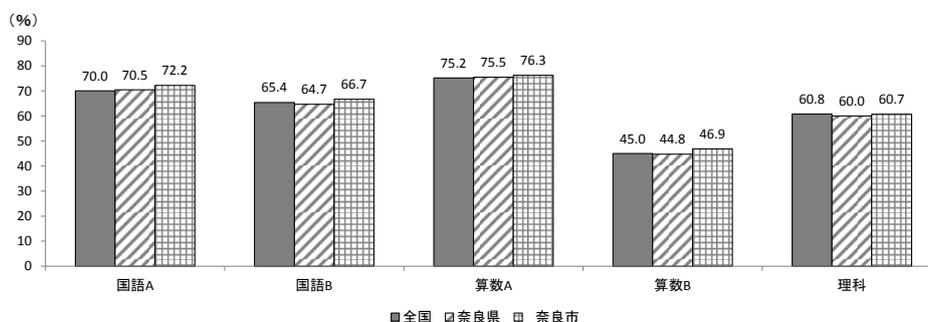
区分	平成23年		平成24年		平成25年		平成26年		平成27年		
	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	実数	割合	
卒業生	3,880	-	3,689	-	3,908	-	3,693	-	3,775	-	
総進学者(A)+(B)	3,291	84.8	3,254	88.2	3,419	87.5	3,282	88.9	3,324	88.1	
大学等進学者(A)	2,477	63.8	2,473	67.0	2,566	65.7	2,453	66.4	2,623	69.5	
(B)	専修学校(専門課程)進学者	403	10.4	370	10.0	373	9.5	316	8.6	214	5.7
	専修学校(一般課程)等入学者	408	10.5	406	11.0	478	12.2	510	13.8	486	12.9
	公共職業能力開発施設等入学者	3	0.1	5	0.1	2	0.1	3	0.1	1	0.0
就職者(C)	234	6.0	177	4.8	230	5.9	227	6.1	217	5.7	
上記以外のもの	355	9.1	258	7.0	259	6.6	184	5.0	222	5.9	
死亡・不詳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
(A),(B)のうち就職している者(D)	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.0	
総就職者(C)+(D)	234	6.0	177	4.8	230	5.9	227	6.1	218	5.8	

※資料：統計なら（各年5月1日現在）

⑩平成 27 年度全国学力・学習状況調査 調査結果（小学校 6 年生）

国語A、国語B、算数A、算数Bで全国・奈良県より高くなっています。

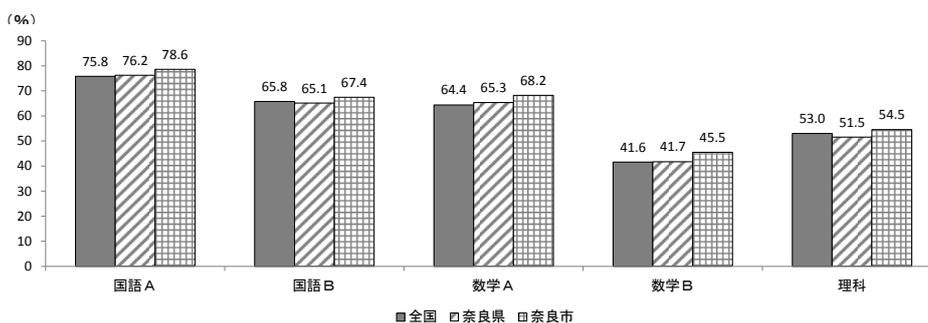
図：平成 27 年度全国学力・学習状況調査 調査結果（小学校 6 年生）



平成 27 年度全国学力・学習状況調査 調査結果（中学校 3 年生）

国語A、国語B、数学A、数学B、理科のすべてで全国・奈良県より高くなっています。

図：平成 27 年度全国学力・学習状況調査 調査結果（中学校 3 年生）



※資料：平成 27 年度全国学力・学習状況調査

※国語A，算数・数学A：主として「知識」に関する問題を中心とした出題

国語B，算数・数学B：主として「活用」に関する問題を中心とした出題

理科：主として「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に出題

2-2 アンケート調査結果

2-2-1 調査概要

【子ども・保護者アンケート】

・調査概要

調査対象	市内公立小学5年生の児童とその保護者 市内公立中学2年生の生徒とその保護者
抽出方法	市内公立小学5年及び市内公立中学2年の学年をそれぞれ学級単位で無作為抽出
調査方法	学校配布郵送回収
調査期間	平成28年11月25日(金)～12月6日(火)

・調査結果

		調査対象数	回答数	回収率
保護者	小学5年生	1,028	567	55.2%
	中学2年生	976	404	41.4%
	不明	—	54	—
	計	2,004	1,025	51.1%
子ども	小学5年生	1,028	567	55.2%
	中学2年生	976	405	41.5%
	不明	—	31	—
	計	2,004	1,003	50.0%

【支援者調査・事例収集調査】

・調査概要

調査対象	市内関係機関等(庁内関係部署、保育園、小学校、中学校、NPO法人、公民館、社会福祉協議会、民生児童委員、地区社会福祉協議会、地域子育て拠点センター)
調査方法	郵送配布郵送回収
調査期間	平成28年11月25日(金)～12月6日(火)

・調査結果

	調査対象数	回答数	回収率
支援者	58	51	87.9%
事例収集	474	215	45.4%

【ヒアリング調査】

・調査概要

調査対象	市内関係機関(庁内関係部署、保育園、小学校、中学校、NPO法人、公民館、社会福祉協議会等)
調査対象数	24団体
調査方法	支援者調査・事例収集調査等についての聞き取り
調査期間	平成28年12月6日(火)、7日(水)、8日(木)、9日(金)、14日(水)

2-2-2 本調査における各分析指標の定義

生活に困難を抱える子どもが増加することは、次世代の健全な育成、機会の均等という観点から懸念される問題です。

また、「中央教育審議会 次代を担う自立した青少年の育成に向けて（答申）平成19年」では、「自己肯定感が高い子どもとは、「自分が価値のある存在である」と感じていたり、自分に自信がある子どもだといえます。その特徴としては、様々な物事に取り組む意欲が高いことがあげられます。学習や労働への意欲の減退だけでなく、成長の糧となる様々な試行錯誤に取り組もうとする意欲そのものが減退している背景には、青少年の自己肯定感の低さなどがみられる」ことが指摘されています。

これらは、本市の子どもの貧困対策についても重要な考え方であるため、本調査では「相対的貧困層」「自己肯定感」を次のように定義し、分析を行いました。

①相対的貧困層分析概要

本調査では、「親と子の生活意識に関する調査（内閣府 平成23年度）」における分析方法を参考に、等価可処分所得（世帯の可処分所得を世帯人員の平方根で割って調整した所得）の中央値の半分（貧困線）に満たない世帯を、相対的貧困層と想定しました。

しかし、本調査では世帯人数と可処分所得の回答のみで相対的貧困層と非相対的貧困層を区分しており、相対的貧困層に該当した世帯すべてが実際の生活に困難を抱えているものではありません。

（内閣府調査では、世帯人数と世帯収入（税込）との関係で分類しており、本調査とは世帯収入の選択肢区分が異なる）

表：本調査における相対的貧困層の考え方

		可処分所得												わからない	無回答	
		100万円未満	100万円以上200万円未満	200万円以上300万円未満	300万円以上400万円未満	400万円以上500万円未満	500万円以上600万円未満	600万円以上700万円未満	700万円以上800万円未満	800万円以上900万円未満	900万円以上1000万円未満	1000万円以上				
世帯人数	2人	相対的貧困層														
	3人	相対的貧困層														
	4人	相対的貧困層														
	5人	相対的貧困層														
	6人	相対的貧困層														
	7人	相対的貧困層														
	8人以上	相対的貧困層														
	無回答															

②自己肯定感（※）分析概要

自己肯定感を高めるには、乳幼児期に保護者をはじめとする特定の保育者がしっかりと子どもに関わり、愛着形成や情緒の安定と基本的な生活習慣の定着をはかることが大切です。

さらに学齢期以降の学習習慣の基盤をつくるとともに学習意欲や課題や困難に立ち向か

う精神力の基盤をつくることが非常に重要です。

本調査では、子どもの自己肯定感に関する項目を設け（「頑張れば、成果が出せる」「自分は価値のある人間だと思う」「自分には良いところがある」「不安に感じるところはない」「孤独を感じることはない」「自分の将来が楽しみだ」）、それぞれの選択肢にポイントをつけ、自己肯定感を「高」「中」「低」に分類しどのような傾向があるかその実態の把握に努めました。

表：本調査における自己肯定感分類の考え方

選択肢	ポイント
あてはまる	4
どちらかといえば、あてはまる	3
どちらかといえば、あてはまらない	2
あてはまらない	1

ポイント	自己肯定感
6-11	低
12-18	中
19-24	高

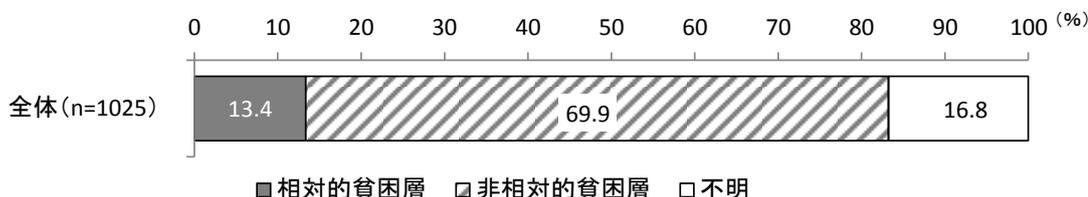
※6つの全ての項目に回答した子ども（小学生・中学生）が分類の対象

2-2-3 基本状況

【保護者アンケート調査より】

①相対的貧困層の割合

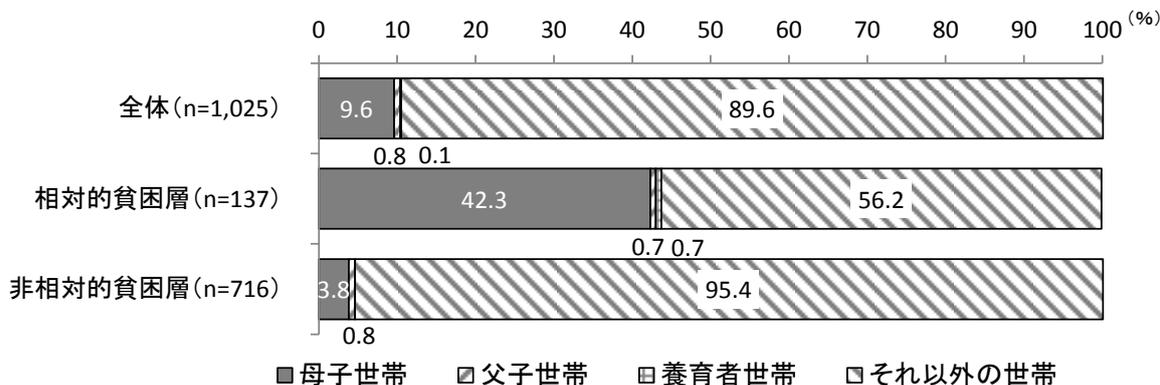
相対的貧困層の割合は13.4%となっています（無回答を集計に含めない場合16.1%）。



②世帯状況

「母子世帯」が9.6%、「父子世帯」が0.8%、「養育者世帯」が0.1%、「それ以外の世帯」が89.6%です。

また相対的貧困層では非相対的貧困層と比べて、「母子世帯」の割合が高く、「それ以外の世帯」の割合が低くなっています。

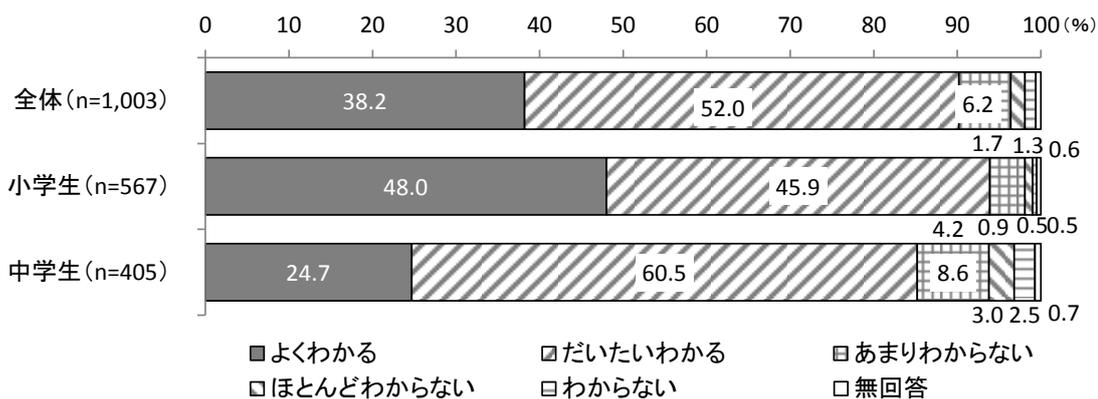


2-2-4 学習・学力について

【子どもアンケート調査より】

③学校の授業の理解度

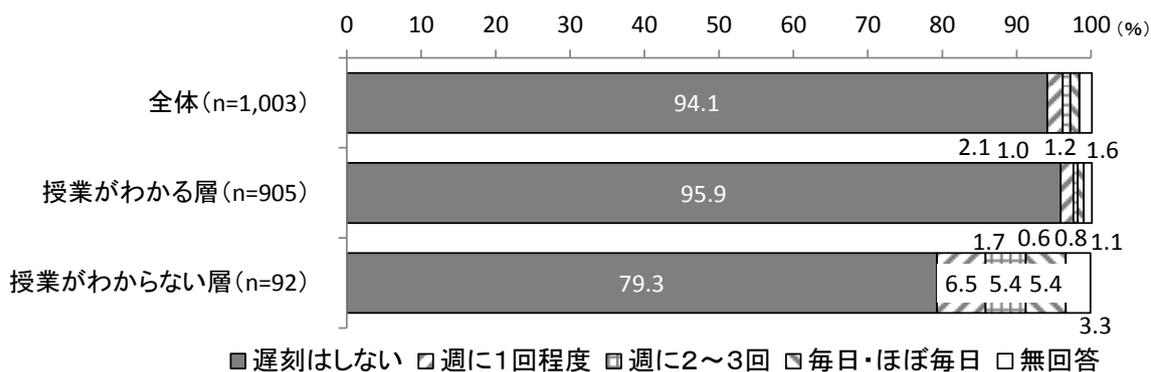
「だいたいわかる」と回答した割合が52.0%と最も高く、次いで「よくわかる」が38.2%となっています。



(学校の授業の理解度と遅刻との関係)

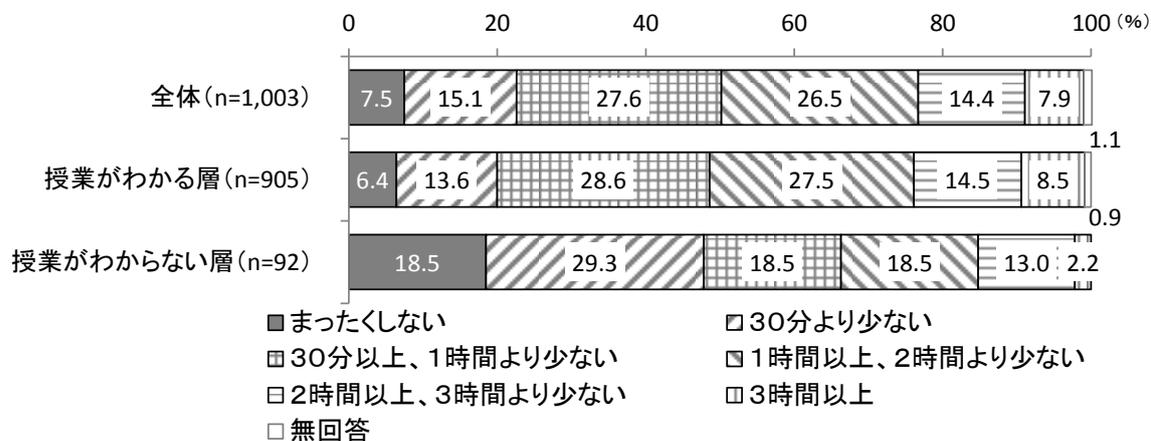
学校の授業の理解度について、「よくわかる」「だいたいわかる」を【授業がわかる層】、「あまりわからない」「ほとんどわからない」「わからない」を【授業がわからない層】と分類しました。

学校の授業がわからない層では学校の授業がわかる層と比べて、「遅刻はしない」と回答した割合が低くなっています。



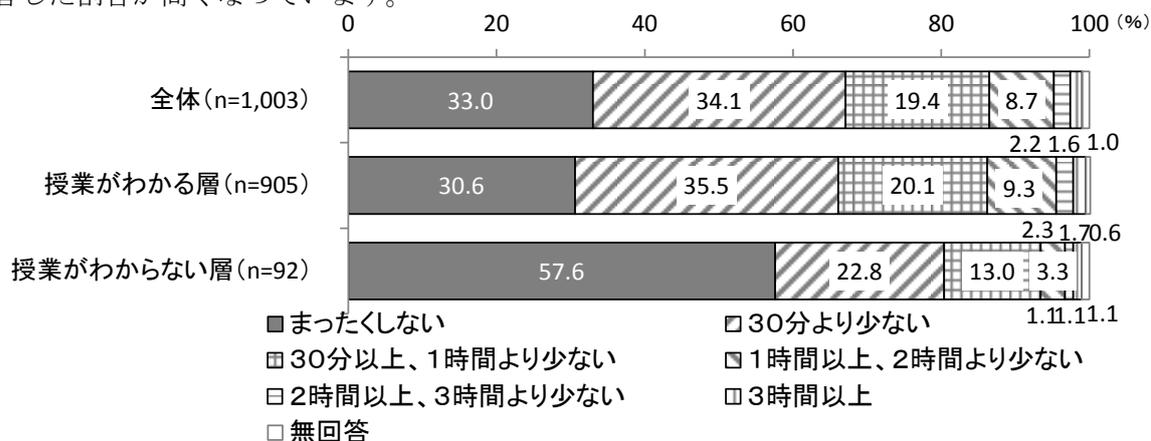
(学校の授業の理解度と授業以外の勉強時間との関係)

学校の授業がわからない層では学校の授業がわかる層と比べて、「まったくしない」と回答した割合が高くなっています。



(学校の授業の理解度と読書時間との関係)

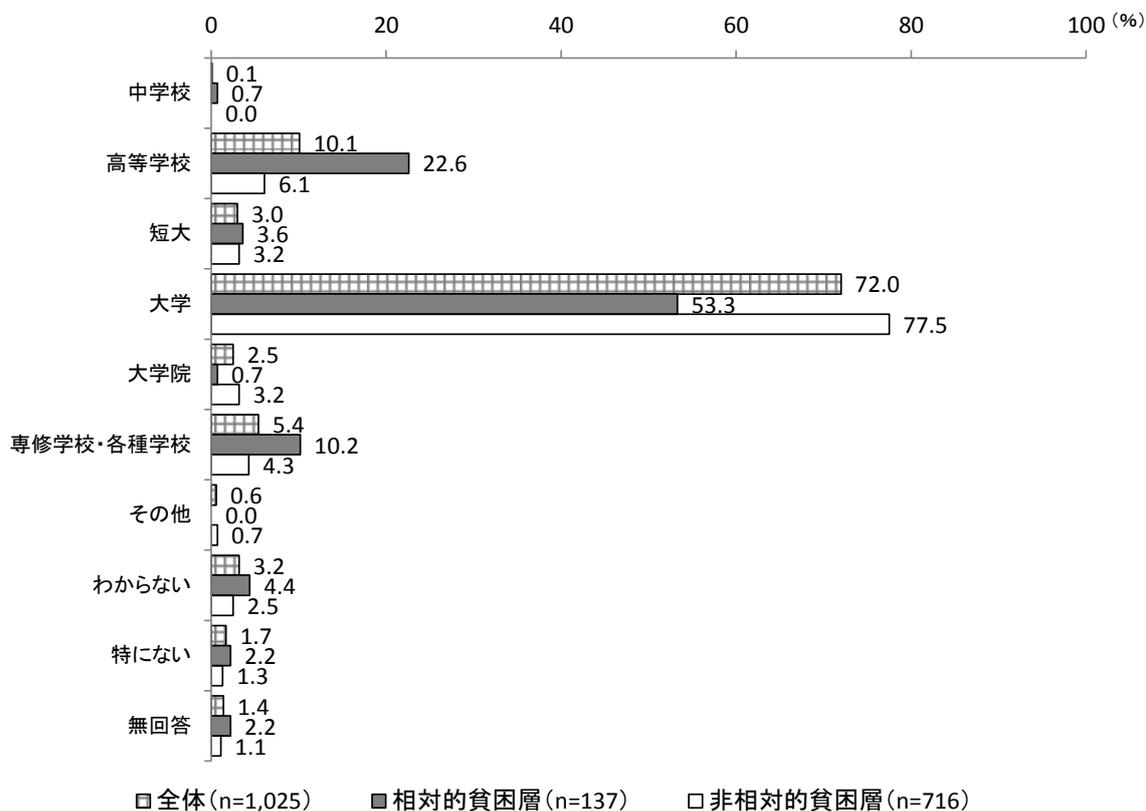
学校の授業がわからない層では学校の授業がわかる層と比べて、「まったくしない」と回答した割合が高くなっています。



【保護者アンケート調査より】

④希望とするお子さんの進学

相対的貧困層では非相対的貧困層と比べて、「高等学校」の割合が高く、「大学」の割合が低くなっています。



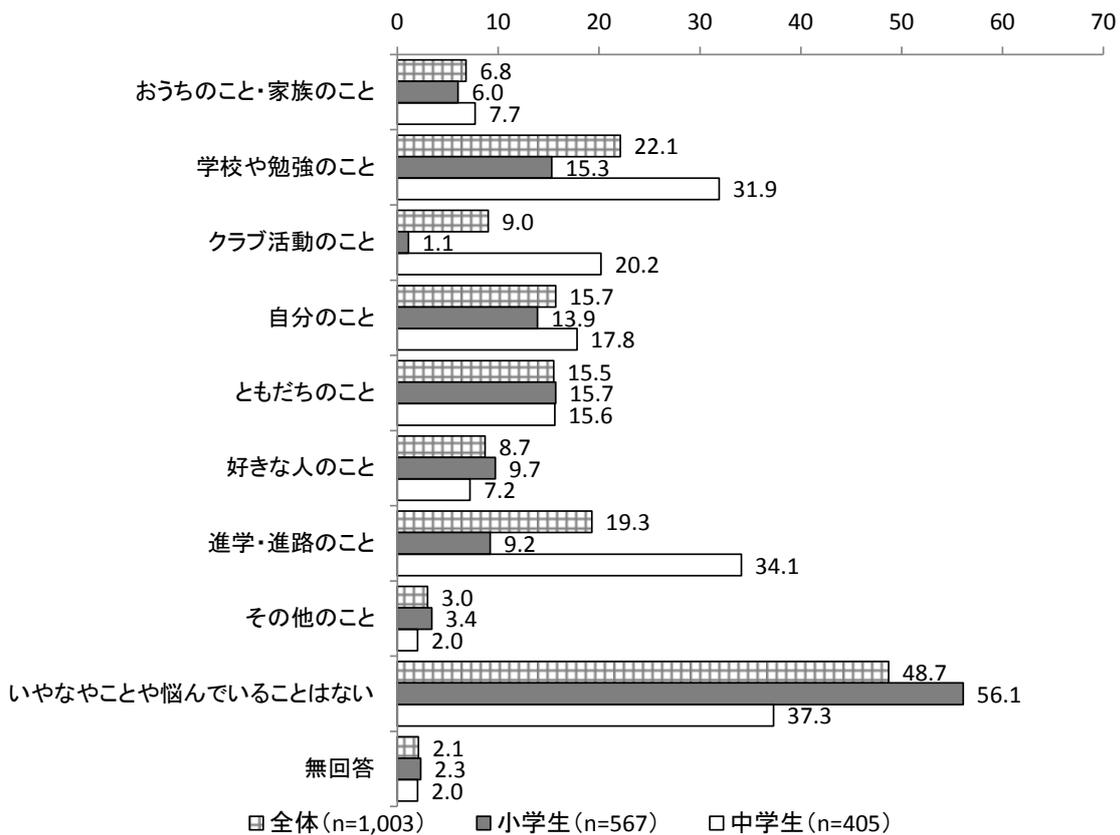
2-2-5 生活状況について

【子どもアンケート調査より】

⑤いやなことや悩んでいること

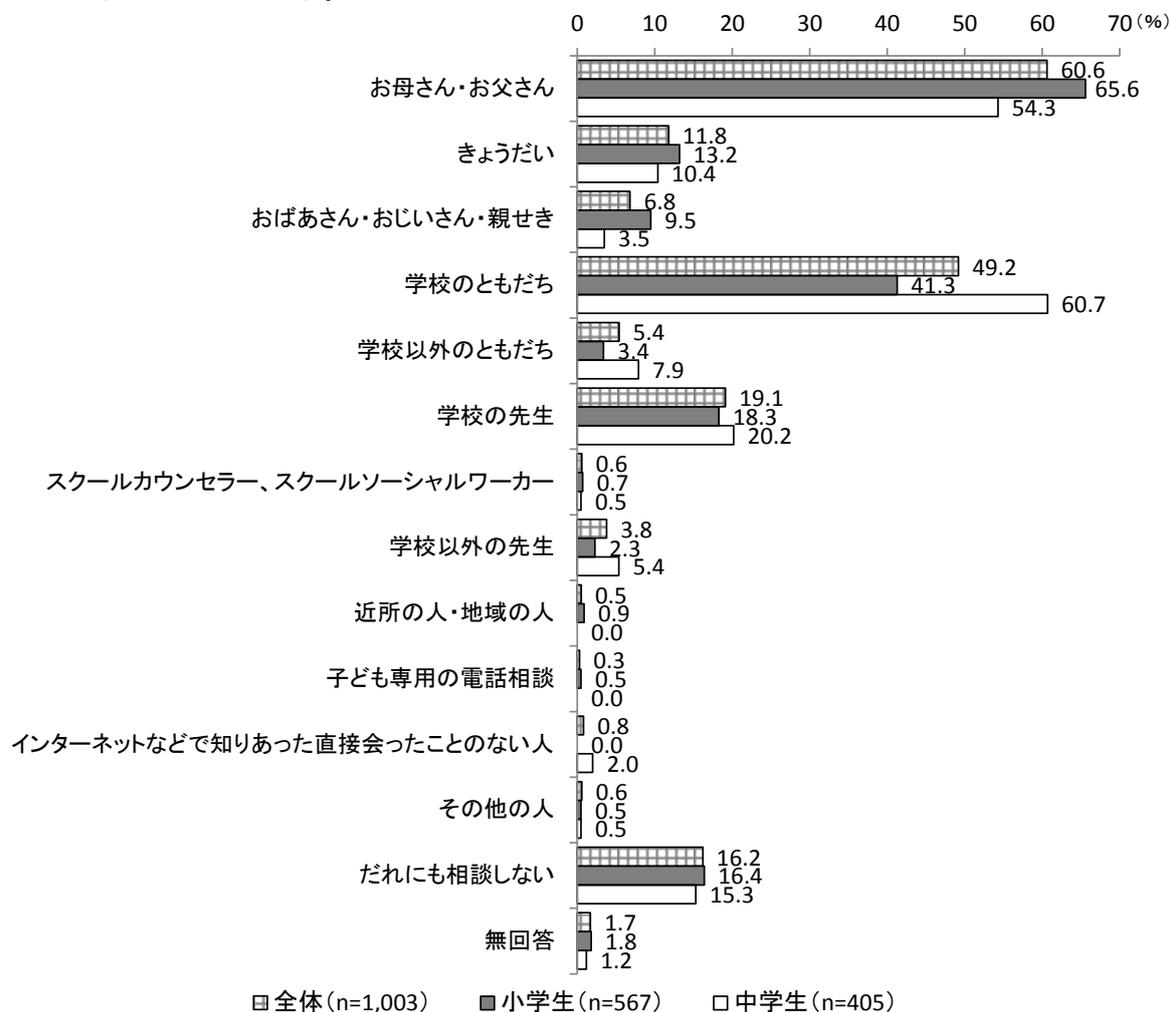
いやなことや悩んでいることで一番回答が多いのは「学校や勉強のこと」が22.1%となっています。「いやなことや悩んでいることがない」を選択している子どもには自己肯定感が高い傾向がみられます。

(%)



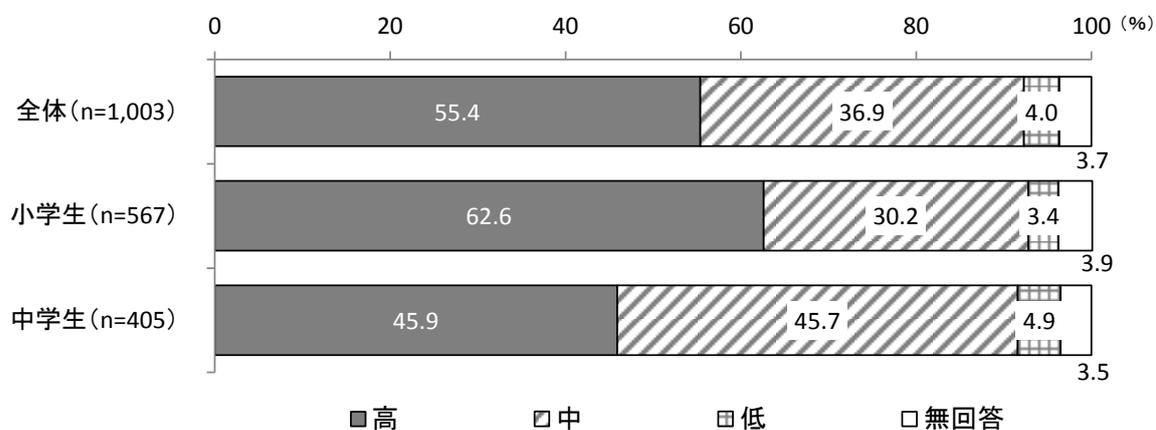
⑥相談相手

「お母さん・お父さん」と回答した割合が 60.6%と最も高く、次いで「学校のともだち」が 49.2%となっています。



⑦子どもの自己肯定感（P10参照）

また小学生では中学生と比べて、自己肯定感が「高」の割合が高くなっています。

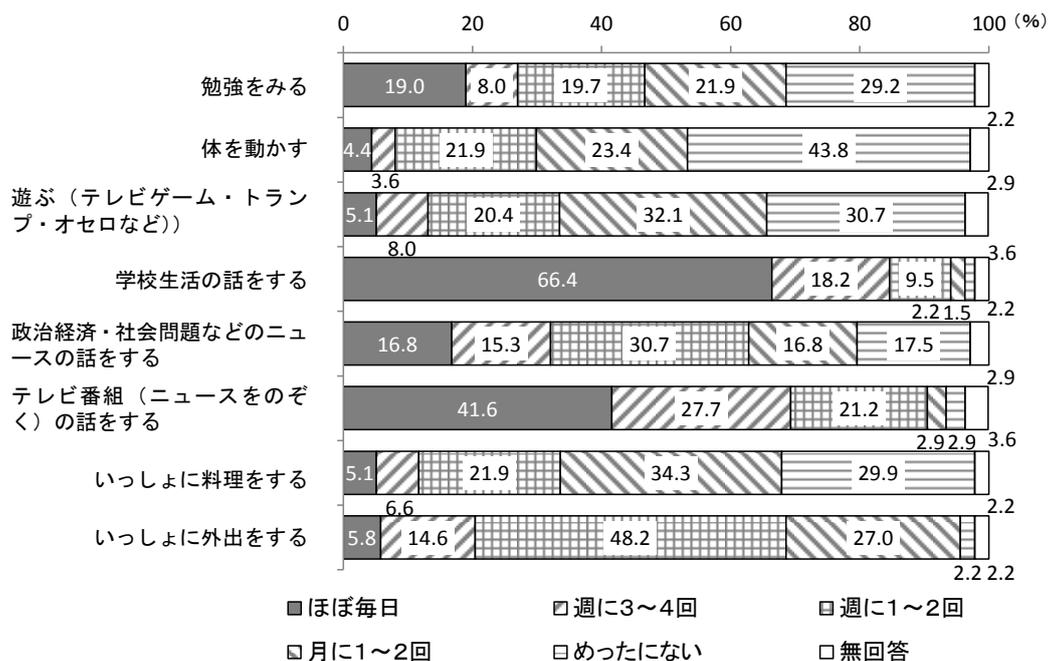


【保護者アンケート調査より】

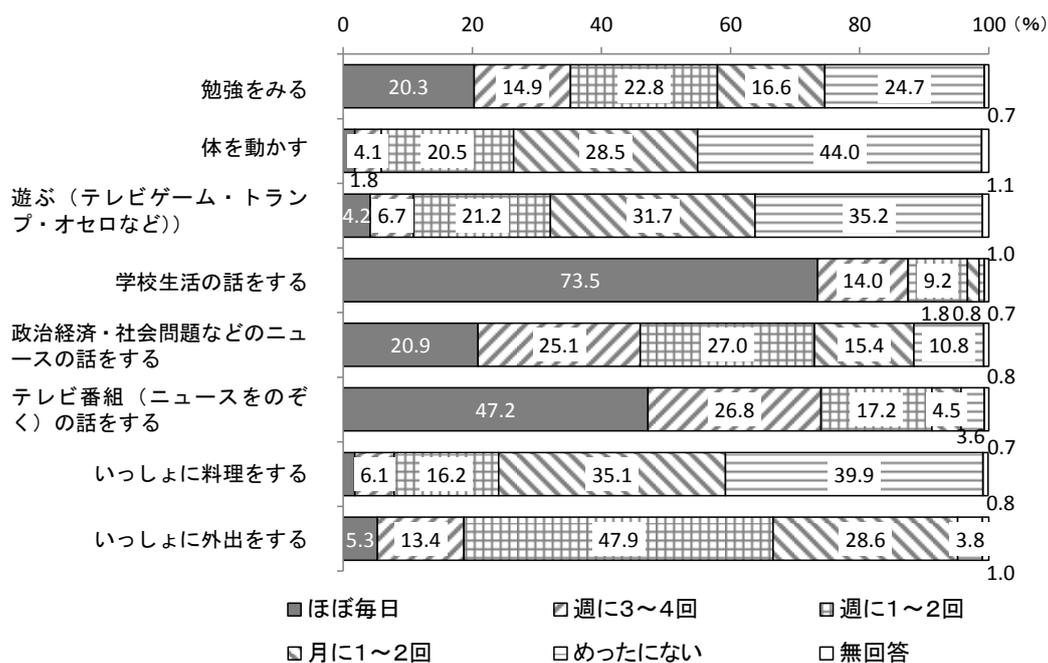
⑧子どもとの関わり

相対的貧困層では非相対的貧困層と比べて、『学校生活の話をする』・『テレビ番組（ニュースをのぞく）の話をする』で「ほぼ毎日」の割合が低くなっています。

(相対的貧困層)



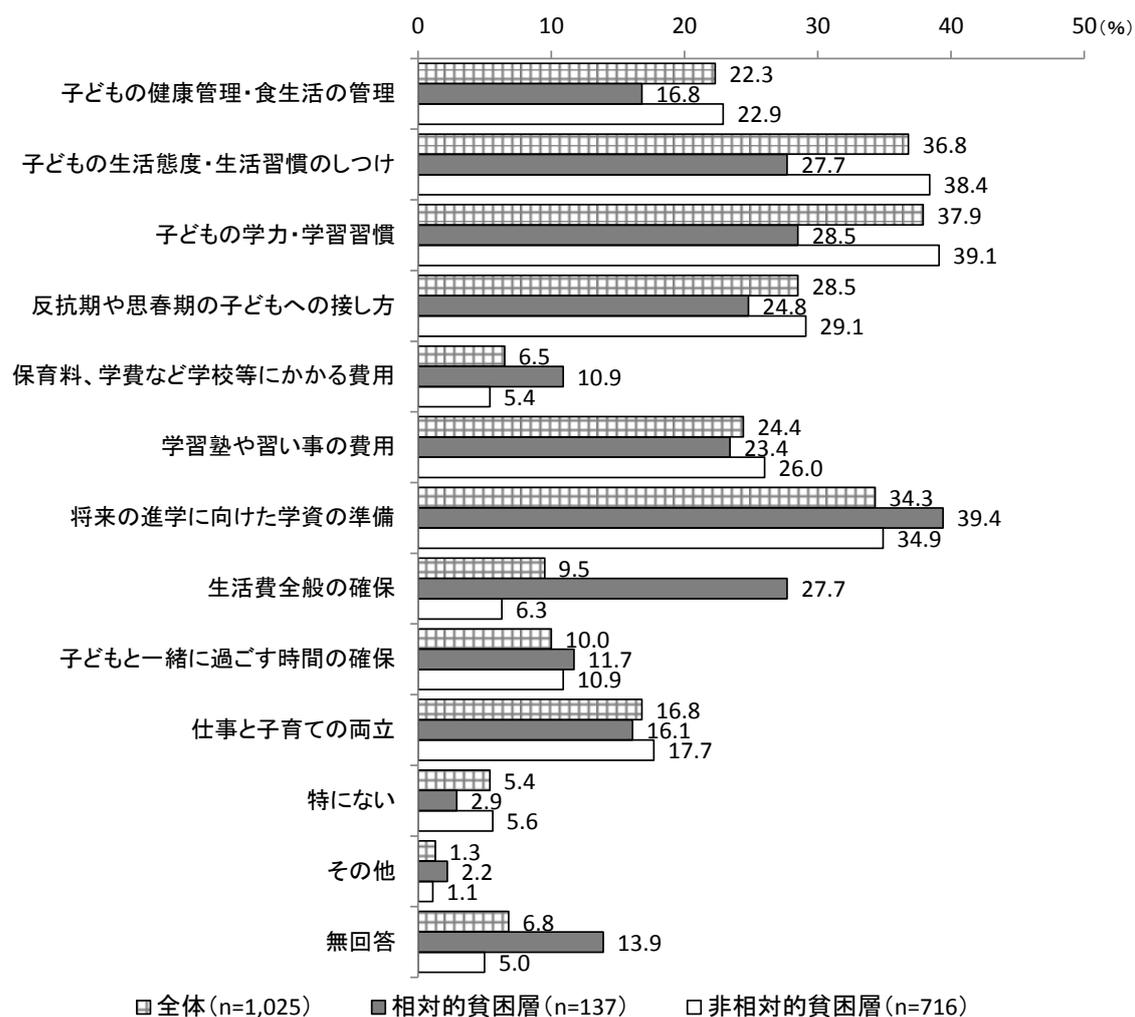
(非相対的貧困層)



⑨子育てをしていて特に大変だと感じること

「子どもの学力・学習習慣」と回答した割合が 37.9%と最も高く、次いで「子どもの生活態度・生活習慣のしつけ」が 36.8%となっています。

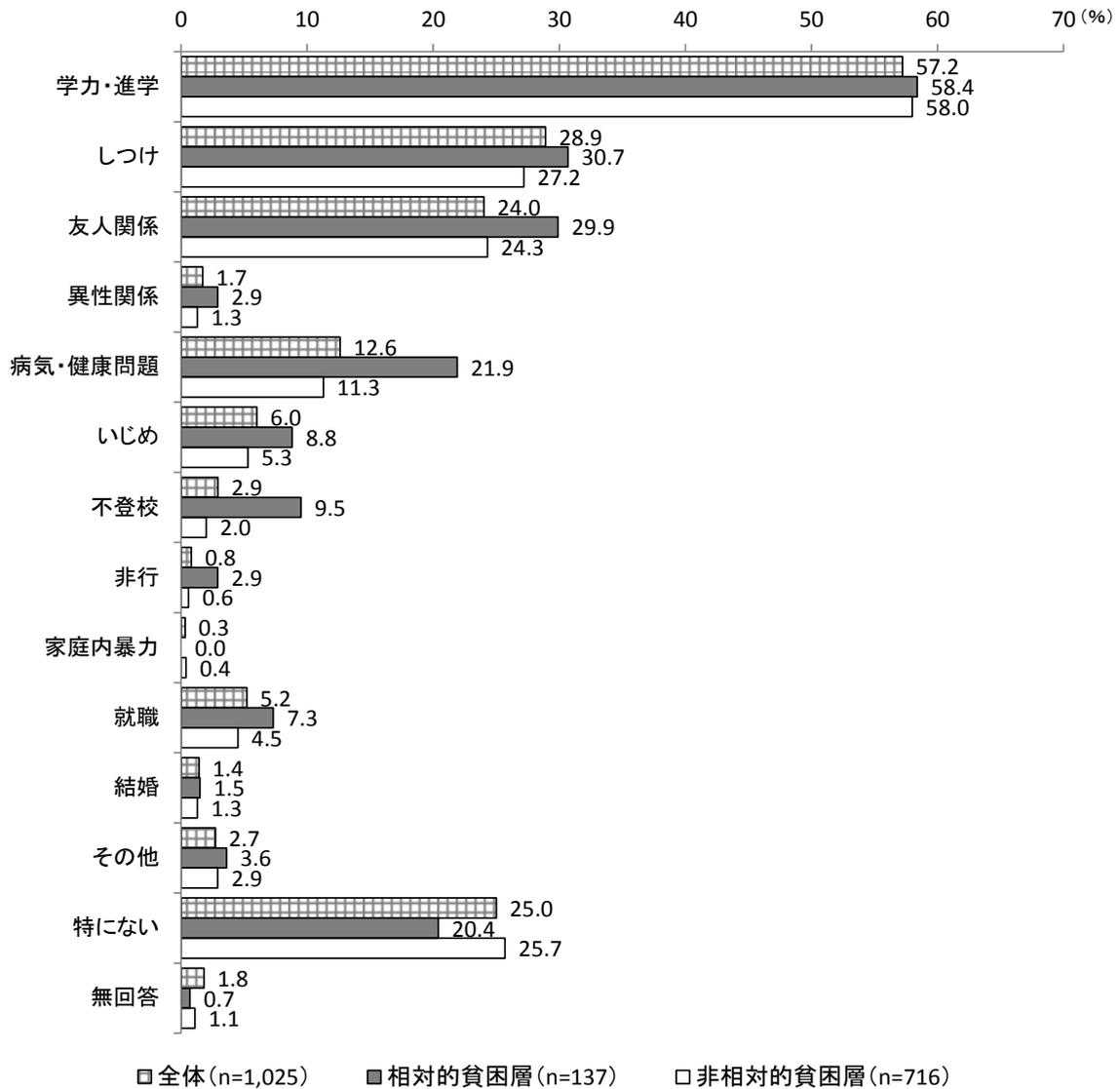
相対的貧困層では、「将来の進学に向けた学資の準備」と回答した割合が 39.4%と最も高くなっています。また、非相対的貧困層と比べると「生活費全般の確保」の割合が高く、「子どもの生活態度・生活習慣のしつけ」「子どもの学力・学習習慣」の割合が低くなっています。



⑩子どもに対する悩み

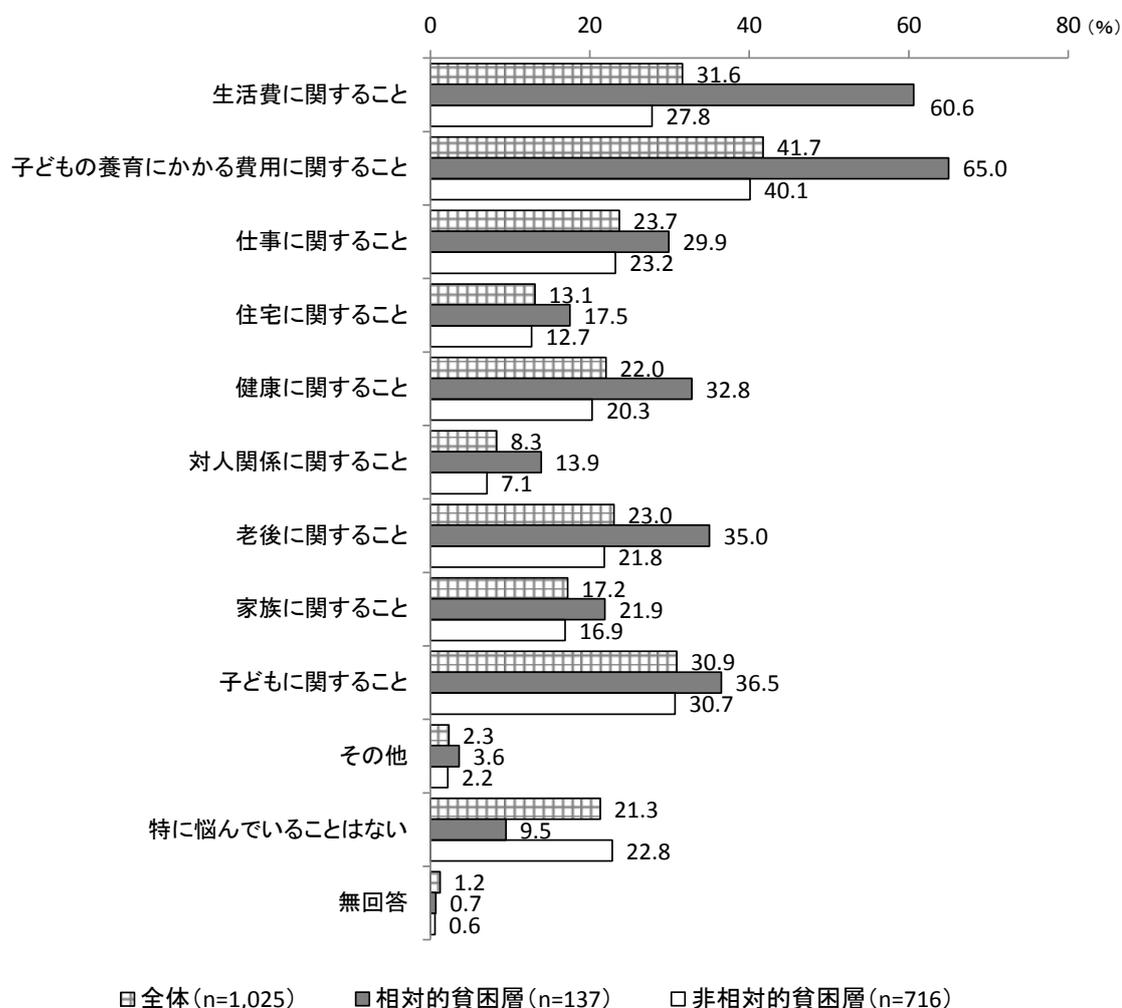
全体では、「学力・進学」と回答した割合が57.2%と最も高く、次いで「しつけ」が28.9%となっています。

相対的貧困層では非相対的貧困層と比べて、「病気・健康問題」「不登校」の割合が高くなっており、「特にない」が低くなっています。



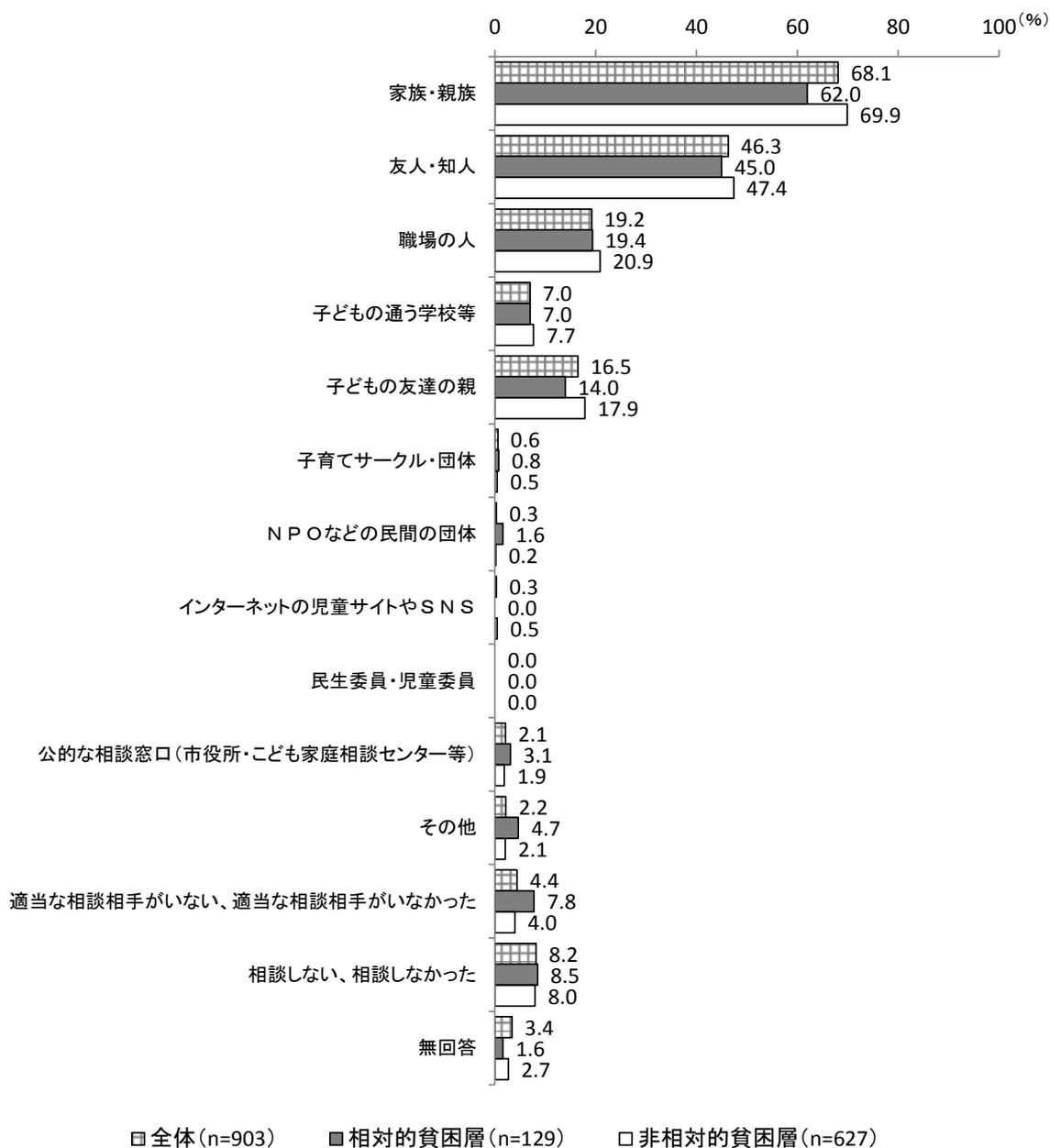
⑪ご自身の生活に関する悩み

相対的貧困層では非相対的貧困層と比べて、「生活費に関すること」「健康に関すること」「子どもの養育にかかる費用のこと」「老後に関すること」の割合が高く、「特に悩んでいることはない」の割合が低くなっています。



⑫悩みの相談相手

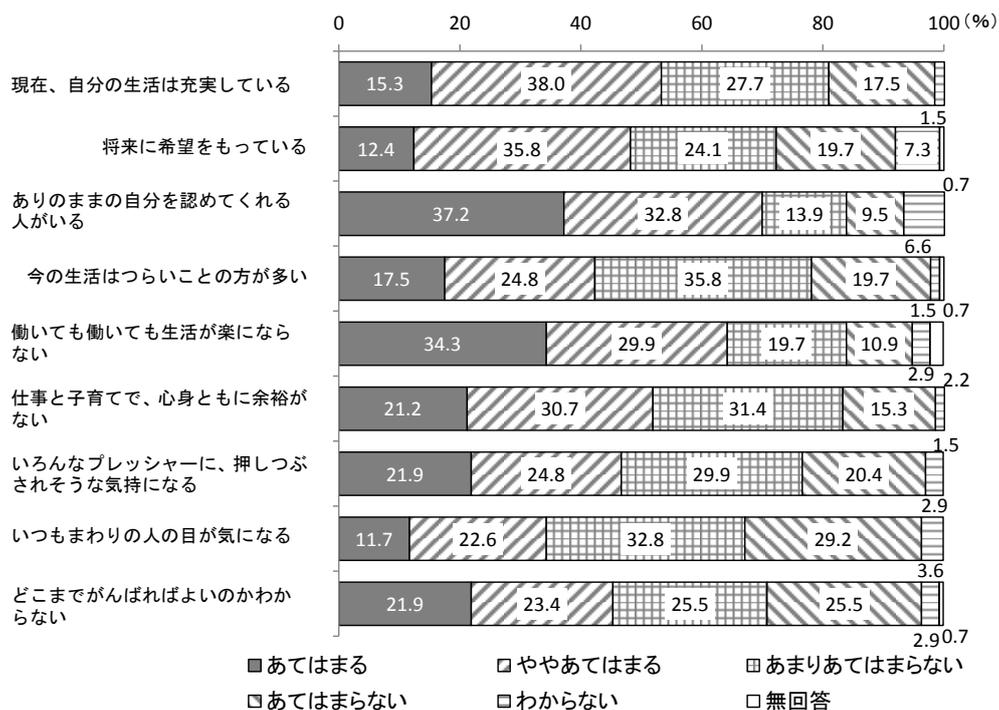
相対的貧困層では非相対的貧困層と比べて、「適当な相談相手がない、いかった」の割合が高く、「家族・親族」の割合が低くなっています。



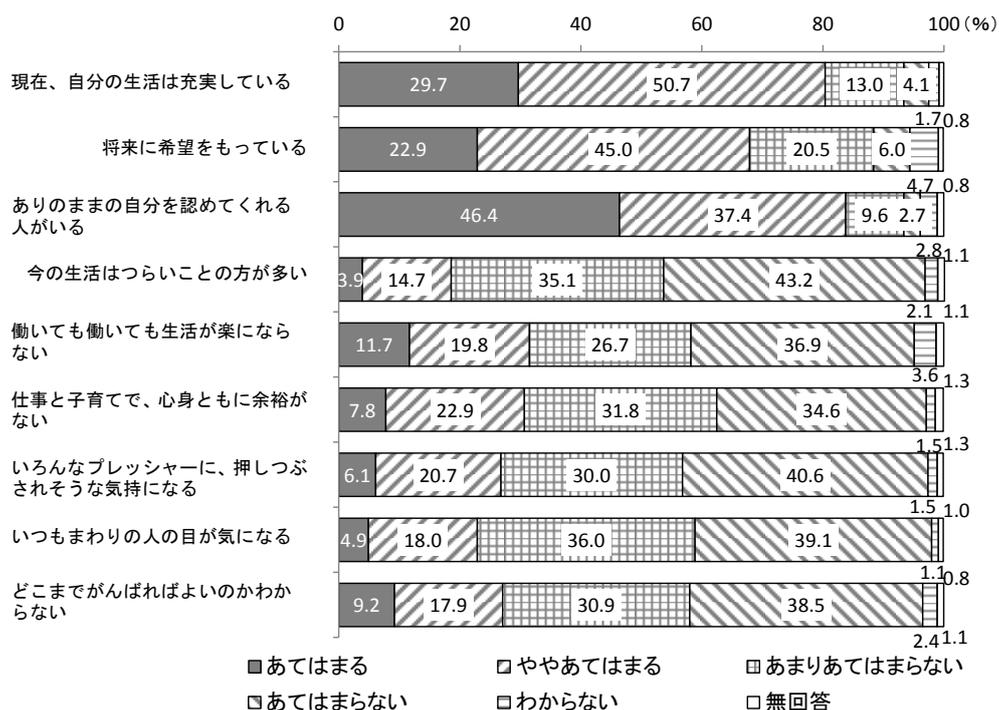
⑬保護者の現在の生活意識

相対的貧困層では非相対的貧困層と比べて、保護者の生活意識について消極的な回答をした割合が高くなっています。

(相対的貧困層)



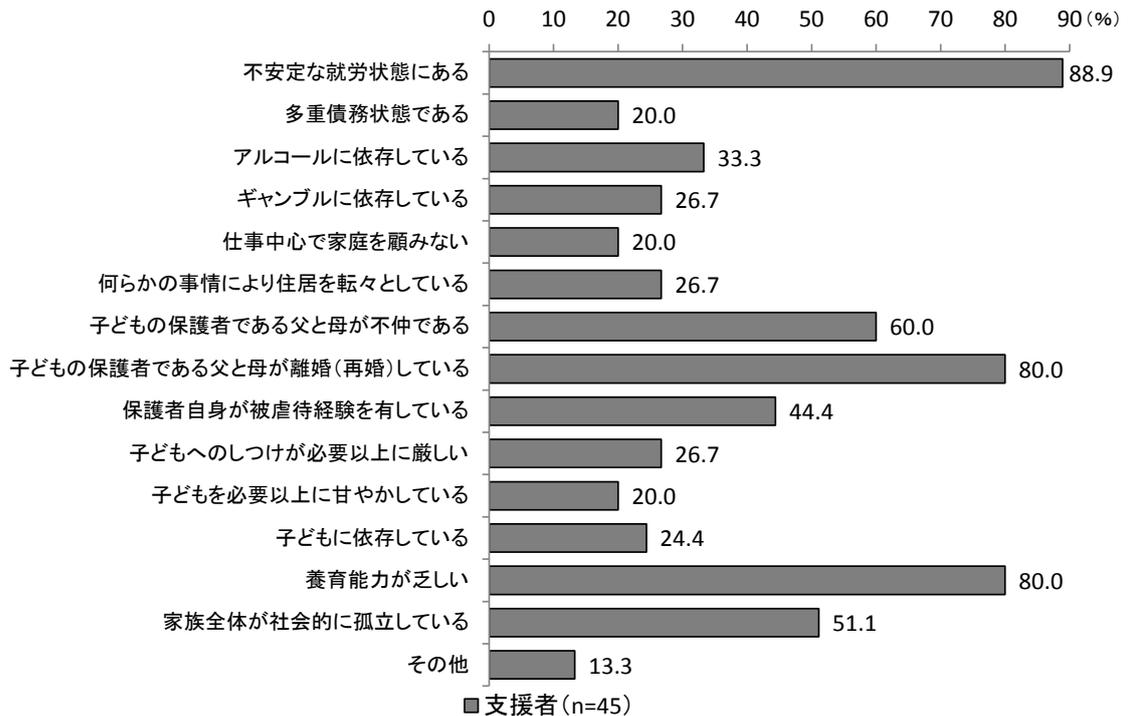
(非相対的貧困層)



【支援者調査より】

⑭ 支援している子どもの保護者が経験していること

「不安定な就労状態にある」と回答した割合が88.9%と最も高く、次いで「子どもの保護者である父と母が離婚（再婚）している」「養育能力が乏しい」がともに80.0%となっています。

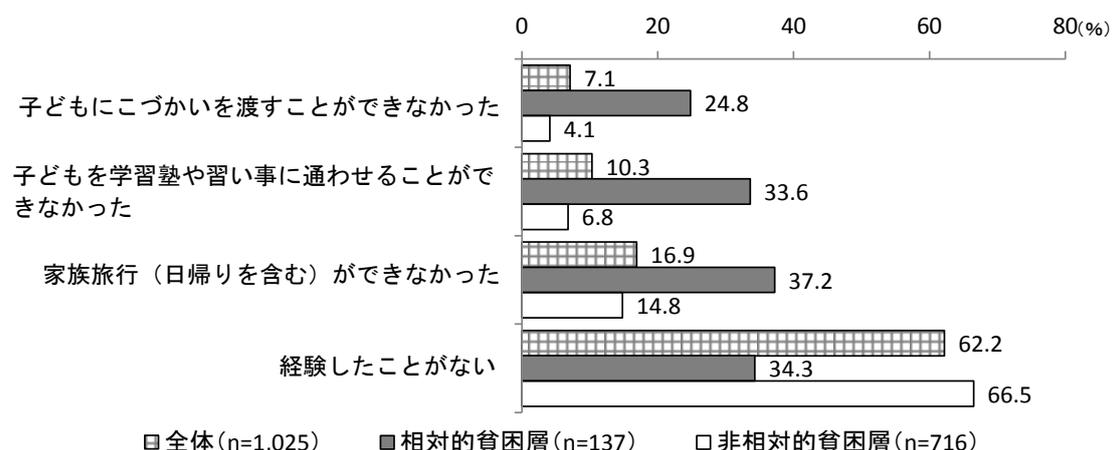


2-2-6 経済状況について

【保護者アンケート調査より】

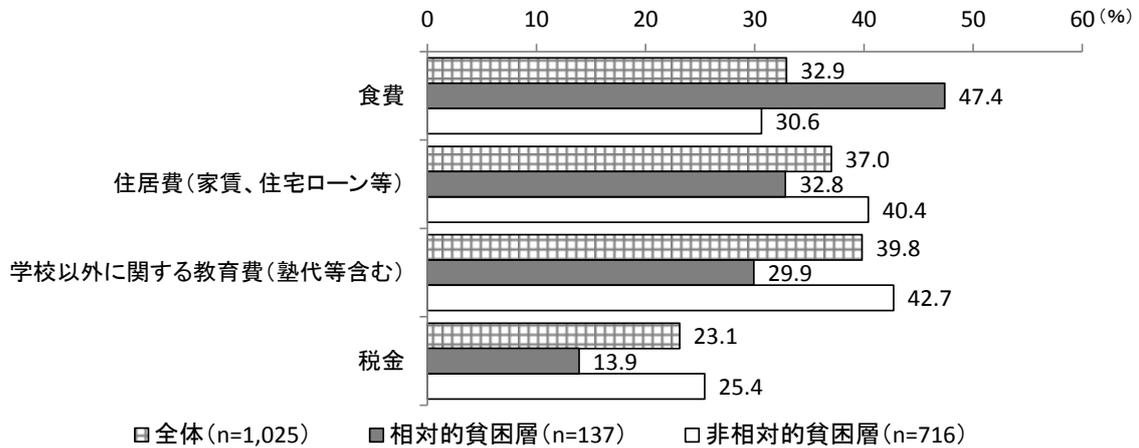
⑮ 経済的な理由で経験したこと（上位4項目）

相対的貧困層では非相対的貧困層と比べて、「子どもにこづかいを渡すことができなかった」「子どもに学習塾や習い事に通わせることができなかった」「家族旅行（日帰りを含む）ができなかった」の割合が高く、「経験したことがない」の割合が低くなっています。



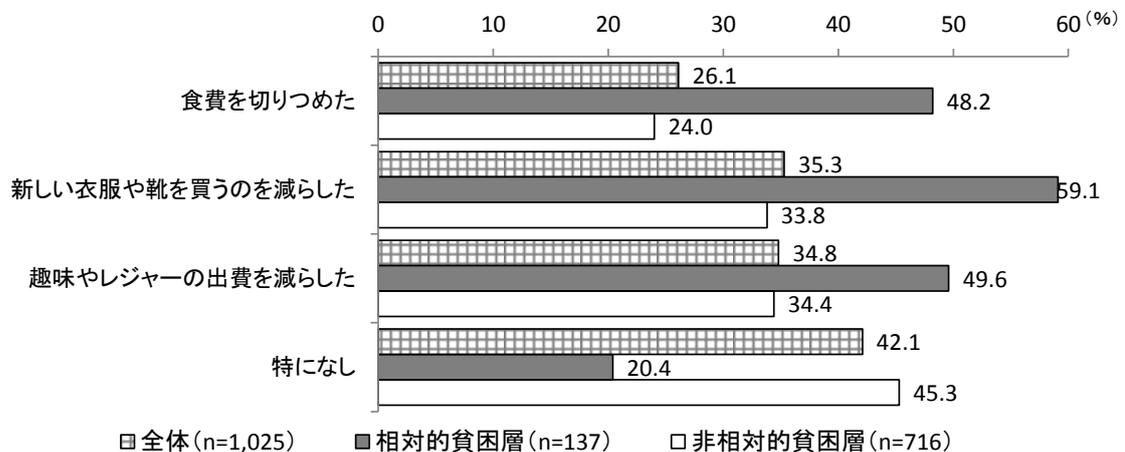
⑩家計において負担を感じる経費（上位4項目）

相対的貧困層では非相対的貧困層と比べて、「食費」の割合が高く、「学校以外に関する教育費（塾代等含む）」「税金」の割合が低くなっています。



⑪おおよそ半年の間に経済的理由で経験されたこと（上位4項目）

相対的貧困層では非相対的貧困層と比べて、「食費を切りつめた」「新しい衣服や靴を買うのを減らした」「趣味やレジャーの出費を減らした」の割合が高く、「特になし」の割合が低くなっています。

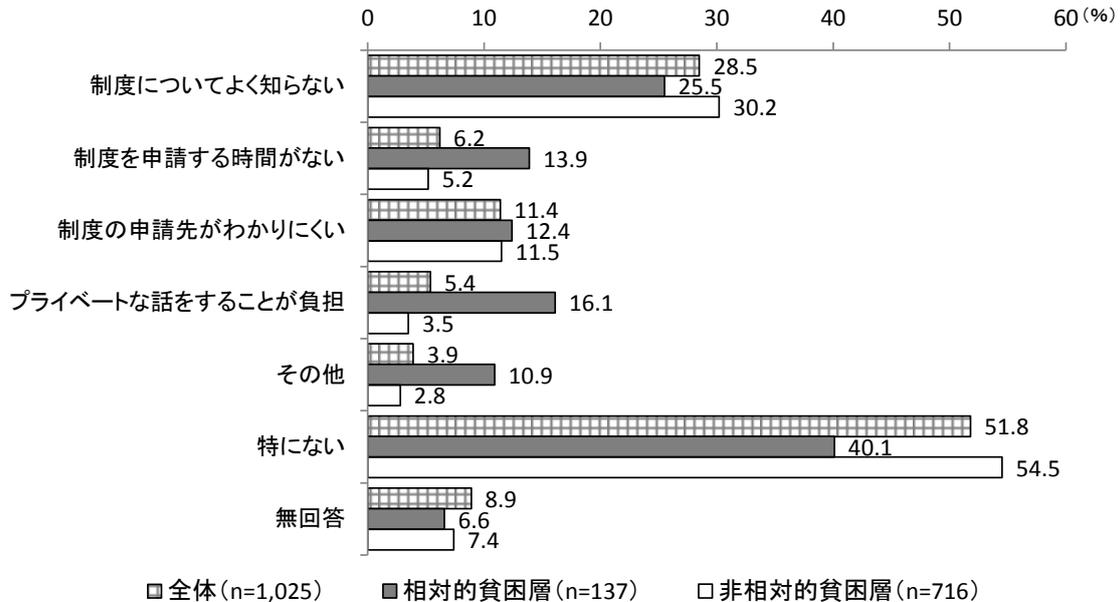


2-2-7 支援制度について

【保護者アンケート調査より】

⑱ 奈良市の支援制度を受ける上で困ったこと

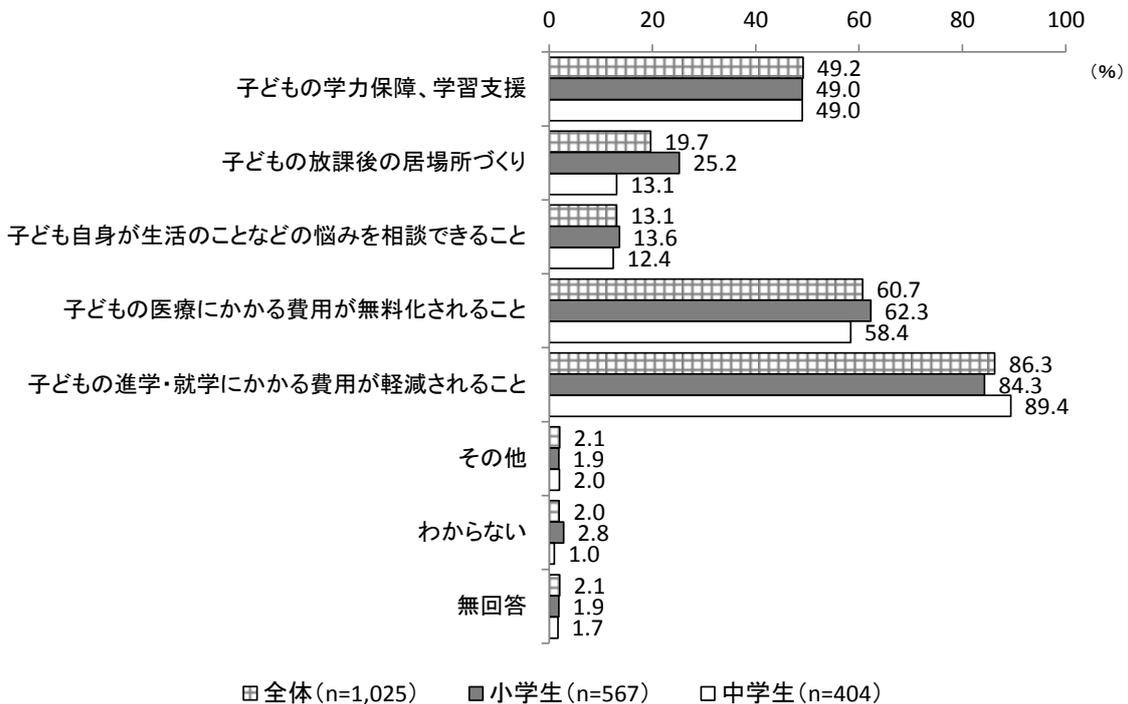
相対的貧困層では非相対的貧困層と比べて、「プライベートな話をすることが負担」の割合が高く、「特にない」の割合が低くなっています。



⑲ お子さんに対して必要（重要）と思われる支援

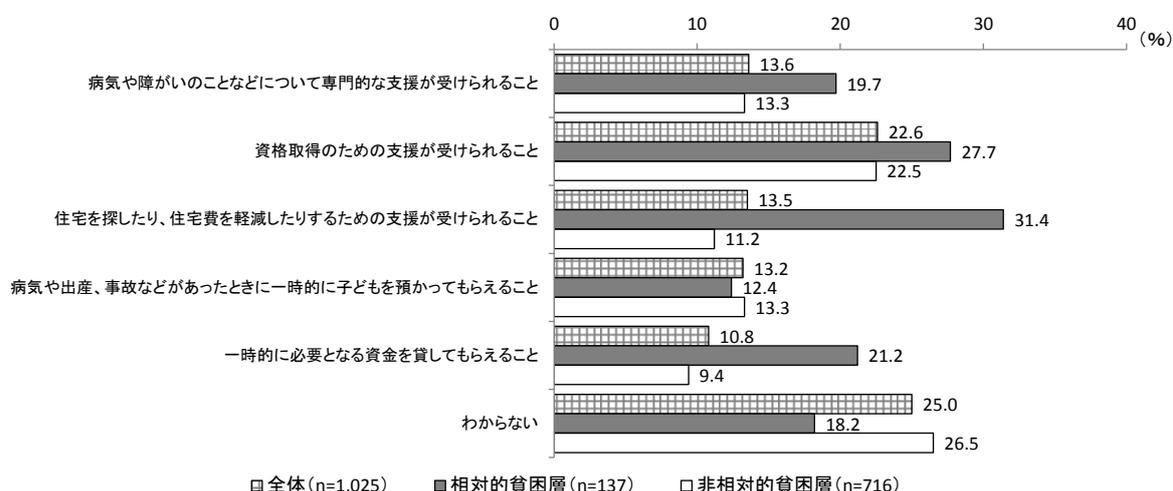
「子どもの進学・就学にかかる費用が軽減されること」と回答した割合が86.3%と最も高く、次いで「子どもの医療にかかる費用が無料化されること」が60.7%となっています。

相対的貧困層では非相対的貧困層と比べて、「子どもの進学・就学にかかる費用が軽減されること」の割合が高くなっています。



⑩あなたが現在必要としている支援、重要だと思う支援（上位6項目）

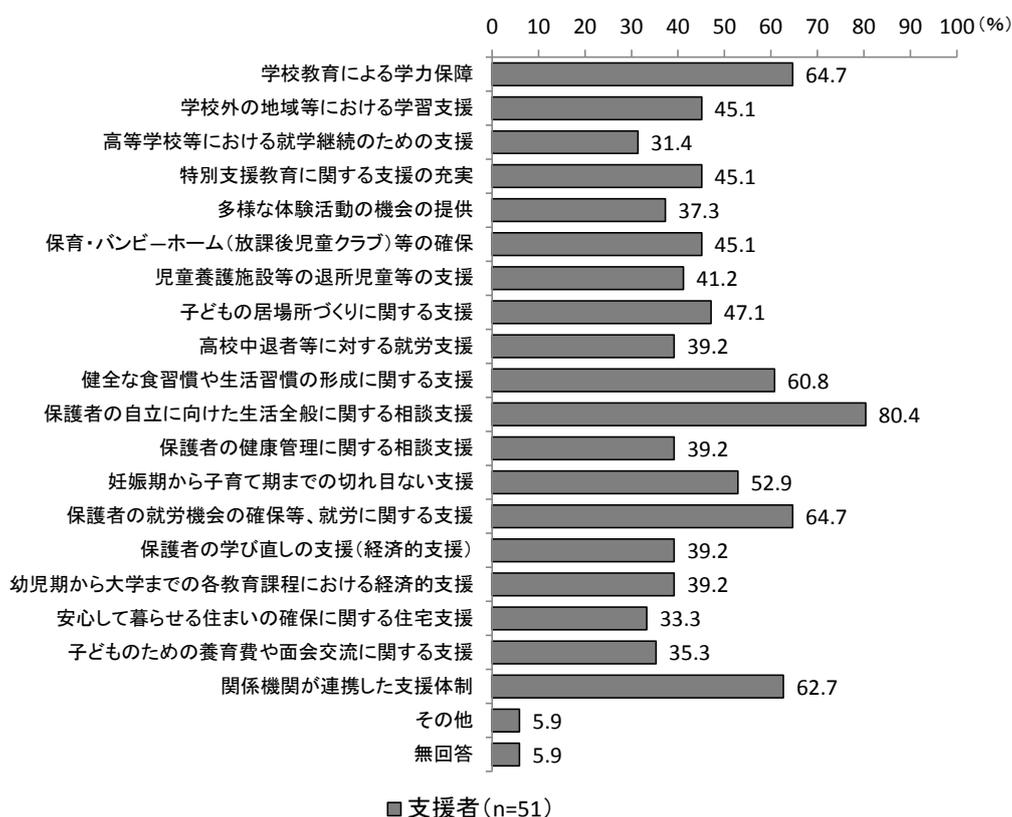
相対的貧困層では非相対的貧困層と比べて、「住宅を探したり、住宅費を軽減したりするための支援が受けられること」「一時的に必要な資金を貸してもらえらること」の割合が高くなっています。



【支援者調査より】

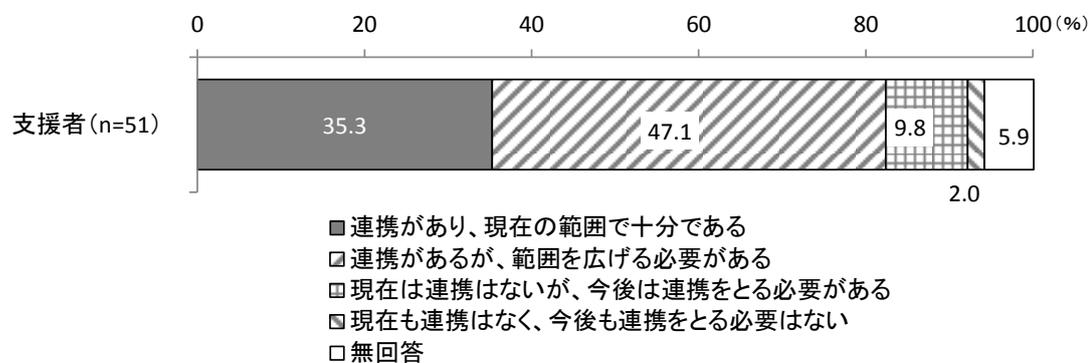
⑪必要と考えられる支援

「保護者の自立に向けた生活全般に関する相談支援」と回答した割合が80.4%と最も高く、次いで「学校教育による学力保障」「保護者の就労機会の確保等、就労に関する支援」の順となっています。



⑫その他機関との連携

「連携があるが、範囲を広げる必要がある」と回答した割合が47.1%と最も高く、次いで「連携があり、現在の範囲で十分である」が35.3%となっています。



2-3 本市の子どもを取り巻く課題

統計資料分析、アンケート・ヒアリング調査結果から、本市の子どもを取り巻く課題を子どもの貧困対策の推進に関する法律や子供の貧困対策に関する大綱の施策を基に、「教育の支援」「生活の支援」「経済的支援」「関係機関と連携した支援」の4つの視点で整理するものとします。

2-3-1 教育の支援

①子どもの学力・学習習慣

本市においては、高等学校卒業者の約7割が大学等に進学しています。また、全国学力・学習状況調査結果をみると、本市の正答率は、小学校・中学校ともに国・県と比べて高くなっています。しかしその一方で、保護者へのアンケート調査では、子育てをしていて特に大変だと感じていることは「子どもの学力・学習習慣」が約4割、子どもに関する悩みは「学力・進学」が約6割とそれぞれ割合が高く、学力の向上や学習習慣の定着、進学等が悩みとして多くあげられています。

子育てをしていて特に大変だと感じていることでは、相対的貧困層においては非相対的貧困層と比べて、「生活費全般の確保」の割合が高く、「子どもの生活態度・生活習慣のしつけ」「子どもの学力・学習習慣」の割合は低くなっています。

子どもへのアンケート調査において『学校の授業がわからない』と回答した子どもでは、授業時間以外にまったく勉強しない、読書をまったくしない割合が、『学校の授業がわかる』と回答した子どもと比較し高くなっています。『学校の授業がわかる』と回答した子どもたちの方が、授業時間以外の勉強や読書に費やす時間が多いことがうかがえます。

また、今回の調査結果をみると、学校の授業がよくわかる子どもほど自己肯定感が高い傾向が見られます。

すべての子どもたちが、自分に自信を持ち、何事にも前向きにチャレンジし、困難に直面してもくじけず立ち向かっていく力を持つことが必要です。さらに、子どもたちが学校の授業理解につながる学習習慣や読書習慣といった日常生活の望ましい過ごし方を身に付けるための支援が求められます。

②学習環境の整備

相対的貧困層では3割の方が「子どもを学習塾や習い事に通わせることができなかった」経験をしており、6割弱の方が必要な支援として「子どもの学力保障、学習支援」をあげています。

また、相対的貧困層かどうかに関わらず 8 割以上の方が必要な支援として「子どもの進学・就学にかかる費用が軽減されること」をあげています。

所得格差や家庭環境が保護者の学習に対する認識に影響し、さらには子どもの学習習慣や学習の機会に影響することが考えられます。

学校教育や地域等における学習支援は、それぞれの地域によってニーズが異なることから、各地域の状況に応じた学習環境の整備や学習の機会を提供する支援が求められます。さらに、様々な機会を通じて子どもがあこがれる大人との出会いも必要となります。

また、特別支援学級の児童生徒数も増加傾向にあり、ひとりひとりにあわせたきめ細やかな支援が求められています。

2-3-2 生活の支援

①子どもに対する生活支援

子どもへのアンケート調査では、授業時間以外にまったく勉強しない子どもが朝ごはんを「毎日・ほぼ毎日食べる」と回答した割合は 8 割ですが、授業時間以外に勉強をする子どもでは 9 割台であることと比較すると低い結果となっています。また、『学校の授業が分からない』と回答した子どもでは「遅刻をすることがある」の割合が 3 割弱と、『学校の授業が分かる』と回答した子どもより高い割合になっています。授業時間以外に勉強をする子どもや『学校の授業が分かる』と回答した子どもの方が、しっかりと朝食を食べ、遅刻をすることなく登校ができていく傾向にあることがうかがえます。

相対的貧困層では、お子さんと学校生活の話を「ほぼ毎日」する割合が 6 割強であり、非相対的貧困層の 7 割強に比べ低く、親と過ごす時間が少ないことがうかがえます。

また、今回の調査結果をみると、起床時間が早い、家でひとりでごはんを食べることがない、放課後は誰かと過ごしている（ひとりではない）、いやなことや悩んでいることがない、家族のことで困っていることが特にない等を選択している子どもには自己肯定感が高い傾向がうかがえます。

子どもの生活リズムを改善することや、子どもが家族を含め多様な人と関わりをもち様々な経験をする、また子どもが悩みを乗り越える体験をすることが、子どもの自己肯定感を高め、子どもが生まれながらにして持つ自ら成長していく力を高めることにつながると考えられます。そのためにも、子どもがひとりで悩むことがないよう気軽に相談できる支援・体制づくりや、人との関わりの中かで、褒められる、認められる等の経験が得られる場としての居場所をつくるなどの支援が求められます。

②保護者に対する生活支援

保護者へのアンケート調査において、お子さんに対して必要（重要）と思う支援のうち、小学生の保護者では「子どもの放課後の居場所づくり」が中学生の保護者と比較すると割合が特に高くなっています。

相対的貧困層では、お子さんに関する悩みでは「病気・健康問題」の割合が非相対的貧困層と比較すると特に高くなっています。ご自身の生活に関する悩みでは「子どもの養育にかかる費用」「生活費に関すること」「子どもに関すること」「老後に関すること」「健康に関すること」の順で割合が高く、非相対的貧困層と比較すると、いずれも相対的貧困層の割合の方が高くなっています。また、お子さんに対して必要（重要）と思われる支援においては、「医療にかかる費用の無料化」や「進学・就学にかかる費用の軽減」などが、非相対的貧困層と比較すると高い傾向にあるほか、「子どもの学力保障、学習支援」においても非相対的貧困層と比較すると高くなっています。

市の支援制度を受ける上で困ったことをみると、相対的貧困層では「制度を申請する時間がない」「プライベートな話をすることが負担」の割合が比較的高く、非相対的貧困層と比較しても高くなっています。「制度についてよく知らない」と回答した割合も相対的貧困層で25.5%と4人に1人はよく知らないと回答している結果となっています。母子・父子・養育者世帯では、悩みの相談相手において「適当な相談相手がいない（いなかった）」や「相談しない（しなかった）」の割合がその他の世帯と比較して高くなっています。

支援者調査では保護者への支援にあたって必要なこととして「保護者の自立に向けた生活全般に関する相談支援」の割合が8割で最も高くなっています。

保護者自身が心身ともに健康でゆとりのある生活が送れることは、子育てをしていくうえで大切です。小学生や中学生の保護者、ひとり親世帯、相対的貧困層のそれぞれで求められているニーズは多岐にわたることから、子どもの居場所づくり、学習支援、気軽に相談のできる関係の構築・窓口設置等、保護者の生活環境やライフステージに応じた適切な支援を提供していくことが求められます。また、これらの支援は経済的支援等と組みあわせながら行われることが有効であると考えます。

2-3-3 経済的支援

①子どもの養育や住まいへの支援

保護者へのアンケート調査では、お子さんに対して必要（重要）と思われる支援として、「子どもの進学・就学にかかる費用が軽減されること」が8割を超えもっとも高く、次いで「子どもの医療にかかる費用が無料化されること」が約6割となっており、子どもにかかる教育費や医療費を負担に感じており、費用の軽減が求められていることがうかがえます。

特に相対的貧困層では、およそ半年の間に経済的な理由で「子どものための本、服や靴を買えなかった」「子どもにこづかいを渡すことができなかった」「子どもを学習塾や習い事に通わせることができなかった」「子どもに誕生日プレゼントやお年玉をあげることができなかった」「家族旅行（日帰りを含む）ができなかった」などの何らかの経験を5割以上の方がされています。

相対的貧困層では、子育てをされていて特に大変だと感じることでは「将来の進学に向けた学資の準備」「子どもの学力・学習習慣」に次いで「生活費全般の確保」（「子どもの生活態度・生活習慣のしつけ」と同率）の割合が高くなっています。また、お子さんに対して必要（重要）と思われる支援では「子どもの進学・就学にかかる費用が軽減されること」の割合が9割以上と高くなっており、「子どもの医療にかかる費用が無料化されること」の割合が6割強と次いで高くなっています。

相対的貧困層では、希望するお子さんの進学先として「大学」と回答した保護者の割合が、非相対的貧困層と比べ低く、「高等学校」と回答した割合では、非相対的貧困層では1割も満たない割合であるのに対し、相対的貧困層では約2割と高くなっています。相対的貧困層において、希望通りの進学ができない理由は「経済的な余裕がないから」が8割以上と高く、「お子さんの学力から考えて」は3割にとどまっており、経済力により進学をあきらめている傾向が見られます。

相対的貧困層において、保護者自身が現在必要（重要）と思う支援では「住宅を探したり、住宅費を軽減したりするための支援が受けられる」の割合が3割を超え最も高く、「資格取得のための支援が受けられること」「一時的に必要となる資金を貸してもらえること」の順で続いています。

生活費のなかで住宅に関する費用の占める割合が高く、費用負担の軽減が求められていることがうかがえます。

②就労支援

保護者へのアンケート調査から、相対的貧困層では非正規雇用の割合が高くなっており、現在の生活意識について、「働いても働いても生活が楽にならない」に「あてはまる」と回答した割合が3割強、「仕事と子育てで、心身ともに余裕がない」に「あてはまる」と回答した割合が2割強と精神的に苦しい状態にあることがうかがえます。

ひとり親家庭では、現在必要（重要）と思う支援について「資格取得のための支援が受けられること」と回答した割合がその他の世帯と比べて高くなっています。子育てと生計の担い手をひとりの親が担っており、働き手が一人しかいないことから、非正規雇用の不安定な収入や失業等による収入減少が生活困窮に直結するリスクが高くなることから、より雇用条件の良い職への就業のためにも資格取得が必要と考えていることがうかがえます。

支援者調査では、支援をしている子どもの保護者が経験していることとして「不安定な就労状態」の割合が9割弱と最も高く、必要と考えられる支援では「保護者の就労機会の

確保等、就労に関する支援」の割合が6割強となっています。

保護者の就労状況が、子どもの教育や将来の就労に影響を与えると考えられるため、保護者への就労支援は必要です。また、生活（子育て等）とのバランスがとれるよう、保護者自身に寄り添った就労支援が求められています。

2-3-4 関係機関と連携した支援

①支援ネットワーク、コーディネーターによる「つなぎ」体制の構築

保護者へのアンケート調査では、保護者のお子さんに関する悩みで約4人に3人が何らかの悩みを抱えており、「子どもの学力・学習習慣」「子どもの生活態度・生活習慣しつけ」「将来の進学に向けた学費の準備」などで割合が高くなっています。また、保護者自身の生活に関する悩みでは約5人に4人が何らかの悩みを抱えており、「子どもの養育にかかる費用に関すること」「生活費に関すること」「子どもに関すること」などの割合が高くなっています。

これらのことから保護者は特に、子どもの学力や学習習慣、進学に関する費用を中心に、生活をしていく上で必要な費用に関する悩みを抱えていることがうかがえます。

悩んでいることがあっても相談しなかった理由としては「相談しても事態は変わらないから」の割合が約6割、次いで「プライベートな話をすることが負担だから」の割合が約2割となっています。

「相談しても事態は変わらないから」と回答している人は、複合的な要因で困難な事態に陥り、過去に相談しても事態がかわらなかった経験があることも考えられます。それぞれの事情に対応するために必要な支援へつなぐことができる相談窓口や支援者のネットワークの構築が必要です。また、困難を抱える子どもや保護者がどのような背景を抱えているかを十分に理解し、できるだけ早期に寄り添って支援できるよう支援者への啓発や研修の充実等も検討していくことが求められます。

子どもへのアンケート調査では「いやなことや悩んでいることはない」の小学生の割合が半数を超えている一方で、中学生では4割弱にとどまっています。中学生では特に「進学・進路のこと」「学校や勉強のこと」で悩んでいる割合が3割を超え高くなっています。また、悩んでいることがあるときに誰に相談するかでは「誰にも相談しない」の割合は小学生、中学生ともに2割弱となっており、相談する相手では小学生では「お母さん・お父さん」、中学生では「学校のともだち」の割合がそれぞれ最も高くなっています。

いやなことや悩んでいることがない子どもは自己肯定感が高い傾向がみられることから、一人で悩みを抱えることなく、悩みを相談できる人や相談しやすい窓口の整備が求められます。

単独の機関で解決できない複合的な困難をかかえている子どもや家庭への支援には、複数の機関が相互に連携して対応するネットワークやコーディネーターによる支援体制が必要です。

②困難を抱える家庭へ必要な支援が届く体制

保護者へのアンケート調査では、奈良市の支援制度を受ける上で困ったことについての設問で「制度についてよく知らない」割合が相対的貧困層で25.5%と4人に1人はよく知らないと回答し、また母子・父子・養育者世帯でも22.4%と約5人に1人はよく知らないという回答したことから、必要な方に必要な支援が確実に届くよう広報・周知の徹底が求められます。

困難を抱える子どもや保護者と関わる人や機関を増やし、切れ目のない支援を行うことが必要です。

第3章 施策の展開

3-1 施策の柱

本市では、子どもを取り巻く課題に対応するため、4つの視点「教育の支援」「生活の支援」「経済的支援」「関係機関と連携した支援」を施策の柱に位置づけ、個別施策の充実を図ります。

施策の柱1 教育支援の充実

- ・子どもたちが家庭環境や世帯の所得に左右されることなく、自分の能力・可能性を伸ばし夢に挑戦できるよう学力の向上に向けた取組を進めます。
- ・多様な状況にある子どもたちへそれぞれの状況に応じた教育の充実、生きる力をはぐくむための機会の提供を学校と地域と連携して進めていきます。

施策の柱2 生活支援の充実

- ・子育て世帯のくらしに必要な子育て、保育の環境を整備します。
- ・子どもの健やかな成長のために子どもの居場所の確保を図ります。
- ・子どもと保護者の心身の健康増進に努めるとともに、子育て世帯の様々な悩みに寄り添った相談支援体制の充実を図ります。

施策の柱3 経済的支援の充実

- ・各種手当や医療費助成や就学援助など各種支援を活用し、子育てに係る経済的負担の軽減を図ります。
- ・就労収入により生活の安定を図るため、就労相談や資格取得等就労支援の充実を図り、就労機会確保のための支援を行います。

施策の柱4 関係機関と連携した支援の整備

- ・教育、福祉、地域の連携を図り、困難を抱える子育て家庭を早期の段階で支援につなぎ、家庭に寄り添った切れ目のない支援を行います。
- ・教育、福祉、地域の支援やネットワークを活用し、包括的な支援体制の整備を図ります。

3-2 個別施策一覧

ここに掲げている事業については、継続している主な事業を施策の柱ごとに整理したものです。本計画を基に、これらの事業を整備・充実するとともに、必要な事業を検討していきます。

施策の柱1 教育支援の充実

- ・子どもたちが家庭環境や世帯の所得に左右されることなく、自分の能力・可能性を伸ばし夢に挑戦できるよう学力の向上に向けた取組を進めます。
- ・多様な状況にある子どもたちへそれぞれの状況に応じた教育の充実、生きる力をはぐくむための機会の提供を学校と地域と連携して進めていきます。

主な施策

事業名	事業内容	担当課
小学校での少人数学級の実施	少人数学級を実施し、よりきめ細かな指導を行うことにより、子どもの教育の充実を図ります。	学校教育課
中学校給食事業	健康で安心、安全な食を提供するため、小学校に加え、中学校でも給食を実施します。	保健給食課
スクールサポート事業	教員志望の大学生が学校教育へのサポートにあたります。	学校教育課
教育相談	スクールカウンセラーを配置し、スクールカウンセリングを有効に活用するとともに、教育センターに不登校対応カウンセラーを配置し不登校の予防・未然防止に努めます。	教育相談課
個別カウンセリング	教育センターにて個別カウンセリングを実施し、教育にかかわる様々な悩みに対応します。貧困のケースについては関係課と連携を取りながら実施します。	教育相談課
いじめに関する相談	「いじめ」の問題で悩むことなく、安心して学校生活を送ることができるよう、電話、メール及び来所による相談窓口を設置しています。	いじめ防止生徒指導課
特別支援教育にかかわる教育相談	特別な支援を必要とする児童生徒が、円滑に学校生活を送れるよう、障がいの状況を把握し、指導助言を行います。貧困のケースについては関係課と連携を取りながら実施します。	教育相談課

施策の柱 2 生活支援の充実

- ・子育て世帯の暮らしに必要な子育て、保育の環境を整備します。
- ・子どもの健やかな成長のために子どもの居場所の確保を図ります。
- ・子どもと保護者の心身の健康増進に努めるとともに、子育て世帯の様々な悩みに寄り添った相談支援体制の充実を図ります。

1. 子どもの生活支援

主な施策

事業名	事業内容	担当課
放課後児童健全育成事業	保護者等が昼間家庭にいない小学生に対し、授業の終了後や長期休業中に適切な遊びや生活の場を与え、児童の健全な育成を図ります。	地域教育課
地域で決める学校予算事業	各中学校区地域教育協議会が学校園と連携協働しながら子どもを育てる体制をつくり、子どもたちの教育活動の充実と地域教育力の再生、地域コミュニティの活性化を図ります。	地域教育課
放課後子ども教室推進事業	放課後等に小学校の余裕教室等を活用し、各小学校運営委員会が中心となって、子どもたちと共に勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取組を実施します。	地域教育課
児童館	児童館では、地域の子育て支援拠点として、子育て親子を対象とした交流・相談・情報提供、その他の援助を行う子育て広場を実施し、地域における子育て支援の充実を目指します。	子ども育成課
保育所等における食育の推進	乳幼児期からの適切な食事のとり方や望ましい食習慣の定着、食を通じた豊かな人間性の育成など、心身の健全育成を図るため、保育所等で「食育カリキュラム」を作り、実施します。また、「奈良市立保育園・こども園食物アレルギー対応マニュアル」に基づき、食物アレルギーのある園児に安全な給食を提供します。	こども園推進課

2. 保護者の生活支援

主な施策

事業名	事業内容	担当課
保育事業	保護者の労働又は疾病などにより、保育に欠ける乳児または幼児を預かり、保育します。また、認定こども園では、就学前の子どもに対して、保育と教育、保護者に対する子育て支援などを総合的に提供します。	こども園推進課 保育所・幼稚園課
保育コンシェルジュ	幼稚園・保育園などの施設から必要な支援を選択して利用できるように情報の提供や相談、援助などを行います。	保育所・幼稚園課

一時預かり	家庭等での保育が一時的に困難となる場合や、育児に伴う心理的負担の軽減のため、児童を施設で預かります。	保育所・幼稚園課
子育て短期支援事業	児童の養育が一時的に困難になった場合に、児童福祉施設などで児童を預かります。	子ども育成課
ファミリーサポートセンター事業	育児の「援助を受けたい人」と「援助を行いたい人」が、依頼・援助・両方のいずれかの会員として登録し、地域の中で子育ての相互援助活動を行います。	子ども育成課
養育支援訪問事業	保護者の養育を支援することが特に必要と認められる家庭等に対し、訪問などにより、養育に関する相談、助言などの支援を行います。	子育て相談課
ひとり親家庭等日常生活支援事業	ひとり親家庭等が技能修得のための通学や修得活動等自立促進に必要な事由または疾病などの理由により、一時的な生活援助、保育サービスを必要とする場合に、家庭生活支援員が食事や身の回りの世話をを行います。	子育て相談課
ひとり親家庭等生活支援事業	ひとり親家庭等を対象に、生活に役立つ支援策や情報を提供する講習会や、お互いの悩みを打ち明けたり相談し合う情報交換の場を設けます。	子育て相談課
面会交流支援	母子家庭や父子家庭の子どもの健やかな成長を促すために、離婚後あるいは別居中に離れて暮らす親子の面会交流に係る相談に応じるほか、必要に応じて関係機関に支援をつなぎます。	子育て相談課
母子生活支援施設	母子家庭及びこれに準ずる事情にある女性のうち、経済的・精神的に不安定な状態で、監護されている児童の福祉に欠けるところがあると認められる世帯に母子生活支援施設への入所措置を行います。	子育て相談課

3. 住宅支援

主な施策

事業名	事業内容	担当課
市営住宅の定期空家募集 (子育て世帯向け)	小学校就学前の児童がいる世帯を対象とし、年4回の定期空家募集において、随時、子育て世帯向けの市営住宅等を募集します。	住宅課
市営住宅の定期空家募集(多子世帯向け)	18歳未満の児童が3人以上いる世帯を対象とし、年4回の定期空家募集において、随時、多子世帯向けの市営住宅等を募集します。	住宅課
市営住宅の定期空家募集(母子・父子世帯向け)	20歳未満の子がいる、配偶者(事実婚を含む)のない(ひとり親)世帯を対象とし、年4回の定期空家募集において、随時、母子・父子世帯向けの市営住宅等を募集します。	住宅課

4. 情報提供・相談体制の充実

主な施策

事業名	事業内容	担当課
利用者支援事業	就学前の子どもとその保護者や妊娠している方が、教育・保育施設や地域の子育て支援等を円滑に利用出来るよう、身近な場所で情報収集や提供のほか、必要に応じて相談・助言を行います。	子ども育成課
地域子育て支援拠点事業	子育て親子が気軽に、かつ自由に交流できる場の提供、育児相談等を実施し、全ての子育て家庭を地域で支える取組を行います。	子ども育成課
子育て支援アドバイザー事業	子育て支援アドバイザーとして登録した地域の子育て経験豊かな市民を、乳幼児と保護者が集まる場所に派遣し、保護者の子育てに関する疑問や悩みに対する相談等を行います。	子ども育成課
家庭児童相談	家庭児童相談室では、育児・養育に関する相談、家族関係に関する相談など、家庭の様々な問題に関する相談に応じます。	子育て相談課
妊産婦・乳幼児健康相談	妊娠・出産・育児を切れ目なくサポートする相談窓口として、保健師・助産師・栄養士・心理相談員・歯科衛生士による電話・来所相談を行います。また、保護者の健康づくりに関する情報提供を行い、安心して子育てができるようサポートします。	健康増進課
思春期相談	思春期のころやからだについての困りごとに、電話やメール（匿名）で保健師・助産師が相談に応じます。市内公立中学校全学年にカードを配布し、周知しています。	健康増進課
母子・父子自立支援員による相談	ひとり親家庭等又は離婚前の人を対象に、生活全般や子どものこと、就職や自立の支援、資金の貸付など、あらゆる相談に応じます。	子育て相談課
すこやかテレフォン事業	いじめ問題や青少年が自ら抱える誰にも相談できない悩み、保護者からの健全育成に関する相談に応えるため、年中無休で専門の相談員が電話による相談に応じます。	生涯学習課
公民館	公民館では、子育て支援関連の主催事業を実施し、育児・子育て中の親子の交流の場や保護者同士の交流・情報交換の場を提供します。また、冊子やチラシなどを設置し、子育て支援の情報を広く発信します。	生涯学習課
女性問題相談	女性問題相談室では、家族・DV・結婚・子育て・性に関することや家庭の問題、そして自分の生き方などの悩みについて、女性問題相談員が相談に応じます。	男女共同参画課
消費生活相談	消費生活全般のトラブル解決のため、相談及び事業者に対して斡旋を行います(例:多重債務等)。	商工労政課
子育て世代支援PR事業	本市の子育て情報をわかりやすく掲載した子育ておうえんサイト「子育て@なら」を運営するとともに、本市の子育て情報を一冊にまとめた「なら子育て情報ブック」を作成・配布します。	子ども政策課
いじめに関する相談(再掲)	「いじめ」の問題で悩むことなく、安心して学校生活を送ることができるよう、電話、メール及び来所による相談窓口を設置しています。	いじめ防止生徒指導課
特別支援教育にかかわる教育相談(再掲)	特別な支援を必要とする児童生徒が、学校生活を送れるよう、障がいの状況を把握し、指導助言を行います。貧困のケースについては関係課と連携を取りながら実施します。	教育相談課

施策の柱3 経済的支援の充実

- ・各種手当や医療費助成や就学援助など各種支援を活用し、子育てに係る経済的負担の軽減を図ります。
- ・就労収入により生活の安定を図るため、就労相談や資格取得等就労支援の充実を図り、就労機会確保のための支援策を実施します。

1. 経済的支援

主な施策

事業名	事業内容	担当課
児童手当	0歳から中学校修了(15歳になった後の最初の3月31日)前の子どもを養育している方に手当を支給します。	子ども育成課
児童扶養手当	児童の健全育成を目的とし、父または母と生計を同じくしていない児童や父または母が重度の障がいの状態にある児童を養育している母または父(または、母または父にかわってその児童を養育している者)に手当を支給します。	子ども育成課
子ども医療費助成	健康保険に加入している0歳児から15歳(中学校修了前)までを対象に医療費の一部を助成します。	子ども育成課
ひとり親家庭等医療費助成	ひとり親家庭の疾病の早期発見と治療を促進し、経済的な負担を支援することを目的として、健康保険に加入しているひとり親家庭などの18歳未満の児童とその父又は母などを対象に医療費の一部を助成します。	子ども育成課
幼稚園就園奨励費補助	幼児教育の普及及び充実のため、保護者の所得状況に応じて経済負担を軽減するとともに、公・私立幼稚園間における保護者負担の格差の是正を図ります。 公立幼稚園に通う園児の保護者に対しては、直接保育料の減免を行い、私立幼稚園に通う園児の保護者に対しては、入園料及び保育料を軽減するための幼稚園就園奨励費を私立幼稚園設置者を通して保護者に交付します。	保育所・幼稚園課
就学援助	経済的理由によって就学困難とみとめられる小・中学生の保護者に対し、学校教育法第19条に基づき学用品費・給食費等必要な援助を行い、全ての学齢児童生徒が安心して義務教育を受けられる環境を整えます。	教育総務課
母子・父子・寡婦福祉資金貸付	事業開始資金、事業継続資金、修学資金、技能習得資金、修業資金、就職支度資金、医療介護資金、生活資金、転宅資金、住宅資金、就学支度資金、結婚資金の12種の貸付を行います。	子育て相談課
養育費等支援事業	養育費等相談を実施し、離婚や別居に伴う子どものための養育費等について専門相談員が相談に応じます。また、弁護士による法律相談を実施し、養育費等相談と併せてひとり親家庭等の養育費確保を支援します。	子育て相談課

寡婦(夫)控除のみなし適用	婚姻歴のないひとり親家庭には税法上の寡婦(夫)控除が適用されないため、寡婦(夫)控除をみなし適用して、サービス等の利用料等の算出を行い、サービス利用に係る負担を軽減します。	子育て相談課他
---------------	--	---------

2. 就業施策

主な施策

事業名	事業内容	担当課
若者就労マッチング事業	関連機関との連携による若年者就労マッチングや、就業相談を開催します。	商工労政課
生活困窮者支援	生活困窮者等自立支援事業、生活保護受給者等就労自立促進事業の推進を図ります。 また、自立相談支援事業の周知を図り、関係各所との連携を密にして、支援対象者の状況に応じた就労支援を実施することにより、生活困窮者及び生活保護受給者の生活の安定、就労による自立を促進します。	保護第一課 保護第二課
母子家庭等就業・自立支援センター事業	奈良県と共同で母子家庭等就業・自立支援センターを運営し、母子家庭の母等の就業による自立を支援します。	子育て相談課
母子・父子自立支援プログラム策定事業	母子家庭等・自立支援センター事業をとおして、個々の状況や希望に応じて就職までのプログラムを策定し、就職まで継続的な支援を行います。	子育て相談課
母子家庭等高等職業訓練促進給付金等事業	母子家庭の母又は父子家庭の父が対象資格の取得を目指して養成機関で修業する場合に、受講期間の一定期間について訓練促進給付金等を給付します。	子育て相談課
母子家庭等自立支援教育訓練給付金事業	母子家庭の母及び父子家庭の父が、就職するために有利な教育訓練講座を受講する場合、受講料の一部を給付します。	子育て相談課

施策の柱4 関係機関と連携した支援の整備

- ・教育、福祉、地域の連携を図り、困難を抱える子育て家庭を早期の段階で支援につなぎ、家庭に寄り添った切れ目のない支援を行います。
- ・教育、福祉、地域の支援やネットワークを活用し、包括的な支援体制の整備を図ります。

主な施策

事業名	事業内容	担当課
民生児童委員活動	民生児童委員は、問題を抱える母子家庭・父子家庭の身近な相談者として、あるいは手を差し伸べる者とされており、引き続き、相談支援機能の強化を図るため、過去の相談内容の分析を行い、民生児童委員へ汎用性のあるフィードバックを検討します。	地域福祉課
安心生活創造推進事業	生活困窮者支援のための「共助の基盤」を各地域に構築することを目的とし、奈良市社会福祉協議会へ事業委託しています。社会的な孤立等の問題を一個人の問題とせず、地域の課題として住民と共に支援の仕組みを作ろうとするものです。現在は、西部圏域でのみ実施中です。	地域福祉課
家庭教育支援事業	公民館を拠点として、地域住民が地域の家庭教育に関する課題について話し合い、学び合うことにより、課題解決を図ります。	生涯学習課
保育所及び幼稚園等と小学校との連携の推進	中学校まで連携・接続した教育をめざし、保育所及び幼稚園、認定こども園から小学校への滑らかな接続を図るとともに、小学校との連携を推進します。	こども園推進課
被虐待児童対策地域協議会	児童虐待の未然防止・早期発見・再発防止のため、児童相談所、医療機関、民生児童委員協議会連合会、弁護士、警察などの関係機関が連携して、虐待から子どもを守るために「奈良市被虐待児童対策地域協議会」を設置しています。	子育て相談課

3-3 ライフステージからみた取り組み

	妊娠期	幼児期	小学校	中学校	高校	大学生等
教育支援の 充実			小学校での少人数学級の実施	中学校給食事業		
			スクールサポート事業			
		教育相談				
		個別カウンセリング				
		いじめ相談				
		特別支援教育にかかわる教育相談				
	生活支援の 充実			放課後児童健全育成事業		
			地域で決める学校支援事業			
			放課後子ども教室推進事業			
		児童館				
		保育所等における保育の推進				
		待機児対策				
		保育所電話相談				
		一時預かり				
		子育て短期支援事業				
		ファミリーサポートセンター事業				
		養育支援訪問事業				
		ひとり親家庭等日常生活支援事業				
		ひとり親家庭等生活支援事業				
		面会交流支援				
		母子生活支援施設				
		市営住宅の定期空家募集（子育て世帯向け）				
		市営住宅の定期募集（多子世帯向け）				
		市営住宅の定期住宅（母子・父子世帯向け）				

	妊娠期	幼児期	小学校	中学校	高校	大学生等	
生活支援の 充実	利用者支援事業						
		地域子育て支 援拠点事業					
		子育て支援アド バイザー事業					
	家庭児童相談						
	妊産婦・乳幼児健康相談			思春期相談			
	母子・父子自立支援員による相談						
	すこやかテレフォン事業						
	公民館						
	女性問題相談						
	消費生活相談						
	子育て世代支援 P R 事業						
	経済的支援 の充実	児童手当					
児童扶養手当							
子ども医療費助成							
ひとり親家庭等医療費助成							
幼稚園就園 奨励費補助		就学援助					
母子・父子・寡婦福祉資金貸付							
養育費等支援事業							
寡婦（夫）控除のみなし適用							
						若者就労 マッチング事業	
生活困窮者支援							
母子家庭等就業・自立支援センター事業							
母子家庭等プログラム策定事業							
母子家庭等高等職業訓練促進給付金事業							
母子家庭等自立支援教育訓練給付金事業							
関係機関と 連携した支 援の整備	民生児童委員活動						
	安心生活創造推進事業						
	家庭教育支援事業						
		保育所及び幼稚園 等と小学校との連携					
	被虐待児対策地域協議会						

第4章 計画の推進

4-1 計画の推進体制

本計画は、教育、子ども、福祉等の幅広い分野にわたり総合的、効果的に推進する必要があります。庁内関係部署をはじめ子育てに関係する支援団体や地域住民等の協力が不可欠です。

そのため、市民等に対して積極的に情報を提供していくとともに、行政・各種団体、地域の支援者との連携を強化・充実していきます。

ただし、さまざまな取組において生活が困難な家庭への偏見の助長や差別を生むことのないよう、十分な配慮が必要です。

4-2 計画の進捗管理

計画を適切かつ効果的に推進していくためには、計画全体の成果を検証することが必要となるため、毎年度「PDCAサイクル」による継続的改善の考え方にに基づき、計画の進捗状況の点検・評価や新たに生じた課題についての検討・検証を行い、必要な措置を講じていくこととします。

4-3 経済的困難等を抱える子どもに関する指標

国の「子供の貧困対策に関する大綱」、奈良県の「経済的困難及び社会生活上の困難を抱える子どもを支援する奈良県計画」に掲げる指標からみた、本市の状況は次の通りです。

指標	奈良市	奈良県	全国	備考
生活保護世帯に属する子どもの高等学校等進学率	93.4%	89.3%	91.1%	●平成26年4月1日現在
生活保護世帯に属する子どもの高等学校等中退率	6.7%	5.5%	4.9%	
生活保護世帯に属する子どもの大学等進学率	50.7%	38.1%	31.7%	
生活保護世帯に属する子どもの就職率（中学校卒業後）	1.0%	2.0%	2.0%	
生活保護世帯に属する子どもの就職率（高等学校卒業後）	31.0%	44.2%	43.6%	
児童養護施設の子どもの高校等進学率	－	100.0%	97.2%	●平成26年5月1日現在
児童養護施設の子どもの就職率（中学校卒業後）	－	0.0%	1.3%	
児童養護施設の子どもの大学等進学率（専修学校等を含む）	－	19.2%	22.6%	
児童養護施設の子どもの就職率（高等学校卒業後）	－	73.1%	70.9%	
ひとり親世帯の子どもの就園率（保育所・幼稚園）	78.0%	91.2%	72.3%	●奈良市：ひとり親家庭等実態調査（平成24年3月） ●奈良県：平成26年度ひとり親家庭等実態調査 ●全国：平成23年度全国母子世帯等調査（特別集計）
ひとり親世帯の子どもの高校等進学率	－	96.7%	93.9%	●奈良県：平成26年度ひとり親家庭等実態調査 ●全国：平成23年度全国母子世帯等調査（特別集計）
ひとり親世帯の子どもの就職率（中学校卒業後）	－	1.3%	0.8%	
ひとり親世帯の子どもの大学等進学率（専修学校等を含む）	－	58.2%	41.6%	
ひとり親世帯の子どもの就職率（高等学校卒業後）	－	17.9%	33.0%	
スクールソーシャルワーカーの配置人数	1人	3人	1,008人	●奈良県：平成26年度現在 ●全国：平成25年度
スクールカウンセラーの配置率（小学校）	100.0%	12.0%	49.2%	●奈良市：平成28年度 ●奈良県：平成26年度現在 ●全国：平成25年度
スクールカウンセラーの配置率（中学校）	100.0%	56.6%	85.9%	
就学援助制度に関する周知状況 ・毎年度の進級時に学校で就学援助制度の書類を配付している市町村の割合	実施	60.0% (※)	67.5%	●平成26年度
就学援助制度に関する周知状況 ・入学時に学校で就学援助制度の書類を配付している市町村の割合	実施	65.0% (※)	66.6%	

指標	奈良市	奈良県	全国	備考
日本学生支援機構の奨学金の貸与基準を満たす希望者のうち、奨学金の貸与を認められた者の割合（無利子）	- 100.0%	59.6% 100.0%	61.6% 100.0%	●平成26年度実績 ・上段：予約採用段階 ・下段在宅採用段階
日本学生支援機構の奨学金の貸与基準を満たす希望者のうち、奨学金の貸与を認められた者の割合（有利子）	100.0% 100.0%	100.0% 100.0%	100.0% 100.0%	
ひとり親家庭の親の就業率（母子世帯）	88.8%	90.6%	80.6%	●奈良市：（仮称）奈良市子どもの豊かな未来応援プランに関するアンケート調査 ●奈良県：平成26年度ひとり親家庭等実態調査 ●全国：平成23年度全国母子世帯等調査（特別集計）
ひとり親家庭の親の就業率（父子世帯）	75.0%	91.8%	91.3%	
子どもの貧困率	-	-	16.3%	●平成25年国民生活基礎調査
子どもがいる現役世帯のうち大人が一人の貧困率	-	-	54.6%	
就学援助の受給率（小・中学校）	11.6%	11.8%	15.4%	●奈良市：平成27年度 ●奈良県・全国：平成25年度
スマイルセンター就業相談件数	-	2,270件	88,422件	●平成26年度

奈良市子どもの生活に関するアンケート

回答結果集計（単純集計）

平成29年1月

奈良市

目次

1 調査概要	1
1 調査の目的	1
2 調査方法	1
3 報告書の見方	1
2 保護者編	2
問1 お子さんからみたあなたの関係	2
問2 世帯の人数・同居家族	2
問3 すべての子どもの年齢・性別・同居別居・就学状況	3
問4 世帯状況	4
問5 住まいの小学校区	4
問6 住まい	5
問7 住まいの近くに、子どもを預かってもらえる親族や友人・知人の有無	5
問7-1 子どもを預かってもらえる親族や友人・知人	5
問8 現在の就業状況	6
問8-1 仕事をしていない理由	6
問9 家にいるとき、主にお子さんと過ごす時間が長い人	7
問10 家庭でのお子さんとの関わり	7
問11 お子さんの虫歯の有無	9
問11-1 治療していない理由	10
問12 経済的な理由で、おおむね1年の間に経験されたこと	10
問13 お子さんが頼りにしていると思われる大人	10
問14 希望とするお子さんの進学	11
問14-1 希望通りの学校まで進むことになると思うか	11
問14-2 その理由	11
問15 あなたの年齢	12
問16 子育てをしていて特に大変だと感じること	12
問17 お子さんに関する悩み	12
問18 ご自身の生活に関する悩み	13
問19 悩みの相談相手	13
問19-1 その理由	13
問20 あなたの現在の生活意識	14
問21 あなた自身の家族との関わり	16
問22 可処分所得	18
問23 現在の収入	18
問24 家計において負担を感じる経費	18
問25 おおよそ半年の間に経済的理由で経験されたこと	18
問26 公的制度の利用	19
問27 奈良市の支援制度を受ける上で困ったこと	21
問28 お子さんに対して必要と思われる支援、重要だと思う支援策	21
問29 あなたが現在必要としている支援、重要だと思う支援	21
3 子ども編	22
問1 所属	22
問2 住まいの小学校区	22
問3 一緒に住んでいる人	22
問4 身長・体重	23
問5 起床時間	23
問6 帰宅時間	24
問7 就寝時間	24
問8 朝食摂取	24

問8-1 食べない理由	25
問9 晩御飯の摂取	25
問9-1 食べない理由	25
問10 家でひとりでごはんを食べること	26
問10-1 その時、なにをよく食べているか	26
問11 お風呂(シャワーのみの場合も含む)に入るか	26
問12 学校に遅刻すること	27
問13 毎日の生活で楽しい時	27
問14 ふだんの放課後、一緒に過ごす人	27
問15 ふだんの放課後、過ごす場所	28
問16 ふだん、授業以外の勉強時間	28
問16-1 家で勉強する場所	28
問17 毎月のおこづかいの額	29
問17-1 おこづかいの使い道	29
問18 学校の授業時間以外の1日の読書時間	29
問19 学校の授業の理解度	30
問20 いやなことや悩んでいること	30
問21 相談相手	30
問22 家族のことなどで困っていること	31
問23 学校のことについて悩んでいること	31
問24 将来の進路希望	31
問25 自分自身のこと	32

1 調査概要

1. 調査の目的

奈良市の子どもが今を幸せに生きることができ、将来に夢と希望をもって成長していけるよう、学校や家での生活の様子、将来についての考えや希望、子育て世帯の生活環境・経済状況を把握し、今後の本市の貧困対策の基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査方法

- (1) 調査対象者 市内小学5年生の児童とその保護者
市内中学2年生の生徒とその保護者
- (2) 抽出方法 奈良市内小学5年生・中学2年生それぞれ学級単位の無作為抽出
- (3) 調査方法 学校配布郵送回収
- (4) 調査期間 平成28年11月25日～12月6日
- (5) 回収結果

		調査対象数	回答数	回収率
保護者	小学5年生	1,028	567	55.2%
	中学2年生	976	404	41.4%
	不明		54	-
	計	2,004	1,025	51.1%
子ども	小学5年生	1,028	567	55.2%
	中学2年生	976	405	41.5%
	不明		31	-
	計	2,004	1003	50.0%

3. 報告書の見方

- (1) 回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基数(n)として算出した。これらの数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、全項目の回答比率の合計が100.0%とならない場合がある。
- (2) 複数の回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超えることがある。
- (3) 報告書中の図表では、コンピューター入力の都合上、回答選択肢の表現を短縮している場合がある。

2 保護者編

問1 お子さんからみたあなたの関係について教えてください。(1つだけに○)

	全体	お母さん	お父さん	おばあさん・おじいさん	おば、おじなどの親戚	その他の人	無回答
全体	1025 100	951 92.8	54 5.3	6 0.6	-	-	14 1.4
小学生	567 100	530 93.5	28 4.9	3 0.5	-	-	6 1.1
中学生	404 100	370 91.6	25 6.2	2 0.5	-	-	7 1.7

※上段:実数、下段:割合(%)

問2 世帯の人数を教えてください。また、同居している家族をお答えください。

【世帯人数】

	全体	2人	3人	4人	5人	6人以上	無回答
全体	1025 100	18 1.8	136 13.3	486 47.4	250 24.4	119 11.6	16 1.6
小学生	567 100	10 1.8	79 13.9	265 46.7	151 26.6	55 9.7	7 1.2
中学生	404 100	8 2	51 12.6	202 50	81 20	54 13.4	8 2

※上段:実数、下段:割合(%)

【同居家族】

	全体	む配偶者(事実婚を含む)	子ども	自分の父	自分の母	配偶者の父	配偶者の母	その他	無回答
全体	1025 100	895 87.3	993 96.9	52 5.1	67 6.5	47 4.6	68 6.6	26 2.5	14 1.4
小学生	567 100	498 87.8	552 97.4	27 4.8	33 5.8	23 4.1	33 5.8	16 2.8	4 0.7
中学生	404 100	351 86.9	389 96.3	25 6.2	32 7.9	22 5.4	32 7.9	9 2.2	9 2.2

※上段:実数、下段:割合(%)

問3 すべての子どもさんの「年齢」と「性別」「同居・別居別」「就学状況」を教えてください。（○または◎をそれぞれ1つ）。

※結婚や就職などで独立されている子どもは除きます。

※回答があった子どもを積み上げて集計

※○は在学中、◎は卒業を意味する。

【年齢】

	全体	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳
全体	2255 100	4 0.2	9 0.4	13 0.6	12 0.5	23 1	37 1.6	36 1.6	58 2.6	94 4.2	89 3.9	189 8.4	387 17.2	61 2.7	169 7.5
小学生	1249 100	4 0.3	7 0.6	9 0.7	8 0.6	16 1.3	28 2.2	25 2	40 3.2	73 5.8	58 4.6	146 11.7	316 25.3	31 2.5	59 4.7
中学生	874 100	-	-	4 0.5	3 0.3	4 0.5	8 0.9	10 1.1	14 1.6	19 2.2	29 3.3	38 4.3	46 5.3	29 3.3	98 11.2

※上段:実数、下段:割合(%)

	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳以上	無回答
全体	308 13.7	61 2.7	80 3.5	64 2.8	45 2	20 0.9	62 2.7	434 19.2
小学生	63 5	33 2.6	26 2.1	22 1.8	13 1	6 0.5	28 2.2	238 19.1
中学生	227 26	26 3	50 5.7	41 4.7	31 3.5	14 1.6	34 3.9	149 17

【性別】

	全体	男性	女性	無回答
全体	2255 100	1107 49.1	1124 49.8	24 1.1
小学生	1249 100	588 47.1	650 52	11 0.9
中学生	874 100	450 51.5	413 47.3	11 1.3

※上段:実数、下段:割合(%)

【同居・別居】

	全体	同居	別居	無回答
全体	2255 100	2118 93.9	30 1.3	107 4.7
小学生	1249 100	1177 94.2	17 1.4	55 4.4
中学生	874 100	819 93.7	13 1.5	42 4.8

※上段:実数、下段:割合(%)

問4 あなたのご家庭の世帯状況は、次のどれにあてはまりますか。
(1つだけに○)

	全体	母子世帯	父子世帯	養育者世帯	それ以外の世帯	無回答
全体	1025 100	98 9.6	8 0.8	1 0.1	918 89.6	-
小学生	567 100	55 9.7	3 0.5	-	509 89.8	-
中学生	404 100	38 9.4	4 1	1 0.2	361 89.4	-

※上段:実数、下段:割合(%)

問5 あなたのお住まいの小学校区についてお答えください。(1つだけに○)

全体	平城小学校区	飛鳥中学校区	登美ヶ丘小学校区、東	登美ヶ丘北中学校区、東	都跡中学校区	平城東中学校区	月ヶ瀬小学校区	郷小学校区	都跡中学校区、都跡小学校区、都跡小学校区、六	富雄第三中学校区	無回答			
全体	1025 100	91 8.9	106 10.3	27 2.6	107 10.4	52 5.1	52 5.1	3 0.3	7 0.7	41 4	32 3.1	82 8	86 8.4	78 7.6
小学生	567 100	50 8.8	62 10.9	16 2.8	59 10.4	45 7.9	32 5.6	2 0.4	-	29 5.1	19 3.4	38 6.7	47 8.3	45 7.9
中学生	404 100	36 8.9	39 9.7	11 2.7	45 11.1	5 1.2	18 4.5	1 0.2	7 1.7	11 2.7	11 2.7	42 10.4	34 8.4	29 7.2

※上段:実数、下段:割合(%)

全体	平城中学校区	飛鳥中学校区	登美ヶ丘北中学校区、東	登美ヶ丘北中学校区、東	都跡中学校区	平城東中学校区	月ヶ瀬小学校区	郷小学校区	都跡中学校区、都跡小学校区、都跡小学校区、六	富雄第三中学校区	無回答
全体	32 3.1	34 3.3	58 5.7	21 2	54 5.3	16 1.6	28 2.7	17 1.7	1 0.1		
小学生	17 3	16 2.8	31 5.5	8 1.4	30 5.3	7 1.2	13 2.3	-	1 0.2		
中学生	13 3.2	13 3.2	17 4.2	11 2.7	23 5.7	9 2.2	13 3.2	16 4	-		

※上段:実数、下段:割合(%)

問6 あなたのお住まいについてお答えください。(1つだけに○)

	全体	持家	地借家 (民間の賃貸団)	市営・ 県営住宅	貸公社・ 公団(U R 賃)	社宅	間借	その他	無回答
全体	1025 100	792 77.3	151 14.7	14 1.4	35 3.4	14 1.4	2 0.2	11 1.1	6 0.6
小学生	567 100	444 78.3	76 13.4	8 1.4	19 3.4	8 1.4	2 0.4	9 1.6	1 0.2
中学生	404 100	310 76.7	67 16.6	4 1	12 3	6 1.5	-	1 0.2	4 1

※上段:実数、下段:割合(%)

問7 住まいの近く(おおむね30分以内で行き来できる範囲)に、子どもを預かってもらえる親族や友人・知人などがいますか。(1つだけに○)

	全体	はい	いいえ	無回答
全体	1025 100	749 73.1	270 26.3	6 0.6
小学生	567 100	418 73.7	147 25.9	2 0.4
中学生	404 100	294 72.8	107 26.5	3 0.7

※上段:実数、下段:割合(%)

«問7で「1(=はい)」と答えた方のみ»

問7-1 子どもを預かってもらえる親族や友人・知人はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

	全体	自分の父	自分の母	配偶者の父	配偶者の母	友人・知人	その他	無回答
全体	749 100	247 33	350 46.7	166 22.2	235 31.4	317 42.3	99 13.2	2 0.3
小学生	418 100	132 31.6	190 45.5	103 24.6	139 33.3	174 41.6	53 12.7	1 0.2
中学生	294 100	106 36.1	143 48.6	57 19.4	88 29.9	121 41.2	43 14.6	1 0.3

※上段:実数、下段:割合(%)

問8 現在の就業状況についておたずねします。(それぞれ1つに○)

※現在、育児休業などで休業中の方は、復職するときの仕事の番号を選んでください。

※ひとり親の方はあなたの状況を教えてください。

【あなたの就業状況】

	全体	員勤め (常勤・正規職)	で1か所 パート、非 正規職は ア	で2か所 パート、非 正規職は ア	自営業・ 家族従業者	その他の 就業形態	仕事を していない	無 回答
全体	1025 100	202 19.7	464 45.3	35 3.4	58 5.7	14 1.4	238 23.2	14 1.4
小学生	567 100	100 17.6	251 44.3	22 3.9	33 5.8	8 1.4	147 25.9	6 1.1
中学生	404 100	94 23.3	181 44.8	13 3.2	22 5.4	6 1.5	82 20.3	6 1.5

※上段:実数、下段:割合(%)

【配偶者の就業状況】

	全体	員勤め (常勤・正規職)	で1か所 パート、非 正規職は ア	で2か所 パート、非 正規職は ア	自営業・ 家族従業者	その他の 就業形態	仕事を していない	無 回答
全体	1025 100	713 69.6	34 3.3	2 0.2	103 10	-	25 2.4	148 14.4
小学生	567 100	400 70.5	19 3.4	-	52 9.2	-	11 1.9	85 15
中学生	404 100	275 68.1	13 3.2	2 0.5	46 11.4	-	13 3.2	55 13.6

※上段:実数、下段:割合(%)

«問8で「6 (=仕事をしていない)」と答えた方のみ»

問8-1 「仕事をしていない」理由をお聞かせください。(それぞれ1つに○)

【あなた】

	全体	仕事を探 している	つ 仕事を探 している がみ	仕事を探 していない	そ の 他	無 回 答
全体	238 100	33 13.9	14 5.9	133 55.9	48 20.2	10 4.2
小学生	147 100	22 15	8 5.4	84 57.1	29 19.7	4 2.7
中学生	82 100	10 12.2	6 7.3	43 52.4	17 20.7	6 7.3

※上段:実数、下段:割合(%)

【配偶者】

	全体	仕事を探している	仕事を探しているがみつからない	仕事を探していない	その他	無回答
全体	25 100	2 8	1 4	11 44	8 32	3 12
小学生	11 100	1 9.1	-	4 36.4	4 36.4	2 18.2
中学生	13 100	1 7.7	1 7.7	6 46.2	4 30.8	1 7.7

※上段:実数、下段:割合(%)

問9 お子さんが家にいるとき、主にお子さんと過ごす時間が長いのはどなたですか。
(あてはまるものすべてに○)

	全体	お母さん	お父さん	おばあさん・おじいさん	きょうだい	おば、おじなどの親戚	近所の人・地域の人	お子さんがひとりである	その他の人	無回答
全体	1025 100	918 89.6	159 15.5	135 13.2	435 42.4	5 0.5	4 0.4	8 0.8	6 0.6	3 0.3
小学生	567 100	510 89.9	76 13.4	73 12.9	251 44.3	4 0.7	4 0.7	5 0.9	2 0.4	-
中学生	404 100	360 89.1	73 18.1	56 13.9	157 38.9	1 0.2	-	3 0.7	4 1	2 0.5

※上段:実数、下段:割合(%)

問10 あなたのご家庭では、お子さんと次のようなことをすることがありますか。
(それぞれ1つに○)

【お子さんの勉強をみる】

	全体	ほぼ毎日	週に3〜4回	週に1〜2回	月に1〜2回	めったにない	無回答
全体	1025 100	198 19.3	141 13.8	228 22.2	173 16.9	272 26.5	13 1.3
小学生	567 100	156 27.5	98 17.3	145 25.6	84 14.8	79 13.9	5 0.9
中学生	404 100	33 8.2	39 9.7	71 17.6	82 20.3	172 42.6	7 1.7

※上段:実数、下段:割合(%)

【お子さんとからだを動かす】

	全体	ほぼ毎日	週に3〜4回	週に1〜2回	月に1〜2回	めったにない	無回答
全体	1025 100	24 2.3	41 4	200 19.5	278 27.1	465 45.4	17 1.7
小学生	567 100	17 3	33 5.8	144 25.4	178 31.4	188 33.2	7 1.2
中学生	404 100	5 1.2	7 1.7	46 11.4	87 21.5	250 61.9	9 2.2

※上段:実数、下段:割合(%)

【お子さんと遊ぶ (テレビゲーム・トランプ・オセロなど)】

	全体	ほぼ毎日	週に3〜4回	週に1〜2回	月に1〜2回	めったにない	無回答
全体	1025 100	43 4.2	71 6.9	214 20.9	328 32	349 34	20 2
小学生	567 100	30 5.3	48 8.5	160 28.2	199 35.1	123 21.7	7 1.2
中学生	404 100	9 2.2	19 4.7	43 10.6	118 29.2	203 50.2	12 3

※上段:実数、下段:割合(%)

【お子さんと学校生活の話をする】

	全体	ほぼ毎日	週に3〜4回	週に1〜2回	月に1〜2回	めったにない	無回答
全体	1025 100	741 72.3	154 15	90 8.8	19 1.9	10 1	11 1.1
小学生	567 100	428 75.5	83 14.6	39 6.9	10 1.8	3 0.5	4 0.7
中学生	404 100	275 68.1	64 15.8	44 10.9	7 1.7	7 1.7	7 1.7

※上段:実数、下段:割合(%)

【お子さんと政治経済・社会問題などのニュースの話をする】

	全体	ほぼ毎日	週に3〜4回	週に1〜2回	月に1〜2回	めったにない	無回答
全体	1025 100	213 20.8	245 23.9	271 26.4	151 14.7	130 12.7	15 1.5
小学生	567 100	113 19.9	133 23.5	151 26.6	83 14.6	80 14.1	7 1.2
中学生	404 100	89 22	98 24.3	110 27.2	60 14.9	40 9.9	7 1.7

※上段:実数、下段:割合(%)

【お子さんとテレビ番組（ニュースをのぞく）の話をする】

	全体	ほぼ毎日	週に3〜4回	週に1〜2回	月に1〜2回	めったにない	無回答
全体	1025 100	471 46	281 27.4	180 17.6	43 4.2	36 3.5	14 1.4
小学生	567 100	264 46.6	167 29.5	90 15.9	21 3.7	22 3.9	3 0.5
中学生	404 100	180 44.6	106 26.2	80 19.8	15 3.7	12 3	11 2.7

※上段:実数、下段:割合(%)

【お子さんといっしょに料理をする】

	全体	ほぼ毎日	週に3〜4回	週に1〜2回	月に1〜2回	めったにない	無回答
全体	1025 100	20 2	60 5.9	172 16.8	363 35.4	396 38.6	14 1.4
小学生	567 100	15 2.6	41 7.2	113 19.9	220 38.8	173 30.5	5 0.9
中学生	404 100	4 1	16 4	46 11.4	125 30.9	205 50.7	8 2

※上段:実数、下段:割合(%)

【お子さんといっしょに外出をする】

	全体	ほぼ毎日	週に3〜4回	週に1〜2回	月に1〜2回	めったにない	無回答
全体	1025 100	53 5.2	129 12.6	500 48.8	293 28.6	36 3.5	14 1.4
小学生	567 100	37 6.5	92 16.2	322 56.8	104 18.3	5 0.9	7 1.2
中学生	404 100	12 3	32 7.9	153 37.9	171 42.3	30 7.4	6 1.5

※上段:実数、下段:割合(%)

問 11 お子さんに、むし歯はありますか。(1つだけに○)

	全体	ある(未治療)	ある(治療中)	あった(治療済)	ない	わからない	無回答
全体	1025 100	51 5	51 5	448 43.7	440 42.9	24 2.3	11 1.1
小学生	567 100	23 4.1	31 5.5	245 43.2	251 44.3	12 2.1	5 0.9
中学生	404 100	26 6.4	18 4.5	178 44.1	164 40.6	12 3	6 1.5

※上段:実数、下段:割合(%)

問 14 お子さんの進学は、希望としては、どこまでを考えていますか。
(1つだけに○)

	全体	中学校	高等学校	短大	大学	大学院	専修学校・各種学校	その他	わからない	特にない	無回答
全体	1025 100	1 0.1	104 10.1	31 3	738 72	26 2.5	55 5.4	6 0.6	33 3.2	17 1.7	14 1.4
小学生	567 100	1 0.2	57 10.1	13 2.3	409 72.1	21 3.7	31 5.5	1 0.2	19 3.4	10 1.8	5 0.9
中学生	404 100	-	37 9.2	18 4.5	292 72.3	4 1	23 5.7	5 1.2	13 3.2	6 1.5	6 1.5

※上段:実数、下段:割合(%)

«問 14 で「1～7 (=進学先の希望がある)」と答えた方のみ»

問 14-1 あなたは、お子さんが問 14 の希望どおりの学校まで進むことになると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

	全体	思う	思わない	わからない	無回答
全体	961 100	536 55.8	62 6.5	338 35.2	25 2.6
小学生	533 100	296 55.5	34 6.4	189 35.5	14 2.6
中学生	379 100	215 56.7	24 6.3	129 34	11 2.9

※上段:実数、下段:割合(%)

«問 14-1 で「2 (=思わない)」と答えた方のみ»

問 14-2 その理由について教えてください(あてはまるものすべてに○)

	全体	お子さんの希望と異なるから	お子さんの学力から考えて	経済的な余裕がないから	勉強のサポートができないから	その他	無回答
全体	62 100	7 11.3	36 58.1	33 53.2	15 24.2	4 6.5	-
小学生	34 100	4 11.8	16 47.1	21 61.8	11 32.4	3 8.8	-
中学生	24 100	3 12.5	17 70.8	9 37.5	3 12.5	1 4.2	-

※上段:実数、下段:割合(%)

問 15 あなたの年齢は現在おいくつですか。(1つだけに○)

	全体	20歳未満	20歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～59歳	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳以上	無回答
全体	1025	3	-	1	34	149	430	312	72	7	1	2	3	11
	100	0.3	-	0.1	3.3	14.5	42	30.4	7	0.7	0.1	0.2	0.3	1.1
小学生	567	1	-	1	27	110	262	135	23	2	-	2	1	3
	100	0.2	-	0.2	4.8	19.4	46.2	23.8	4.1	0.4	-	0.4	0.2	0.5
中学生	404	2	-	-	6	31	145	162	47	4	1	-	2	4
	100	0.5	-	-	1.5	7.7	35.9	40.1	11.6	1	0.2	-	0.5	1

※上段:実数、下段:割合(%)

問 16 子育てをされていて特に大変だと感じることは何ですか。(○は3つまで)

	全体	子どもの生活の管理・食生活の健康	子どもの生活態度・生活習慣のしつけ	子どもの学力・学習習慣	子どもへの接し方	反抗期や思春期の子どもへの対応	保育料、学費など学校等にかかる費用	学習塾や習い事の費用	将来の進学に向けた学資の準備	生活費全般の確保	子どもと一緒に過ごす時間の確保	仕事と子育ての両立	特にない	その他	無回答
全体	1025	229	377	388	292	67	250	352	97	103	172	55	13	70	
	100	22.3	36.8	37.9	28.5	6.5	24.4	34.3	9.5	10	16.8	5.4	1.3	6.8	
小学生	567	126	238	193	162	38	136	187	51	58	91	30	8	35	
	100	22.2	42	34	28.6	6.7	24	33	9	10.2	16	5.3	1.4	6.2	
中学生	404	91	121	172	114	27	104	147	43	34	68	24	4	28	
	100	22.5	30	42.6	28.2	6.7	25.7	36.4	10.6	8.4	16.8	5.9	1	6.9	

※上段:実数、下段:割合(%)

問 17 お子さんに関する次のような悩みはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

	全体	学力・進学	しつけ	友人関係	異性関係	病気・健康問題	いじめ	不登校	非行	家庭内暴力	就職	結婚	その他	特にない	無回答
全体	1025	586	296	246	17	129	62	30	8	3	53	14	28	256	18
	100	57.2	28.9	24	1.7	12.6	6	2.9	0.8	0.3	5.2	1.4	2.7	25	1.8
小学生	567	284	178	150	9	70	40	15	3	2	21	5	19	158	7
	100	50.1	31.4	26.5	1.6	12.3	7.1	2.6	0.5	0.4	3.7	0.9	3.4	27.9	1.2
中学生	404	263	101	88	7	47	19	14	4	1	29	7	6	91	8
	100	65.1	25	21.8	1.7	11.6	4.7	3.5	1	0.2	7.2	1.7	1.5	22.5	2

※上段:実数、下段:割合(%)

問 18 あなたは、現在、ご自身の生活に関して、どのようなことについて悩んでいますか。(あてはまるものすべてに○)

	全体	生活費に関する こと	子どもの養育にかか る費用に関する こと	仕事に関する こと	住宅に関する こと	健康に関する こと	対人関係に関する こと	老後に関する こと	家族に関する こと	子どもに関する こと	その他	特に悩んでいる ことはない	無回答
全体	1025 100	324 31.6	427 41.7	243 23.7	134 13.1	226 22	85 8.3	236 23	176 17.2	317 30.9	24 2.3	218 21.3	12 1.2
小学生	567 100	176 31	233 41.1	149 26.3	76 13.4	118 20.8	59 10.4	125 22	9 1.6	180 31.7	15 2.6	125 22	5 0.9
中学生	404 100	128 31.7	170 42.1	86 21.3	53 13.1	101 25	22 5.4	98 24.3	74 18.3	116 28.7	8 2	88 21.8	4 1

※上段:実数、下段:割合(%)

問 19 あなたは、問 17・18 の悩みをどなた(どこ)に相談されていますか。(されましたか。)(あてはまるものすべてに○)

	全体	家族・親 族	友人・知 人	職場の 人	子ども の通う学 校等	子ども の友達 の親	子育て サークル ・団体	体 NPO などの 民間の 団	サイ ンター やSNS の 児童	民生 委員・ 児童 委員	公的 な相談 窓口(市 役所・こ ども家 庭相談 セン ター等)	その他	い な か つ た	適 当 な 相 談 相 手 が い な い	か つ た	相 談 し な い、 相 談 し な い	無 回 答
全体	903 100	615 68.1	418 46.3	173 19.2	63 7	149 16.5	5 0.6	3 0.3	3 0.3	-	19 2.1	20 2.2	40 4.4	74 8.2	31 3.4	31 3.4	31 3.4
小学生	491 100	333 67.8	217 44.2	87 17.7	33 6.7	85 17.3	3 0.6	1 0.2	1 0.2	-	6 1.2	12 2.4	22 4.5	42 8.6	17 3.5	17 3.5	17 3.5
中学生	360 100	245 68.1	180 50	76 21.1	28 7.8	55 15.3	2 0.6	2 0.6	1 0.3	-	10 2.8	7 1.9	17 4.7	28 7.8	12 3.3	12 3.3	12 3.3

※上段:実数、下段:割合(%)

«問 19 で「12~13 (=相談相手がない、相談しない)」と答えた方のみ»

問 19-1 その理由を教えてください(あてはまるものすべてに○)

	全体	か ら 信 頼 で き る 人 が い な い	ら 理 解 し て も ら え な い か	ら を 最 初 か ら す べ て の こ と が 負 担 だ か	ら プ ラ イ ベ ー ト な 話 を す る こ と が 負 担 だ か	ら 悩 ん で い る こ と 自 体 知 ら れ た く な い か	ら 相 談 し て も 事 態 は 変 わ ら な い か	時 間 が な い か	な い か ら 相 談 で き る 場 所 を 知 ら な い	そ の 他	無 回 答
全体	114 100	8 7	17 14.9	16 14	24 21.1	13 11.4	65 57	12 10.5	17 14.9	15 13.2	4 3.5
小学生	64 100	5 7.8	10 15.6	10 15.6	13 20.3	6 9.4	35 54.7	7 10.9	10 15.6	12 18.8	-
中学生	45 100	3 6.7	6 13.3	4 8.9	11 24.4	7 15.6	25 55.6	5 11.1	7 15.6	3 6.7	4 8.9

※上段:実数、下段:割合(%)

問 20 あなたの現在の生活意識について教えてください。(それぞれ1つに○)

【現在、自分の生活は充実している】

	全体	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	わからない	無回答
全体	1025 100	275 26.8	495 48.3	159 15.5	60 5.9	21 2	15 1.5
小学生	567 100	160 28.2	264 46.6	90 15.9	30 5.3	11 1.9	12 2.1
中学生	404 100	102 25.2	206 51	62 15.3	24 5.9	9 2.2	1 0.2

※上段:実数、下段:割合(%)

【将来に希望をもっている】

	全体	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	わからない	無回答
全体	1025 100	215 21	436 42.5	213 20.8	85 8.3	59 5.8	17 1.7
小学生	567 100	123 21.7	241 42.5	112 19.8	45 7.9	35 6.2	11 1.9
中学生	404 100	82 20.3	175 43.3	88 21.8	36 8.9	20 5	3 0.7

※上段:実数、下段:割合(%)

【ありのままの自分を認めてくれる人がいる】

	全体	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	わからない	無回答
全体	1025 100	453 44.2	374 36.5	102 10	37 3.6	42 4.1	17 1.7
小学生	567 100	255 45	204 36	60 10.6	17 3	19 3.4	12 2.1
中学生	404 100	177 43.8	149 36.9	38 9.4	18 4.5	19 4.7	3 0.7

※上段:実数、下段:割合(%)

【今の生活はつらいことの方が多い】

	全体	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	わからない	無回答
全体	1025	58	167	354	405	21	20
	100	5.7	16.3	34.5	39.5	2	2
小学生	567	25	95	193	230	10	14
	100	4.4	16.8	34	40.6	1.8	2.5
中学生	404	31	62	144	153	11	3
	100	7.7	15.3	35.6	37.9	2.7	0.7

※上段:実数、下段:割合(%)

【働いても働いても生活が楽にならない】

	全体	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	わからない	無回答
全体	1025	149	209	262	333	46	26
	100	14.5	20.4	25.6	32.5	4.5	2.5
小学生	567	81	115	140	191	24	16
	100	14.3	20.3	24.7	33.7	4.2	2.8
中学生	404	58	87	105	124	22	8
	100	14.4	21.5	26	30.7	5.4	2

※上段:実数、下段:割合(%)

【仕事と子育てで、心身ともに余裕がない】

	全体	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	わからない	無回答
全体	1025	97	240	316	330	19	23
	100	9.5	23.4	30.8	32.2	1.9	2.2
小学生	567	56	127	171	184	13	16
	100	9.9	22.4	30.2	32.5	2.3	2.8
中学生	404	39	95	127	132	6	5
	100	9.7	23.5	31.4	32.7	1.5	1.2

※上段:実数、下段:割合(%)

【いろんなプレッシャーに、押しつぶされそうな気持ちになる】

	全体	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	わからない	無回答
全体	1025	86	223	291	390	18	17
	100	8.4	21.8	28.4	38	1.8	1.7
小学生	567	51	111	170	215	9	11
	100	9	19.6	30	37.9	1.6	1.9
中学生	404	32	100	106	154	8	4
	100	7.9	24.8	26.2	38.1	2	1

※上段:実数、下段:割合(%)

【いつもまわりの人の目が気になる】

	全体	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	わからない	無回答
全体	1025 100	62 6	186 18.1	360 35.1	383 37.4	19 1.9	15 1.5
小学生	567 100	42 7.4	99 17.5	197 34.7	211 37.2	7 1.2	11 1.9
中学生	404 100	17 4.2	82 20.3	140 34.7	152 37.6	11 2.7	2 0.5

※上段:実数、下段:割合(%)

【どこまでがんばればよいのかわからない】

	全体	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	わからない	無回答
全体	1025 100	109 10.6	189 18.4	299 29.2	371 36.2	37 3.6	20 2
小学生	567 100	68 12	100 17.6	163 28.7	203 35.8	19 3.4	14 2.5
中学生	404 100	36 8.9	79 19.6	120 29.7	150 37.1	15 3.7	4 1

※上段:実数、下段:割合(%)

問 21 あなた自身の、家族との関わりについてお答えください。(それぞれ1つに○)

【あなたの両親が離婚した】

	全体	経験したことがある	経験したことはない	無回答
全体	1025 100	109 10.6	896 87.4	20 2
小学生	567 100	64 11.3	490 86.4	13 2.3
中学生	404 100	35 8.7	364 90.1	5 1.2

※上段:実数、下段:割合(%)

【あなたが成人する前に父または母が亡くなった】

	全体	経験したことがある	経験したことはない	無回答
全体	1025 100	56 5.5	951 92.8	18 1.8
小学生	567 100	33 5.8	521 91.9	13 2.3
中学生	404 100	21 5.2	380 94.7	3 0.7

※上段:実数、下段:割合(%)

【家庭内の事情により、親と離れて暮らしたことがある】

	全体	経験したことがある	経験したことはない	無回答
全体	1025 100	91 8.9	913 89.7	21 2
小学生	567 100	48 8.5	505 89.7	14 2.5
中学生	404 100	37 9.2	362 89.6	5 1.2

※上段:実数、下段:割合(%)

【親から暴力をふるわれたことがある】

	全体	経験したことがある	経験したことはない	無回答
全体	1025 100	113 11	889 86.7	23 2.2
小学生	567 100	60 10.6	493 86.9	14 2.5
中学生	404 100	44 10.9	353 87.4	7 1.7

※上段:実数、下段:割合(%)

【親に暴力をふるったことがある】

	全体	経験したことがある	経験したことはない	無回答
全体	1025 100	34 3.3	969 94.5	22 2.1
小学生	567 100	17 3	535 94.4	15 2.6
中学生	404 100	14 3.5	385 95.3	5 1.2

※上段:実数、下段:割合(%)

【親と疎遠になっている(なっていた)】

	全体	経験したことがある	経験したことはない	無回答
全体	1025 100	107 10.4	899 87.7	19 1.9
小学生	567 100	57 10.1	497 87.7	13 2.3
中学生	404 100	42 10.4	358 88.6	4 1

※上段:実数、下段:割合(%)

問 26 あなたは次の公的制度を利用したことがありますか。また、利用したことがない場合は、その理由を教えてください。(それぞれ1つに○)

【児童手当】

	全体	利用したことがある	制度を知らない	利用資格がない	必要がない	無回答
全体	1025 100	911 88.9	6 0.6	19 1.9	53 5.2	36 3.5
小学生	567 100	503 88.7	3 0.5	14 2.5	27 4.8	20 3.5
中学生	404 100	360 89.1	3 0.7	5 1.2	22 5.4	14 3.5

※上段:実数、下段:割合(%)

【就学援助制度】

	全体	利用したことがある	制度を知らない	利用資格がない	必要がない	無回答
全体	1025 100	151 14.7	63 6.7	273 26.6	391 38.1	147 14.3
小学生	567 100	80 14.1	41 7.2	157 27.7	221 39	68 12
中学生	404 100	63 15.6	19 4.7	105 26	145 35.9	72 17.8

※上段:実数、下段:割合(%)

【児童扶養手当】

	全体	利用したことがある	制度を知らない	利用資格がない	必要がない	無回答
全体	1025 100	98 9.6	49 4.8	291 28.4	428 41.8	159 15.5
小学生	567 100	57 10.1	36 6.3	165 29.1	235 41.4	74 13.1
中学生	404 100	38 9.4	11 2.7	113 28	168 41.6	74 18.3

※上段:実数、下段:割合(%)

【疾病や難病の手当】

	全体	利用したことがある	制度を知らない	利用資格がない	必要がない	無回答
全体	1025 100	38 3.7	56 5.5	256 25	502 49	173 16.9
小学生	567 100	17 3	40 7.1	151 26.6	277 48.9	82 14.5
中学生	404 100	20 5	15 3.7	98 24.3	191 47.3	80 19.8

※上段:実数、下段:割合(%)

【生活保護】

	全体	利用したことがある	制度を知らない	利用資格がない	必要がない	無回答
全体	1025 100	16 1.6	15 1.5	267 26	549 53.6	178 17.4
小学生	567 100	11 1.9	6 1.1	155 27.3	312 55	83 14.6
中学生	404 100	5 1.2	9 2.2	103 25.5	203 50.2	84 20.8

※上段:実数、下段:割合(%)

【公的年金（遺族年金、障害年金）】

	全体	利用したことがある	制度を知らない	利用資格がない	必要がない	無回答
全体	1025 100	17 1.7	27 2.6	310 30.2	491 47.9	180 17.6
小学生	567 100	9 1.6	17 3	183 32.3	276 48.7	82 14.5
中学生	404 100	8 2	10 2.5	116 28.7	183 45.3	87 21.5

※上段:実数、下段:割合(%)

【雇用保険（失業保険）】

	全体	利用したことがある	制度を知らない	利用資格がない	必要がない	無回答
全体	1025 100	257 25.1	12 1.2	223 21.8	380 37.1	153 14.9
小学生	567 100	138 24.3	7 1.2	134 23.6	219 38.6	69 12.2
中学生	404 100	106 26.2	5 1.2	84 20.8	134 33.2	75 18.6

※上段:実数、下段:割合(%)

問 27 あなたが奈良市の支援制度（手当や就学援助など）を受けるうえで、困ったことはどのようなものですか。（あてはまるものすべてに○）

	全体	ない	ない	に	る	そ	特	無
		制度	制度	制度	プ	他	に	回
		につ	を申	の申	ラ		ない	答
		いて	請す	の申	イ			
		よく	する	先が	ベ			
		知ら	時間	がわ	ー			
		ら	が	かり	ト			
					な			
					話			
					を			
					す			
全体	1025	292	64	117	55	40	531	91
	100	28.5	6.2	11.4	5.4	3.9	51.8	8.9
小学生	567	168	29	61	29	20	301	46
	100	29.6	5.1	10.8	5.1	3.5	53.1	8.1
中学生	404	111	31	52	23	18	201	38
	100	27.5	7.7	12.9	5.7	4.5	49.8	9.4

※上段:実数、下段:割合(%)

問 28 お子さんに対して必要と思われる支援、または、重要だと思う支援等ほどのようなものですか。（あてはまるものすべてに○）

	全体	習	子	所	き	と	と	子	か	子	そ	わ	無
		支	ど	子	と	子	と	ど	か	ど	他	か	回
		援	も	ど	な	ど	と	も	か	も		ら	答
			の	の	ど	も	と	の	か	の		ら	
			学	放	の	自	無	医	か	進		な	
			力	課	生	身	料	療	か	学		い	
			保	後	活	が	化	に	か	・			
			障	の	の	相	さ	か	か	就			
			、	居	談	話	れ	か	か	学			
			学	場	で	の	こ	か	れ	に			
全体	1025	504	202	134	622	885	22	20	22				
	100	49.2	19.7	13.1	60.7	86.3	2.1	2	2.1				
小学生	567	278	143	77	353	478	11	16	11				
	100	49	25.2	13.6	62.3	84.3	1.9	2.8	1.9				
中学生	404	198	53	50	236	361	8	4	7				
	100	49	13.1	12.4	58.4	89.4	2	1	1.7				

※上段:実数、下段:割合(%)

問 29 あなたが現在必要としている支援、または、重要だと思う支援等ほどのようなものですか。（あてはまるものすべてに○）

	全体	こ	同	受	民	こ	離	援	病	が	け	就	こ	住	ら	病	と	一	そ	わ	無
		た	じ	け	生	な	婚	が	気	資	ら	職	の	宅	子	気	金	時	他	か	回
		人	よ	ら	域	な	の	受	や	格	れ	の	支	を	ど	や	を	的		ら	答
		同	う	れ	の	な	こ	け	障	取	ら	支	支	を	も	出	貸	的		ら	
		士	な	ら	人	な	と	ら	が	得	れ	の	援	を	ら	産	し	に		ら	
		で	な	ら	か	な	や	ら	い	の	た	支	支	を	ら	、	て	必		ら	
		知	な	ら	ら	な	養	ら	の	支	め	支	支	を	ら	事	も	要		ら	
		り	な	ら	ら	育	育	ら	こ	の	支	支	を	を	故	ら	と	と		ら	
		あ	な	ら	費	費	の	ら	と	支	支	支	を	を	な	一	一	時		ら	
		え	な	ら	の	の	支	ら	支	支	支	支	を	を	時	時	時	的		ら	
		る	な	ら	支	支	支	ら	支	支	支	支	を	を	的	的	的	に		ら	
		つ	な	ら	支	支	支	ら	支	支	支	支	を	を	支	支	支	に		ら	
		つ	な	ら	支	支	支	ら	支	支	支	支	を	を	支	支	支	に		ら	
		る	な	ら	支	支	支	ら	支	支	支	支	を	を	支	支	支	に		ら	
全体	1025	121	32	71	139	232	165	138	135	111	36	256	164								
	100	11.8	3.1	6.9	13.6	22.6	16.1	13.5	13.2	10.8	3.5	25	16								
小学生	567	73	22	34	76	135	92	78	97	56	18	137	79								
	100	12.9	3.9	6	13.4	23.8	16.2	13.8	17.1	9.9	3.2	24.2	13.9								
中学生	404	44	9	31	58	86	61	51	31	49	17	106	73								
	100	10.9	2.2	7.7	14.4	21.3	15.1	12.6	7.7	12.1	4.2	26.2	18.1								

※上段:実数、下段:割合(%)

問4 あなたの今の身長・体重を（ ）内に記入してください。

【身長】

	全体	130cm未満	130cm以上135cm未満	135cm以上140cm未満	140cm以上145cm未満	145cm以上150cm未満	150cm以上155cm未満	155cm以上160cm未満	160cm以上	無回答
全体	1003 100	6 0.6	38 3.8	98 9.8	168 16.8	152 15.2	156 15.6	107 10.7	211 21	67 6.7
小学生	567 100	6 1.1	38 6.7	96 16.9	157 27.7	134 23.6	80 14.1	18 3.2	7 1.2	31 5.5
中学生	405 100	-	-	1 0.2	6 1.5	15 3.7	73 18	84 20.7	195 48.1	31 7.7

※上段:実数、下段:割合(%)

【体重】

	全体	30kg未満	30kg以上35kg未満	35kg以上40kg未満	40kg以上45kg未満	45kg以上50kg未満	50kg以上55kg未満	55kg以上60kg未満	60kg以上	無回答
全体	1003 100	89 8.9	172 17.1	181 18	143 14.3	147 14.7	93 9.3	43 4.3	37 3.7	98 9.8
小学生	567 100	88 15.5	162 28.6	132 23.3	82 14.5	30 5.3	19 3.4	9 1.6	4 0.7	41 7.2
中学生	405 100	-	5 1.2	45 11.1	57 14.1	112 27.7	71 17.5	32 7.9	32 7.9	51 12.6

※上段:実数、下段:割合(%)

問5 あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）、何時に起きていますか。

（あてはまる番号1つだけに○を付けてください）

	全体	午前5時より前	午前5時台	午前6時台	午前7時台	午前8時台	午前9時より後	きまっていない	無回答
全体	1003 100	-	24 2.4	426 42.5	495 49.4	3 0.3	3 0.3	40 4	12 1.2
小学生	567 100	-	17 3	270 47.6	251 44.3	-	-	20 3.5	9 1.6
中学生	405 100	-	7 1.7	145 35.8	227 56	2 0.5	3 0.7	19 4.7	2 0.5

※上段:実数、下段:割合(%)

**問6 あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）、何時に家に帰りますか。
（あてはまる番号 1 つだけに○を付けてください）**

	全体	午後 4時 より 前	午後 4時 台	午後 5時 台	午後 6時 台	午後 7時 台	午後 8時 より 後	き ま つ て い な い	無 回 答
全体	1003 100	56 5.6	445 44.4	232 23.1	117 11.7	28 2.8	5 0.5	99 9.9	21 2.1
小学生	567 100	46 8.1	382 67.4	54 9.5	11 1.9	16 2.8	1 0.2	44 7.8	13 2.3
中学生	405 100	9 2.2	54 13.3	167 41.2	100 24.7	12 3	2 0.5	54 13.3	7 1.7

※上段:実数、下段:割合(%)

**問7 あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）、何時に寝ていますか。
（あてはまる番号 1 つだけに○を付けてください）**

	全体	午後 9時 より 前	午後 9時 台	午後 10時 台	午後 11時 台	午前 0時 台（夜 中）	午前 1時 より 後	き ま つ て い な い	無 回 答
全体	1003 100	22 2.2	204 20.3	317 31.6	233 23.2	101 10.1	16 1.6	98 9.8	12 1.2
小学生	567 100	21 3.7	195 34.4	214 37.7	64 11.3	11 1.9	3 0.5	52 9.2	7 1.2
中学生	405 100	1 0.2	9 2.2	91 22.5	156 38.5	86 21.2	13 3.2	46 11.4	3 0.7

※上段:実数、下段:割合(%)

**問8 あなたは朝ごはんをいつも食べていますか。
（あてはまる番号 1 つだけに○を付けてください）**

	全体	毎日・ ほぼ 毎日	週に 4 ～ 5 回	週に 2 ～ 3 回	週に 1 回 程 度	食 べ な い	無 回 答
全体	1003 100	926 92.3	23 2.3	29 2.9	7 0.7	9 0.9	9 0.9
小学生	567 100	524 92.4	19 3.4	14 2.5	-	4 0.7	6 1.1
中学生	405 100	372 91.9	4 1	15 3.7	7 1.7	5 1.2	2 0.5

※上段:実数、下段:割合(%)

◀問 8 で「2～5 (=食べないことがある)」と答えた方のみ▶

問 8-1 毎日朝ごはんを食べない理由はなんですか。

(あてはまる番号 1 つだけに○を付けてください)

	全体	時間がない	おなかがすいていない	用意されていない	食べる習慣がない	その他	無回答
全体	68 100	31 45.6	23 33.8	3 4.4	3 4.4	7 10.3	1 1.5
小学生	37 100	18 48.6	15 40.5	-	1 2.7	2 5.4	1 2.7
中学生	31 100	13 41.9	8 25.8	3 9.7	2 6.5	5 16.1	-

※上段:実数、下段:割合(%)

問 9 あなたは晩ごはんをいつも食べていますか。

(あてはまる番号 1 つだけに○を付けてください)

	全体	毎日・ほぼ毎日	週に4～5回	週に2～3回	週に1回程度	食べない	無回答
全体	1003 100	986 98.3	2 0.2	2 0.2	-	-	13 1.3
小学生	567 100	556 98.1	2 0.4	-	-	-	9 1.6
中学生	405 100	400 98.8	-	2 0.5	-	-	3 0.7

※上段:実数、下段:割合(%)

◀問 9 で「2～5 (=食べないことがある)」と答えた方のみ▶

問 9-1 毎日晚ごはんを食べない理由はなんですか。

(あてはまる番号 1 つだけに○を付けてください)

	全体	時間がない	おなかがすいていない	用意されていない	食べる習慣がない	その他	無回答
全体	4 100	-	1 25	1 25	-	2 50	-
小学生	2 100	-	1 50	-	-	1 50	-
中学生	2 100	-	-	1 50	-	1 50	-

※上段:実数、下段:割合(%)

問 10 あなたは、家でひとりでごはんを食べることがありますか。
(あてはまる番号 1 つだけに○を付けてください)

	全体	よくある	ときどきある	ほとんどない	まったくない	わからない	無回答
全体	1003 100	35 3.5	161 16.1	294 29.3	488 48.7	5 0.5	20 2
小学生	567 100	6 1.1	60 10.6	142 25	345 60.8	2 0.4	12 2.1
中学生	405 100	27 6.7	95 23.5	140 34.6	134 33.1	3 0.7	6 1.5

※上段:実数、下段:割合(%)

«問 10 で「1～2 (=ある)」と答えた方のみ»

問 10-1 ひとりでごはんを食べるとき、なにをよく食べていますか。特によく食べているものを教えてください。

(あてはまる番号 1 つだけに○を付けてください)

	全体	親やきょうだいが作ったもの	スーパー・コンビニなどで買ったもの	自分が作ったもの	外食	あまりきまっていない	その他	無回答
全体	196 100	134 68.4	21 10.7	14 7.1	-	15 7.7	4 2	8 4.1
小学生	66 100	46 69.7	8 12.1	4 6.1	-	4 6.1	-	4 6.1
中学生	122 100	82 67.2	13 10.7	10 8.2	-	11 9	3 2.5	3 2.5

※上段:実数、下段:割合(%)

問 11 あなたは、週にどのくらい、お風呂(シャワーのみの場合も含む)に入りますか。(あてはまる番号 1 つだけに○を付けてください)

	全体	毎日・ほとんど毎日	週に4～5回	週に2～3回	週に1回程度	入らない	無回答
全体	1003 100	947 94.4	33 3.3	7 0.7	3 0.3	1 0.1	12 1.2
小学生	567 100	528 93.1	24 4.2	6 1.1	2 0.4	-	7 1.2
中学生	405 100	390 96.3	9 2.2	-	1 0.2	1 0.2	4 1

※上段:実数、下段:割合(%)

問 12 あなたは、通っている学校に遅刻することがありますか。
 (あてはまる番号 1 つだけに○を付けてください)

	全体	遅刻はしない	週に 1 回程度	週に 2 ～ 3 回	毎日・ほぼ毎日	無回答
全体	1003 100	944 94.1	21 2.1	10 1	12 1.2	16 1.6
小学生	567 100	539 95.1	9 1.6	6 1.1	7 1.2	6 1.1
中学生	405 100	378 93.3	11 2.7	4 1	4 1	8 2

※上段:実数、下段:割合(%)

問 13 あなたは、毎日の生活でどのようなときに楽しいと思いますか。
 (あてはまる番号すべてに○を付けてください)

	全体	ともだちと過ごしているとき	おうちのひとと過ごしているとき	学校生活やクラブ活動に参加しているとき	地域の行事に参加しているとき	塾や習い事で過ごしているとき	ひとりでいるとき	特に楽しいと思うときはない	その他	無回答
全体	1003 100	854 85.1	570 56.8	529 52.7	188 18.7	276 27.5	286 28.5	14 1.4	59 5.9	15 1.5
小学生	567 100	495 87.3	386 68.1	284 50.1	138 24.3	186 32.8	144 25.4	8 1.4	31 5.5	7 1.2
中学生	405 100	333 82.2	170 42	229 56.5	44 10.9	82 20.2	137 33.8	5 1.2	26 6.4	6 1.5

※上段:実数、下段:割合(%)

問 14 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)の放課後、だれと過ごしますか。
 (あてはまる番号すべてに○を付けてください)

	全体	学校のともだち	学校以外のともだち	おうちの大人	きょうだい	おうちの人以上の大人	ひとりでいる	その他	無回答
全体	1003 100	656 65.4	133 13.3	650 64.8	484 48.3	202 20.1	165 16.5	15 1.5	10 1
小学生	567 100	356 62.8	87 15.3	386 68.1	298 52.6	125 22	93 16.4	9 1.6	5 0.9
中学生	405 100	278 68.6	40 9.9	250 61.7	172 42.5	71 17.5	68 16.8	6 1.5	3 0.7

※上段:実数、下段:割合(%)

問 15 あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）の放課後、どこで過ごしますか。
 （あてはまる番号すべてに○を付けてください）

	全体	自分の家	おばあさん・おじいさんの家	ともだちの家	塾・習い事	学校（クラブ活動など）	バンビーホーム（放課後児童クラブ）	公園・広場	ショッピングモール・コンビニ	ゲームセンター	図書館や公民館などの公共の施設	児童館などの子どもの施設	その他	無回答
全体	1003 100	829 82.7	64 6.4	226 22.5	475 47.4	349 34.8	29 2.9	166 16.6	16 1.6	9 0.9	15 1.5	10 1	9 0.9	10 1
小学生	567 100	491 86.6	51 9	190 33.5	291 51.3	75 13.2	29 5.1	159 28	6 1.1	4 0.7	10 1.8	6 1.1	5 0.9	5 0.9
中学生	405 100	315 77.8	12 3	30 7.4	175 43.2	261 64.4	-	4 1	9 2.2	4 1	4 1	4 1	4 1	3 0.7

※上段:実数、下段:割合(%)

問 16 あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）、授業時間以外に1日あたりどれくらい勉強をしますか（塾などの時間も含まれます）。
 （あてはまる番号1つだけに○を付けてください）

	全体	まったくしない	30分より少ない	30分以上、1時間以下	1時間以上、2時間以下	2時間以上、3時間以下	3時間以上	無回答
全体	1003 100	75 7.5	151 15.1	277 27.6	266 26.5	144 14.4	79 7.9	11 1.1
小学生	567 100	34 6	85 15	186 32.8	152 26.8	66 11.6	37 6.5	7 1.2
中学生	405 100	37 9.1	57 14.1	86 21.2	109 26.9	72 17.8	41 10.1	3 0.7

※上段:実数、下段:割合(%)

«問 16で「2～6（＝家で勉強する）」と答えた方のみ»

問 16-1 あなたは、家で勉強するとき、どこで勉強していますか。
 （あてはまる番号1つだけに○を付けてください）

	全体	自分専用の部屋	うきょうだいで一緒に使う部屋	家族みんなで使う部屋	きまった場所はない	無回答
全体	917 100	234 25.5	100 10.9	402 43.8	157 17.1	24 2.6
小学生	526 100	72 13.7	63 12	291 55.3	88 16.7	12 2.3
中学生	365 100	149 40.8	36 9.9	105 28.8	64 17.5	11 3

※上段:実数、下段:割合(%)

問 17 おこづかいについておたずねします。あなたの毎月のおこづかいはいくらですか（時々もらう場合は、1か月あたりにするとどのくらいかで○を付けてください。ただしお年玉はのぞきます）
（あてはまる番号 1 つだけに○を付けてください）

	全体	1000円より少ない	1000円台	2000円台	3000円台	4000円台	5000円以上	もらっていない	無回答
全体	1003 100	273 27.2	195 19.4	83 8.3	35 3.5	8 0.8	12 1.2	387 38.6	10 1
小学生	567 100	234 41.3	55 9.7	10 1.8	4 0.7	2 0.4	4 0.7	252 44.4	6 1.1
中学生	405 100	33 8.1	133 32.8	71 17.5	29 7.2	6 1.5	7 1.7	123 30.4	3 0.7

※上段:実数、下段:割合(%)

「問 17 で「1～6（＝おこづかいをもらっている）」と答えた方のみ」

問 17-1 毎月のおこづかいは、何に使っていますか。
（あてはまる番号すべてに○を付けてください）

	全体	ともだちとの遊び	学校で使う必要なもの	本	マンガ	菓子やジュース	食事	ゲーム関連	音楽関連	貯金	その他	無回答
全体	606 100	246 40.6	128 21.1	202 33.3	180 29.7	201 33.2	51 8.4	126 20.8	49 8.1	373 61.6	57 9.4	2 0.3
小学生	309 100	50 16.2	59 19.1	98 31.7	70 22.7	90 29.1	7 2.3	56 18.1	3 1	204 66	35 11.3	2 0.6
中学生	279 100	185 66.3	67 24	97 34.8	103 36.9	105 37.6	41 14.7	66 23.7	43 15.4	159 57	19 6.8	-

※上段:実数、下段:割合(%)

問 18 あなたは、学校の授業時間以外に、1日あたりどれくらい読書をしますか（教科書や参考書、マンガや雑誌をのぞきます）。
（あてはまる番号 1 つだけに○を付けてください）

	全体	まったくしない	30分より少ない	30分以上、1時間未満	1時間以上、2時間未満	2時間以上、3時間未満	3時間以上	無回答
全体	1003 100	331 33	342 34.1	195 19.4	87 8.7	22 2.2	16 1.6	10 1
小学生	567 100	142 25	212 37.4	127 22.4	57 10.1	10 1.8	14 2.5	5 0.9
中学生	405 100	177 43.7	120 29.6	59 14.6	30 7.4	12 3	2 0.5	5 1.2

※上段:実数、下段:割合(%)

問 19 あなたは、学校の授業がどのくらいわかりますか。
(あてはまる番号 1 つだけに○を付けてください)

	全体	よくわかる	だいたいわかる	あまりわからない	ほとんどわからない	わからない	無回答
全体	1003 100	383 38.2	522 52	62 6.2	17 1.7	13 1.3	6 0.6
小学生	567 100	272 48	260 45.9	24 4.2	5 0.9	3 0.5	3 0.5
中学生	405 100	100 24.7	245 60.5	35 8.6	12 3	10 2.5	3 0.7

※上段:実数、下段:割合(%)

問 20 あなたは、いやなことや悩んでいることがありますか。
(あてはまる番号すべてに○を付けてください)

	全体	こと おうちのこと・家族の	学校や勉強のこと	クラブ活動のこと	自分のこと	ともだちのこと	好きな人のこと	進学・進路のこと	その他のこと	いやなことや悩んでいることではない	無回答
全体	1003 100	68 6.8	222 22.1	90 9	157 15.7	155 15.5	87 8.7	194 19.3	30 3	488 48.7	21 2.1
小学生	567 100	34 6	87 15.3	6 1.1	79 13.9	89 15.7	55 9.7	52 9.2	19 3.4	318 56.1	13 2.3
中学生	405 100	31 7.7	129 31.9	82 20.2	72 17.8	63 15.6	29 7.2	138 34.1	8 2	151 37.3	8 2

※上段:実数、下段:割合(%)

問 21 あなたは、いやなことや悩んでいることがあるとき、だれに相談しますか。
(あてはまる番号すべてに○を付けてください)

	全体	お母さん・お父さん	きょうだい	おばあさん・おじいさん・親せき	学校のともだち	学校以外のともだち	学校の先生	スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー	学校以外の先生	近所の人・地域の人	子ども専用の電話相談	知りあつた直接会つた人	インターネットなどで	その他の人	だれにも相談しない	無回答
全体	1003 100	608 60.6	118 11.8	68 6.8	493 49.2	54 5.4	192 19.1	6 0.6	38 3.8	5 0.5	3 0.3	8 0.8	6 0.6	162 16.2	17 1.7	
小学生	567 100	372 65.6	75 13.2	54 9.5	234 41.3	19 3.4	104 18.3	4 0.7	13 2.3	5 0.9	3 0.5	-	3 0.5	93 16.4	10 1.8	
中学生	405 100	220 54.3	42 10.4	14 3.5	246 60.7	32 7.9	82 20.2	2 0.5	22 5.4	-	-	8 2	2 0.5	62 15.3	5 1.2	

※上段:実数、下段:割合(%)

問 22 あなたは、家族のことなどで、何か困っていることはありますか。
(あてはまる番号すべてに○を付けてください)

	全体	家族の 団らんや 会話が 少ない	親が 厳しい	親が 自分の 気持ちを わかって くれない	親 同士の 仲が 良くない	き ょう だい との 仲が 良く ない	家 で 落 ち 着 い て 勉 強 で き な い	世 話 が 大 変	病 気 の 人 や お 年 寄 り の	食 べ る こ は ん が な い と き が あ る	着 る 服 が 洗 濯 さ れ て い な い	家 の 中 が 散 ら か つ て い る	家 に お 金 が な い (少 な い)	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全体	1003 100	26 2.6	78 7.8	96 9.6	40 4	75 7.5	46 4.6	7 0.7	9 0.9	7 0.7	87 8.7	44 4.4	13 1.3	684 68.2	29 2.9	
小学生	567 100	12 2.1	41 7.2	46 8.1	19 3.4	54 9.5	19 3.4	6 1.1	4 0.7	4 0.7	60 10.6	22 3.9	7 1.2	382 67.4	14 2.5	
中学生	405 100	14 3.5	34 8.4	48 11.9	21 5.2	19 4.7	25 6.2	1 0.2	5 1.2	3 0.7	27 6.7	21 5.2	6 1.5	279 68.9	14 3.5	

※上段:実数、下段:割合(%)

問 23 あなたは、学校のことについて、何か望んでいることはありますか。
(あてはまる番号すべてに○を付けてください)

	全体	勉 強 を も つ と わ か り や す く 教 え て ほ し い	種 類 ・ 内 容 ・ 設 備 な ど の を 良 く し て ほ し い	部 活 動 や ク ラ ブ 活 動 な ど の を 良 く し て ほ し い	学 校 行 事 を 増 や し て ほ し い	友 だ ち と 話 せ る 楽 し い 雰 囲 気 が ほ し い	し ら せ の 内 容 を 許 さ な い と い う 雰 囲 気 に し て ほ し い	一 い じ め を 許 さ な い と い う 雰 囲 気 に し て ほ し い	と を 理 解 し て ほ し い	先 生 に も つ と 自 分 の こ と を 理 解 し て ほ し い	進 学 ・ 進 路 の こ と に つ いて わ か り や す く 教 え て ほ し い	進 学 ・ 進 路 の こ と に つ いて わ か り や す く 教 え て ほ し い	き ら い な い と い う 雰 囲 気 に し て ほ し い	悩 み ご と な ど を 相 談 し て ほ し い	よ う に し て ほ し い	今 通 っ て い る 学 校 の こ と に お 金 が か か ら な い よ う に し て ほ し い	ほ し い	進 学 に あ た っ て お 金 が か か ら な い よ う に し て ほ し い	そ の 他	な い	特 に 望 ん で い る こ と は な い	無 回 答
全体	1003 100	245 24.4	406 40.5	284 28.3	196 19.5	237 23.6	110 11	127 12.7	87 8.7	190 18.9	174 17.3	68 6.8	252 25.1	11 1.1								
小学生	567 100	117 20.6	184 32.5	168 29.6	124 21.9	138 24.3	59 10.4	43 7.6	49 8.6	103 18.2	86 15.2	40 7.1	167 29.5	5 0.9								
中学生	405 100	119 29.4	211 52.1	106 26.2	67 16.5	94 23.2	47 11.6	76 18.8	35 8.6	82 20.2	85 21	26 6.4	78 19.3	6 1.5								

※上段:実数、下段:割合(%)

問 24 あなたは、将来どの学校まで行きたいと思いますか。
(あてはまる番号 1 つだけに○を付けてください)

	全体	中 学 校	高 等 学 校	専 門 学 校	学 高 等 専 門 学 校 ・ 短 期 大	大 学	大 学 院	そ の 他	と わ か ら な い ・ 考 え た こ と	無 回 答
全体	1003 100	9 0.9	101 10.1	83 8.3	33 3.3	501 50	50 5	8 0.8	209 20.8	9 0.9
小学生	567 100	7 1.2	54 9.5	52 9.2	15 2.6	257 45.3	36 6.3	5 0.9	24 4.2	5 0.9
中学生	405 100	1 0.2	44 10.9	29 7.2	17 4.2	226 55.8	13 3.2	3 0.7	68 16.8	4 1

※上段:実数、下段:割合(%)

問 25 あなたは、自分自身のことをどう思いますか。
(それぞれ1つに○を付けてください)

【頑張れば、成果が出せる】

	全体	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない	無回答
全体	1003 100	520 51.8	385 38.4	56 5.6	26 2.6	16 1.6
小学生	567 100	326 57.5	196 34.6	25 4.4	12 2.1	8 1.4
中学生	405 100	182 44.9	172 42.5	29 7.2	14 3.5	8 2

※上段:実数、下段:割合(%)

【自分は価値のある人間だと思う】

	全体	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない	無回答
全体	1003 100	331 33	383 38.2	185 18.4	81 8.1	23 2.3
小学生	567 100	201 35.4	210 37	93 16.4	52 9.2	11 1.9
中学生	405 100	122 30.1	160 39.5	83 20.5	29 7.2	11 2.7

※上段:実数、下段:割合(%)

【自分には良いところがある】

	全体	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない	無回答
全体	1003 100	460 45.9	363 36.2	110 11	48 4.8	22 2.2
小学生	567 100	288 50.8	190 33.5	52 9.2	26 4.6	11 1.9
中学生	405 100	163 40.2	155 38.3	54 13.3	22 5.4	11 2.7

※上段:実数、下段:割合(%)

【不安に感じるところはない】

	全体	あてはまる	どちらかといえば、あ	どちらかといえば、あ	あてはまらない	無回答
全体	1003 100	327 32.6	286 28.5	232 23.1	136 13.6	22 2.2
小学生	567 100	221 39	149 26.3	122 21.5	64 11.3	11 1.9
中学生	405 100	95 23.5	127 31.4	104 25.7	68 16.8	11 2.7

※上段:実数、下段:割合(%)

【孤独を感じることはない】

	全体	あてはまる	どちらかといえば、あ	どちらかといえば、あ	あてはまらない	無回答
全体	1003 100	508 50.6	236 23.5	142 14.2	96 9.6	21 2.1
小学生	567 100	325 57.3	116 20.5	64 11.3	51 9	11 1.9
中学生	405 100	169 41.7	112 27.7	70 17.3	44 10.9	10 2.5

※上段:実数、下段:割合(%)

【自分の将来が楽しみだ】

	全体	あてはまる	どちらかといえば、あ	どちらかといえば、あ	あてはまらない	無回答
全体	1003 100	521 51.9	283 28.2	114 11.4	69 6.9	16 1.6
小学生	567 100	339 59.8	140 24.7	44 7.8	37 6.5	7 1.2
中学生	405 100	166 41	135 33.3	65 16	30 7.4	9 2.2

※上段:実数、下段:割合(%)

経済的困難及び 社会生活上の困難を抱える 子どもを支援する 奈良県計画

概要版



発行：奈良県健康福祉部こども・女性局こども家庭課

〒630-8501 奈良市登大路町30番地
TEL 0742-27-8678
FAX 0742-27-8107

平成28年3月
奈良県

I 基本的な考え方

1 計画策定の趣旨

子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右され、経済的困難な状況が世代を超えて連鎖することがないように、必要な環境整備と教育の機会均等を図り、すべての子どもがその将来に夢や希望を持って成長していける社会を実現していくことは極めて重要です。

我が国における子どもの貧困率は、国民生活基礎調査によりますと、平成24年時点で16.3%、ひとり親家庭の子どもにあつては54.6%となり、平均的な所得の半分以下の世帯で暮らしている子どもが過去最高の割合となりました。

このため、国においては子どもの貧困対策を総合的に推進することを目的に「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が平成26年1月に施行され、また、法律第8条の規定により、「子供の貧困対策に関する大綱」が平成26年8月に策定されたところです。

生活の困窮は、決して特別な世帯に起こるものではなく、介護、失業、ひとり親になること等をきっかけに、誰にでも起こりうる課題と言えます。

経済的困難及び社会生活上の困難（以下「経済的困難等」という。）を抱える子どもがその才能や希望を実現できないまま終わってしまうことは社会にとっても大きな損失であり、子どもへの支援はまさに未来への投資でもあります。

経済的困難等を抱える子どもと家庭の「生きづらさ」に寄り添い、子どもの健やかな育ちを支援する総合的な施策を推進するため、法律第9条の規定に基づき「経済的困難及び社会生活上の困難を抱える子どもを支援する奈良県計画」を策定します。

また、この計画は、母子及び父子並びに寡婦福祉法第12条に基づく「母子家庭等及び寡婦自立促進計画」を一体的に策定するものです。

2 計画策定の検討体制

計画策定にあたっては、施策の内容が教育、福祉、就労等の支援など幅広い分野における対応が求められることから、庁内関係課による部局横断的な「奈良県子どもの貧困対策ワーキンググループ」により、実態の把握と施策の検討を行うとともに、学識経験者、学校関係者、子どもの支援に関わる関係団体、就労に関する関係者、県民等で構成する「奈良県子どもの貧困対策会議」を設置し、委員の方々の意見を踏まえて、子どもが抱える課題を整理し、施策体系のとりまとめを行いました。

3 計画の期間

本計画は、平成28年4月から平成33年3月までの5年間の計画の期間とします。

4 計画の進捗管理

本計画の施策の実施状況について、毎年度、「奈良県子どもの貧困対策会議」に報告し、点検、評価を行います。

II 基本目標と施策の方策

1 基本目標

経済的困難等を抱える子どもは、家庭の生活困窮を背景として、親からのかかわりやロールモデルの欠如等により、学習習慣がうまく習得できないことから、学力の低下や、「自分は価値のある人間」、「頑張れば報われる」という気持ちが抱けず、将来への希望が持てなくなっている状況が懸念されます。

また、児童虐待の発生等により、家庭が子どもにとって、必ずしも安心、安全な場所となっていない問題もあります。

こうした厳しい状況にある子ども達が、将来に夢や希望を持てる社会を実現していくことが、本計画の目標です。

基本目標

すべての子どもがその将来に夢や希望を持って 成長していける 奈良県の実現

1. 経済的困難等にかかわらず、才能や希望を実現できるよう子どもへの支援を行います。
2. 子どもと家庭に寄り添い、より実効性のある支援となるよう行政と地域が連携して施策を推進します。

2 施策の方針

特に支援の必要な子どもである、「生活保護、就学援助を受給する生活困窮世帯の子ども」、「ひとり親世帯で経済的困難等を抱える子ども」、及び「社会的養護の子ども」に重点を置いた支援を行うものとします。

また、これまで示してきた課題を、支援の対象とする子ども毎に整理し、課題を解決するための必要な施策を検討し、経済的困難等を抱える子どもの支援に特化した施策を計画に位置づけることとします。

Ⅲ 支援の対象となる子どもの状況

1 生活保護、就学援助等生活困窮世帯の子ども

生活保護を受給している世帯の子どもは、平成26年7月現在で2,933人で、近年はほぼ横ばいの状況にあります。なお、児童人口に占める割合は約1.4%となっています。

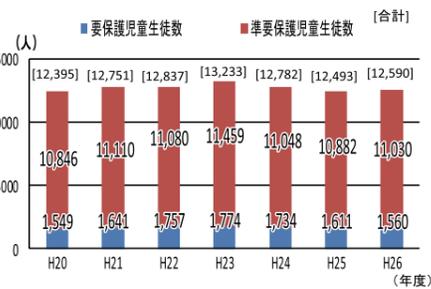
また、経済的理由により、学用品費、通学用品費、通学費等を援助する就学援助を受けている子どもは、平成27年3月現在、12,590人となっており、近年ほぼ横ばいの状況にあります。

18歳未満の生活保護受給状況(奈良県)



福祉行政報告例被保護者調査(厚生労働省)
人口推計(総務省統計局)
住民基本台帳に基づく人口による年齢別人口調査(奈良県)

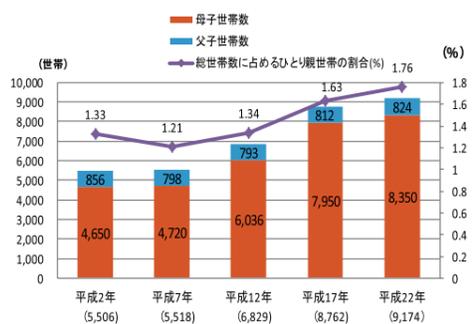
奈良県における修学援助の状況



就学援助実施状況等調査(文部科学省)

2 ひとり親世帯で経済的困難等を抱える子ども

奈良県におけるひとり親世帯の推移(他の世帯員がいる世帯を除く)



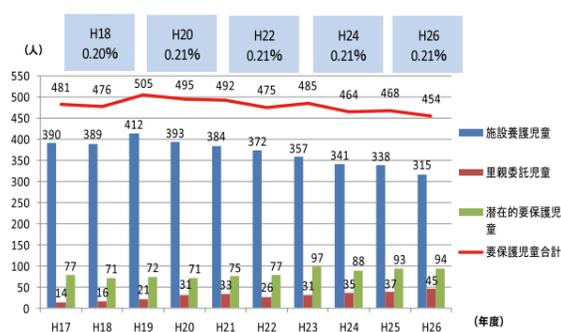
国勢調査 総務省統計局

ひとり親世帯は、平成22年の国勢調査によると、母子世帯数は、8,350世帯、父子世帯数は、824世帯となっており(いずれも他の世帯員(祖父母等)がいる世帯を除く)、増加傾向にあります。

ひとり親世帯のうち、年収が200万円未満の世帯が51.1%(母子世帯にあっては54.4%)を占めており、これらの世帯の子どもは、約8,000人で児童人口の4%となっています。

3 社会的養護の子ども

児童人口に占める要保護児童の割合(奈良県)



児童人口：住民基本台帳に基づく人口による年齢別人口調査(奈良県)
その他：奈良県こども家庭課調べ
※施設、里親措置児童数は各月初日現在児童数の年度平均
※潜在的な要保護児童数は一時保護の後、帰宅及びその他の児童数
※児童人口は10月1日現在の0~17歳児童数

社会的養護は、保護者のいない子どもや、児童虐待等により保護者に監護させることが適当でない子どもを公的責任で社会において養育し、保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行うこととされています。

本県で、施設に入所している子どもは315名、里親には45名を委託しています(いずれも平成26年度)。

Ⅳ 実態把握の取り組み

経済的困難等を抱える子どもへの支援について、本県の実態を踏まえたものとするために、ひとり親家庭等実態調査等の各種統計調査の他、社会的養護等に係る子どもの具体的な事例調査、及び子どもの支援に直接携わる県、市町村、施設等の教育、福祉関係者へのアンケート調査を実施しました。

事例調査

実施時期：平成27年6月から7月

調査対象：福祉事務所、児童養護施設、こども家庭相談センター、母子生活支援施設、社会福祉協議会、スクールソーシャルワーカーからの聞きとり

事例数：10事例

調査項目：家族状況、家庭のライフコースにみる主なリスク、現在の家庭の課題

アンケート調査

実施時期：平成27年5月

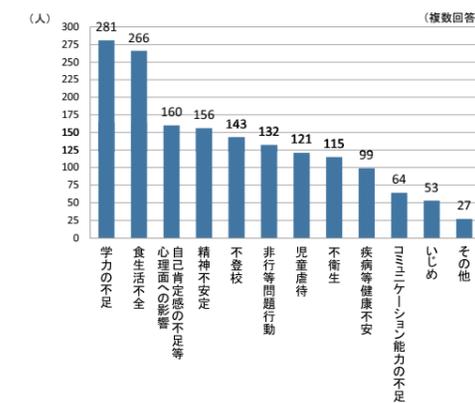
調査対象：教育関係者(県立高校・特別支援学校の教諭、教育研究所、市町村教育委員会)福祉関係者(県・市村福祉事務所の生活保護ケースワーカー、児童養護施設・母子生活支援施設・児童家庭支援センター・こども家庭相談センター・市町村児童福祉担当職員、母子・父子自立支援員)

回答状況：403人

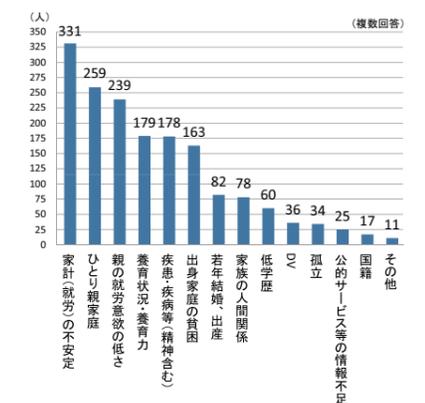
調査項目：現在実施している支援内容、貧困状態にある子どもが抱える問題、貧困のリスク要因、支援が困難な理由、有効と思われる支援内容

アンケート調査結果

・貧困状態にある子どもが抱える問題



・貧困のリスク要因について



子どもが抱える問題については、「学力の不足」、「食生活不全」が多い他、「自己肯定感の不足」等心理面への影響が大きいと認識されている。

貧困のリスクについては、「就労等の不安定」、「ひとり親の家庭」、「親の就労意欲」や「養育力」等を主なものとしている。

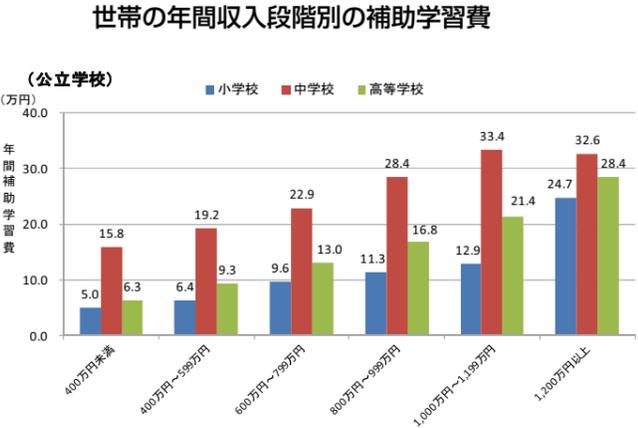
V 支援対象の子どもの課題と必要な対応策

支援の対象となる子ども	生活保護、就学援助等を受給する生活困窮世帯の子ども
状況	<ul style="list-style-type: none"> 生活保護 約 3,000人 <児童人口の約1.4% 近年ほぼ横ばい> 就学援助 約 12,600人 <在籍児童の約12% 近年ほぼ横ばい>

- 対応策区分 /
- 学力の向上、困難を「生きる力」の育成
 - 安心、安全な居場所づくり
 - 家庭の生活を下支えする
 - 福祉、教育等行政と地域が連携した支援の推進

課題	課題を解決するために必要な主な方策	施策の骨子の項目
●家庭内教育の不十分等から低学力となり、結果的に大学等進学率が低くなっている。[表1][表2]	家庭教育を補完するために、家庭外に学習の機会と場が必要	1. ア
●様々な機会を剥奪されることで、「頑張れば報われる」思いを持たず、進学への意欲、将来の希望を抱けない。[表3]	勉強すること、高等教育を目指すためのインセンティブ(動機付け)が必要	1. イ
	子どもの悩みを受け止める心のケアが必要	1. ウ
	自分は「出来る」、「人の役に立つ」と思える様々な体験が必要	1. エ
	親に対して、「子どもにとって今の勉強が将来のため」であること意識付けが必要	3. ア
●家庭における文化的資源が不足し、学力等にも影響を与えている。また、基本的な生活習慣や学習習慣の習得が不十分である。	優れた文化・芸術にふれる機会が必要	1. エ
	生活習慣や学習習慣が出来ていない子に習得させる機会と場が必要	1. ア
	子育て支援が必要な家庭に、子どもの出生時から早期に寄り添い見守ることが必要	3. ア
●経済的問題は児童虐待の発生リスクとなっている。[表4]	子育て支援が必要な家庭に、子どもの出生時から早期に寄り添い見守ることが必要	3. ア
●様々な機会を剥奪されることで、社会的つながりが希薄となっている。	家庭以外に、子どもが気軽に、安心して集える地域の居場所が必要	2. ア
●支援が必要であっても、子どもは自らが助けを求め、支援制度を利用することが難しい。	支援が必要な子どもを早期に発見し、支援する仕組みづくりが必要	4. ア

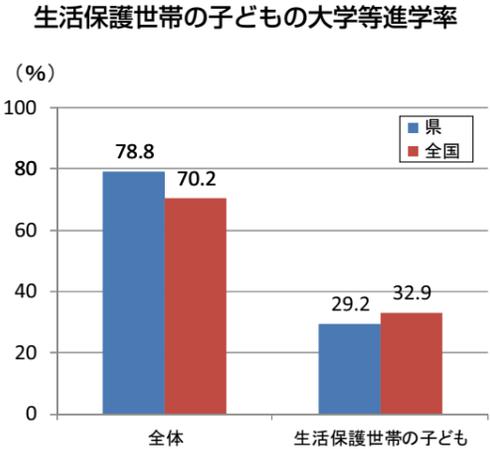
[表1]



平成24年度子供の学習費調査(文部科学省)

◇補助学習費の多寡は所得と正の相関がある。

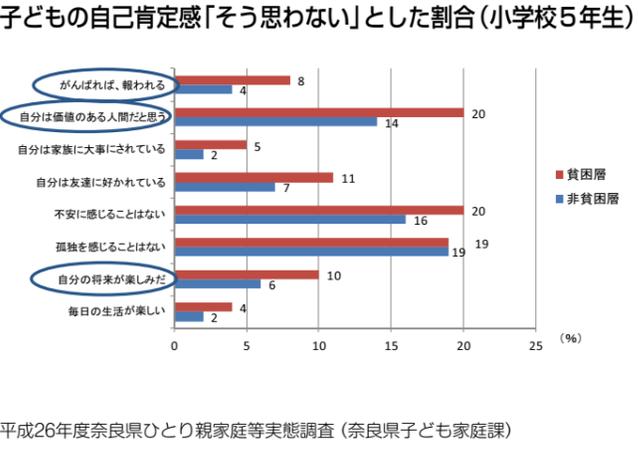
[表2]



平成24年度学校基本調査(文部科学省)
平成24年福祉行政報告例(厚生労働省)

◇県全体の進学率と生活保護世帯の子どもの進学率では大きな格差がある。

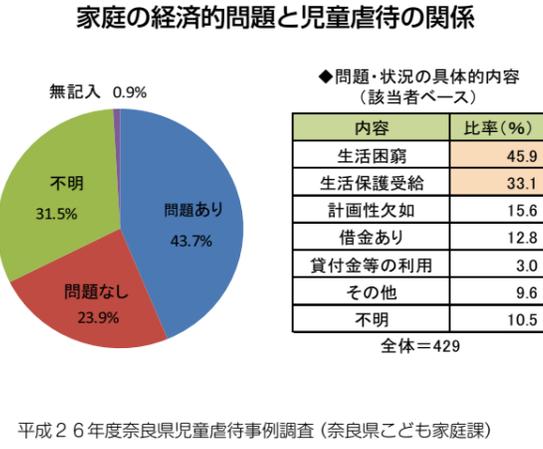
[表3]



平成26年度奈良県ひとり親家庭等実態調査(奈良県子ども家庭課)

◇所得が低いほど、子どもの自己肯定感が低い。

[表4]



平成26年度奈良県児童虐待事例調査(奈良県子ども家庭課)

◇被虐待児童の家庭では、約半数が経済問題を抱えている。

支援の対象となる子ども	ひとり親世帯で経済的困難等を抱える子ども
状況	・約8,000人 <児童人口の約3.8% 増加傾向> ※1

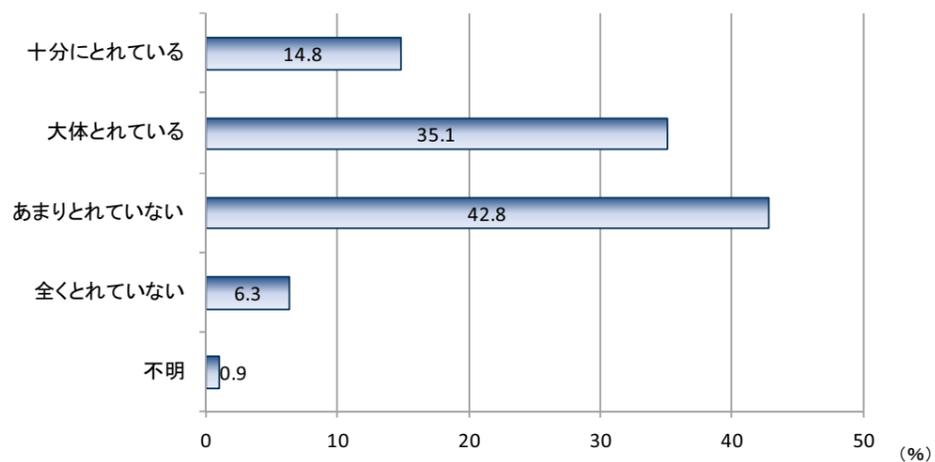
- 対応策区分／
- 学力の向上、困難を「生きる力」の育成
 - 安心、安全な居場所づくり
 - 家庭の生活を下支えする
 - 福祉、教育等行政と地域が連携した支援の推進

※1 ひとり親世帯のうち、年収200万円以下の世帯の子どもの推計したものです。

課題 ※生活保護等生活困窮世帯の子どもとの共通課題は極力省略し、ひとり親の特性に着目	課題を解決するために必要な主な方策	施策の骨子の項目
●家庭内教育の不十分等から低学力となり、結果的に大学等進学率が低くなっている。	家庭教育を補完するために、家庭外に学習の機会と場が必要	1. ア
●親の就労等により、十分に関わってもらえない。 [表5]	親子が共に楽しめる機会と場所の提供、効果的な子育ての方法の周知が必要	3. ア
●放課後、自宅で子どもだけで過ごすことが多く、安心、安全に不安。 [表6]	支援が必要な子どもを地域全体で見守り、育てる環境づくりが必要	4. ア
●子どもにとって、将来のロールモデルとなる人が不足している。	家庭以外に、子どもが気軽に、安心して集える地域の居場所が必要	2. ア
●子どもにとって、将来のロールモデルとなる人が不足している。	子どもにロールモデルを提示できる様、人との交流を通じた様々な体験が必要	1. エ
●繊細な母子関係の元で、子どもが自分の要求、希望を過度に抑制し自らの自立を妨げている。	子どもの悩みを受け止める心のケアが必要	1. ウ
●繊細な母子関係の元で、子どもが自分の要求、希望を過度に抑制し自らの自立を妨げている。	固定化した母子関係を離れ、他者との触れ合いや安心な家庭以外の居場所が必要	2. ア

[表5]

子どもと過ごす時間

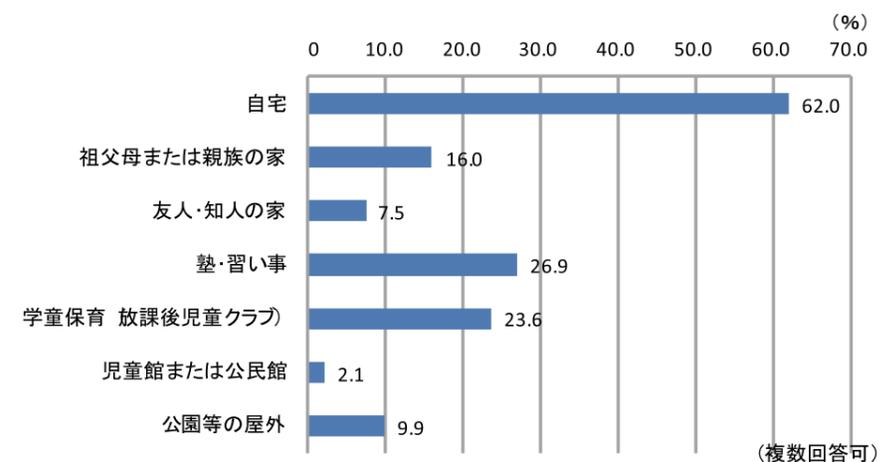


平成26年度奈良県ひとり親家庭等実態調査(奈良県こども家庭課)

◇ひとり親家庭の親の約半数は、子どもと過ごす時間が取れていないと感じている。

[表6]

放課後の子どもの過ごし方



平成26年度奈良県ひとり親家庭等実態調査(奈良県こども家庭課)

◇ひとり親家庭の子どものうち、小学生の62%が放課後を自宅で過ごしているが、その多くが子どもだけで過ごしている。

支援の対象となる子ども	社会的養護の子ども
状 況	・約450人 <児童人口の約0.2% 近年ほぼ横ばい> ※2

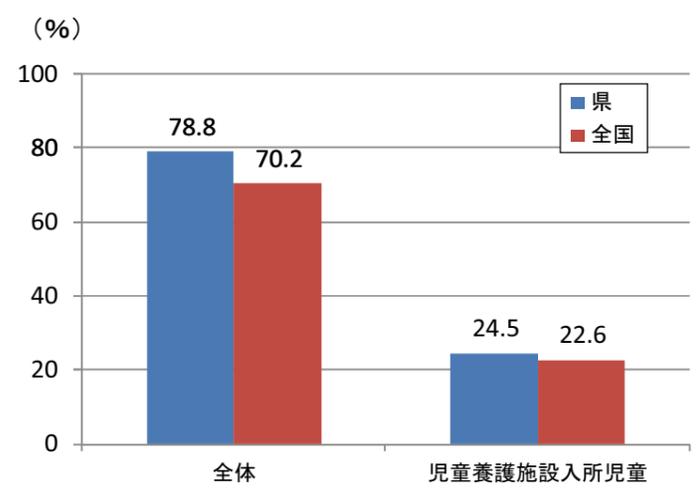
- 対応策区分／
- 学力の向上、困難を「生きる力」の育成
 - 安心、安全な居場所づくり
 - 家庭の生活を下支えする
 - 福祉、教育等行政と地域が連携した支援の推進

※2 社会的養護に係る児童養護施設等の施設に入所している子ども、里親に養育を委託されている子ども、こども家庭相談センターに一時保護している子ども等をもとに推計したものです。

課 題 ※生活保護等生活困窮世帯の子どもとの共通課題は極力省略し、社会的養護の特性に着目	課題を解決するために必要な主な方策	施策の骨子の項目
●親の監護が不十分なことから、学力も低く、結果的に大学等進学率が低くなっている。 [表7]	家庭の支援が期待出来ない中で、高等教育を目指すためのインセンティブ（動機付け）が必要	1. イ
●虐待を受けたことから、家族と分離される子どもが増加している。 [表8]	子育て支援が必要な家庭に、子どもの出生時から早期に寄り添い見守ることが必要	3. ア
	社会的養護においても、特定の大人が子どもに寄り添う家庭的な環境づくりが必要	2. イ
●大人との継続的、安定的な愛着関係の形成が十分出来ていない。	社会的養護においても、特定の大人が子どもに寄り添う家庭的な環境づくりが必要	2. イ
●子どもにとって、将来のロールモデルとなる人が不足している。	退所後の進学や就労のサポートや子どもが気軽に安心して集える地域の居場所が必要	2. ア
●施設退所後も家族、親類からの支援が得られず、また地域のなかに適応していくためのサポートが十分でない。	地域が、社会的養護の子どもを見守り、包摂できる体制づくりが必要	4. ア

[表7]

児童養護施設の子どもの大学等進学率

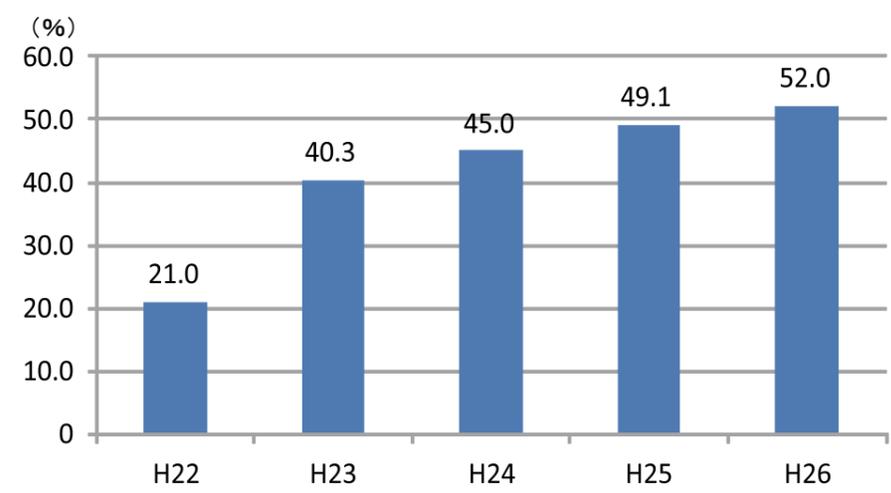


平成24年度 学校基本調査(文部科学省)
 ※奈良県児童養護施設の率は、平成21年度から25年度までの平均(奈良県こども家庭課調べ)

◇児童養護施設の子どもの大学等進学率は県全体と比べて大きな格差がある。

[表8]

児童養護施設新規入所児童のうち、虐待を理由とする児童の割合



平成26年度奈良県こども家庭課調べ

◇児童虐待を理由に児童養護施設に入所する児童の割合が増加している。

Ⅵ 施策の骨子

1. 学力の向上、困難を「生きる力」の育成

- ア. 家庭教育を補完する学びの機会と場づくり
- イ. 高等教育を目指すためのインセンティブ（動機付け）の提供
- ウ. 子どもの悩みを受け止める心のケアの充実
- エ. 優れた文化・芸術とのふれあいや、人との交流活動を通じたロールモデルや「出来る」、「人の役に立つ」体験の提供

2. 安心、安全な居場所づくり

- ア. 子どもが安心して集える地域の居場所づくり
- イ. 社会的養護の子どもに寄り添う家庭的な環境づくり

3. 家庭の生活を下支えする

- ア. 支援が必要な家庭に寄り添い、支援する

4. 福祉、教育等行政と地域が連携した支援の推進

- ア. 支援が必要な子どもを早期に発見し、地域で見守る仕組みづくり

Ⅶ 主な施策

<1-ア>

- ・学習習慣の習得と学力向上を図る学習ボランティアによる学習支援
- ・学習機会に恵まれない子どもを対象に学習支援するボランティア等の支援 等

<1-イ>

- ・高等学校での修学の安定化のための教育費負担の軽減
- ・一定期間の就業により返還免除となる児童養護施設退所者等に対する生活費等の貸付 等

<1-ウ>

- ・スクールカウンセラーの配置等による「心の教育」の充実
- ・中、高校生が気軽に相談できるメール相談窓口の開設 等

<1-エ>

- ・地域の住民、企業や大学等との協働により、子どもに様々な体験活動の機会を提供
- ・地域を巻き込んだボランティア活動や地域行事への合同参加を実施
- ・実技指導等を行う芸術家の学校への派遣や一流文化芸術団体による巡回公演 等

<2-ア>

- ・経済的困難等を抱える子どもが、放課後や土、日曜日に気軽に集い、食事等も行える地域の居場所づくり
- ・児童養護施設を退所した子どもの、就労、就学を支援するとともに居場所を確保するアフターケアを実施 等

<2-イ>

- ・里親委託の推進、児童養護施設の小規模化等による家庭的養護の推進 等

<3-ア>

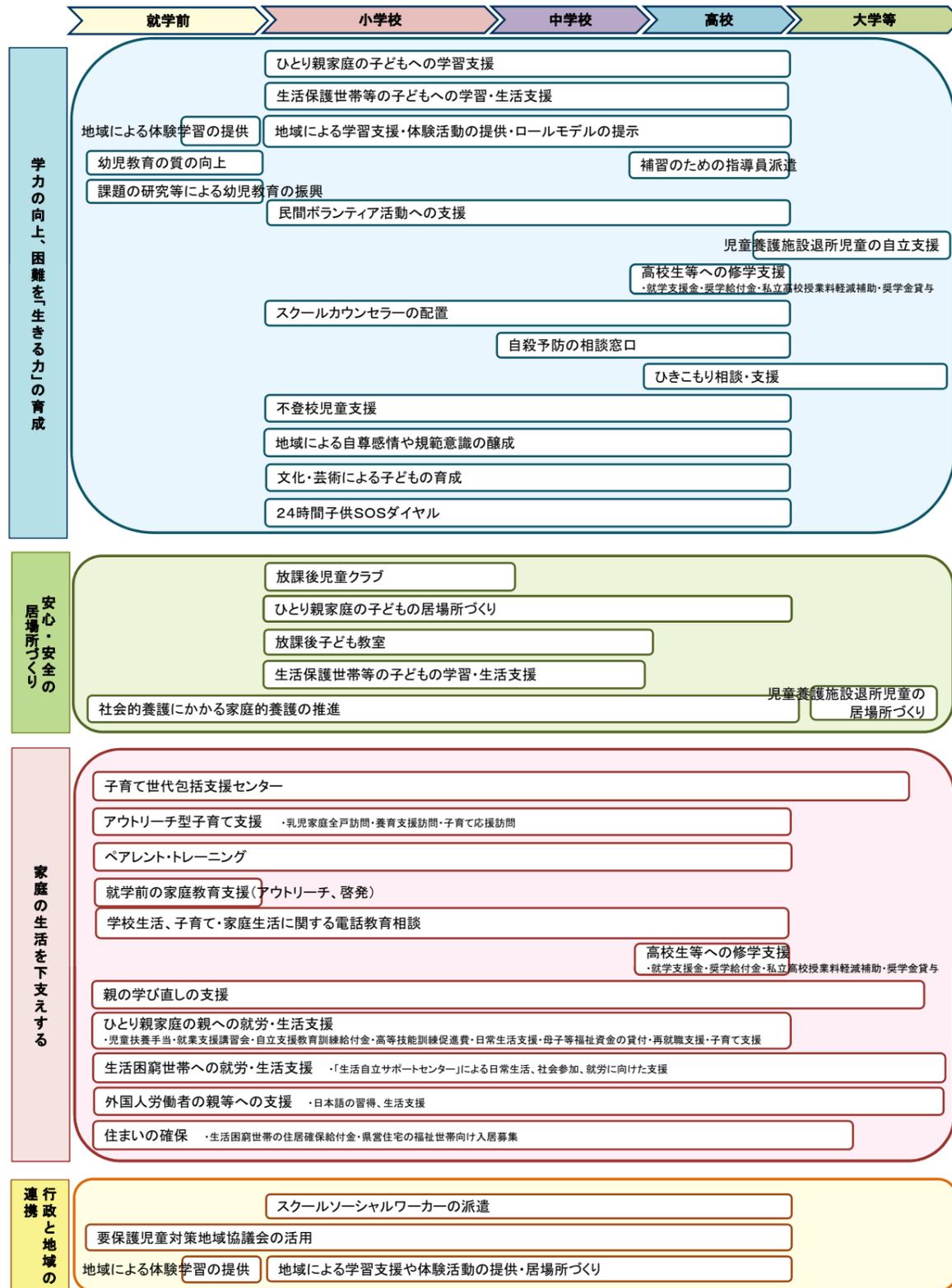
- ・要支援家庭に対する乳幼児期からのアウトリーチによる養育支援
- ・効果的な「しつけ」プログラムの普及促進
- ・ひとり親家庭の親の学び直しや就職に有利な資格取得の援助等就労、生活の支援
- ・奈良県スマイルセンターにおけるひとり親の子育て、養育費、面会交流の相談の実施等によるワンストップ機能の充実 等

<4-ア>

- ・要保護児童対策地域協議会等を活用した福祉、教育等行政と地域の連携体制づくり
- ・スクールソーシャルワーカーの活用の推進 等

VIII 子どものライフステージに応じた子どもへの支援

◇子どもの成長段階に即した切れ目のない支援



IX 経済的困難等を抱える子どもに関する指標

支援の対象となる「生活保護、就学援助等生活困窮世帯の子ども」、「ひとり親世帯で経済的困難等を抱える子ども」、「社会的養護の子ども」毎に、国の「子供の貧困対策に関する大綱」に掲げる指標を勘案し、本県独自の指標を加え設定します。

指標をもとに、関係施策の実施状況や対策の効果等を検証し、毎年度、有識者等による「奈良県子どもの貧困対策会議」に報告し、評価を行います。

No	指標	奈良県	全国	備考
◇生活保護、就学援助等生活困窮世帯の子ども				
1	生活保護世帯の子ども高等学校等進学率	89.3%	91.1%	平成26年4月1日現在
2	生活保護世帯の子ども高等学校等中退率	5.5%	4.9%	
3	生活保護世帯の子ども大学等進学率(専修学校等を含む)	38.1%	31.7%	
4	生活保護世帯の子ども就職率(中学校卒業後)	2.0%	2.0%	
5	生活保護世帯の子ども就職率(高等学校卒業後)	44.2%	43.6%	
6	就学援助制度に関する周知状況 ・毎年度の進級時に学校で就学援助制度の書類を配付している市町村の割合	60.0% (※)	67.5%	平成26年度
7	就学援助制度に関する周知状況 ・入学時に学校で就学援助制度の書類を配付している市町村の割合	65.0% (※)	66.6%	
8	就学援助の受給率(小・中学校) ☆	11.8%	15.4%	平成25年度
9	日本学生支援機構の奨学金の貸与基準を満たす希望者のうち、奨学金の貸与を認められた者の割合(無利子)	59.6%	61.6%	平成26年度実績 上段：予約採用段階 下段：在学採用段階
10	日本学生支援機構の奨学金の貸与基準を満たす希望者のうち、奨学金の貸与を認められた者の割合(有利子)	100.0%	100.0%	
11	スクールソーシャルワーカーの配置人数	3人	1,008人	奈良県：平成26年度現在 全国：平成25年度
12	スクールカウンセラーの配置率(小学校)	12.0%	49.2%	奈良県：平成26年度現在 全国：平成25年度実績
13	スクールカウンセラーの配置率(中学校)	56.6%	85.9%	
◇ひとり親世帯で経済的困難等を抱える子ども				
14	ひとり親世帯の子ども就園率(保育所・幼稚園)	91.2%	72.3%	奈良県：平成26年度ひとり親家庭等実態調査 全国：平成23年度全国母子世帯等調査(特別集計)
15	ひとり親世帯の子ども高校等進学率	96.7%	93.9%	
16	ひとり親世帯の子ども就職率(中学校卒業後)	1.3%	0.8%	
17	ひとり親世帯の子ども大学等進学率(専修学校等を含む)	58.2%	41.6%	
18	ひとり親世帯の子ども就職率(高等学校卒業後)	17.9%	33.0%	
19	ひとり親世帯の就業率(母子家庭)	90.6%	80.6%	
20	ひとり親世帯の就業率(父子家庭)	91.8%	91.3%	
21	スマイルセンター就業相談件数 ☆	2,270件	88,422件	平成26年度
◇社会的養護の子ども				
22	児童養護施設の子どもの高校等進学率	100.0%	97.2%	平成26年5月1日現在
23	児童養護施設の子どもの就職率(中学校卒業後)	0.0%	1.3%	
24	児童養護施設の子どもの大学等進学率(専修学校等を含む)	19.2%	22.6%	
25	児童養護施設の子どもの就職率(高等学校卒業後)	73.1%	70.9%	

☆印は、奈良県独自の指標です。

(※) 他の周知方法として、「教育委員会のホームページに制度を掲載」、「自治体の広報紙等に制度を掲載」等があり、いずれかの方法で周知を行っている県内市町村の割合は100%となる。

以下は、国の大綱にある指標のうち、県のデータがないために、県の指標にはあげていないものです。

指標	奈良県	全国	備考
子どもの貧困率	-	16.3%	平成25年国民生活基礎調査
子どもがいる現役世帯のうち一人が一人の貧困率	-	54.6%	